

2017

学 生 要 覧

平成29年度



八 戸 工 業 大 学

「表紙写真説明」

青い森の橋ネットワーク（八戸工業大学をはじめとする青森県内の産官学による連携組織）では、青森県内の橋梁インフラの長寿命化に寄与することを目的として実際に使われていた橋桁を用いて載荷試験を行い、橋桁の劣化状況の把握、点検技術向上および合理的な修繕計画策定につなげていく活動をしている。

（工学部 土木建築工学科）

「正己以格物」

本法人は、その経営指針と基本的な教育方針として、人格、徳性の涵養並びに知性の練磨を象徴的に表す『正己せいぎ以格物かくぶつ』（己を正し以て物に格る）を不易の綱領と定め、建学の精神としています。

この言葉は、儒教の根本精神を表した四書五経の一つ「大学」に拠るもので、物の道理をよく見極め、広く知識を求め、社会における自己の役割が如何なるものかを、深く認識し、高い倫理性をもって行動することの重要性を説いているものです。

本法人は、この建学の精神に基づき、社会の負託と時代の要請に応えることを要諦とし、創造的、個性的な自己思考能力を有する有為の人材を養成しています。

教育理念

「良き技術は、良き人格から生まれる」

本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念をもっています。この理念は、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。



使命・目的

学術の拠点として、広く知識を授けると共に、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造ならびに地域社会の発展に寄与する。

大学のディプロマ・ポリシー

八戸工業大学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。これは、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。本学は、この理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士の学位を授与します。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
- 3) 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力
- 4) 地域社会への関心もちグローバルな視野で物事を考える姿勢

大学のカリキュラム・ポリシー

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを、高校教育から大学教育に円滑に移行させ、専門への関心を誘導するための「導入転換科目」、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え、総合的な判断ができる力を養う「総合教養科目」、大学教育に必要な知識・学力を修得する「リメディアル科目」、工学の学問に必要な自然科学分野の基礎を幅広く養う「工学基礎科目」(工学部のみ)、各分野における基礎原理、実践的な応用能力を養う「専門科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育の実施

総合教養科目においては、その分野を人間科学分野、国際コミュニケーション分野、体育科学分野、および総合学際分野で構成し、学部・学科を問わないリベラルアーツを展開します。また導入転換科目においては、キャリアデザイン科目を配置し、社会と接点のある教育を実施します。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。専門科目においても、課題解決型学習(PBL)、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育の実施

各学部、各学科の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を養成する教育の実施

実践的な力を養うために、少人数ゼミナール、実験・演習・実習科目を重点的に配置します。自ら考えて纏めたことを発表、表現する授業や、体験・気づき・省察サイクルを取り入れた授業を展開します。また身につけた専門知識やスキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」、または「卒業制作・論文」を全学必修とします。

5) 地域社会との繋がりを重視した教育の実施

地域社会が抱える課題の解決のために、地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、地域社会への関心をもって物事を考えることができる能力を養成します。

6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育の実施

学部・学科を問わない総合教養科目を中心に、専門科目においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成します。

学修成果の達成度は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力に基づいて明確化した複数の修得因子によって評価し、学生が自ら確認できるよう配慮しています。

大学のアドミッション・ポリシー

八戸工業大学は、建学の精神である「正己以格物」(己を正し以て物に格る)に基づいた自己思考能力を育むカリキュラムにより、基礎知識や専門知識だけにとどまらず、将来的に地域を牽引していくことができる総合力を備えた次世代のリーダーにふさわしい人材を養成しています。また、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げており、高度な専門知識を備え高度な応用展開力をもつとともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ技術者の育成を目指しています。

これらを実現するため、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有しており、本学が進める教育研究活動に強い関心があり、さらに自らを向上させようとする意欲を持つ志願者を、多様な選抜制度により受け入れます。

本学の入学者選抜では、志願者の学力の三要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」)を把握し、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性等を判断するため、試験種別ごとに個別学力検査、大学入試センター試験、調査書、小論文、面接などを組み合わせて志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

目 次

■ 建学の精神	1
■ 教育理念・使命・目的	2
■ ポリシー	2
■ 学長メッセージ	6
■ 沿革小史	7
■ 学年暦	8
■ 校歌	9

第1章 新入生のために

1. 1	学生要覧	12
1. 2	ガイダンス	12
1. 3	組織	12
1. 4	掲示	13
1. 5	情報ネットワーク施設の利用	13
1. 6	電話と郵便	14
1. 7	手続きと期限	14
1. 8	担任	14
1. 9	学生証	14
1. 10	学籍番号	15
1. 11	通学と交通事故	15
1. 12	大学施設	15
1. 13	オリエンテーション	16
1. 14	学費の納入	16
1. 15	大学のルール・マナー	16
1. 16	休学・退学など	16
1. 17	教科書や教材の購入	17
1. 18	大学院	17
1. 19	悩み・相談	17
1. 20	キャンパス・校舎案内図	17

第2章 学修について

2. 1	はじめに	36
2. 2	授業時間	37
2. 3	履修計画と履修手続き	37
2. 4	出席・欠席	38
2. 5	試験	38
2. 6	成績発表	38
2. 7	標準修得単位数	39
2. 8	進級要件	39
2. 9	卒業	40
2. 10	GPA	41
2. 11	工学部の教育目標・教育課程	42
2. 12	感性デザイン学部の教育目標・教育課程	128

第3章 学生生活について

3. 1	健康管理	140
3. 2	学生保険	140
3. 3	学生相談室・学修支援室	141
3. 4	通学	141
3. 5	学生旅客運賃割引証（学割）	142
3. 6	奨学制度	142
3. 7	アルバイト	142
3. 8	下宿	142
3. 9	学友会	143
3. 10	課外活動	143

第4章	進路・資格について	
4. 1	就職	148
4. 2	進学	148
4. 3	資格	148
4. 4	同窓会	164
第5章	施設の利用について	
5. 1	図書館	166
5. 2	メディアセンター	167
5. 3	スポーツ施設	168
第6章	願い・届け・証明書の手続き	
6. 1	休学願	170
6. 2	復学願	170
6. 3	退学願	170
6. 4	転学願	170
6. 5	転学科願	170
6. 6	欠席届	171
6. 7	忌引届	171
6. 8	特別欠席願	171
6. 9	変更届	171
6. 10	学生残留・出校届	171
6. 11	時間外・休業日課外活動願	171
第7章	諸規程	
7. 1	八戸工業大学学則(抄)	174
	別表第1 教育課程表、教職課程表	
	別表第2 学費、入学検定料	
7. 2	八戸工業大学学位規程	198
7. 3	八戸工業大学学費納入規程	203
7. 4	八戸工業大学学生心得	204
7. 5	八戸工業大学履修規程	206
7. 6	八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程	213
7. 7	編入学者および転入学者の履修等に関する規程	225
7. 8	八戸工業大学GPA取り扱い要項	226
7. 9	八戸工業大学図書館利用規程	228
7. 10	八戸工業大学情報ネットワーク施設利用規程	230
7. 11	学生の諸活動に関する規程	231
7. 12	学友会館使用規程	233
7. 13	施設・設備・備品等管理規程	234
7. 14	残留・出校者心得	235
7. 15	八戸工業大学車両通学に関する規程	235
7. 16	八戸工業大学学部各種証明書等交付に関する規程	237
7. 17	学友会会則	238
7. 18	学友会の選挙に関する規程	240
7. 19	学友会会費規程	241
■索引		242

■学長メッセージ



学長 長谷川 明

皆さん、入学おめでとうございます。
教職員一同、皆さんの入学を歓迎し、これからの皆さんの成長を支援していきます。

本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」を教育理念とし、「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造ならびに地域社会の発展に寄与する」ことを使命・目的としています。

大学の役割には、大きく教育と研究があり、本学は、これらの活動を通して地域に貢献しています。教育は、諸君の成長を手助けし、社会の有用な担い手としての人材を育成することです。本学を卒業・修了した先輩は、1万7千人を超え、社会でそれぞれの役割を果たすべく活躍し、地域を担う人材となっています。一方、研究は、社会の課題を解決するための活動で、例えば、2011年東日本大震災からの復興に関わる多くの研究などがこれに当たります。本学は、災害の発生から復興に至る課題について研究してきました。本学は、この教育と研究の2つの活動を通して、地域社会や、広くは国際社会に貢献しています。その中心となっているのが学生諸君です。学生諸君は、これらの活動を通して、自分自身の成長も目指すことになります。

技術者としての成長は、技術力を向上させることだけではありません。そもそも人間としての適正な人格を形成していかなければなりません。技術力の向上とともに、優れた人格を身につけ、技術が人類の幸福に結びつくように、適切に活用されなければならないからです。人間力の向上には、大学のカリキュラムに基づく勉強のほかに、部活動、サークル活動、あるいは下宿先などでの友人との交流も大きな成長の力となります。人は、いつも順調に成長するわけではありません。努力をしても成果が生まれなかったり、思うような自分になれなかったりし、悩みを抱えることがあります。この悩みを乗り越えるためには、悩みを共有する友人、支え合う人の存在が大きな力となります。人との交流を大切にしてほしいと思います。人との交流には、人への感謝とやさしさが必要です。本当のやさしさを生み出すためには、自分自身が強くなければできません。

諸君は、夢を持っていると思います。その夢を成し遂げるための可能性も持っています。これまで、家族や友人など周辺の人から支えて頂いて成長してきました。その成長を継続するために、八戸工業大学も皆さんを力強くサポートします。周囲の力も大切ですが、最も大切なのは自分自身が自分を成長させようとする心です。

多くの力を養って、八戸工業大学で成長してください。

■沿革小史

- 昭和47年(1972)：開学、工学部機械工学科、産業機械工学科、電気工学科開設
昭和51年(1976)：工学部土木工学科、建築工学科開設
昭和57年(1982)：工学部エネルギー工学科開設
昭和63年(1988)：食品工学研究所、情報システム工学研究所設置
平成5年(1993)：構造工学研究所設置
平成7年(1995)：大学院工学研究科修士課程設置、機械システム工学専攻、
電気電子工学専攻、土木工学専攻開設
平成9年(1997)：大学院工学研究科博士後期課程設置、機械システム工学専攻、
電気電子工学専攻、土木工学専攻開設
平成11年(1999)：大学院工学研究科修士課程、建築工学専攻開設
システム情報工学科開設
電気電子工学科に名称変更（電気工学科）
平成13年(2001)：大学院工学研究科博士後期課程、建築工学専攻開設
機械情報技術学科に名称変更（機械工学科）
環境建設工学科に名称変更（土木工学科）
平成14年(2002)：工学部生物環境化学工学科開設、異分野融合科学研究所設置
平成15年(2003)：工学部電子知能システム学科に名称変更（電気電子工学科）
平成17年(2005)：感性デザイン学部感性デザイン学科開設
平成19年(2007)：機械・生物化学工学専攻に名称変更（機械システム工学専攻）
電子電気・情報工学専攻に名称変更（電気電子工学専攻）
平成21年(2009)：工学部土木建築工学科開設
バイオ環境工学科に名称変更（生物環境化学工学科）
平成22年(2010)：電気電子システム学科に名称変更（電子知能システム学科）
エネルギー環境システム研究所に名称変更（異分野融合科学研究所）
平成27年(2015)：社会基盤工学専攻に名称変更（土木工学専攻）
地域産業総合研究所に名称変更（エネルギー環境システム研究所）



学年暦

- 4月1日：学年開始、前期開始
- 4月初旬：入学式
- 4月上旬：授業時間割発表
 - 2、3、4年生前年度成績発表、ガイダンス
 - 2、3、4年生授業開始
- 4月上旬：新入学生ガイダンス、授業開始
- 4月上旬～4月下旬
 - ：定期健康診断
- 4月中旬：履修登録
- 5月上旬：新入学生オリエンテーション
- 5月下旬：体育祭
- 7月下旬：前期定期試験
- 8月上旬：夏季休業開始
- 9月上旬：前期補習・再試験
- 9月15日：前期終了、夏季休業終了
- 9月16日：後期開始
- 10月中旬：学園祭
- 11月初旬：彩才祭
- 12月下旬：冬季休業開始
- 1月上旬：冬季休業終了
- 1月下旬：後期定期試験
- 1月29日：開学記念日（授業日）
- 2月上旬：後期補習・再試験
- 3月中旬：学位記授与式
- 3月31日：後期終了、学年終了



校歌

八戸工業大学校歌

作詩 佐藤信三
下斗米謹一
法師浜桜白夫
作曲 渡辺岳夫

Allegro risoluto alla marcia (♩ = 120)

1. そう

きゅうのひかり さんさんとみち
のくここにかがやけり
わこうどわれら きぼうにつどい くおんのちせい みがきゆく あ
あ はちこう だい みらいをひらく

1.2

3.

- 一、蒼穹の光りさんさんと
みちのくここに輝やけり
若人われら希望に集い
久遠の知性みがきゆく
ああ八工大 未来を拓く
- 二、白亜の塔はそびえたち
遠く潮はとどろけり
若人われら希望に集い
久遠の理想かざしゆく
ああ八工大 未来を創る
- 三、青雲はるかにいだきつつ
いのち豊けく秀でたり
若人われら希望に集い
久遠の真理きわめゆく
ああ八工大 未来を築く

第1章

新入生のために

1. 1	学生要覧	12
1. 2	ガイダンス	12
1. 3	組織	12
1. 4	掲示	13
1. 5	情報ネットワーク施設の利用	13
1. 6	電話と郵便	14
1. 7	手続きと期限	14
1. 8	担任	14
1. 9	学生証	14
1. 10	学籍番号	15
1. 11	通学と交通事故	15
1. 12	大学施設	15
1. 13	オリエンテーション	16
1. 14	学費の納入	16
1. 15	大学のルール・マナー	16
1. 16	休学・退学など	16
1. 17	教科書や教材の購入	17
1. 18	大学院	17
1. 19	悩み・相談	17
1. 20	キャンパス・校舎案内図	17

1.1 学生要覧

学生要覧を新入生に配付します。

この本には、みなさんが八戸工業大学で有意義で実りある学生生活を送るために必要な情報が記載されていて大いに役立つものと思います。もちろん卒業後にも役立ちます。再配付できませんから大切にしてください。

大学は自ら学ぶ場です。この学生要覧をよく読んで理解し活用することによって、本学での充実した学生生活を送ることを望みます。

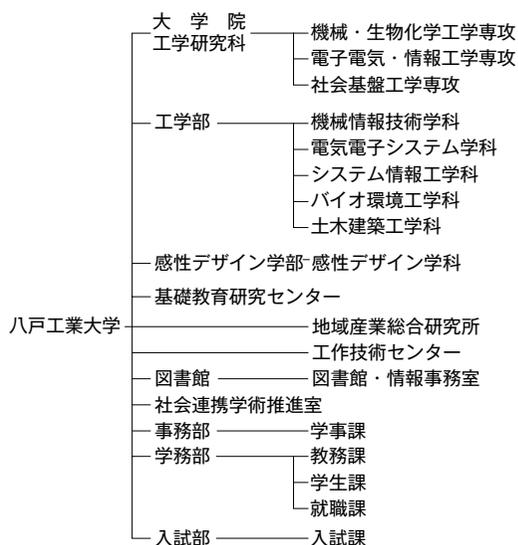
1.2 ガイダンス

毎年、学年のはじめに、その年度の学修、生活あるいは進路に関わる大切な情報を伝えるガイダンスが、担任と担当課の説明により実施されます。ガイダンスを欠席すると大切な説明を聴けないばかりか、学修や学生生活に参考となる資料を受け取ることができません。必ず出席してください。



1.3 組織

本学は、教育や研究を行うために図のような組織で構成されています。



■学部・学科

各学部・学科では具体的な教育と研究が行われます。学部・学科を次のように英文字で示すことがあります。

工 学 部	英字では	数字では
機械情報技術学科 Department of Mechanical Engineering	M	1
電気電子システム学科 Department of Electrical and Electronic Systems	E	2
システム情報工学科 Department of System Information Engineering	I	6
バイオ環境工学科 Department of Biotechnology and Environmental Engineering	B	5
土木建築工学科 Department of Civil Engineering and Architecture	D	9
感性デザイン学部	英字では	数字では
感性デザイン学科 Department of Kansei Design	K	8

■基礎教育研究センター

教養教育とその基礎、教職、および専門教育の基礎に係る教育課程の企画および円滑な実施を図るとともに、基礎教育に関する研究開発ならびに学修支援を行うことを目的とする機関です。

■地域産業総合研究所

エネルギーと環境およびそれらに関わる種々のシステムの研究を推進するために、学科や大学院、地元の産業界と連携しながら、さまざまな研究テーマに取り組んでいます。

■工作技術センター

学生の機械工作に関する教育を担当すると同時に、教員の研究に必要な器具や装置を製作する日本有数の広さと設備それにスタッフを有する機関です。教職課程の機械工作実習もここで行われます。また、学生の技能士（機械加工、機械保全）国家資格取得を支援しています。

■図書館

教育研究活動に必要な図書、雑誌および視聴覚資料などを通じた情報のサービスを行う機関です。詳しい利用方法については5.1を見てください。

■社会連携学術推進室

大学の組織及び教育研究を点検評価し、必要な改革・改善を実施。また、教育研究補助金等の申請と受入れ。さらには、産学官連携による共同研究、社会貢献及び知的財産の創出について検討・実施する機関です。

■事務部

事務部には、入学式など式典の実施、学生の残留届などの事務手続、建物の維持・管理や保護者後援会の事務を担当する学事課があります。

■学務部

学務部には、「履修、試験、単位修得、進級および卒業などの教務を担当する教務課」と、「健康管理、住居、奨学金、学生相談および課外活動などの学生生活を担当する学生課」と、「求人開拓、斡旋および情報の提供などを含めた就職指導を担当する就職課」があります。

学務部の窓口の受付時間は次のようになっています。

授業・試験期間	平日	8:40~17:50
学生休業期間	平日	8:40~17:10

■入試部

入試部には、入学試験を担当する入試課があります。

1.4 掲示

本学では、みなさんへの連絡は掲示によって行われます。教室の変更、授業の休講・補講、呼出しなど全ての連絡は掲示によって行われます。登下校の際には掲示を必ず見る習慣をつけてください。掲示を見なかったことによって不利益を受けることがないように注意してください。病気などで休んでしまったときは、友達をとおして確認してください。

学生間の連絡に掲示板を利用することができます。学生課に問い合わせてください。

学内放送の利用は、教育研究活動に支障をきたしますので緊急の場合を除いて遠慮してください。

■ユニバーサルパスポート

履修登録、成績照会、授業評価、呼出し、アンケート回答など大学からの重要な情報連絡ネットワークシステムです。インターネットに接続可能なパソコン等からアクセスできます。

URL <https://gak.hi-tech.ac.jp> (PC用)

URL <https://gak.hi-tech.ac.jp/m> (スマートフォン用)

1.5 情報ネットワーク施設の利用

本学では、学内全体にキャンパスネットワークが整備されており、教育や研究、授業、履修登録、就職活動など、様々な活動に利用されています。

全学生は、入学時に利用者IDとパスワード、電子メールアドレスが付与され、利用規程や関連諸法規に違反しない限り、自由にキャンパスネットワークを使用することができます。

利用者IDやパスワードは重要な個人情報で

す。キャンパスネットワークの安全性を確保し、不正利用などに悪用されないためにも、管理の徹底をお願いします。

なお、キャンパスネットワークの詳しい利用方法については、ガイダンス等で説明があります。

学内には無線 LAN アクセスポイントを、図書館、メディアセンター等には利用可能なパソコンを設置しています。是非ご利用ください。



1.6 電話と郵便

緊急以外の電話は間違いを生じたり、業務上の支障となることがありますので取り次ぎすることはできません。学生団体への郵便物は、学生課の郵便受け箱に保管しておきますので、各団体の責任者は随時確認してください。学生個人への郵便物は混乱が生ずることがあるので避けてください。

本学からの郵便の発送には、教養棟玄関前に設置されている郵便ポストを利用することができます。

1.7 手続きと期限

授業を受けたり、書類を申し込んだりするためには、**手続き**をする必要があります。手続きには作業を合理的に進めるため、必ず**期限**があります。これが守られないときは他の多くの学生に迷惑をかけてしまったり、自分自身が不利な扱いを受けることがあります。期限は必ず守ってください。

1.8 担任

本学には**担任**制度があります。ガイダンスを行ったり、学修や学生生活に関する相談に応じています。成績の状況についても指導を受けることができます。困ったことがあったり、調べてもわからないことがあったときは各学科・学年担当の担任を気軽に訪ねてください。

1.9 学生証

学生証は、学生の身分を証明するものですから常に携帯し、必要上提示を求められたときは、提示できるようにしてください。

特に、定期試験等を受けるとき、各種証明書等を願い出るとき、図書館を利用するとき、さらに授業の出席確認のときは携帯していなければなりません。

学生証の有効期間は、原則発効の日から4年間です。

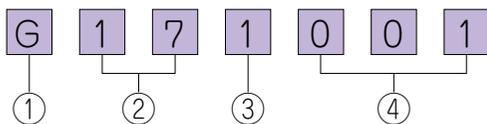
学生証を紛失、破損したときは、学生課で再交付の手続きを受けてください。再交付手数料は1,500円です。

紛失等した学生証が見つかったときは、学生課に返却してください。また、退学あるいは除籍等により学籍を離れるときは、直ちに教務課に返却してください。



1.10 学籍番号

本学での事務作業を円滑に行うため、一人一人に固有の学籍番号が用意されています。試験の時、手続きの時など名前と一緒に記入しなければならないときが頻繁にあります。正確に覚えてください。学籍番号は1桁の英字と6桁の数字からできています。



①G：全ての入学生

②入学年（西暦下2桁）

③学科

1：機械情報技術学科

2：電気電子システム学科

6：システム情報工学科

5：バイオ環境工学科

9：土木建築工学科

8：感性デザイン学科

④通し番号

001から：学部入学生

201から：再入学生

301から：編入学生

401から：転入学生

501から：転学科生

1.11 通学と交通事故

通学には、自転車、自動二輪車、四輪車を使用することができますが、できるだけ徒歩またはバスを利用するようにしてください。

自動二輪車、四輪車で通学する場合は大学の許可が必要です。許可については、第3章3.4 通学及び第7章7.15「八戸工業大学車両通学に関する規程」を読んでください。

通学する際には、交通事故に遭わないよう、特に、四輪車等を使用するときは交通ルールを良く守り、スピードの出し過ぎ、違反駐車等をしていないよう安全運転を心がけてください。



1.12 大学施設

本学には、図書館、多目的ホール、メディアセンター、体育館、学友会館、尚志館、室内練習場、テニスコート、プール、運動公園などが設置されています。それぞれの利用方法に従って利用してください。詳しくは第5章を読んでください。

また、食堂、売店、および銀行・郵便局のATMなどがありますのでご利用ください。

1.13 オリエンテーション

入学式直後のガイダンスに加え、4月下旬には学生生活をより有意義にするために各学科が計画するオリエンテーションが行われます。このオリエンテーションは、これから過ごす学生生活に必要な知識と方向づけを説明し指導するもので、本学の重要な行事として行われるものです。



1.14 学費の納入

学費は所定の期日までに納入しなければなりません。納入されない場合は除籍になってしまい、学生の資格を失います。もし、所定の期日までに納入できない場合は願い出によって延納を許可することがあります。(詳細は、第7章の八戸工業大学学費納入規程を読んでください。)

1.15 大学のルール・マナー

本学には、**学則**をはじめとするいくつかのルールがあります。これらのルールは、本学での教育や研究の活動を活発でしかも有効的に実施できる環境を整えるために定められています。第7章にはそのルールを掲載していますのでよく読んでください。なお、主なルールについては、第2章から順に説明します。

なお、学内において無断で、①物品を販売すること、②火気を使用すること、③ポスターなどの掲示をすることは禁じられています。必要ときは学生課へ相談してください。

また、学内においては次のマナーを守ってください。

■携帯電話について

- ・授業中の講義室、図書館では電源を切ること。
- ・研究室、事務室内では使用しないこと。

■喫煙について

- ・喫煙は、屋外の灰皿のある場所以外ではしないこと。
- ・歩行喫煙はしないこと。
- ・タバコのポイ捨てはしない。必ず、灰皿に捨てること。

■ゴミについて

- ・ゴミはゴミ箱へ捨てること。
- ・燃えるゴミ、燃えないゴミは分けて捨てること。

■車両通学について

- ・車両通学を希望する学生は、「八戸工業大学車両通学に関する規程」により車両通学の許可を受け駐車場を利用すること。不当駐車は絶対にしないこと。

1.16 休学・退学など

これらの相談は、担任と教務課が行っています。手続きは教務課で行います。

■休学

病気その他の理由で3カ月以上修学できない場合は、願い出て休学することができます。休学期間が満了したときは、復学となります。また、休学期間の授業料は免除されます。詳細は第6章の手続き、第7章の学費納入規程を読んでください。

■復学

休学期間の途中で休学の理由がなくなり復学したいときは、願い出によって復学することができます。詳細は第6章の手続きを読んでください。

■退学

病気その他の理由で退学しようとするときは、担任に相談の上、教務課に申し出てください。

■転学、転学科については第6章の手続きを読んでください。

1.17 教科書や教材の購入

自分の授業を受ける計画(履修計画)が決まったら、それぞれの授業に必要な教科書や教材を購入し授業に備えなければなりません。ほとんどの教科書や教材は販売店が本学に来るため学内で購入が可能ですが、なかには学外で購入したり、教員から配布される場合もあります。

1.18 大学院

本学には、大学(学部)において学んできた知識をさらに深めるために大学院(前期課程・後期課程)があります。大学院は、3専攻から構成されています。機械・生物化学工学専攻、電子電気・情報工学専攻および社会基盤工学専攻です。大学院に進学するためには入学試験がありますので、入学試験に合わせた履修計画を立て十分な学力を養っておく必要があります。詳細は、第4章の進路・資格についてを読んでください。

1.20 キャンパス・校舎案内図

キャンパス・校舎案内図をP18～P33に示します。

1.19 悩み・相談

大学生活でどうしてもよいか困ってしまう問題が起きた！
こんな時一人で悩まずすぐに担任か学生課に相談してください。

■担任

担任は各学科・各学年ごとにおり、皆さんのいろいろな相談に応じています。

■学生相談室(カウンセリングルーム) 【本館3F(P.21)】

カウンセラーが相談に応じています。気軽に相談にきてください。

- ・学生生活に悩んでいる
- ・大学の勉強についていけない
- ・友人とのこと・迷惑行為等

■学修支援室

【本館2F(P.20)】

相談員・先輩学生が学生生活や勉強について相談に乗ったり、アドバイスしています。気軽に相談に来て下さい。

その他事務手続き等に関する相談

■教務課【本館1F(P.20)】

- ・病気やけがで長く休まなければならない
- ・学費のこと
- ・休学、退学、復学の手続きのこと
- ・成績発表の内容に疑問な点がある

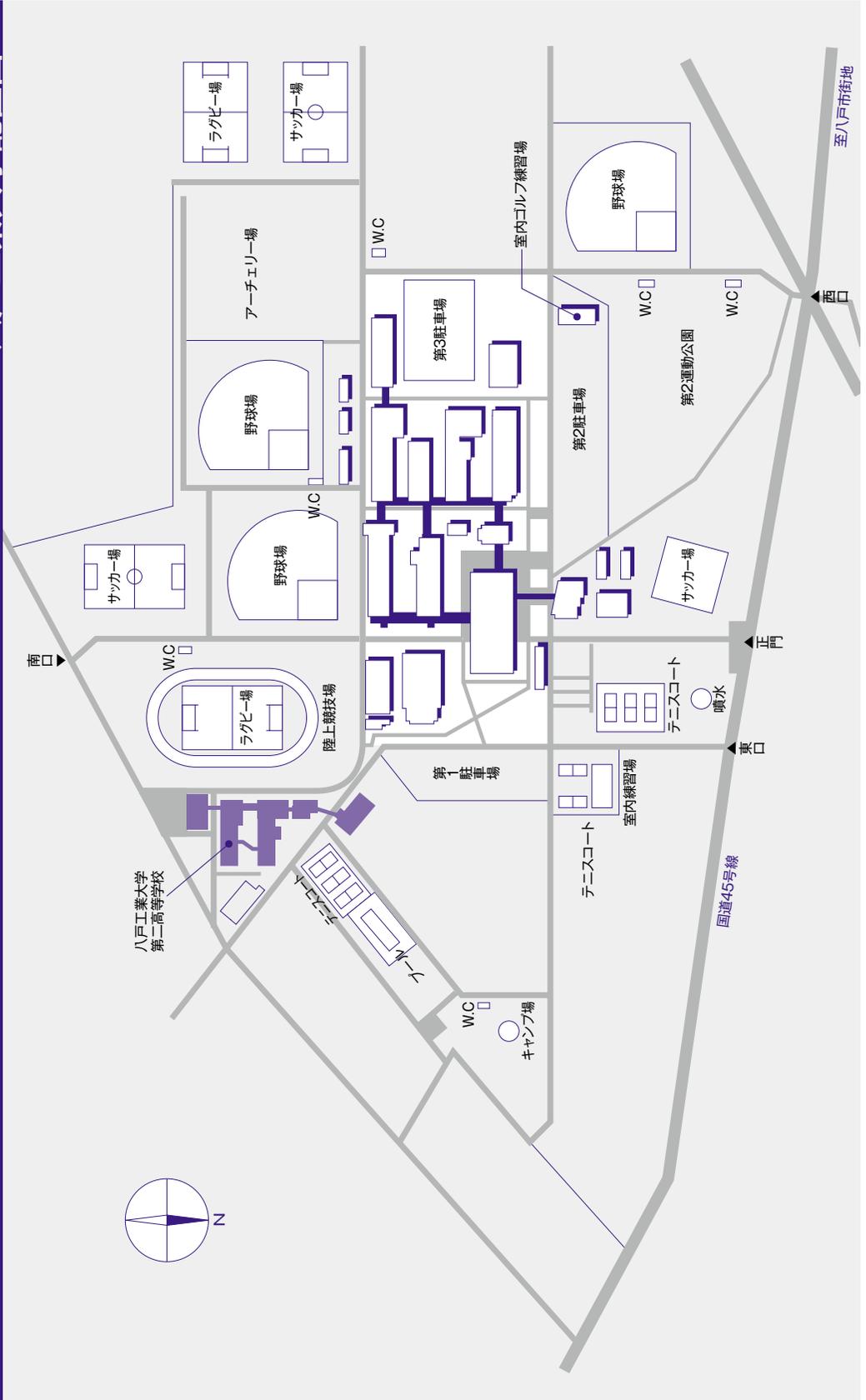
■学生課【本館1F(P.20)】

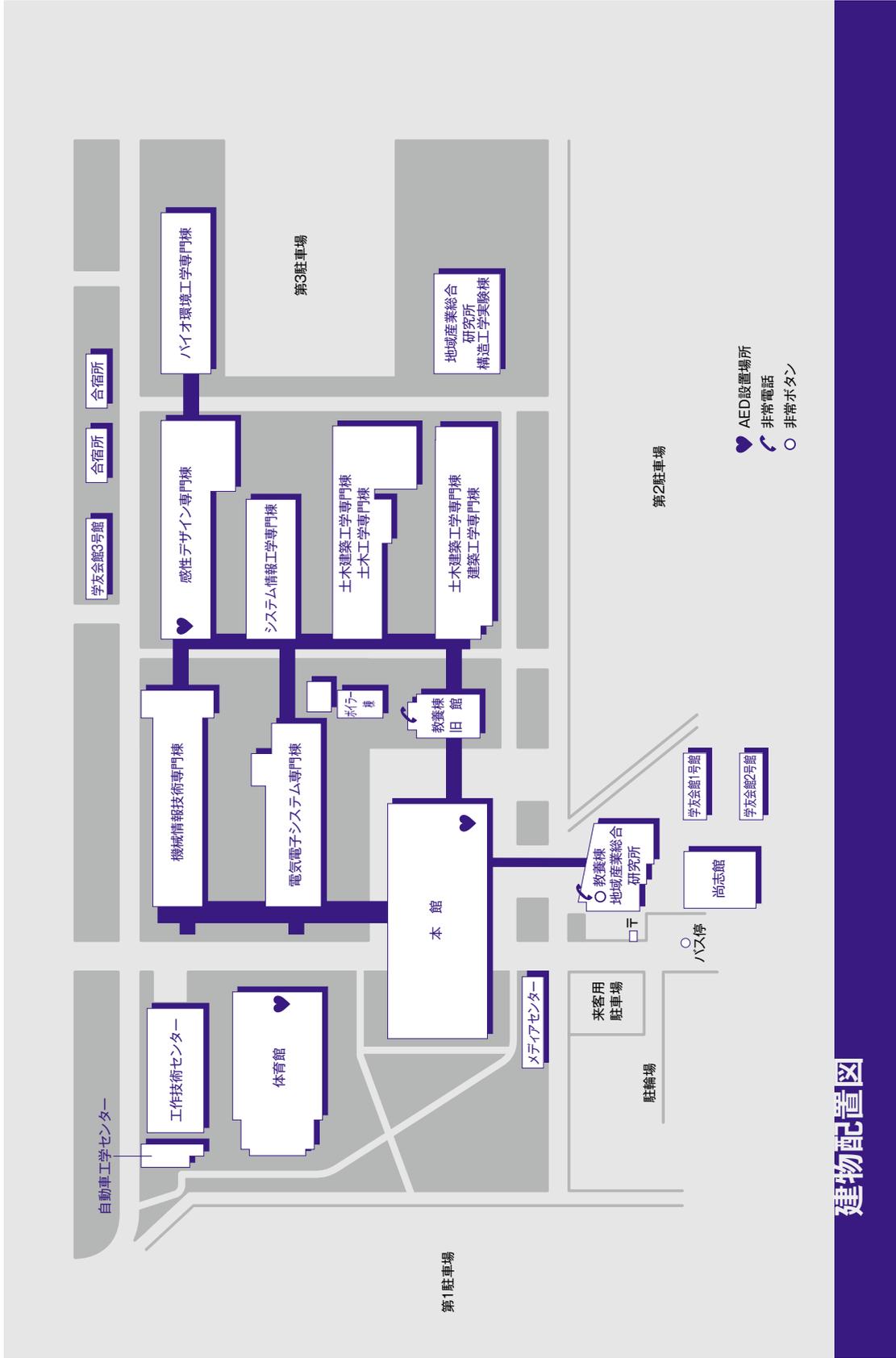
- ・忘れ物をした・学生証をなくした
- ・下宿のこと・奨学金のこと
- ・部活動や愛好会のこと
- ・交通事故を起こした
- ・体調が悪くなった

■就職課【本館1F(P.20)】

- ・企業の紹介
- ・就職に関する書類の書き方(履歴書等)
- ・応募に必要な書類

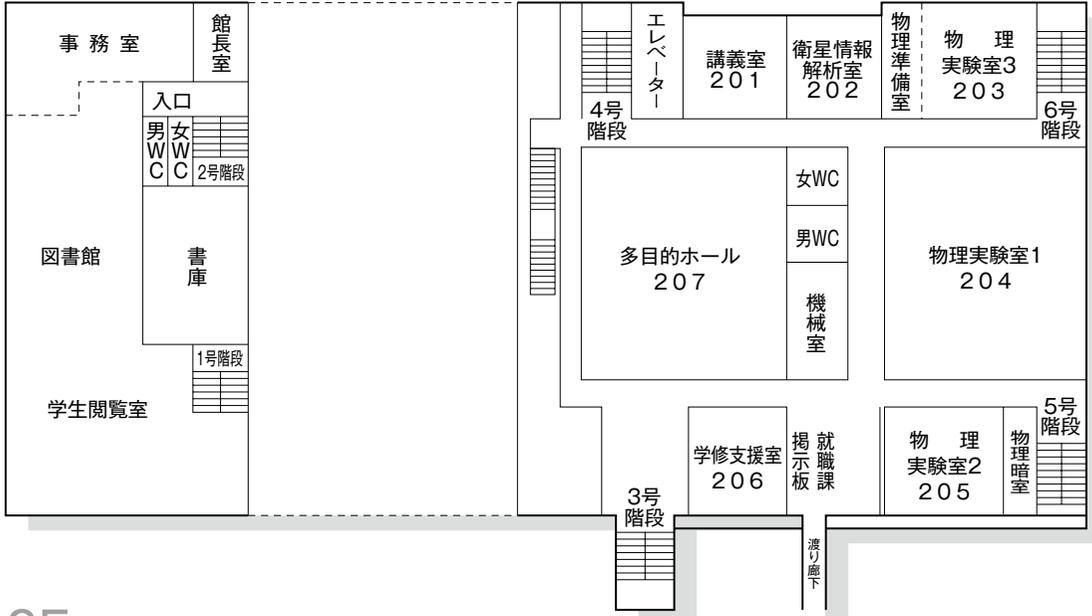
八戸工業大学配置図



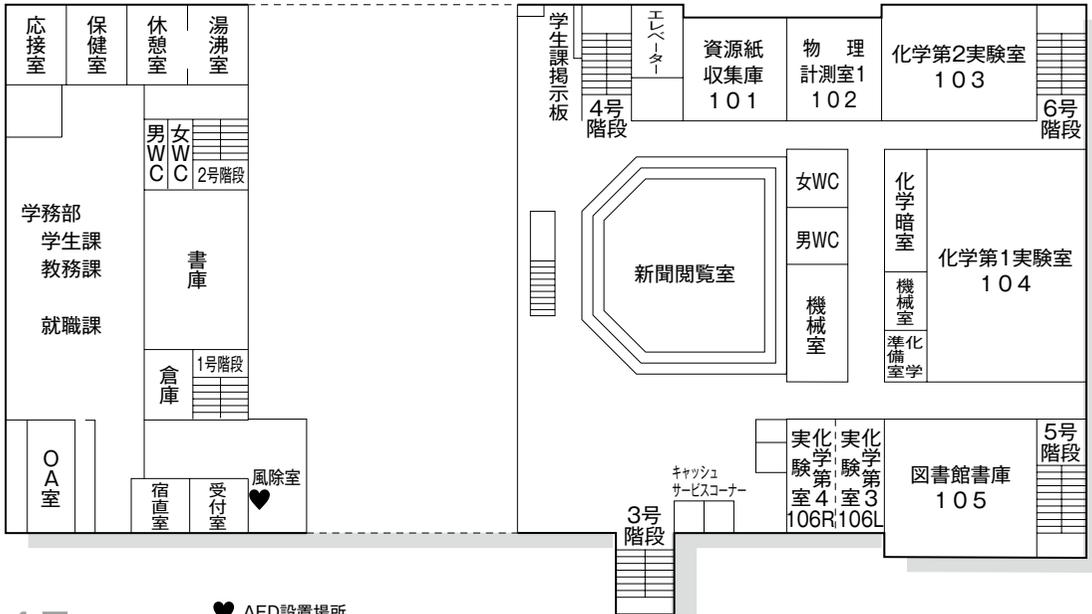


建物配置図

本館



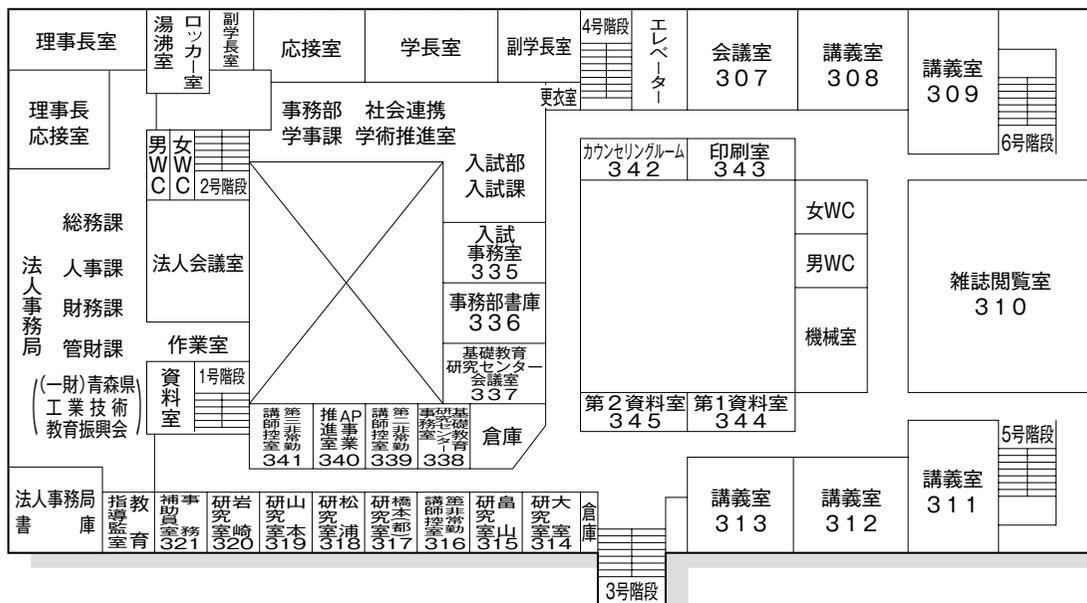
2F



1F

♥ AED設置場所

本館

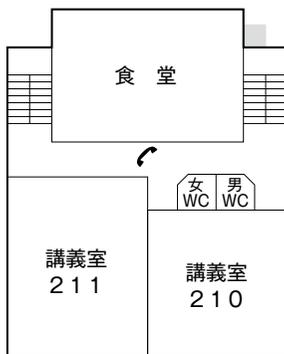
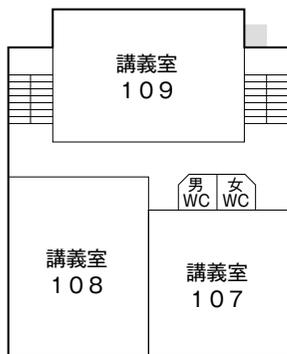


3F

第1章

教養棟旧館

☎ 非常電話

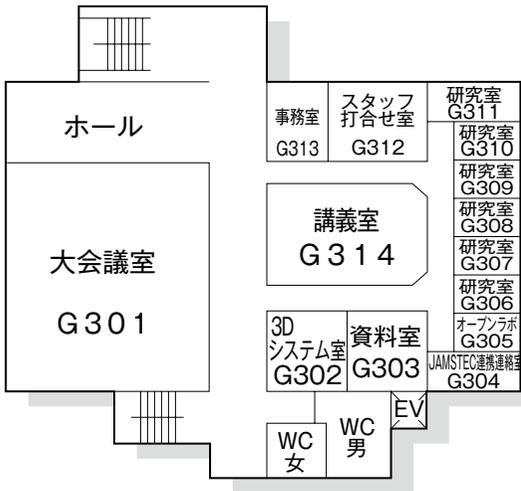


1F

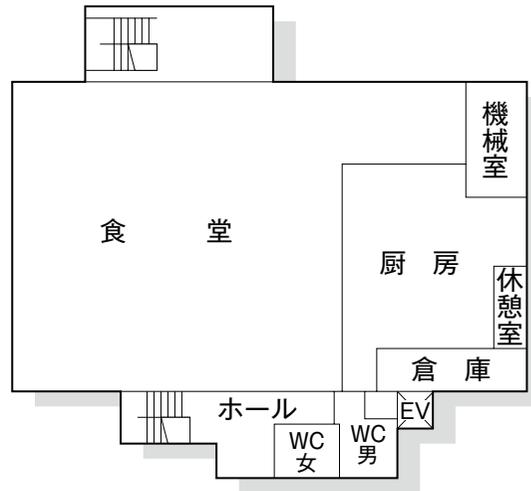
2F

3F

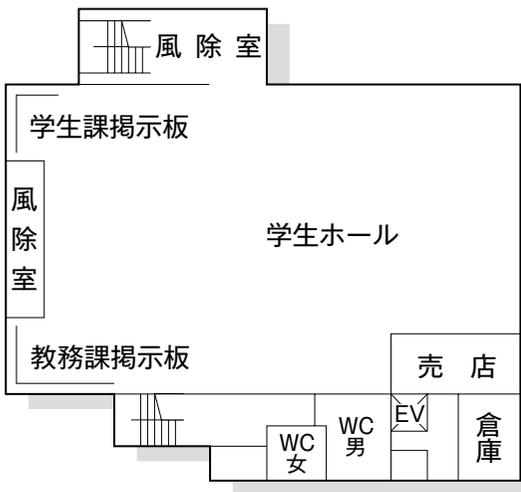
教養棟・地域産業総合研究所



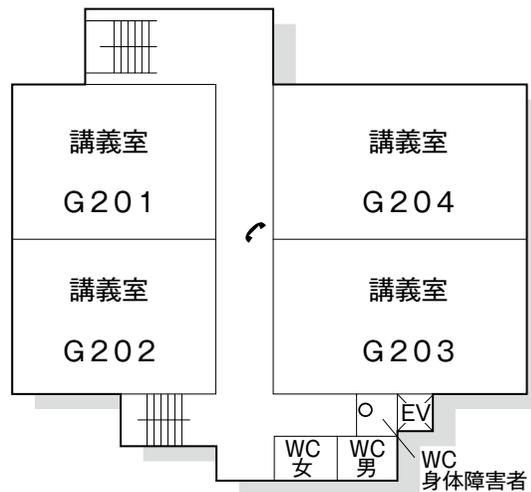
3F



4F



1F



2F

☎ 非常電話
○ 非常ボタン

機械情報技術専門棟

WC 男	学生居室 M315	大黒 研究室 M314	学生居室 M313	研 佐 藤 学 室 M312	研 鈴 不 寬 室 M311	研 野 田 室 M310	工 藤 祐 室 M309	大学院 演習室 M308	資 料 室 M308 (S)	ロボット工学実験室 M307(S)	製図室 M307
	教材準備室 M301	学生居室 M302	実験室 M303R	学生 居室 M303L	学生居室 M304	講義室 M305			ロボット工学実験室 M306		

3F

WC 男	応接室 M216	事務室 M215	講 師 控 室 M214	講 師 控 室 M213	ITルーム (A)	ITルーム (B) M212	ITルーム (C)	研 浅 川 室 M211	研 四 室 M210	研 武 藤 室 M209	研 藤 澤 室 M208	太 田 研 究 室 M207	講 師 控 室 M206
	会議室 M201	学生居室 M202	学生居室 M203	講義室 M204	学生居室 M205	講義室 M205	学生居室 M206						

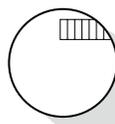
2F

WC 女	自動車教材室 M117	伝熱工学 実験室 M116	実習指導員室 M115	環境助長割 実験室 M114	局 所 力 情 報 計 測 室 M113	次 世 代 冷 凍 機 開 発 室 M113	エンジン 実験室 M112	熱工学 実験室2 M111	熱工学 実験室1 M110	超 音 波 実 験 室 M109	精 密 機 械 測 定 室 M108
	エンジン 実習室 M101	実験室 M102	学 生 実 験 室 M103	原子力工学 実験室 M104	レーザー工学 実験室 M104		実験室 M105	実験室 M106			講義室 M107

1F

電気電子システム専門棟

レーザードーム



R.F.

4F

研究室 E402	
研究室 E401B	電子システム 研究室 E401A

3F

	B	A	B	A		B	A			
WC 男	プラズマ 工学 研究室 E319	電力・情報 ネットワーク 研究室 E318	磁気応用工学 研究室 Ⅱ E317	工学 研究室 Ⅰ E316	アクティブ・ラーニング講義室 E315	強誘電体材料・ デバイス工学 研究室 Ⅱ E314	工学 研究室 Ⅰ E313	研究室 E312	神原 研究室 E311	
					B	A				
	石山 研究室 E301	根城 研究室 E302	花田 研究室 E303	坂本(禎) 研究室 E304	エネルギー 変換工学 研究室 E305	映像・情報 メディア 研究室 E306	電子回路 研究室 E307	電子工学 研究室 E308	関 研究室 E309	柴田 研究室 E310

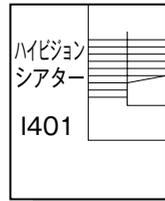
2F

WC 男	電気電子工学 実験室Ⅰ E216	電気電子工学 実験準備室 E215	電気電子工学 実験室Ⅱ E214	事務室 E213	応接室 E212	技術職員室 E211	大学院 演習室 E210	講義室 E209	
	ネットワーク・コンピュータ 演習室 E201	ナノデバイス・ 衛星情報 研究室 E202	E-ラウンジ E203	会議室 E204		エンジン クラブ E205	物理工学 研究室 E206	佐々木(崇) 研究室 E207	川本 研究室 E208

1F

WC 女	産学連携 研究室 E116	電気電子材料 加工室 E115	電子情報システム 実験室 E114	直 流 発電室 E113	電気エネルギーシステム 実験室 E112	E-ナビ・スクエア E111	講義室 E110		
	高電界 工学 研究室 E101	クリーンラボ E102	ナノテクノロジー 研究室 E103	薄膜作製・分析 研究室 E104	研究室 E105	フォトリン ソニア 研究室 E106	薄膜表面物性 評価研究室 E107	研究室 E108	信山 研究室 E109

システム情報工学専門棟



4F

ウェブシステム研究室 I317		小久保研究室 I316	小玉研究室 I315	藤岡研究室 I314	伊藤研究室 I313	武山研究室 I312	小坂谷研究室 I311	三浦研究室 I310		笹原研究室 I309	嶋脇研究室 I308	清水研究室 I307
WC女	WC男	セキュリティシステム研究室 I301	システムシミュレーション研究室 I302	コンピュータシステム研究室 I303	コンピュータグラフィックス研究室 I304	電子ビジョン研究室 I305	ヒューマンインターフェイス研究室 I306					

3F

メディアラボ I214		コピー室 I213	事務室 I212	会議室 I211	非常勤講師控室 I210	実習室 I209	大学院講義室 I208		キャリアプランニング I207	LSI開発室 I206	山口研究室 I205
WC女	WC男	準備室 I201	情報工学基礎実験室 I202	情報工学応用実験室 I203			講義室 I204				

2F

機械室 I113		資料室 I112	開発室 I111	研究室 I110	メディアスタジオ I109	音響情報学研究室 I108		ネットワーク研究室 I106	工作室 I105	
WC女	WC男	資料室	デバッグ室 I101	計算機室 I102	講義室 I103			サイバーラボラトリー I104		

1F

バイオ環境工学専門棟

		遺伝子操作 実 験 室 B401 第1 第2 動 物 室

4F

第2 環境工学 実験室 B317	WC	学生居室 B316	セ ミ ナ ー 室 第2 B315	学 生 居 室 B314	研 究 室 田中(義幸) B313	研 究 室 小林(正) B312	高 橋(晋) 研究室 B311	環境プロセス実験室 B310	学 生 居 室 B309	藤 田(敏) 研究 室 B308	ド ラ フト 室 B307	学 生 居 室 B306
第1講義室 B301		多目的実験・実習室 B302				第2講義室 B303			第1会議室 (資料室) B304	遺伝子工学 実 験 室 B305		

3F

複 写 室 B220	WC	事 務 室 B219	会 議 室 第2 B218	セ ミ ナ ー 室 第1 B217	研 究 室 鶴田 B216	研 究 室 西村(順) B215	小 比 類 卷 研究室 B214	若 生 研究 室 B213	研 究 室 川 B212	鮎 川 研究 室 B211	学 生 居 室 B210	暗 室 B209	殺 菌 室 B208	無 菌 室 B207	植 物 生 態 学 実 験 室 B206
栄養生命科学 実 験 室 細 胞 培 養 室 B201		機 能 性 材 料 化 学 実 験 室 B202				機 器 分 析 室 B203	食 品 生 体 機 能 実 験 室 B204		微 生 物 工 学 実 験 室 B205						

2F

シ ョ ウ ル ム B109	WC	電 鏡 室 B108	第 3 環 境 工 学 実 験 室 B107	就 職 情 報 室 B106	技 術 職 員 室 B105	バ イ オ 環 境 工 学 第 2 基 礎 実 験 室 B104	バ イ オ 環 境 工 学 第 1 基 礎 実 験 室 B103				
バ イ オ 環 境 工 学 第 1 基 礎 実 験 室 B101						バ イ オ 環 境 工 学 I T ル ーム B102			バ イ オ 環 境 工 学 第 1 基 礎 実 験 室 B103		

1F

土木建築工学専門棟・土木工学専門棟

															ベランダ					ベランダ	
WC 男	複写室	事務室	研究室	高研究室	迫研究室	長谷川研究室	金子研究室	研究(佐木)室	福研究室	竹内研究室	阿波研究室	研究室	鈴木(拓)研究室	研究室	非常勤講師室	コンクリート工学研究室Ⅱ	計画学研究室	大学院生演習室			
WC 女	C328	C327	C326	C325	C324	C323	C322	C321	C320	C319	C318	C317	C316	C315	C314	C313	C312	C311			
湯沸室																					
															ベランダ		ベランダ				
			資料室	応接室	会議室	研究室	熊谷研究室	水工学研究室Ⅱ	環境工学研究室Ⅱ	大学院講義室			コンクリート工学研究室Ⅰ	研究室Ⅱ							
			C301		C302	C303	C304	C305	C306	C307			C308	C309							
															第3講義室						
															C310						

3F

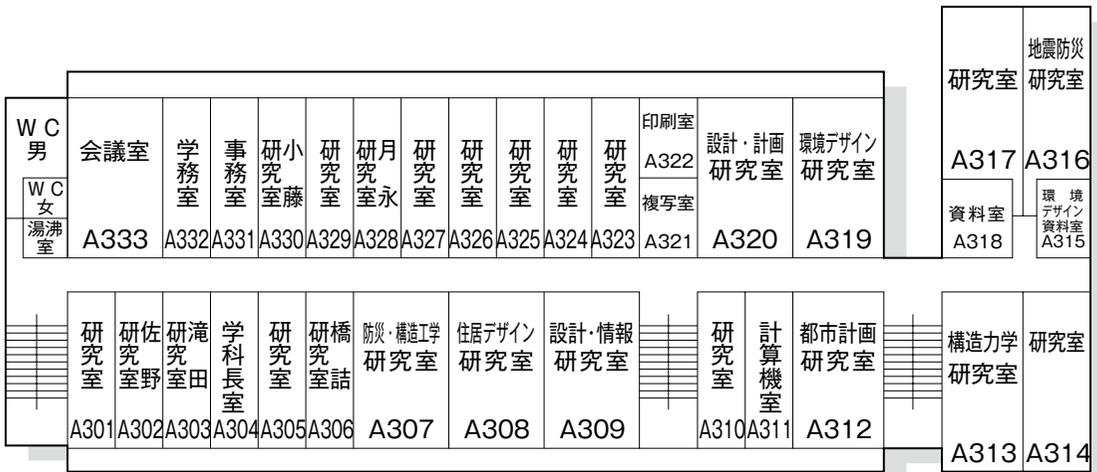
															ベランダ		ベランダ	
WC 男	構造工学研究室Ⅰ	ITカフェ学生自習室		ITルーム			地盤工学研究室	水工学研究室Ⅰ	コンクリート工学実験室Ⅲ					第2講義室				
WC 女	C213	C212		C211			C210	C209	C208					C207				
湯沸室																		
															ベランダ		ベランダ	
			環境工学研究室Ⅰ	環境工学実験室Ⅰ	環境工学実験室Ⅱ					研究室Ⅰ	学生自習室					第1講義室		
			C201	C202	C203					C204	C205							
															C206			

2F

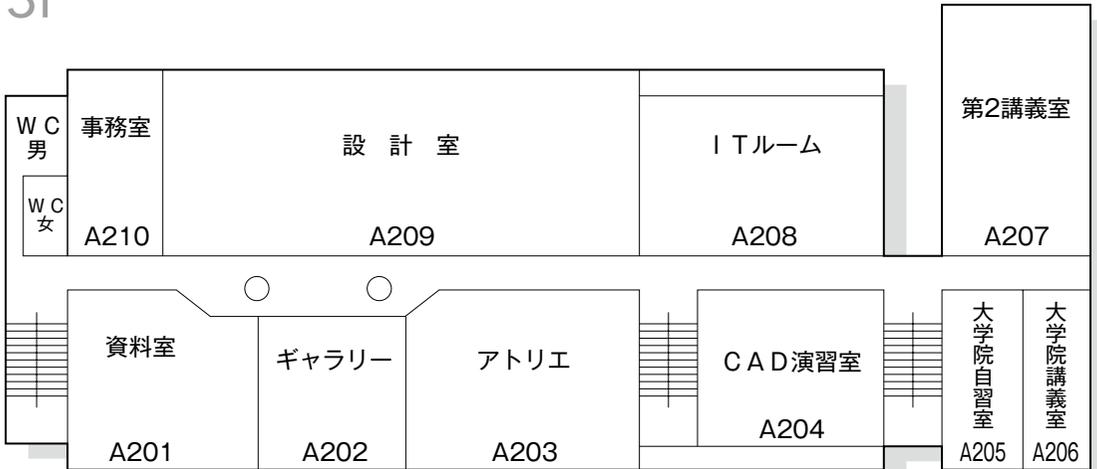
															ベランダ		ベランダ	
WC 男	実験準備室	地盤工学実験室Ⅱ					水工学実験室Ⅱ			実験準備室	地盤工学実験室Ⅰ	器材室						
WC 女	C112									C110	C109	C108						
湯沸室																		
															ベランダ		ベランダ	
		実験準備室	コンクリート工学実験室Ⅰ			構造工学実験室				寒冷地材料試験室	凍結融解試験室							
		C101	C102			C103				C104	C105							
		恒温室																
															C106		C107	

1F

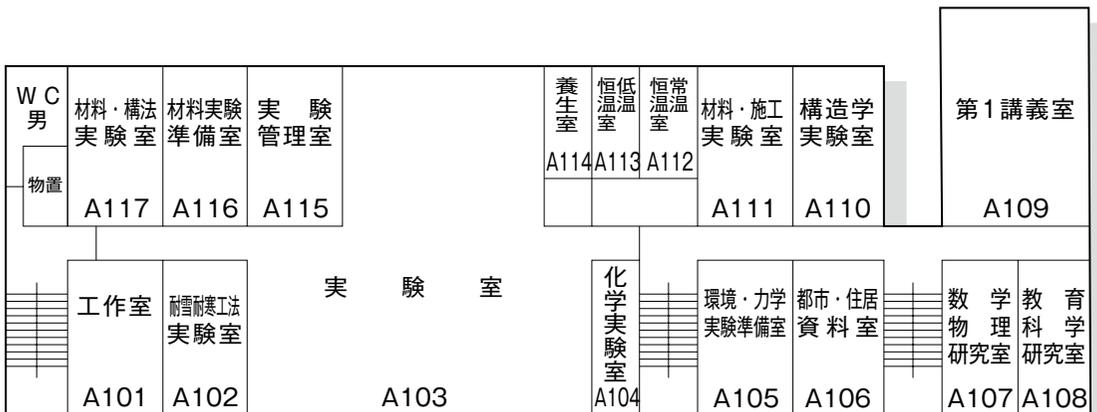
土木建築工学専門棟・建築工学専門棟



3F

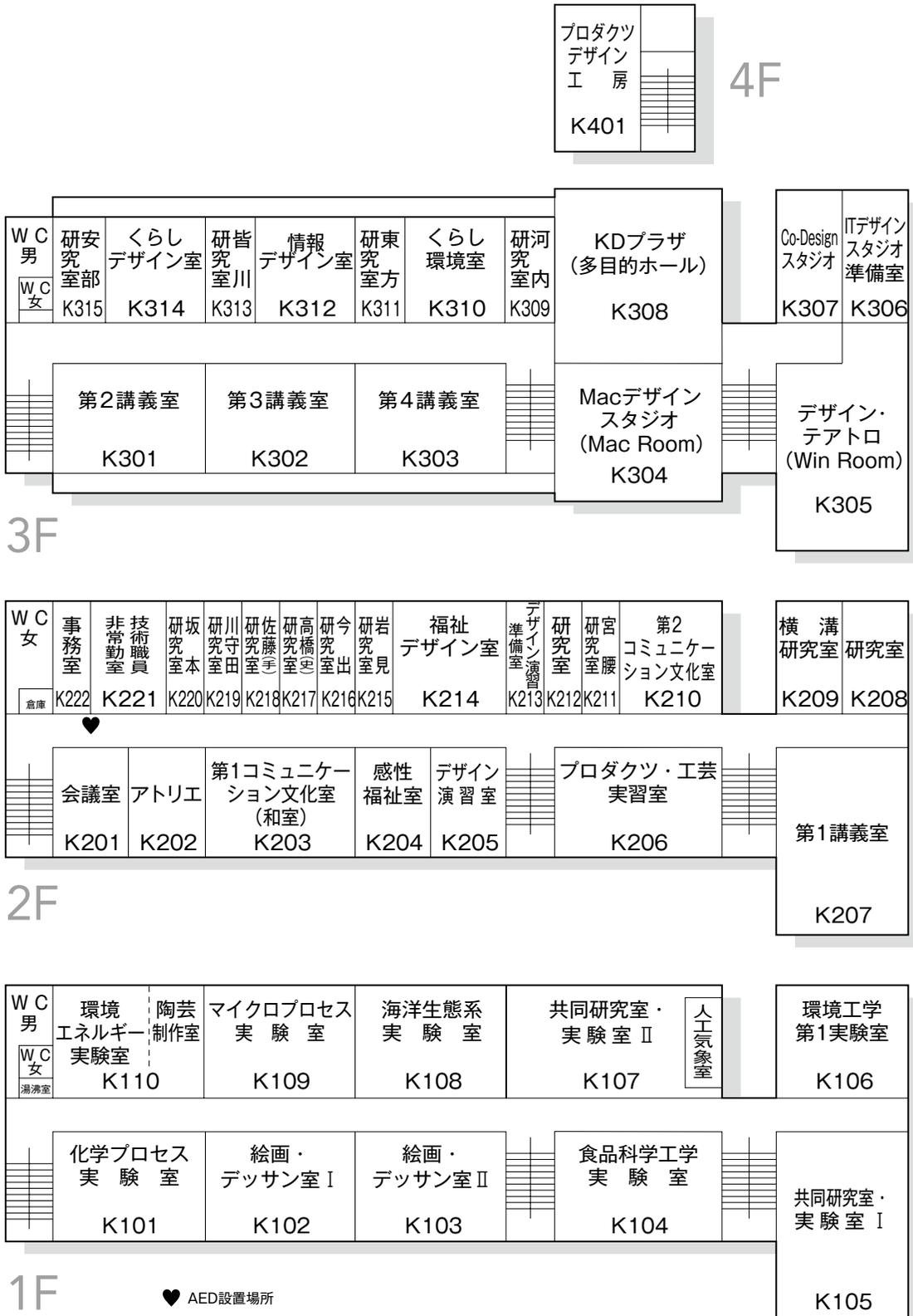


2F



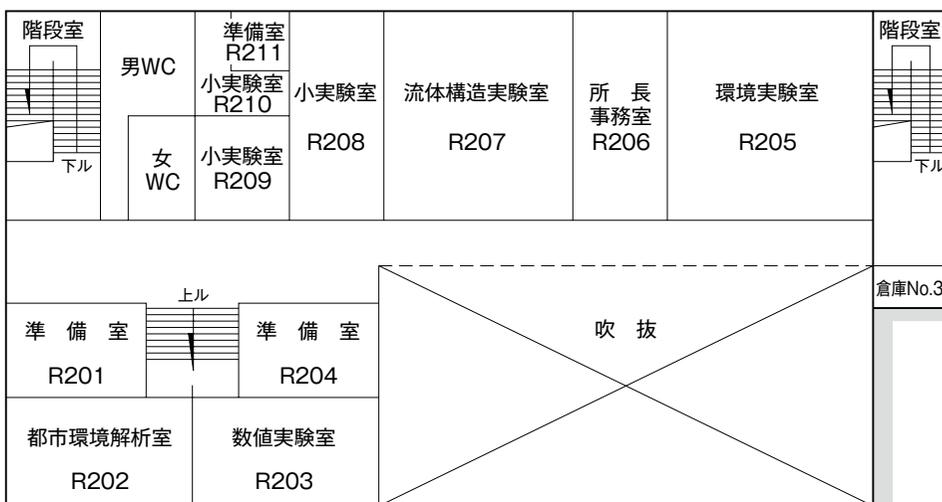
1F

感性デザイン専門棟



地域産業総合研究所・構造工学実験棟

2F

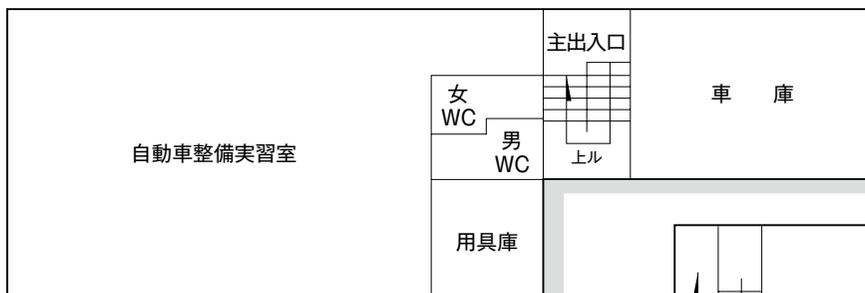


1F



自動車工学センター

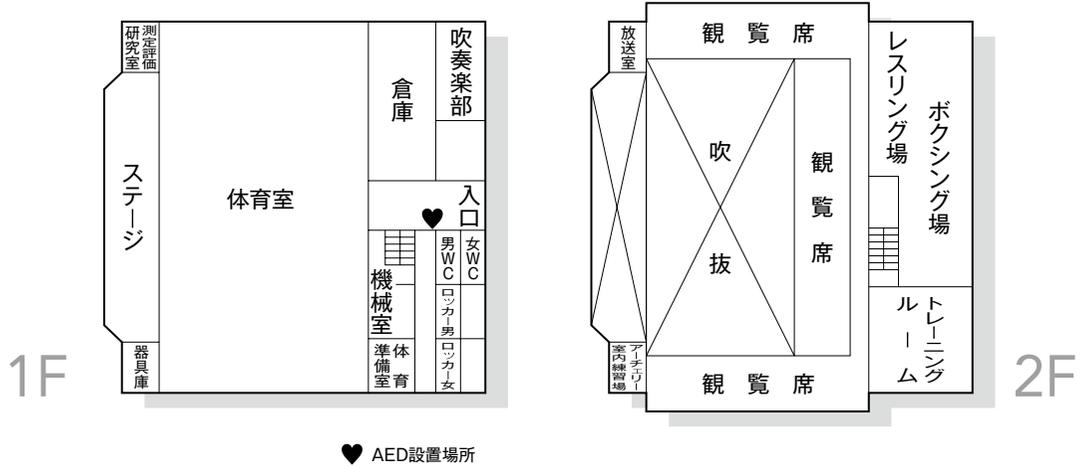
1F



2F



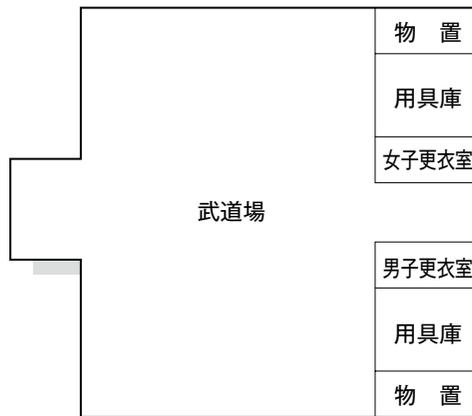
体育館



工作技術センター

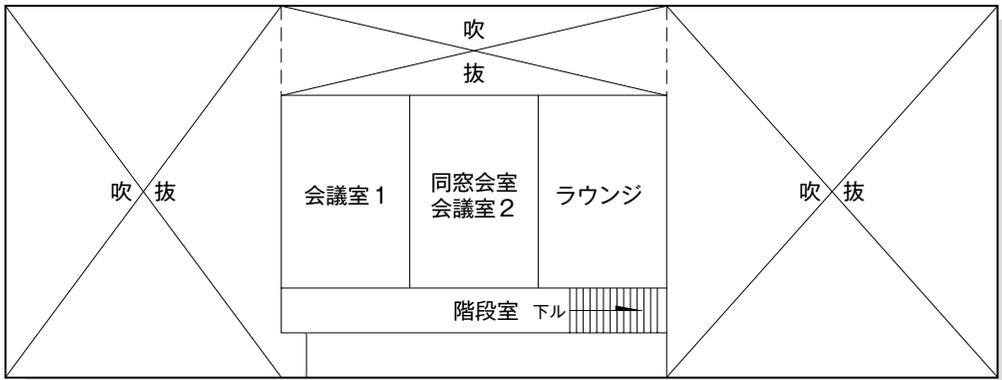


尚志館

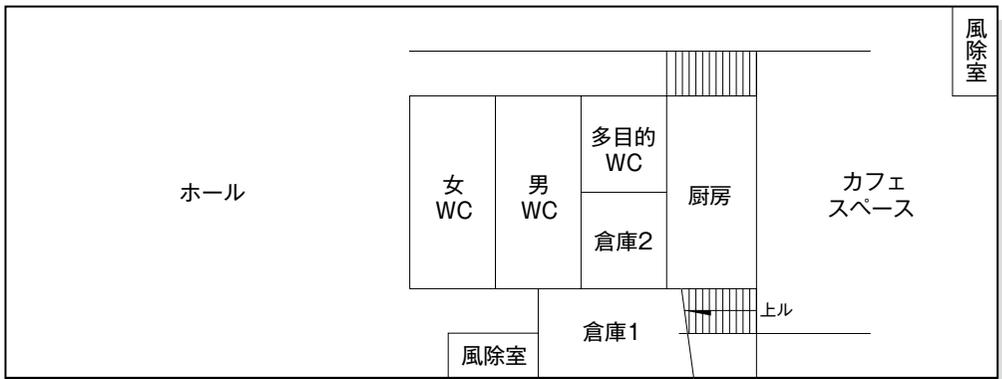


メディアセンター

2F



1F



学友会館

学友会館 1号館(1F)

男子WC	男子 シャワー室	倉庫		学友会室	体育会室	文化会室
女子 シャワー室	女子WC	出入口	学友会倉庫	会議室A-1	会議室A-2	

1号館(2F)

主務室 1-1	ボランティア 愛好会 1-2		レスリング部 1-3	サンボ部 1-4	ボクシング 部 1-5	ソフト テニス部 1-6	アイス スケート部 1-7	ダーツ 愛好会 1-8
1-17	弓道部 1-16	卓球部 1-15	柔道部 1-14	男子硬式 庭球部 1-13	女子硬式 庭球部 1-12	少林寺 拳法部 1-11	1-10	1-9

学友会館 2号館(1F)

男子WC	出入口	会議室B-1	会議室B-2	2-1	ゲーム研究部 2-2	ビリヤード部 2-3	学友会 パネル置場 2-4
女子WC	倉庫	プラモデル 研究会 2-9	電創部 2-8	電創部 2-7	学友会倉庫 2-6	アーツテック 研究部 2-5	

2号館(2F)

将棋部② 2-10	軟式野球部 2-11	2-12	映 像 研 究 部 2-13	映 像 研 究 部 2-14	美 術 研 究 部 2-15	男子バスケット ボール部 2-16	合 唱 部 2-17
将棋部① 2-24		情報科学 研 究 部 2-23	文 芸 愛 好 会 2-22	サイエンス 愛 好 会 2-21	バレエ ボール部 2-20	ストリートダンス 愛 好 会 2-19	English 研 究 会 2-18

学友会館3号館(グランド側)

美術研究部 3-16	動力研究部 3-15	山岳部 3-14	文化会倉庫 3-13	陸上競技部 3-12	物 置 3-11	物 置 3-10	音楽研究部 3-8	物 置 3-9
動力研究部 3-1	硬式野球部 3-2	アーチェ リー部 3-3	学友会倉庫 3-4	自動車部 3-5	ソフト ボール部 3-6	ラグビー部 3-7		

(バイオ環境工学専門棟側)

第2章

学修について

2. 1	はじめに	36
2. 2	授業時間	37
2. 3	履修計画と履修手続き	37
2. 4	出席・欠席	38
2. 5	試験	38
2. 6	成績発表	38
2. 7	標準修得単位数	39
2. 8	進級要件	39
2. 9	卒業	40
2. 10	GPA	41
2. 11	工学部の教育目標・教育課程	42
2. 11.1	機械情報技術学科の教育目標・教育課程	43
2. 11.2	電気電子システム学科の学習・教育到達目標と教育課程	63
2. 11.3	システム情報工学科の学習・教育目標と教育課程	76
2. 11.4	バイオ環境工学科の学習・教育目標と教育課程	91
2. 11.5	土木建築工学科の学習・教育到達目標と教育課程	110
2. 12	感性デザイン学部の教育目標・教育課程	128
2. 12.1	感性デザイン学科の学習・教育目標と教育課程	129

2.1 はじめに

この章では、本学でどのようにして学びたい授業を受け、進級し、そして卒業できるかについて述べています。

■履修から単位修得まで

授業を受けることを履修するといいます。それぞれの授業科目には、授業時間数に応じて単位数が定められています。履修登録をして、授業を受け、試験に合格することを単位を修得したといいます。修得した単位数の合計を修得単位数といいます。(第7章学則参照)

■必修科目と選択科目

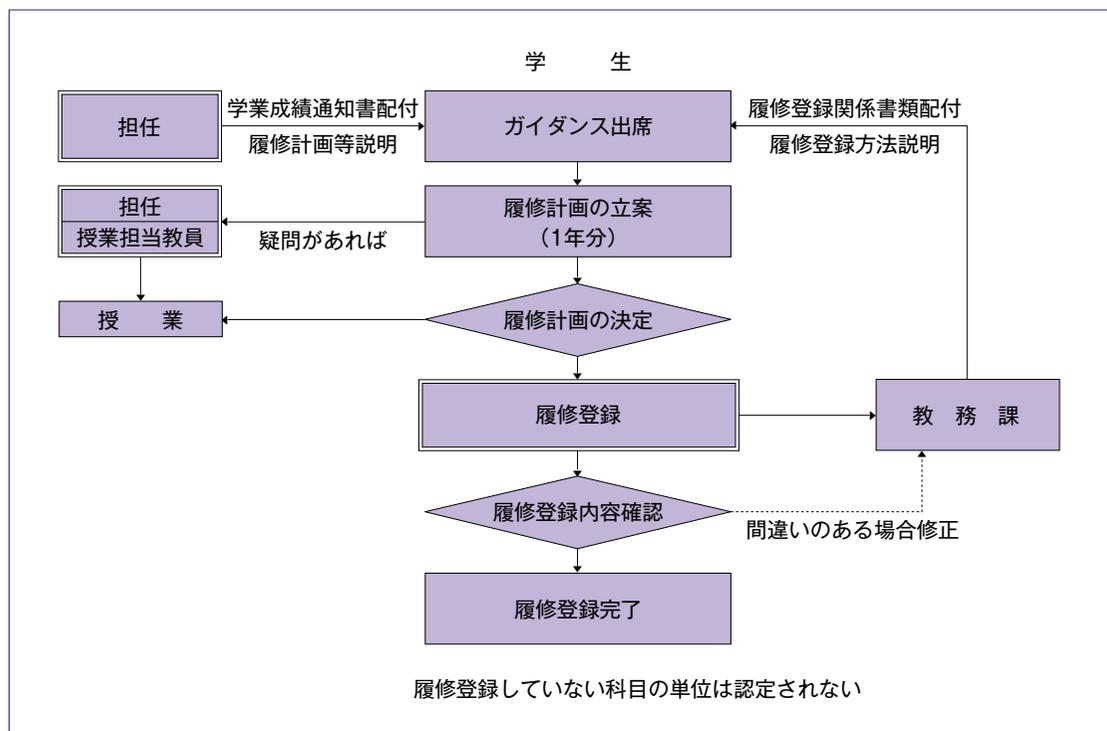
授業科目には、必ず修得しなければならない必修科目と選んで履修できる選択科目があります。選択科目には、各学科課程表に示された範

囲から一定以上の単位数を修得しなければならない条件付きの選択必修と呼ばれる科目があります。

■学期と開講時期

本学の学期は、4月1日から9月15日までの前期と、9月16日から3月31日までの後期に分かれています。

それぞれの授業科目は、前期開講、後期開講、1年間を通しての通年開講と3種類の期間で授業が行われます。また、特定の期間に集中して授業を行う集中講義と呼ばれるものがあります。



2.2 授業時間

授業時間は次の通りです。

第1校時	8:50-10:20
第2校時	10:30-12:00
第3校時	12:50-14:20
第4校時	14:30-16:00
第5校時	16:10-17:40

2.3 履修計画と履修手続き

■履修計画

学年はじめに、この1年間どのような授業科目を履修するかを授業時間割表をもとに、シラバス、学生要覧等を参照し、自分で計画をたてる必要があります。これを履修計画といいます。

履修計画の相談には担任があたっていますので、気軽に相談してください。なお、前年度までの修得単位数が2.7で示す標準修得単位数に達していないときは、担任の指導を受けなければなりません。

■履修手続き

履修計画ができたなら、その計画を所定の期日に履修登録を行うことが必要です。履修登録は、あらかじめ履修計画表に記入した科目をユニバーサルパスポートにより登録をしてもらいます。履修登録された結果は、「受講者名簿」となって各科目担当教員に周知されます。つまり、この名簿に記載された者だけがその科目を履修できることとなりますので、履修手続きには十分な注意を要します。

■他学部・他学科科目の履修

所属学科以外の科目(講義科目)を10単位を限度として進級要件・卒業要件の選択科目の単位として修得することができます。受講を希望するときは、所属学科長、担任、科目担当教員の承認を受ける必要があります。教務課まで申し出てください。

■単位互換科目の履修

八戸学院大学の科目を進級要件・卒業要件の選択科目の単位として修得することができます。受講を希望するときは、所定の手続きをとる必要があります。ただし、1学年は履修できません。

■実験、実習、製図および体育科目

これらの科目は、開講されている学年で履修することを原則としていますので、その年に単位を修得できない場合には以後の履修科目に制限を受けることがあります。

■再履修

一度履修し不合格となった科目をもう一度履修することを再履修といいます。再履修の方法は基本的には最初に履修したときと同じ方法で履修しなければなりません。科目によって履修方法に違いがありますから担当教員の指導に従って履修してください。

2.4 出席・欠席

出席時数が授業時数の3分の2に満たない場合は、試験を受けられません。なお、体育科目はその性質上5分の4以上の出席時数がなければなりません。続けて3日以上欠席する場合は教務課に欠席届を提出しなければなりません。忌引きによる欠席は、忌引届を教務課に、部活動などによる欠席は特別欠席願を学生課にそれぞれ提出してください。また、3カ月以上の欠席をするときは休学願を教務課に提出し、休学することができます。休学などについては(P177)第6章を参照してください。

2.5 試験

単位を修得するためには、試験を受け合格しなければなりません。実験、実習、演習および実技の科目では平常の成績で評価されることがあります。評価はS、A、B、C、Dで行われ、S、A、B、Cは合格、Dは不合格です。

試験には、定期試験、追試験および再試験があります。(第7章7.5を参照)

■定期試験

前期および後期の決められた期間に行われます。

■追試験

病気・けがなどやむを得ない理由により定期試験が受けられなかった学生が受けるものです。担当教員に申し出てください。受験手続きは自動発行機を利用してください。

■再試験

定期試験や追試験に合格できなかった学生に対して実施します。自動発行機で受験手続きをしてください。

■受験資格

定期試験を受けるためには次の受験資格が必要です。

- ①学年はじめに履修登録をしている。
- ②出席時数が授業時数の3分の2以上である。
ただし、考慮すべき事情のある学生については出席時数がこれを満足しなくとも担当教員への届出により認める場合がある。
- ③教授会において特に失格条件がないことを認めている。

■受験上の注意

試験は成績評価の一手段として行われるものです。不正があると、正しい評価ができません。このため不正行為を行った学生は学則第57条によって懲戒処分が行われ、その学期に受験した科目はすべて零点となってしまいます。

受験の際は次の注意を守ってください。

- ①学生証を机の上に提示してください。学生証を忘れた場合は、学生課に申し出て受験票の交付を受け机の上に提示してください。
- ②追試験、再試験の場合には、それぞれの受験票を机の上に提示してください。
- ③特別な事情がない限り試験開始から20分後の入場、試験開始から30分間は退場できません。
- ④筆記用具などを共有してはいけません。
- ⑤答案用紙を持ち帰ってはいけません。
- ⑥受験中は監督者の指示に従ってください。不正があったと認められた場合は、監督者は直ちに退場を命じることがあります。

2.6 成績発表

合否については、科目毎に掲示で通知されます。また、前期、後期のそれぞれの終了後に担任を通し全科目の成績が学業成績通知書として通知されます。学業成績通知書を受けとったら

内容を確認してください。

2.7 標準修得単位数

順調に単位修得が行われているかの目標値として、つぎの標準修得単位数が定められています。この単位数が修得できなかった学生は、担任から履修上の指導を受けなければなりません。なお、各学年に開講されている必修科目は全て修得していなければなりません。

(数字は単位数)

工 学 部	1 学 年	2 学 年	3 学 年
機械情報技術学科	35	75	115
電気電子システム学科	40	80	120
システム情報工学科	40	80	120
バイオ環境工学科	35	75	115
土木建築工学科	35	75	115

感性デザイン学部	1 学 年	2 学 年	3 学 年
感性デザイン学科	38	78	118

2.8 進級要件

本学では、履修を円滑にすすめてもらうために、各学年に次のような進級要件を定めています。この進級要件を満足しないような場合は、同じ学年に留年となり、卒業までにもう一年要することになってしまいます。なお、学科や履修のコースによっては表に示した以上の要件を設けている場合があるので、履修規程とあわせて各学科の教育目標・教育課程も確認して下さい。

工学部

学科	項目	1 学 年	2 学 年	3 学 年	
情報技術	修得単位数	25	60	95	
	必修単位数	10	30	45	
電気電子システム	修得単位数	28	65	105	
	必修単位数	12	36	50	
				電気電子システム入門と電気電子システム概論を修得のこと。 物理学実験と化学実験のいずれかを修得のこと。 基幹科目16単位中12単位以上修得のこと。	
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>基幹科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電磁気学Ⅰ、Ⅱ 電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ 電気回路Ⅰ、Ⅱ 電気回路演習Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> </tbody> </table> 創造工学実験と電気電子基礎実験を修得のこと。	基幹科目
基幹科目					
電磁気学Ⅰ、Ⅱ 電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ 電気回路Ⅰ、Ⅱ 電気回路演習Ⅰ、Ⅱ					
システム情報	修得単位数	25	60	100	
	必修単位数	10	25	35	
				情報工学基礎実験Ⅰ、Ⅱを修得のこと。	
バイオ環境	修得単位数	25	58	100	
	必修単位数	12	30	47	
				バイオ環境工学基礎実験、バイオ環境工学実験、Ⅰ、Ⅱを修得のこと。	
土木建築	修得単位数	25	60	100	
	必修単位数	10	12	16	

感性デザイン学部

学科	項目	1 学 年	2 学 年	3 学 年
感性デザイン	修得単位数	28	62	102
	必修単位数	12	16	18

2.9 卒業

工学部の卒業のための要件は、次の通りです。

- ① 4年以上修業する。
- ② 各学科教育課程表の導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、専門科目の各区分から、次に定める単位数以上を修得する。
- ③ 総計124単位以上修得する。

以上の単位修得条件を、各学科についてまとめたのが次の表です。

(数字は単位数)

学 科	導入転換科目	総合教養科目	工学基礎科目	専門科目	区分なし	卒業単位数
機械情報技術学科	4	24	14	70	12	124
電気電子システム学科	4	20	16	70	14	124
システム情報工学科	6	20	20	70	8	124
バイオ環境工学科	6	20	10	70	18	124
土木建築工学科	4	26	22	72	0	124

注1 学科や履修のコースによっては上記の区分以外の卒業要件を設けている場合もあるので、各学科の教育目標・教育課程や第7章諸規程に掲載されている教育課程表などを参考に確認すること。

注2 区分なしの単位は、次の科目からも修得できます。

- ・総合教養科目
- ・工学基礎科目
- ・リメディアル科目
- ・専門科目
- ・他学科履修科目
- ・単位互換科目

注3 次の科目は卒業に要する単位数には加算されません。

- ・教育職員免許状取得に関する科目や、資格取得に関する科目など、各学科教育課程表(学則別表第1)に含まれてない科目

感性デザイン学部の卒業のための要件は、次の通りです。

- ① 4年以上修業する。
- ② 学科の教育課程表の導入転換科目、総合教養科目、リメディアル科目、専門科目の各区分から、次に定める単位数以上を修得する。
- ③ 総計124単位以上修得する。

※次表参照のこと

(数字は単位数)

学 科	導入転換・総合教養・リメディアル科目	専門科目 (感性デザイン基礎)	専門科目 (ビジュアルデザイン・ 住環境デザイン・ 感性デザイン応用)	区分なし	卒業単位数
感性デザイン学科	30	28	60	6	124

注1 区分なしの単位は、次の科目からも修得できます。

- ・他学部・他学科科目
- ・単位互換科目

注2 次の科目は卒業に要する単位数には加算されません。

- ・教育職員免許状取得に関する科目で、各学科教育課程表(学則別表第1)に含まれていない科目

2.10 GPA

本学では、平成23年度入学生からを対象に、学修成果を計る基準としてGPA制度を導入しています。GPAとは、「Grade Point Average」の略称で、履修した1単位当たりの評価平均値を求めたものです。GPAを算出することにより学修の到達度が明確になることから、皆さんの学修意欲向上につながることをねらいの一つとしています。

GPAは学期ごとに学業成績通知書に記載して配布しますので、自分自身の学修状況を確認するとともに、GPAがより高い値となるように学修されることを期待します。なお、GPAの詳細については、第7章諸規程の「八戸工業大学GPA取り扱い要項」を参照してください。

■成績評価とグレードポイント（GP）

評価毎のグレードポイント（GP）は下記の通りで、評価がN（認定）の科目、卒業要件に含まれない科目および八戸大学との単位互換科目は、GPA算出の対象外とします。

合 否	評 価	評価基準	GP
合格	S	90～100	4
	A	80～89	3
	B	70～79	2
	C	60～69	1
	N	認定	—
不合格	D	59以下	0

■GPAの計算方法

本学では、右記の通り「学期GPA」、「年度GPA」、「累積GPA」の3種類のGPAを計算します。（小数点第2位まで表示し、小数点第3位以下は切り捨て）

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{当該学期における（修得した科目の単位数} \times \text{GP）の計}}{\text{当該学期における評価を受けた科目の単位数の計}}$$

$$\text{年度 GPA} = \frac{\text{当該年度における（修得した科目の単位数} \times \text{GP）の計}}{\text{当該年度における評価を受けた科目の単位数の計}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{入学以降に（修得した科目の単位数} \times \text{GP）の計}}{\text{入学以降に評価を受けた科目の単位数の計}}$$

GPAの計算で特に注意すべき点は、不合格科目（D評価：GP＝0）も評価を受けた科目として単位数に算入されることです。GPの計は増えずに分母が大きくなるということですから、不合格科目が増えるとGPAの値が低くなることとなります。なお、不合格科目には文字通り試験等に不合格だった場合以外にも、授業を途中からあきらめたりした場合（通称「放棄」といいます）も含めます。十分に注意してください。

履修計画を立てる際には、進級要件や卒業要件を充足することはもちろんですが、履修登録した科目は途中であきらめることなく確実に単位を修得すること、また、全てを高い評価で合格するよう努力することが重要です。

2.11 工学部の教育目標・教育課程

■教育目標

教育理念にそった人材を育成するため、工学部では以下の教育目標を掲げます。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とする工学の素養をもった技術者を育成する
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった技術者を育成する
- 3) 工学基礎原理の理解とそれらの高度応用展開力をもった技術者を育成する
- 4) 地域社会への関心をもつとともにグローバルな視野で物事を考えることができる技術者を育成する

■教育課程編成方針・教育実施基本方針

工学部では、教育目標に掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「リメディアル科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育を実施します

総合教養科目においては、学科を問わないリベラルアーツを展開し多面的に物事を考える素養を養います。また導入転換科目においては、社会と接点のある教育を実施し、キャリアデザイン科目を充実させます。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。専門科目においても、PBL、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します

工学の学問に必要な「工学基礎科目」を配置し、自然科学分野の基礎を幅広く養います。また、工学部各学科の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します

高度な応用展開力を養うために、実践的な科目や実験・演習・実習科目を重点的に配置します。授業の中では、論理的な思考を通じて自ら考え纏めたことを発表、表現する授業を展開します。また身につけた複数の専門知識やスキルを統合し、問題の解決力と継続的に学習する力やプロジェクトマネジメント力を育成するために、「卒業研究」を必修とします。

5) 地域社会との繋がりを重視した教育を実施します

地域社会が抱える課題の解決のために、地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、地域社会への関心をもって物事を考えることができる能力を養成します。

6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します

学科を問わない総合教養科目を中心に、専門科目においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、グローバルな視野で物事を考えることができる素養を養成します。

各学科の教育目標・教育課程を次以降で説明します。

2.11.1 機械情報技術学科の教育目標・教育課程

機械工学は「工学の父」と言われるほどその歴史は古く、また産業技術の基盤をなす学問であり、現在さらに新たな発展を続ける創造性豊かな学問です。その守備範囲は広く、天体間を移動する宇宙ロケットから、我々の血管中に入りこんで医療作業をするマイクロマシーンまで、実に広範囲に及んでいます。

一方、最近の情報技術の進歩は著しく、現代工学および文化はこの技術に大きく依存しており、機械分野と情報分野が融合した新しい形の技術を修得した技術者の育成が望まれています。

■機械情報技術学科の学習・教育目的

多様化した社会ニーズに応えるため、科学的・専門的な知識とともに、幅広い教養、倫理観と国際的なコミュニケーション能力を持ち、さらに人間性豊かな総合的判断能力、応用展開能力、問題解決能力および生涯自己学習能力を持った技術者の育成を基盤とした教育を行うことが学習・教育の目的です。

機械情報技術学科には次の3つのコースがあります。2学年進級時点でコースを選択し、登録することになりますが、どのコースを希望するかを、事前に機械情報技術学科長に申請しておく必要があります。なお、各コース生は、修得した科目の履修状況、成績、出席率などから決定されるため、申請どおりにならない場合があります。

1. 創生工学コース

機械工学に関する幅広い知識、技術者倫理、デザイン能力、情報技術およびコミュニケーション能力と国際的視野を有し、多様化した社会ニーズに対応して地域や社会で活躍できる技術者を育成するコースです。JABEE（日本技術者教育認定機構）対応コースであり、必修科目が多くなっています。創生工学

コースのプログラムを修了した学生は、卒業と同時に修習技術者になります。また、技術士の一次試験が免除になるなど多くのメリットがあります。

2. 総合工学コース

幅広い機械工学分野の中の特定分野に秀でた技術者を育成するコースです。例えば設計技術者、製造技術者や営業技術者などです。必修科目は少なくそれぞれの目指す分野の科目を中心に履修することになります。JABEE 対応コースではありません。

3. 自動車工学コース

理論と実技に精通した新しいタイプの機械情報技術者を育成するコースです。他のコースと同じ機械情報技術関連科目に加えて、国土交通省認定の自動車工学関連科目を履修します。他のコースと異なり、自動車整備実習などのコース必修科目が加わります。卒業直後に二級自動車整備士試験が受験可能となり、合格者は二級自動車整備士の資格を取得できます。JABEE 対応コースではありません。

■創生工学コースの学習・教育到達目標

創生工学コースは、次のような技術者を育成することを教育の目標とします。

1. 自然、環境、社会、人間など、幅広い分野に基礎知識と関心を持つ。
2. 技術者としての活動が社会に及ぼす影響について、知識と責任感を持つ。
3. 数学の基礎知識を持ち、それを機械工学に応用できる。
4. 物理学の基礎知識を持ち、それを機械工学に応用できる。
5. 情報技術の基礎知識を持ち、それを機械技術者の実務に利用できる。
6. 材料力学と機械力学の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
7. 熱および流体力学の知識を持ち、それを

問題解決に応用できる。

8. 計測と制御の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
9. 材料、工作法、製図法および機械設計の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
10. 機械システムの振る舞いを観察し、考察、評価できる。
11. 機械装置と製造工程の開発、設計、管理を行う基礎的素養を持つ(デザイン能力)。
12. 機械の設計、開発において情報技術を有効に利用できる。
13. 英語の文書を機械技術者の実務に利用するための基礎的素養を持つ。
14. 日本語による記述力とプレゼンテーション能力を持つ。
15. 最新技術情報を収集、分析でき、将来の資格取得のための基礎的素養を持つ。
16. 地域社会へ関心を持つとともに、国際的な視野を持ち、社会に貢献できる。
17. スケジュール、資料、資材などのリソースを管理して、課題を完遂させる姿勢を持つ。
18. 問題の解決やプロジェクトの中での自らの役割と責任を理解できる。

注意①：JABEEの認定審査では、教育目標の1～18の項目の全てについて、学生がその学習・教育到達目標を達成しているかどうか点が点検されます。このため、機械情報技術学科創生工学コースの学生は、他のコースの卒業要件とは異なり、より厳しい独自の履修条件が課せられます。

注意②：創生工学コースの学習・教育到達目標の詳細については、シラバス(講義要目)およびホームページに掲載しています。

■創生工学コースのカリキュラム編成方針

以下の考え方によって教育カリキュラムを編成しています。

- ・機械工学の基盤科目について必修科目を設定するとともに、演習科目を組み合わせることで問題解決能力の涵養を図る。
- ・コンピュータを利用するための基礎となる必修科目を設定し、技術者にとって必要な情報技術の涵養を図る。
- ・実験・実習科目を多く取り入れたキャップストーン(知識と実践の連携)型教育により、エンジニアリング・デザイン能力およびコミュニケーション能力の涵養を図る。
- ・機械工学と情報教育を融合した教育を行う必修科目を設定することで、情報技術を機械工学に対し応用する能力の涵養を図る。
- ・物理学や環境エネルギーに関する必修科目を設定し、幅広い問題に対する基礎知識と関心の涵養を図る。
- ・必修科目をすべて修得することで、創生工学コースの学習・教育到達目標の達成を可能とする。

■創生工学コースの学習・教育方法

次の方法により教育を実施します。

- (1)毎年配布するシラバス(講義要目)に従った教育を実施します。
- (2)担任制度や個別指導により、履修計画、卒業後の進路などについて、きめ細かく指導します。
- (3)オフィスアワーを設け、疑問点等の相談を受け付けます。
- (4)多様な経歴を有する教員と接する機会や幅広い人文社会系科目の履修により、豊かな人間形成につなげます。
- (5)様々な科目で発表や討論、意見交換を行う機会を設け、プレゼンテーション能力や集団討論する能力を育成します。
- (6)体験型学習科目を強化し、学問の理解、課

- 題の発見、適切な対応を通して、能動的、創造的、自発的な技術者の育成を図ります。
- (7)社会の要求を解決するためのデザイン能力を育成します。
- (8)少人数による製図教育、実験・実習教育、演習等を行い、基礎学力を充実させるとともに、自主的、継続的に学習できる能力を育成します。
- (9)卒業研究を重視し、論理的な思考力、発想力、総合的な判断力を育成します。
- (10)学生による授業評価を実施して、授業方法、授業内容を改善します。

■総合工学コースの学習・教育目標

総合工学コースは、次のような技術者を育成することを教育の目標とします。

- (1)豊かな人間性と、総合的な判断力を持つ
- (2)工学の基礎原理をふまえ、高度な応用展開能力を持つ
- (3)地域社会へ関心を持つとともに、国際的な視野を持つ

■総合工学コースのカリキュラム編成方針

以下の考え方によって教育カリキュラムを編成しています。

- ・機械工学の基盤科目について必修科目を設定するとともに、演習科目を組み合わせることで問題解決能力の涵養を図る。
- ・コンピュータを利用するための基礎となる必修科目を設定し、技術者にとって必要な情報技術の涵養を図る。
- ・実験・実習科目を多く取り入れたキャップストーン（知識と実践の連携）型教育により、エンジニアリング・デザイン能力およびコミュニケーション能力の涵養を図る。
- ・各分野に選択科目を設定し、各人の指向に応じた柔軟度の高い履修を可能とする。

■総合工学コースの学習・教育方法

次の方法により教育を実施します。

- (1)毎年配布するシラバス（講義要目）に従っ

た教育を実施します。

- (2)担任制度や個別指導により、個性に応じた履修計画、卒業後の進路などについて、きめ細かく指導します。
- (3)オフィスアワーを設け、疑問点等の相談を受け付けます。
- (4)様々な科目で発表や討論、意見交換を行う機会を設け、プレゼンテーション能力や集団討論する能力を育成します。
- (5)体験型学習科目を強化し、学問の理解、課題の発見、適切な対応を通して、能動的、創造的、自発的な技術者の育成を図ります。
- (6)少人数による製図教育、実験・実習教育、演習等を行い、基礎学力を充実させるとともに、自主的、継続的に学習できる能力を育成します。
- (7)卒業研究を重視し、論理的な思考力、発想力、総合的な判断力を育成します。
- (8)学生による授業評価を実施して、授業方法、授業内容を改善します。

■自動車工学コースの学習・教育目標

自動車工学コースは、次のような技術者を育成することを教育の目標とします。

- (1)豊かな人間性と、総合的な判断力を持つ
- (2)工学の基礎原理をふまえ、高度な応用展開能力を持つ
- (3)地域社会へ関心を持つとともに、国際的な視野を持つ
- (4)機械工学の基礎知識を自動車工学に応用できる
- (5)自動車の構造・機能に関する知識を診断・整備に応用できる

■自動車工学コースのカリキュラム編成方針

以下の考え方によって教育カリキュラムを編成しています。

- ・機械工学の基盤科目について必修科目を設定するとともに、演習科目を組み合わせることで問題解決能力の涵養を図る。

- ・コンピュータを利用するための基礎となる必修科目を設定し、技術者にとって必要な情報技術の涵養を図る。
- ・実験・実習科目を多く取り入れたキャップストーン（知識と実践の連携）型教育により、エンジニアリング・デザイン能力およびコミュニケーション能力の涵養を図る。
- ・自動車の構造と整備に関する学科科目および実習科目を設定し、2級ガソリン自動車整備士登録試験の受験を可能とする。

■自動車工学コースの学習・教育方法

次の方法により教育を実施します。

- (1)毎年配布するシラバス（講義要目）に従った教育を実施します。
- (2)担任制度や個別指導により、履修計画、卒業後の進路などについて、きめ細かく指導します。
- (3)オフィスアワーを設け、疑問点等の相談を受け付けます。
- (4)様々な科目で発表や討論、意見交換を行う機会を設け、プレゼンテーション能力や集団討論する能力を育成します。
- (5)体験型学習科目を強化し、学問の理解、課題の発見、適切な対応を通して、能動的、創造的、自発的な技術者の育成を図ります。
- (6)少人数による製図教育、実験・実習教育、演習等を行い、基礎学力を充実させるとともに、自主的、継続的に学習できる能力を育成します。
- (7)自動車整備実習を重視し、自動車工学に関する総合的な力を育成します。
- (8)学生による授業評価を実施して、授業方法、授業内容を改善します。

創生工学コースカリキュラム (平成28年度以降入学生)

導入転換科目から必修を含めて8単位以上修得すること

導入転換科目		
科目名	必修/選択	単位数
キャリアデザインⅠ	学科必修	1
キャリアデザインⅡ	学科必修	1
キャリアデザインⅢ	学科必修	2
機械情報ゼミナールⅠ	必修	1
機械情報技術概論	必修	2
エンジン解剖実習	必修	1
導入転換科目合計		8

教養総合科目から必修を含めて24単位以上修得すること

導入教養科目		
科目名	必修/選択	単位数
職業倫理	必修	2
現代英語Ⅰ	必修	1
現代英語Ⅱ	必修	1
英語コミュニケーションⅠ	必修	1
英語コミュニケーションⅡ	必修	1
実践日本語表現	創生工学コース必修	2
上記科目を含めて、 人間科学分野から8単位以上、 国際コミュニケーション分野から8単位以上、 総合教養科目から24単位以上 修得すること		
総合教養科目合計		24

工学基礎科目から必修を含めて20単位以上修得すること

工学基礎科目		
科目名	必修/選択	単位数
機械基礎数学	必修	2
線形代数	必修	2
微分	必修	2
積分	必修	2
確率・統計	創生工学コース必修	2
環境とエネルギー	創生工学コース必修	2
基礎物理学Ⅰ	創生工学コース必修	2
基礎物理学Ⅲ	創生工学コース必修	2
物理学実験	創生工学コース必修	2
基礎情報科学	創生工学コース必修	2
工学基礎科目合計		20

卒業案件	
導入転換科目合計	8
総合教養科目合計	24
工学基礎科目合計	20
専門科目合計	72
総単位数	124

専門科目から必修を含めて72単位以上修得すること

専門科目		
科目名	必修/選択	単位数
材力・機力学基礎	創生工学コース必修	2
材料力学	必修	2
CAE 材料力学	創生工学コース必修	2
機械力学	必修	2
CAE 機械力学	創生工学コース必修	2
熱・流体学基礎	創生工学コース必修	2
熱力学	必修	2
熱工学	創生工学コース必修	2
伝熱工学	必修	2
CAE 伝熱工学	創生工学コース必修	2
流れ学	必修	2
CAE 流れ学	創生工学コース必修	2
パソコン工作学	必修	2
基礎機械情報工学	必修	2
応用機械情報工学	創生工学コース必修	2
計測工学	必修	2
メカトロニクス基礎	創生工学コース必修	2
制御工学	必修	2
CAE 制御工学	創生工学コース必修	2
機械材料工学	必修	2
基礎設計工学	必修	2
工作学	必修	2
基礎設計製図	必修	2
CAD 設計製図	必修	2
機械設計技法	必修	2
機械工作実習	必修	1
ロボット創作	必修	1
機械創造	必修	2
機械工学実験Ⅰ	必修	1
機械工学実験Ⅱ	必修	1
機械工学演習Ⅰ	必修	2
機械工学演習Ⅱ	必修	2
機械工学演習Ⅲ	必修	2
機械工学演習Ⅳ	必修	2
機械情報ゼミナールⅡ	必修	1
機械情報ゼミナールⅢ	必修	1
卒業研究	必修	6
専門科目合計		72

機械情報技術学科開講学年別授業科目表 (創生工学コース)

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後
※キャリアデザインⅠ	①	※キャリアデザインⅡ	①	※キャリアデザインⅢ	②	★冷凍空調工学	2
▽キャリアデザインⅣ	1	□哲 学	2	職 業 倫 理	②	★ロボット工学	2
機械情報ゼミナールⅠ	①	□文 学	2	□日 本 国 憲 法	2	★マイクロマシンシステム	2
機械情報技術概論	②	□心 理 学	2	※実践日本語表現	②	機 械 設 計 技 法	②
エンジン解剖実習	①	英語コミュニケーションⅠ	①	■英語特別演習	1	★自動車構造Ⅰ	2
□歴 史	2	英語コミュニケーションⅡ	①	■ドイツ語特別演習	1	★自動車構造Ⅱ	2
□経 済 学	2	■ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	■中国語特別演習	1	★自動車工学	2
■日本語表現法	2	■ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	◆主題別講義	2	★カーエレクトロニクス	2
現代英語Ⅰ	①	■中国語コミュニケーションⅠ	1	▲応 用 数 学	2	機 械 情 報 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ	①
現代英語Ⅱ	①	■中国語コミュニケーションⅡ	1	機 械 力 学	②	卒 業 研 究	⑥
■ドイツ語基礎Ⅰ	1	◆スポーツ健康学	1	※CAE機械力学	②	★原子燃料サイクル・安全工学	2
■ドイツ語基礎Ⅱ	1	◆主題別ゼミナールⅡ	2	伝 熱 工 学	②		
■中国語基礎Ⅰ	1	◆主題別ゼミナールⅢ	2	※CAE伝熱工学	②		
■中国語基礎Ⅱ	1	※確 率 ・ 統 計	②	★流体機械システム工学	2		
◆体 育 学	1	▲基礎物理学Ⅱ	2	※メカトロニクス基礎	②		
◆スポーツ特別演習	1	※基礎物理学Ⅲ	②	制 御 工 学	②		
◆主題別ゼミナールⅠ	2	※環境とエネルギー	②	※CAE制御工学	②		
◆海 外 研 修	1	▲生 命 科 学	2	★機械加工学	2		
機械基礎数学	②	材 料 力 学	②	★成形加工学	2		
線 形 代 数	②	※CAE材料力学	②	機 械 工 作 実 習	①		
微 分	②	熱 力 学	②	ロ ボ ッ ト 創 作	①		
積 分	②	※熱 工 学	②	★品質管理	2		
※基礎物理学Ⅰ	②	流 れ 学	②	★潤滑工学	2		
▲基礎化学Ⅰ	2	※CAE流れ学	②	★自動車エンジン	2		
▲基礎化学Ⅱ	2	※応用機械情報工学	②	機 械 工 学 実 験 Ⅰ	①		
※物理学実験	②	計 測 工 学	②	機 械 工 学 実 験 Ⅱ	①		
▲化学実験	2	★電気電子工学概論	2	機 械 工 学 演 習 Ⅲ	②		
▲物理科学	2	★電子回路工学	2	機 械 工 学 演 習 Ⅳ	②		
※基礎情報科学	②	基 礎 設 計 工 学	②	機 械 情 報 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	①		
□数学基礎Ⅰ	1	★応用設計工学	2	★学 外 研 修	1		
□数学基礎Ⅱ	1	基 礎 設 計 製 図	②	★原子力体感研修	2		
□物理基礎	2	C A D 設 計 製 図	②				
□英語基礎Ⅰ	1	機 械 工 学 演 習 Ⅰ	②				
□英語基礎Ⅱ	1	機 械 工 学 演 習 Ⅱ	②				
※材力・機力学基礎	②	機 械 創 造	②				
※熱・流体学基礎	②	★放射線の利用	2				
パソコン工作学	②						
基礎機械情報工学	②						
機械材料工学	②						
★先進材料工学	2						
工 作 学	②						
★原子力エネルギー	2						

注1. ○で囲まれた数字は必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。
 注2. ※印の科目は学科必修科目、創生工学コース必修科目で進級要件の「必修の修得単位数」には数えない。
 注3. この科目表には、進級要件・卒業単位数に含まれない教職科目は記載されていない。
 注4. ▽は導入転換の選択科目、□■◆は総合教養の選択科目、▲は工学基礎の選択科目、□はリメディアル科目、★は専門の選択科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている(右のページの卒業要件を参照のこと)

機械情報技術学科創生工学コース単位集計表

(平成29年度入学生用)

学年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
		前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
開講 単位 数	区分																
	必修	15	18	33	33	21	16	37	70	17	12	29	99	3	6	9	108
	選択	16	18	34	34	15	12	27	61	16	8	24	85	14	2	16	101
	計	31	36	67	67	36	28	64	131	33	20	53	184	17	8	25	209
標準 修得 単 位 数	修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上				/				
進級 および 卒業要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 30単位以上				修得単位数 95単位以上 必修の修得単位数 45単位以上				<ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目、学科必修科目、およびコース必修科目全て108単位 ・ □、■、◆印の科目の合計が16単位以上 ただし、□印の科目から6単位以上、■印の科目から2単位以上 				

注1. この集計表には、進級要件・卒業要件の単位数には含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2. この集計表の必修には学科必修科目、創生工学コース必修科目の単位数が含まれているが、学科必修科目および創生工学コース必修の単位数は進級要件の「必修の修得単位数」には数えない。

機械情報技術学科カリキュラム (創生工学コース)

区分	分野	第1学年				第2学年			
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
導入 転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	①	キャリアデザインⅡ	①	キャリアデザインⅢ	①	キャリアデザインⅣ	①
	工学への関心	キャリアデザインⅣ 機械情報ゼミナールⅠ エンジン解剖実習	1 ① ①	機械情報技術概論	②				
総合 教養科目	人間科学	歴史	2	経済学	2	文学	2	哲学	2
	国際 コミュニケーション	現代英語Ⅰ	①	現代英語Ⅱ	①	英語コミュニケーションⅠ	①	英語コミュニケーションⅡ	①
		ドイツ語基礎Ⅰ	1	ドイツ語基礎Ⅱ	1	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1
	体育科学 総合学際	中国語基礎Ⅰ	1	中国語基礎Ⅱ	1	中国語コミュニケーションⅠ	1	中国語コミュニケーションⅡ	1
		体育学	1	スポーツ特別演習	1	スポーツ健康学	1		
	海外研修	1	主題別ゼミナールⅠ	1	主題別ゼミナールⅡ	2	主題別ゼミナールⅢ	2	
工学 基礎科目	工学基礎	機械基礎数学	②	線形代数	②	確率・統計	②		
		微分積分	②	積分	②				
		物理学	②	基礎物理学Ⅰ	②	基礎物理学Ⅱ	2	基礎物理学Ⅲ	②
		基礎化学Ⅰ	2	基礎化学Ⅱ	2	環境とエネルギー	②	生命科学	2
		物理学実験	②	化学実験	2				
		基礎情報科学	②						
リメ ディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ	1						
		数学基礎Ⅱ	1						
		物理基礎	2						
		英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1				
専門 科目	材力・機力	材力・機力学基礎	②			材料力学	②	C A E 材料力学	②
	熱・流体	熱・流体学基礎	②			熱力学	②	熱工学	②
						流れ学	②	C A E 流れ学	②
	情報・制御	パソコン工作学	②	基礎機械情報工学	②			応用機械情報工学	②
								計測工学	②
	材料・設計・ 加工			工作学	②	電気電子工学概論	2	電子回路工学	2
		機械材料工学	②	先進材料工学	2	基礎設計工学	②	応用設計工学	2
	自動車工学					基礎設計製図	②	C A D 設計製図	②
実験・実習・ 演習・研修					機械工学演習Ⅰ	②	機械工学演習Ⅱ	②	
					機械創造	②			
原子力工学			原子力エネルギー	2	放射線の利用	2			
進級要件 総計25単位以上 (必修10単位以上)					進級要件 総計60単位以上 (必修30単位以上)				
修得単位数					修得単位数				

注1. 科目名称の後の数字は単位を示す。科目名、数、数は必修科目である。その他は選択科目を意味する。
 注2. 数の科目は学科必修科目、創生工学コース必修科目であり、進級要件の「必修の修得単位数」には数えない。
 注3. 導入転換科目から必修を含めて8単位以上を修得すること。

(平成29年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位		
キャリアデザインⅢ	②							キャリアデザイン	導入 転換科目
								工学への関心	
職業倫理	②	日本国憲法	2					人間科学	総合 教養科目
実践日本語表現	②							国際	
英語特別演習	1							コミュニケーション	
ドイツ語特別演習	1								
中国語特別演習	1							体育科学	
		主題別講義	2					総合学際	
		応用数学	2					工学基礎	工学 基礎科目
								リメディアル	リ メ デ ィ ア ル 科 目
機械力学	②	CAE 機械力学	②					材力・機力	専 門 科 目
伝熱工学	②	CAE 伝熱工学 流体機械システム工学	② 2	冷凍空調工学	2			熱・流体	
制御工学	②	CAE 制御工学	②					情報・制御	
メカトロニクス基礎	②			ロボット工学	2				
機械工作実習	①	ロボット創作	①					材料・設計・加工	
品質管理	2			機械設計技法	②				
機械加工学	2	成形加工学	2	マイクロマシンシステム	2				
潤滑工学	2			自動車構造Ⅰ	2	自動車構造Ⅱ	2	自動車工学	
		自動車エンジン	2			自動車工学	2		
				カーエレクトロニクス	2				
機械工学演習Ⅲ	②	機械工学演習Ⅳ	②					実験・実習・ 演習・研修	
機械工学実験Ⅰ	①	機械工学実験Ⅱ	①						
機械情報ゼミナールⅡ	①			機械情報ゼミナールⅢ	①				
学外研修	1			卒業研究	⑥				
原子力体感研修	2					原子燃料サイクル・安全工学	2	原子力工学	
進級要件 総計95単位以上(必修45単位以上)				卒業要件 総計124単位以上(必修70単位を含む)					
修得単位数				修得単位数					

注4. 総合教養科目から必修を含めて18単位以上を修得すること。

注5. 工学基礎科目から必修を含めて20単位以上を修得すること。

注6. 専門科目から必修を含めて72単位以上を修得すること。

機械情報技術学科開講学年別授業科目表 (総合工学コース)

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後
※キャリアデザインⅠ	①	※キャリアデザインⅡ	①	※キャリアデザインⅢ	②	★冷凍空調工学	2
▽キャリアデザインⅣ	1	□哲 学	2	職 業 倫 理	②	★ロボット工学	2
機械情報ゼミナールⅠ	①	□文 学	2	□日 本 国 憲 法	2	★マイクロシステム	2
機械情報技術概論	②	□心 理 学	2	■実践日本語表現	2	機械設計技法	②
エンジン解剖実習	①	英語コミュニケーションⅠ	①	■英語特別演習	1	★自動車構造Ⅰ	2
□歴 史	2	英語コミュニケーションⅡ	①	■ドイツ語特別演習	1	★自動車構造Ⅱ	2
□経 済 学	2	■ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	■中国語特別演習	1	★自動車工学	2
■日本語表現法	2	■ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	◆主題別講義	2	★カーエレクトロニクス	2
現代英語Ⅰ	①	■中国語コミュニケーションⅠ	1	▲応 用 数 学	2	機械情報ゼミナールⅢ	①
現代英語Ⅱ	①	■中国語コミュニケーションⅡ	1	機 械 力 学	②	卒 業 研 究	⑥
■ドイツ語基礎Ⅰ	1	◆スポーツ健康学	1	★CAE機械力学	2	★原子燃料サイクル・安全工学	2
■ドイツ語基礎Ⅱ	1	◆主題別ゼミナールⅡ	2	伝 熱 工 学	②		
■中国語基礎Ⅰ	1	◆主題別ゼミナールⅢ	2	★CAE伝熱工学	2		
■中国語基礎Ⅱ	1	▲確 率 ・ 統 計	2	★流体機械システム工学	2		
◆体 育 学	1	▲基礎物理学Ⅱ	2	★メカトロニクス基礎	2		
◆スポーツ特別演習	1	▲基礎物理学Ⅲ	2	制 御 工 学	②		
◆主題別ゼミナールⅠ	2	▲環境とエネルギー	2	★CAE制御工学	2		
◆海 外 研 修	1	▲生 命 科 学	2	★機械加工学	2		
機械基礎数学	②	材 料 力 学	②	★成形加工学	2		
線 形 代 数	②	★CAE材料力学	2	機 械 工 作 実 習	①		
微 分	②	熱 力 学	②	ロ ボ ッ ト 創 作	①		
積 分	②	★熱 工 学	2	★品 質 管 理	2		
▲基礎物理学Ⅰ	2	流 れ 学	②	★潤 滑 工 学	2		
▲基礎化学Ⅰ	2	★CAE流れ学	2	★自動車エンジン	2		
▲基礎化学Ⅱ	2	★応用機械情報工学	2	機 械 工 学 実 験 Ⅰ	①		
▲物理学実験	2	計 測 工 学	②	機 械 工 学 実 験 Ⅱ	①		
▲化学実験	2	★電気電子工学概論	2	機 械 工 学 演 習 Ⅲ	②		
▲物理科学	2	★電子回路工学	2	機 械 工 学 演 習 Ⅳ	②		
▲基礎情報科学	2	基 礎 設 計 工 学	②	機 械 情 報 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	①		
㊦数学基礎Ⅰ	1	★応用設計工学	2	★学 外 研 修	1		
㊦数学基礎Ⅱ	1	基 礎 設 計 製 図	②	★原子力体感研修	2		
㊦物 理 基 礎	2	C A D 設 計 製 図	②				
㊦英 語 基 礎 Ⅰ	1	機 械 工 学 演 習 Ⅰ	②				
㊦英 語 基 礎 Ⅱ	1	機 械 工 学 演 習 Ⅱ	②				
★材力・機力学基礎	2	機 械 創 造	②				
★熱・流体学基礎	2	★放射線の利用	2				
パソコン工作学	②						
基礎機械情報工学	②						
機械材料工学	②						
★先進材料工学	2						
工 作 学	②						
★原子力エネルギー	2						

注1. ○で囲まれた数字は必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注2. ※印の科目は学科必修科目で進級要件の「必修の修得単位数」には数えない。

注3. この科目表には、進級要件・卒業単位数に含まれない教職科目は記載されていない。

注4. ▽は導入転換の選択科目、□◆■は総合教養の選択科目、▲は工学基礎の選択科目、㊦はリメディアル科目、★は専門の選択科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている(右のページの卒業要件を参照のこと)

機械情報技術学科総合工学コース単位集計表

(平成29年度入学生用)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
		前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	11	12	23	23	15	8	23	46	13	6	19	65	3	6	9	74
	選択	20	24	44	44	21	20	41	85	20	14	34	119	14	2	16	135
	計	31	36	67	67	36	28	64	131	33	20	53	184	17	8	25	209
標準 修得 単 位 数	修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上				/				
進級 および 卒業 要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 30単位以上				修得単位数 95単位以上 必修の修得単位数 45単位以上				<ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目および学科必修科目の全て74単位 ・ □、■、◆印の科目の合計が18単位以上 ただし、□印の科目から6単位以上、■印の科目から4単位以上 ・ ▲印の科目から6単位以上 ・ ★印の科目から18単位以上 ・ 上記の科目を含めて124単位以上を修得すること 				

注1. この集計表には、進級要件・卒業要件の単位数には含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2. この集計表の必修には学科必修科目の単位数が含まれているが、学科必修科目の単位数は進級要件の「必修の修得単位数」には数えない。

注3. 卒業要件の欄において、必修科目（74単位）、□、■、◆印（18単位）、▲印（6単位）、★印（18単位）の合計は116単位である。卒業要件を満たすには、その他に8単位以上の科目を修得し、合計124単位以上とする必要がある。

機械情報技術学科カリキュラム (総合工学コース)

区分	分野	第1学年				第2学年			
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
導入・転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	①	キャリアデザインⅡ	①	キャリアデザインⅢ	①	キャリアデザインⅣ	①
	工学への関心	キャリアデザインⅣ 機械情報ゼミナールⅠ エンジン解剖実習	1 ① ①	機械情報技術概論	②				
総合教養科目	人間科学	歴史	2	経済学	2	文学	2	哲学	2
	国際コミュニケーション	現代英語Ⅰ	①	現代英語Ⅱ	①	英語コミュニケーションⅠ	①	英語コミュニケーションⅡ	①
		ドイツ語基礎Ⅰ	1	ドイツ語基礎Ⅱ	1	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1
	体育科学 総合学際	中国語基礎Ⅰ	1	中国語基礎Ⅱ	1	中国語コミュニケーションⅠ	1	中国語コミュニケーションⅡ	1
		体育学	1	スポーツ特別演習	1	スポーツ健康学	1		
	海外研修	1	主題別ゼミナールⅠ	1	主題別ゼミナールⅡ	2	主題別ゼミナールⅢ	2	
工学基礎科目	工学基礎	機械基礎数学②	②	線形代数②	②	確率・統計②	②		
		微分積分②	②	積分②	②				
		物理学Ⅰ	2	基礎物理学Ⅰ	2	基礎物理学Ⅱ	2	基礎物理学Ⅲ	2
		基礎化学Ⅰ	2	基礎化学Ⅱ	2	環境とエネルギー	2	生命科学	2
		物理学実験	2	化学実験	2				
		基礎情報科学	2						
リメディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ	1						
		数学基礎Ⅱ	1						
		物理基礎	2						
		英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1				
専門科目	材力・機力	材力・機力学基礎	2			材料力学②	②	C A E 材料力学	2
	熱・流体	熱・流体学基礎	②			熱力学②	②	熱工学	2
						流れ学②	②	C A E 流れ学	2
	情報・制御	パソコン工作学	②	基礎機械情報工学	②			応用機械情報工学	2
								計測工学②	②
	材料・設計・加工			工作学②	②	電気電子工学概論	2	電子回路工学	2
		機械材料工学	②	先進材料工学	2	基礎設計工学	②	応用設計工学	2
	自動車工学					基礎設計製図	②	C A D 設計製図	②
実験・実習・演習・研修					機械工学演習Ⅰ	②	機械工学演習Ⅱ	②	
					機械創造	②			
原子力工学			原子力エネルギー	2	放射線の利用	2			
進級要件 総計25単位以上 (必修10単位以上)					進級要件 総計60単位以上 (必修30単位以上)				
修得単位数					修得単位数				

注1. 科目名称の後の数字は単位を示す。科目名、数、数は必修科目である。その他は選択科目を意味する。

注2. 数の科目は学科必修科目、創生工学コース必修科目であり、進級要件の「必修の修得単位数」には数えない。

注3. 導入・転換科目から必修を含めて8単位以上を修得すること。注4. 総合教養科目から必修を含めて24単位以上を修得すること。

(平成29年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位		
キャリアデザインⅢ	②							キャリアデザイン	導入 転換科目
								工学への関心	
職業倫理	②	日本国憲法	2					人間科学	総合 教養科目
実践日本語表現	2							国際 コミュニケーション	
英語特別演習	1								
ドイツ語特別演習	1								
中国語特別演習	1							体育科学 総合学際	
		主題別講義	2						
		応用数学	2					工学基礎	工学 基礎科目
								リメディアル	リ メ デ ィ ア ル 科 目
機械力学	②	CAE 機械力学	2					材力・機力	専 門 科 目
伝熱工学	②	CAE 伝熱工学 流体機械システム工学	2 2	冷凍空調工学	2			熱・流体	
制御工学	②	CAE 制御工学	②					情報・制御	
メカトロニクス基礎	2			ロボット工学	2			材料・設計・ 加工	
機械工作実習	①	ロボット創作	①						
品質管理	2			機械設計技法	②			自動車工学	
機械加工学	2	成形加工学	2	マイクロマシンシステム	2				
潤滑工学	2			自動車構造Ⅰ	2	自動車構造Ⅱ	2		
		自動車エンジン	2			自動車工学	2		
				カーエレクトロニクス	2				
機械工学演習Ⅲ	②	機械工学演習Ⅳ	②					実験・実習・ 演習・研修	
機械工学実験Ⅰ	①	機械工学実験Ⅱ	①	機械情報ゼミナールⅢ	①				
機械情報ゼミナールⅡ	①			卒業研究		⑥			
学外研修	1								
原子力体感研修	2					原子燃料サイクル・安全工学	2	原子力工学	
進級要件 総計95単位以上(必修45単位以上)				卒業要件 総計124単位以上(必修70単位を含む)					
修得単位数				修得単位数					

注5. 工学基礎科目から必修を含めて18単位以上を修得すること。

注6. 専門科目から必修を含めて70単位以上を修得すること。

注7. 科目区分を問わず8単位以上を修得すること。

自動車工学コースカリキュラム (平成28年度以降入学生)

導入転換科目から 8 単位以上修得すること

導入転換科目		
科目名	必修 / 選択	単位数
キャリアデザインⅠ	学科必修	1
キャリアデザインⅡ	学科必修	1
キャリアデザインⅢ	学科必修	2
機械情報ゼミナールⅠ	必修	1
機械情報技術概論	必修	2
エンジン解剖実習	必修	1
導入転換科目合計		8

教養総合科目から必修を含めて24単位以上修得すること

導入教養科目		
科目名	必修 / 選択	単位数
職業倫理	必修	2
現代英語Ⅰ	必修	1
現代英語Ⅱ	必修	1
英語コミュニケーションⅠ	必修	1
英語コミュニケーションⅡ	必修	1
上記科目を含めて、 人間科学分野から 8 単位以上、 国際コミュニケーション分野から 8 単位以上、 総合教養科目から 24 単位以上 修得すること		
総合教養科目合計		24

工学基礎科目から必修を含めて14単位以上修得すること

工学基礎科目		
科目名	必修 / 選択	単位数
機械基礎数学	必修	2
線形代数	必修	2
微分	必修	2
積分	必修	2
上記科目を含めて、 工学基礎科目から 14 単位以上修得すること		
工学基礎科目合計		14

卒業案件	
導入転換科目合計	8
総合教養科目合計	24
工学基礎科目合計	14
専門科目合計	74
科目区分を問わず 4 単位以上を修得	4
総単位数	124

専門科目から必修を含めて74単位以上修得すること

専門科目		
科目名	必修 / 選択	単位数
材料力学	必修	2
機械力学	必修	2
熱力学	必修	2
伝熱工学	必修	2
流れ学	必修	2
パソコン工作学	必修	2
基礎機械情報工学	必修	2
計測工学	必修	2
電気電子工学概論	自動車工学コース必修	2
電子回路工学	自動車工学コース必修	2
制御工学	必修	2
機械材料工学	必修	2
基礎設計工学	必修	2
工作学	必修	2
基礎設計製図	必修	2
CAD 設計製図	必修	2
機械設計技法	必修	2
機械工作実習	必修	1
ロボット創作	必修	1
潤滑工学	自動車工学コース必修	2
自動車エンジン	自動車工学コース必修	2
自動車工学	自動車工学コース必修	2
カーエレクトロニクス	自動車工学コース必修	2
自動車構造Ⅰ	自動車工学コース必修	2
自動車構造Ⅱ	自動車工学コース必修	2
自動車測定検査概論	自動車工学コース必修	2
自動車検査	自動車工学コース必修	2
自動車法規	自動車工学コース必修	2
機械創造	必修	2
機械工学実験Ⅰ	必修	1
機械工学実験Ⅱ	必修	1
機械工学演習Ⅰ	必修	2
機械工学演習Ⅱ	必修	2
機械工学演習Ⅲ	必修	2
機械工学演習Ⅳ	必修	2
機械情報ゼミナールⅡ	必修	1
機械情報ゼミナールⅢ	必修	1
卒業研究	必修	6
専門科目合計		74
以下の科目は自動車工学コース必修科目である ただし、進級要件・卒業要件の単位数には含まれない		
基礎自動車工学	自動車工学コース必修	2
自動車整備実習	自動車工学コース必修	6

機械情報技術学科開講学年別授業科目表 (自動車工学コース)

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単位 前後	授 業 科 目	単位 前後	授 業 科 目	単位 前後	授 業 科 目	単位 前後
※キャリアデザインⅠ	①	※キャリアデザインⅡ	①	※キャリアデザインⅢ	②	★冷凍空調工学	2
▽キャリアデザインⅣ	1	□哲 学	2	職 業 倫 理	②	★ロボット工学	2
機械情報ゼミナールⅠ	①	□文 学	2	□日本国憲法	2	★マイクロマシンシステム	2
機械情報技術概論	②	□心 理 学	2	■実践日本語表現	2	機 械 設 計 技 法	②
エンジン解剖実習	①	英語コミュニケーションⅠ	①	■英語特別演習Ⅰ	1	※自動車構造Ⅰ	②
□歴 史	2	英語コミュニケーションⅡ	①	■ドイツ語特別演習Ⅰ	1	※自動車構造Ⅱ	②
□経 済 学	2	■ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	■中国語特別演習Ⅰ	1	※自動車法規	②
■日本語表現法	2	■ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	◆主題別講義	2	※自動車工学	②
現代英語Ⅰ	①	■中国語コミュニケーションⅠ	1	▲応用数学	2	※カーエレクトロニクス	②
現代英語Ⅱ	①	■中国語コミュニケーションⅡ	1	機 械 力 学	②	※自動車検査	②
■ドイツ語基礎Ⅰ	1	◆スポーツ健康学	1	★CAE機械力学	2	機械情報ゼミナールⅢ	①
■ドイツ語基礎Ⅱ	1	◆主題別ゼミナールⅡ	2	伝 熱 工 学	②	卒 業 研 究	⑥
■中国語基礎Ⅰ	1	◆主題別ゼミナールⅢ	2	★CAE伝熱工学	2	原子燃料サイクル・安全工学	2
■中国語基礎Ⅱ	1	▲確 率・統 計	2	★流体機械システム工学	2	▼自動車整備実習	⑥
◆体 育 学	1	▲基礎物理学Ⅱ	2	★メカトロニクス基礎	2		
◆スポーツ特別演習	1	▲基礎物理学Ⅲ	2	制 御 工 学	②		
◆主題別ゼミナールⅠ	2	▲環境とエネルギー	2	★CAE制御工学	2		
◆海外研修	1	▲生 命 科 学	2	★機械加工学	2		
機械基礎数学	②	材 料 力 学	②	★成形加工学	2		
線 形 代 数	②	★CAE材料力学	2	機 械 工 作 実 習	①		
微 分	②	熱 力 学	②	ロ ボ ッ ト 創 作	①		
積 分	②	熱 工 学	2	★品質管理	2		
▲基礎物理学Ⅰ	2	流 れ 学	②	※潤滑工学	②		
▲基礎化学Ⅰ	2	★CAE流れ学	2	※自動車エンジン	②		
▲基礎化学Ⅱ	2	応用機械情報工学	2	※機械工学実験Ⅰ	②		
▲物理学実験	2	計 測 工 学	②	機 械 工 学 実 験 Ⅱ	①		
▲化学実験	2	※電気電子工学概論	②	機 械 工 学 演 習 Ⅲ	②		
▲物理科学	2	※電子回路工学	②	機 械 工 学 演 習 Ⅳ	②		
▲基礎情報科学	2	基 礎 設 計 工 学	②	機 械 情 報 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	①		
㊦数学基礎Ⅰ	1	★応用設計工学	2	★学 外 研 修	1		
㊦数学基礎Ⅱ	1	基 礎 設 計 製 図	②	原 子 力 体 感 研 修	2		
㊦物理基礎	2	C A D 設 計 製 図	②				
㊦英語基礎Ⅰ	1	機 械 工 学 演 習 Ⅰ	②				
㊦英語基礎Ⅱ	1	機 械 工 学 演 習 Ⅱ	②				
★材力・機力学基礎	2	機 械 創 造	②				
★熱・流体力学基礎	2	★放射線の利用	2				
パソコン工作学	②	▼基礎自動車工学	②				
基礎機械情報工学	②						
機械材料工学	②						
★先進材料工学	2						
工 作 学	②						
★原子力エネルギー	2						

注1. ○で囲まれた数字は必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。
 注2. ※印の科目は学科必修科目、自動車工学コース必修科目で進級要件の「必修の修得単位数」には数えない。
 注3. この科目表には、進級要件・卒業単位数に含まれない教職科目は記載されていない。
 注4. ▽は導入転換の選択科目、□■◆は総合教養の選択科目、▲は工学基礎の選択科目、㊦はリメディアル科目、★は専門の選択科目である。
 それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている(右のページの卒業要件を参照のこと)
 注5. ▼は自動車工学コースの必修科目で、進級要件、卒業単位数には含まれない。

機械情報技術学科自動車工学コース単位集計表

(平成29年度入学生用)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
		前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
開 講 単 位 数	区分																
	必修	11	12	23	23	17	10	27	50	17	8	25	75	11	10	21	96
	選択	20	24	44	44	19	18	37	81	16	14	30	111	8	0	8	119
	計	31	36	67	67	36	28	64	131	33	22	55	186	19	10	29	215
標準修得 単 位 数	修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上				/				
進級 および 卒業要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 30単位以上				修得単位数 95単位以上 必修の修得単位数 45単位以上				<ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目および学科必修科目の全て96単位 ・ □、■、◆印の科目の合計が18単位以上 ただし、□印の科目から8単位以上、■印の科目から4単位以上 ・ ▲印の科目から6単位以上 ・ ★印の科目から18単位以上 ・ 上記の科目を含めて124単位以上を修得すること 				

注1. この集計表には、進級要件・卒業要件の単位数には含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2. この集計表の必修には学科必修科目、自動車工学コース必修科目の単位数が含まれているが、学科必修科目および自動車工学コース必修の単位数は進級要件の「必修の修得単位数」には数えない。

注3. 卒業要件の欄において、必修科目（96単位）、□■◆印（18単位）、▲印（6単位）の合計は120単位である。卒業要件を満たすには、その他に4単位以上の科目を修得し、合計124単位以上とする必要がある。

機械情報技術学科カリキュラム (自動車工学コース)

区分	分野	第1学年				第2学年			
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
導入 転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	①	キャリアデザインⅡ	①	キャリアデザインⅢ	①	キャリアデザインⅣ	①
	工学への関心	機械情報ゼミナールⅠ エンジン解剖実習	① ①	機械情報技術概論	②				
総合 教養科目	人間科学	歴史	2	経済学	2	文学	2	哲学	2
	国際 コミュニケーション	現代英語Ⅰ	①	日本語表現法	2	心理学	2		
		ドイツ語基礎Ⅰ	1	現代英語Ⅱ	①	英語コミュニケーションⅠ	①	英語コミュニケーションⅡ	①
	体育科学 総合学際	中国語基礎Ⅰ	1	ドイツ語基礎Ⅱ	1	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1
		中国語基礎Ⅱ	1	中国語基礎Ⅲ	1	中国語コミュニケーションⅠ	1	中国語コミュニケーションⅡ	1
体育科学	体育学	1	スポーツ特別演習	1	スポーツ健康学	1			
総合学際	海外研修	1	主題別ゼミナールⅠ	2	主題別ゼミナールⅡ	2	主題別ゼミナールⅢ	2	
工学 基礎科目	工学基礎	機械基礎数学	②	線形代数	②	確率・統計	2		
		微分	②	積分	②				
		物理学	2	基礎物理学Ⅰ	2	基礎物理学Ⅱ	2	基礎物理学Ⅲ	2
		基礎化学Ⅰ	2	基礎化学Ⅱ	2	環境とエネルギー	2	生命科学	2
		物理学実験	2	化学実験	2				
		基礎情報科学	2						
リメ ディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ	1						
		数学基礎Ⅱ	1						
		物理基礎	2						
		英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1				
専門 科目	材力・機力	材力・機力学基礎	2			材料力学	②	CAE材料力学	2
	熱・流体	熱・流体学基礎	2			熱力学	②	熱工学	2
						流れ学	②	CAE流れ学	2
	情報・制御	パソコン工作学	②	基礎機械情報工学	②			応用機械情報工学	2
								計測工学	②
	材料・設計・ 加工			工作学	②	電気電子工学概論	②	電子回路工学	②
		機械材料工学	②	先進材料工学	2	基礎設計工学	②	応用設計工学	2
						基礎設計製図	②	CAD設計製図	②
	自動車工学							※基礎自動車工学	②
実験・実習・ 演習・研修					機械工学演習Ⅰ	②	機械工学演習Ⅱ	②	
					機械創造	②			
原子力工学			原子力エネルギー	2	放射線の利用	2			
進級要件 総計25単位以上 (必修10単位以上)					進級要件 総計60単位以上 (必修30単位以上)				
修得単位数					修得単位数				

注1. 科目名称の後の数字は単位を示す。科目名、数、数は必修科目である。その他は選択科目を意味する。

注2. 数の科目は学科必修科目、創生工学コース必修科目であり、進級要件の「必修の修得単位数」には数えない。

注3. 導入転換科目から必修を含めて8単位以上を修得すること。注4. 総合教養科目から必修を含めて24単位以上を修得すること。

(平成29年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位		
キャリアデザインⅢ	②							キャリアデザイン	導入 転換科目
								工学への関心	
職業倫理	②	日本国憲法	2					人間科学	総合 教養科目
実践日本語表現	2							国際 コミュニケーション	
英語特別演習	1								
ドイツ語特別演習	1								
中国語特別演習	1								
		主題別講義	2					体育科学 総合学際	
		応用数学	2					工学基礎	工学 基礎科目
								リメディアル	リ メディアル科目
機械力学	②	CAE 機械力学	2					材力・機力	専 門 科 目
伝熱工学	②	CAE 伝熱工学 流体機械システム工学	2 2	冷凍空調工学	2			熱・流体	
制御工学	②	CAE 制御工学	2					情報・制御	
メカトロニクス基礎	2			ロボット工学	2			材料・設計・ 加工	
機械工作実習	①	ロボット創作	①						
品質管理	2			機械設計技法	②			自動車工学	
機械加工学	2	成形加工学	2	マイクロマシンシステム	2				
潤滑工学	②			自動車構造Ⅰ	②	自動車構造Ⅱ	②	自動車工学	
		自動車エンジン	②			自動車工学	②		
				カーエレクトロニクス	②				
		自動車測定検査概論	②	自動車検査	②	自動車法規	②		
				※ 自動車整備実習			⑥		
機械工学演習Ⅲ	②	機械工学演習Ⅳ	②					実験・実習・ 演習・研修	
機械工学実験Ⅰ	①	機械工学実験Ⅱ	①						
機械情報セミナーⅡ	①			機械情報セミナーⅢ	①				
学外研修	1			卒業研究			⑥	原子力工学	
原子力体感研修	2					原子燃料サイクル・安全工学	2		
進級要件 総計95単位以上(必修45単位以上) 修得単位数				卒業要件 総計124単位以上(必修70単位を含む) 修得単位数					

注 5. 工学基礎科目から必修を含めて18単位以上を修得すること。

注 6. 専門科目から必修を含めて74単位以上を修得すること。 注 7. 科目区分を問わず4単位以上修得すること。

注 8. 「基礎自動車工学」「自動車整備実習」は自動車工学コース必修科目で進級要件、卒業要件には含まれない。

機械情報技術学科関連科目の履修の流れ (創生工学コース・総合工学コース・自動車工学コース)

学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
学 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
工学への関心	機械情報セミナーⅠ エンジン/解剖実習	機械情報技術概論						
工学基礎	機械基礎数学 微分 積分 物理学Ⅰ 基礎化学Ⅱ 物理学実験 基礎情報科学	線形代数 確率・統計	基礎物理学Ⅱ 環境とエネルギー 生命科学			応用数学		
材力・機力	材力・機力学基礎	材料力学	CAE材料力学		機械力学 伝熱工学	CAE機械力学 CAE伝熱工学 流体機械システム工学		
熱・流体	熱・流体学基礎	熱力学 流れ	熱工学 CAE流れ				冷凍空調工学	
情報・制御	パソコン工作学	基礎機械情報工学	応用機械情報工学 計測工学		制御工学 メカトロニクス基礎	CAE制御工学		
材料・設計・加工	機械材料工学	工学 先進材料工学	電気電子工学概論 基礎設計工学 基礎設計製図	電子回路工学 CAD設計製図	機械工作実習 品質管理 機械加工学 潤滑工学	ロボット工学 ロボット創作	ロボット工学 機械設計技法	
自動車工学			基礎自動車工学		成形加工学 自動車エンジン カーレイトロニクス 自動車検査 ※自動車整備実習		自動車構造Ⅱ 自動車工学 自動車法規 自動車整備実習	
実験・実習・演習・研修			機械工学演習Ⅰ 機械創造	機械工学演習Ⅱ	機械工学演習Ⅲ 機械工学実験Ⅰ 機械情報セミナーⅡ 学外研修	機械工学演習Ⅳ 機械工学実験Ⅱ	機械情報セミナーⅢ	卒業 研究
原子力工学		原子力エネルギー	放射線の利用		原子力体感研修			原子力設計ケイブル実習

注： 創生工学コース、および自動車工学コース必修の科目、 創生工学コース、および自動車工学コース、および自動車工学コース選択の科目

 創生工学コース必修、総合工学コースおよび自動車工学コースの選択の科目、 自動車工学コースおよび総合工学コース選択の科目

「基礎自動車工学」、「自動車測定検査概論」、「自動車検査」、「自動車法規」、「自動車整備実習」は自動車工学コース生のみ受講可。「基礎自動車工学」、「自動車整備実習」は進級要件、卒業要件に含まれない。

2.11.2 電気電子システム学科の学習・教育到達目標と教育課程

■学習・教育目的

近年、科学技術の高度化、知能化およびシステム化が進んでいます。また、エネルギー環境問題や、地域社会独特の問題解決も期待されています。このような情勢の中で、電気電子システム学科（以下、学科と記す）では、幅広い教養と倫理観を持ち、電気電子技術に関する知識を活用できる応用力と構想力を備えた技術者を育成することを目的としています。

学科のカリキュラムは、上記の目的を達成するために構成されています。ただし、電気電子技術分野の内容は非常に幅広いので専門性に準じて「電気エネルギーシステム系」、「情報・通信・メディア系」、「電子デバイス・システム制御系」の3つの分野に分類しています。

学科の カリキュラム	電気エネルギーシステム系
	情報・通信・メディア系
	電子デバイス・システム制御系

■コース制について

学生が希望する学習内容が多様化しているため、学科ではカリキュラムの中に「電気エネルギーコース」と「電子通信制御コース」の2つのコースを設置しています。どちらのコースに進んでも、前述の3つの系を学習できます。

●電気エネルギーコース

電気エネルギーの特徴は電気を遠隔地へ大量に送り出せること。発電から始まり電気を消費者に届けるまでシステム的に扱える技術者を育成することを目的としたコースです。教育の内容は、電力の発生・送電・配電から始まりパワーエレクトロニクスなどの応用分野に至る電気エネルギーシステム系を中心とした科目で構成されています。本学科は電気主任技術者（一種・二種・三種）の国家資格認定校のため、本コー

スで示した科目の単位を修得し、卒業後実務経験を経て、免状交付申請資格が得られます。また、本コースで示した科目の単位を修得して卒業した場合に、第二種電気工事士の筆記試験が免除となります。

●電子通信制御コース

電気信号はいつでも・どこでも・だれとでも情報を交換できる現代の主役。それを使いこなす発展の担い手となる技術者を育成します。教育の内容は、半導体、電子回路、情報通信など情報・通信・メディア系および電子デバイス・システム制御系を中心とした科目で構成されています。本コースで示した科目の単位を修得して卒業した場合、電気通信主任技術者の一部試験が免除となる利点があります。また、本コースで示した科目の単位を修得して卒業した場合、申請により第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士の資格が与えられます。

■学科で育成する技術者像

学科では、学習・教育目的で挙げたように次に示す育成すべき技術者像を定めています。

科学技術の高度化、知能化およびシステム化の進展とエネルギー環境問題の解決ならびに地域のニーズに応えるため、幅広い教養と技術者としての倫理観をもち、電気電子技術に関する知識の応用力と構想力を備えた技術者

■学習・教育到達目標（ディプロマ・ポリシー）

学科では、学習・教育到達目標を以下の様に設定しています。

1)	社会観、経済観、歴史観、健康管理意識など、技術者としての教養と思考力を備え、地球的視野に立って行動できる。
2)	技術者としての良識および倫理観を備え、自立した技術者として責任ある判断と行動ができる。
3)	電気電子工学分野における中堅技術者として必要な基礎数学力を身につけ応用できる。
4)	基礎的な物理法則あるいは化学法則を理解しており、自然科学的な知識を有し、課題の解決に向け応用できる。
5)	情報技術に関する基礎知識を身につけ、社会活動において必要なワードプロセッサの操作能力、表計算処理能力さらにはプレゼンテーション資料の作成能力などコンピュータ情報機器の基本的な操作ができる。
6)	電気電子技術者として備えるべき基礎知識を有し、課題の解決に向け応用できる。
7)	電気エネルギーシステム系分野、情報・通信・メディア系分野、あるいは電子デバイス・システム制御系分野に関する科目の修得を通して、電気電子工学に関連する専門知識を有し、課題の解決に向け応用できる。
8)	業務デザイン能力を備え、与えられた課題あるいは社会の要求に対して業務を計画・遂行し、課題の解決に向け応用できる。また、複数の技術者とチームを組んで積極的に協議し、リーダーもしくはメンバーとしての役割分担を通して、協働の中で役割を果たして問題解決を図ることができる。
9)	社会的および技術的に通用する技術報告書、業務日誌などの日本語文書を作成できる。また、与えられた課題について議論を行え、さらに課題解決・提案・報告などのプレゼンテーションができる。
10)	英語による初歩的なコミュニケーション能力を有し、かつ英語による製品仕様書、機器取扱説明書あるいは技術資料などの読解ができる。また、その語学力を基盤として、国際交流・協調に活かすことができる。
11)	電気電子技術に関わる国内外の動向に関心を持ち、また、国際的視野に立って技術課題の解決に向けた取り組みができる。
12)	地域の産業に関心を持ち、地域社会が抱える技術課題の解決に向けた取り組みができる。
13)	取り組む技術課題に対して常に自主的、継続的に学習し、問題点を見つけ、改善を図るための一連の行動ができる。
14)	与えられた制約の下で、計画的に仕事を遂行することができる。

■カリキュラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

学科のカリキュラムは、（１）導入転換科目、（２）総合教養科目、（３）工学基礎科目、（４）リメディアル科目、（５）専門科目の５区分の科目により編成しており、各区分が調和し、かつ連携の取れた４年間一貫教育を実施します。各区分の方針と、それに関連する学習・教育到達目標は以下の通りです。

区 分	方 針
（１）導入転換科目	①「キャリアデザイン」の科目を通して、大学生活から卒業後の生涯に亘り、自分の目標を達成させるための手段や方法を身に付ける教育を実施します。 ②「工学への関心」の科目を通して電気電子工学への興味を喚起します。
（２）総合教養科目	①「人間科学」、「国際コミュニケーション」、「体育科学」、「総合学際」の科目群からなる幅広い教養科目を通して、社会人としての一般教養と技術者としての倫理観を養います。 ②「総合学際」の科目を通して、公的資格等の取得を目指す教育を実施します。
（３）工学基礎科目	「数学」、「物理学・化学」、「情報」、「実験」の科目群からなる工学基礎科目を通して、専門科目の学習に必要な工学の基礎力を養います。
（４）リメディアル科目	大学教育に必要な数学、物理、英語に関する基礎力を必要に応じて修得させる教育を実施し、高校教育から大学教育への円滑な移行を図ります。
（５）専門科目	①「専門基礎」の科目を根幹とし、「電気エネルギーシステム系」、「情報・通信・メディア系」、さらには「電子デバイス・システム制御系」の３つの系に分類して構成された科目群を、座学、演習、実験・実習、さらには研修・研究を通して養成します。 ②先端技術工学および学外研修を通じて、最新の科学技術や地域の地域課題について考える力を養います。 ③各学年に配慮した実験科目、さらには卒業研究によって編成される一連の実験・実習プログラムによってデザイン能力を修得させる教育を実施します。 ④「原子力工学」の科目を通して、原子力に関する知識と技術を養います。

カリキュラム編成方針と学習・教育到達目標の関連性（●が関連するもの）

カリキュラム編成方針 学習・教育到達目標	導入転換科目		総合教養科目		工学基礎科目	リメディアル科目	専門科目			
	①	②	①	②			①	②	③	④
1)			●	●						
2)			●							
3)					●					
4)					●					
5)					●					
6)							●			
7)		●					●		●	●
8)			●					●	●	
9)			●							
10)								●		
11)								●		
12)								●		
13)	●								●	
14)									●	

■学習・教育方法

次の方法により教育を行います。

- 1) 各科目群におけるきめ細かい履修指導
- 2) もの造り、実験、演習などにより、実践力を養う体験型教育
- 3) コンピュータネットワークおよび情報メディア機器を用いたわかりやすい教育
- 4) 対話を重視したきめ細やかな教育
- 5) 総合的な教育の場として卒業研究を重視し、地域に根ざした研究や先端的研究を遂行
- 6) 資格取得支援科目による教育
- 7) 学生による「授業評価」制度で、授業方法や内容など教育に関する要望を検討・実現

表1 電気電子システム学科開講学年別授業科目表

(平成29年度入学生用)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	★知能集積回路	2
キャリアデザインⅣ	1	□文 学	2	職 業 倫 理	②	★情報通信法規	2
電気電子システム入門	②	□心 理 学	2	□日 本 国 憲 法	2	★パワーエレクトロニクス	2
電気電子システム概論	②	□哲 学	2	■実践日本語表現	2	★プラズマ工学	2
□歴 史	2	環境とエネルギー	②	■英語特別演習	1	★機械工学概論	2
□経 済 学	2	□生 命 科 学	2	■ドイツ語特別演習	1	★電気法規と電気施設管理	2
■日本語表現法	2	英語コミュニケーションⅠ	①	■中国語特別演習	1	★電気電子設計製図	2
現代英語Ⅰ	①	英語コミュニケーションⅡ	①	▽主 題 別 講 義	2	卒 業 研 究	⑥
現代英語Ⅱ	①	■ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	技 術 英 語	②	★原子燃料サイクル・安全工学	2
■ドイツ語基礎Ⅰ	1	■ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	電 子 回 路 Ⅰ	②		
■ドイツ語基礎Ⅱ	1	■中国語コミュニケーションⅠ	1	★電子回路Ⅱ	2		
■中国語基礎Ⅰ	1	■中国語コミュニケーションⅡ	1	★電気電子材料工学	2		
■中国語基礎Ⅱ	1	▽スポーツ健康学	1	★半 導 体 工 学	2		
▽体 育 学	1	▽主題別ゼミナールⅡ	2	★制 御 工 学 Ⅱ	2		
▽スポーツ特別演習	1	▽主題別ゼミナールⅢ	2	★知能ロボット工学	2		
▽主題別ゼミナールⅠ	2	△確 率 ・ 統 計 学	2	★コンピュータプログラミングⅠ	2		
▽海 外 研 修	1	△応 用 数 学	2	★電 磁 波 工 学	2		
微 分	②	▲基礎物理学Ⅱ	2	★情報通信工学Ⅰ	2		
積 分	②	基礎物理学Ⅲ	②	★情報通信工学Ⅱ	2		
線形代数	②	電気電子数学	②	★通信ネットワーク工学	2		
▲物理科学	2	電磁気学Ⅰ	②	★電力輸送工学	2		
基礎物理学Ⅰ	②	電磁気学Ⅱ	②	★電気機器工学	2		
▲基礎化学Ⅰ	2	電磁気学演習Ⅰ	②	★電力システム工学	2		
▲基礎化学Ⅱ	2	電磁気学演習Ⅱ	②	★電気利用工学	2		
基礎情報科学	②	電気回路Ⅰ	②	★高電界工学	2		
◇物理学実験	2	電気回路Ⅱ	②	◆電子情報システム実験	2		
◇化学実験	2	電気回路演習Ⅰ	②	◆電気エネルギーシステム実験	2		
□数学基礎Ⅰ	1	電気回路演習Ⅱ	②	学 外 研 修	①		
□数学基礎Ⅱ	1	電気電子計測	②	先 端 技 術 工 学	①		
□物理基礎	2	★センサー応用工学	2	★原子力体感研修	2		
□英語基礎Ⅰ	1	★電子物性工学	2				
□英語基礎Ⅱ	1	★制御工学Ⅰ	2				
電気回路入門	②	★情報メディア工学	2				
★ネットワーク基礎	2	★コンピュータプログラミングⅠ	2				
★原子力エネルギー	2	★デジタル回路	2				
		★電力発生工学	2				
		創造工学実験	②				
		電気電子基礎実験	②				
		★放射線の利用	2				

注1. ○で囲まれた数字は必修単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注2. この科目表には、進級要件・卒業単位数に含まれない教職科目は記載されていない。

注3. □■▽は総合教養の選択科目、△▲は工学基礎の選択科目、□はリメディアル科目、★は専門の選択科目、◆◇は選択必修科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている（右ページの卒業要件を参照のこと）。

表2 電気電子システム学科単位集計表

(平成29年度入学生用)

学年		第1学年				第2学年				第3学年				第4学年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	7	11	18	18	17	13	30	48	4	4	8	56	0	6	6	62
	選択	18	19	37	37	17	23	40	77	21	26	47	124	14	2	16	140
	計	25	30	55	55	34	36	70	125	25	30	55	180	14	8	22	202
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単位数	修得単位数 40単位以上				修得単位数 80単位以上				修得単位数 120単位以上				/				
進級 および 卒業要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 28単位以上 必修の修得単位数 12単位以上				修得単位数 65単位以上 必修の修得単位数 36単位以上				修得単位数 105単位以上 必修の修得単位数 50単位以上 ・電気電子システム 入門と電気電子シ ステム概論を修得 のこと。 ・物理学実験と化学 実験のいずれかを 修得のこと。 ・下記16単位中12単 位上修得のこと。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>電磁気学Ⅰ、Ⅱ 電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ 電気回路Ⅰ、Ⅱ 電気回路演習Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> </table> ・創造工学実験と電 気電子基礎実験を 修得のこと。				電磁気学Ⅰ、Ⅱ 電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ 電気回路Ⅰ、Ⅱ 電気回路演習Ⅰ、Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目の全て 62単位 ・□印の科目から 4単位以上 ・■印の科目から 4単位以上 ・□、■、▽印の 科目の合計が12 単位以上 ・△印の科目から 2単位以上 ・◇印の科目から 2単位以上 ・◆印の科目から 2単位以上 ・★◆印の科目か ら32単位以上 ・上記の科目を含 めて124単位以 上修得するこ と。 			
電磁気学Ⅰ、Ⅱ 電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ 電気回路Ⅰ、Ⅱ 電気回路演習Ⅰ、Ⅱ																	

注1. この集計表には、進級要件・卒業要件の単位数には含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2. 卒業要件の欄において、必修科目(62単位)、□、■、▽印(12単位)、△印(2単位)、◇印(2単位)、◆印(2単位)、★、◆印(32単位)の合計は110単位である。

表3 電気電子システム学科カリキュラム

区分	分野	第1学年				第2学年					
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
選入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1						
	工学への関心	キャリアデザインⅣ	2								
総合教養科目	人間科学	電気電子システム入門	②	電気電子システム概論	②						
		歴史	2	経済学	2	文学	2	哲学	2		
	国際コミュニケーション				日本語表現法	2	心理学	2	生命科学	2	
						環境とエネルギー	②				
					現代英語Ⅰ	①	現代英語Ⅱ	①	英語コミュニケーションⅠ	①	
					ドイツ語基礎Ⅰ	1	ドイツ語基礎Ⅱ	1	英語コミュニケーションⅡ	①	
	体育科学 総合学際				中国語基礎Ⅰ	1	中国語基礎Ⅱ	1	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	
					中国語基礎Ⅰ	1	中国語基礎Ⅱ	1	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	
				体育学	1	スポーツ特別演習	1	スポーツ健康学	1	中国語コミュニケーションⅡ	1
				海外研修	1	主題別ゼミナールⅠ	2	主題別ゼミナールⅡ	2	主題別ゼミナールⅢ	2
工学基礎科目	数学										
リメディアル科目	リメディアル										
専門科目	専門基礎										
	電気エネルギーシステム系										
	情報・通信・メディア系										
	電子デバイス・システム制御系										
実験・製図・研修・研究											
原子力工学											
進級要件 総計28単位以上(必修12単位以上)					進級要件 総計65単位以上(必修36単位以上)						
修得単位数					修得単位数						

注1. 科目名称の後の数字は単位を示し、○で囲まれた数字は必修単位数を意味する。

(平成29年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位	
キャリアデザインⅢ	2							4学年進級時までに左記の単位を修得すること。
職業倫理②		日本国憲法	2					卒業までに左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること。 卒業までに分野を問わず左記の科目から必修を含み20単位以上を修得すること。
実践日本語表現	2							
英語特別演習	1							
ドイツ語特別演習	1							
中国語特別演習	1							
		主題別講義	2					
								卒業までに左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること。
								4学年進級時までに左記の科目から2単位以上を修得すること。
		技術英語②						4学年進級時までに、左記16単位中12単位以上を修得のこと。 卒業までに左記の科目から必修を含み70単位以上を修得すること。 4学年進級時までにいずれの単位も修得すること。 卒業までに左記の科目から2単位以上を修得すること。
電力輸送工学	2	電力システム工学	2	パワーエレクトロニクス	2			
電気機器工学	2	電気利用工学	2	プラズマ工学	2			
		高電界工学	2	機械工学概論	2			
コンピュータプログラミングⅠ	2			電気法規と電気施設管理	2			
電磁波工学	2			情報通信法規	2			
情報通信工学Ⅰ	2	情報通信工学Ⅱ	2					
		通信ネットワーク工学	2					
電子回路Ⅰ②		電子回路Ⅱ	2	知能集積回路	2			
電気電子材料工学	2	半導体工学	2					
制御工学Ⅱ	2	知能ロボット工学	2					
電子情報システム実験	2							
		電気エネルギーシステム実験	2					
		学外研修①		電気電子設計製図	2			
		先端技術工学①		卒業研究⑥				
		原子力体感研修	2	原子燃料サイクル・安全工学	2			
進級要件 総計105単位以上 (必修50単位以上)		卒業要件 総計124単位以上 (必修62単位を含む)						
修得単位数				修得単位数				

は必修科目、 は選択必修科目、その他は選択科目を意味する。

表 4 電気電子システム学科科目履修の流れ

区分	分野	1 年		2 年	
		前期	後期	前期	後期
総覧 総合教養科目	工学への関心	電気電子システム入門	電気電子システム概論	全ての専門科目へ繋がる	
	人間科学			環境とエネルギー	
工学基礎科目	国際コミュニケーション	現代英語Ⅰ	現代英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ
	数 学	微 分	積 分 線形代数	確率・統計学	応用数学
専門基礎	物理学・化学	物 理 科 学 基礎化学Ⅰ	基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅱ	基礎物理学Ⅱ 全ての専門科目へ繋がる	基礎物理学Ⅲ
	情 報	基礎情報科学	全ての専門科目へ繋がる		
専 門 科 目	実 験	物理学系科目 ↑ 物理学実験	化学系科目 ↑ 化学実験		
	電気エネルギーシステム系		電気回路入門	電気電子数学 電磁気学Ⅰ 電磁気学演習Ⅰ 電気回路Ⅰ 電気回路演習Ⅰ	全ての専門科目へ繋がる 電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ 電気回路Ⅱ 電気回路演習Ⅱ
実 験	情報・通信・メディア系		ネットワーク基礎	情報メディア工学	コンピュータプログラミングⅠ デジタル回路
	電子デバイス・システム制御系			電気電子計測	センサー応用工学 電子物性工学 制御工学Ⅰ
実 験	電子デバイス・システム制御系			創造工学実験	電気電子基礎実験
	実験・製図・研修・研究				
	原子力工学		原子力エネルギー	放射線の利用	

注 1. 必 修 選択必修 選 択

(平成29年度入学生用)

	3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期
→ 職業倫理	→ 全ての専門科目へ繋がる			
→ 全ての専門科目へ繋がる				
→ 全ての専門科目へ繋がる				
→ 全ての専門科目へ繋がる		技術英語	→ 卒業研究	
→ 全ての専門科目へ繋がる				
→ 全ての専門科目へ繋がる				
→ 電力輸送工学	→ 電力システム工学	→ パワーエレクトロニクス	→ 卒業研究	
→ 電気機器工学	→ 電気利用工学	→ プラズマ工学	→ 卒業研究	
	→ 高電界工学	→ 機械工学概論	→ 卒業研究	
		→ 電気法規と電気施設管理	→ 卒業研究	
→ コンピュータプログラミングⅡ	→ 通信ネットワーク工学	→ 卒業研究		
→ 情報通信工学Ⅰ	→ 情報通信工学Ⅱ	→ 情報通信法規	→ 卒業研究	
→ 電磁波工学				
→ 電子回路Ⅰ	→ 電子回路Ⅱ	→ 知能集積回路	→ 卒業研究	
→ 電気電子材料工学	→ 半導体工学	→ 卒業研究		
→ 制御工学Ⅱ	→ 知能ロボット工学	→ 卒業研究		
→ 電子情報システム実験				→ 電気電子設計製図
	→ 電気エネルギーシステム実験			
	→ 学外研修			
	→ 先端技術工学	→ 卒業研究		
	→ 原子力体感研修	→ 原子燃料サイクル・安全工学		

表5 コースごとの履修モデルケース（専門科目）

（平成29年度入学生用）

区分	分野	授業科目	単位数 必修 選択	電気エネルギーコース	電子通信制御コース
専 門 科 目	専 門 基 礎	電気回路入門	2	○	○
		電気電子数学Ⅰ	2	○	○
		電気電子数学Ⅱ	2	○	○
		電気電子演習Ⅰ	2	○	○
		電気電子演習Ⅱ	2	○	○
		電気回路Ⅰ	2	○	○
		電気回路Ⅱ	2	○	○
		電気回路演習Ⅰ	2	○	○
		電気回路演習Ⅱ	2	○	○
		電気技術英語	2	○	○
	電気エネルギーシステム系	電力発生工学	2	○	○
		電力輸送工学	2	○	○
		電気機器工学	2	○	○
		電力システム工学	2	○	○
		電気利用工学	2	○	○
		高電界工学	2	○	○
		パワーエレクトロニクス	2	○	○
		プラズマ工学	2	○	○
	情報・通信・メディア系	機械工学概論	2	○	○
		電気法規と電気施設管理	2	○	○
		ネットワーク基礎	2	○	○
		情報メディア工学	2	◆	○
		コンピュータプログラミングⅠ	2	○	○
		コンピュータプログラミングⅡ	2	○	○
		デジタル回路	2	○	○
		電磁波工学	2	○	○
	電子デバイス・システム制御系	情報通信工学Ⅰ	2	◆	○
		情報通信工学Ⅱ	2	○	○
通信ネットワーク工学		2	◆	○	
情報通信法規		2	○	○	
電気電子計測学		2	○	○	
センサー応用工学		2	◆	○	
電子回路Ⅰ		2	○	○	
電子回路Ⅱ		2	○	○	
知能集積回路		2	○	○	
電子物性工学		2	○	○	
実験・製図・研修・研究	電気電子材料工学	2	○	○	
	半導体工学Ⅰ	2	○	○	
	制御工学Ⅰ	2	○	○	
	制御工学Ⅱ	2	○	○	
	知能ロボット工学	2	◆	○	
	創造工学実験	2	○	○	
	電気電子基礎実験	2	○	○	
	電子情報システム実験	2	○	○	
原子力工学	電気エネルギーシステム実験	2	○	○	
	電気電子設計製図	2	○	○	
	先端技術工学卒業研究	16	○	○	
卒業後の進路	原子力エネルギー	2	○	○	
	放射線の利用	2	○	○	
	原子力体感研修	2	○	○	
関連する資格 （資格取得、免状交付申請資格、試験免除）			第一種、第二種、第三種電気主任技術者の免状交付申請資格（ただし、定められた実務経験が必要）、第二種電気工事士試験の筆記試験免除	電気通信主任技術者試験の試験科目「電気通信システム」の試験免除第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士の資格取得	
履修モデルケース （専門科目）			上記の科目から○印の必修科目を含み70単位以上を修得すること。○印の科目の単位を修得することを推奨。◆印の科目から2単位以上修得することを推奨。	上記の科目から○印の必修科目を含み70単位以上を修得すること。○印の科目の単位を修得することを推奨。	
卒業後の進路			電気主任技術者、エネルギー管理者、電気工事士、電気工事施工管理技士、発電プラント、新エネルギー開発、ビルメンテナンスなど	電気通信主任技術者、工事担任者、無線技術士、半導体デバイスの開発、ネットワークエンジニア、携帯電話の設計・製造、衛星機器の設計・製造、ロボット・自動車開発エンジニア、医療福祉機器の設計・製造、AV・デジタル家電の開発など	
大学院進学、公務員、教員、警察官、消防士、自衛隊、研究機関、など					

2.11.3 システム情報工学科の学習・教育目標と教育課程

■学習・教育目的

情報通信技術（ICT）は、地球規模で進歩しており、日本においても地域を問わず人間が豊かな生活をする上で、必須の基盤技術となっています。しかし、北東北地方は、農林、水産業などの一次産業の基地としての認識が強いため、地域産業の活性化と発展に必要な情報基盤整備、情報技術者の育成が立ち遅れています。

一方、情報技術は学際的、複合的な技術であるため、情報工学、システム工学、ネットワーク工学など理系の学問の他に、人間科学、社会科学など文系の学問と連携した幅広いカリキュラムで教育する必要があります。

このような地域的、社会的要請に応えるため、科学、技術の基礎知識、情報工学的専門知識などの理系の技術と幅広い教養、コミュニケーション能力、倫理観などの文系の知恵を備え、時代の変化に対応でき、自己啓発能力を備えた技術者を育成することを本学科の教育目的としています。

情報技術者に対する社会の要望は、情報産業に就職して、情報システムの開発に従事する専門特化型の情報技術者だけでなく、一次産業、二次産業、三次産業などいろいろな産業に就職して、情報技術を駆使して、産業の活性化に寄与するような応用型の情報技術者も必要としています。

このような要請に応えるため、システム情報工学科では「システム情報コース」と「情報メディアコース」の2つのコースを設置しています。

1. システム情報コース

情報産業に就職し、情報システムの開発に従事する専門特化型の情報技術者を育成するコースです。

2. 情報メディアコース

一次産業、二次産業、三次産業などいろいろ

な産業に就職して、情報技術を駆使して、産業の活性化に寄与するような応用型の情報技術者を育成するコースです。

■学習・教育目標（システム情報コース）

システム情報コースの教育目的を達成するため、次のような技術者を育成することを教育の目標とします。

- (A)社会人としての良識と倫理を備え、地域社会に関心をもつとともに、地球的視野で考える視点をもった技術者
- (B)自然科学、工学、情報技術の基礎知識を有し、これらを活用して社会の発展に貢献できる技術者
- (C)論理的な文章表現力、口頭発表力等のコミュニケーション能力をもつとともに、国際交流の素養をもった技術者
- (D)情報技術の専門知識と応用展開能力を身につけ、社会の課題に対して実践的に対応できる技術者
- (E)自ら積極的に学ぶ意欲をもち、時代の変化に継続的に対処できる能力をもち、かつ、情報技術の統合利用により課題解決をはかるエンジニアリング能力をもった技術者
- (F)理系の専門知識と文系の素養を併せもった技術者

■学習・教育目標（情報メディアコース）

情報メディアコースの教育目的を達成するため、次のような技術者を育成することを教育の目標とします。

- (A)社会人としての良識と倫理を備え、地球的視野で考える視点をもつ
- (B)自然科学、情報技術の知識を備え、社会の発展に貢献できる
- (C)自己表現とコミュニケーションの基礎能力を備え、情報技術を活用できる
- (D)情報分野の専門知識・技術を理解し、活用

する能力を身につける

(E)自ら積極的に学ぶ意欲をもち、社会の要求する知識を継続的に獲得できる

(F)理系の専門知識と文系の素養を併せもち、社会の課題に対して建設的に取り組める

■カリキュラム編成方針

次の方針でカリキュラムを編成しています。なお、科目の配置、科目間のつながりなどは科目表や履修の流れに示しています。

1) 4年間一貫教育：導入転換から専門科目まで連携のとれた教育

→教育目標(A)の実現

2) 導入転換科目：大学教育に馴染ませ、工学への関心を喚起

→教育目標(A)、(E)の実現

3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際分野の科目群で構成

→教育目標(A)、(B)、(C)の実現

4) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、物理、化学、情報科学の科目群

→教育目標(B)の実現

5) リメディアル科目：大学教育に必要な数学と英語の学力を必要に応じて再習得するための科目群

→教育目標(B)、(C)の実現

6) 専門科目：システム分野、情報分野、人間・社会分野、関連分野、実験・研修の科目群で構成

→教育目標(A)、(B)、(C)、(D)、(E)、(F)の実現

7) 理系の専門知識と文系の感性：専門科目では理系の専門知識と文系の感性を調和させて配置

→教育目標(D)、(F)の実現

■学習・教育方法

次の方法により教育を実施します。

1) 各科目群の履修単位を調和させ、きめ細かい履修指導

→教育目標全体と関連

2) 実験を重視した実践的な教育を実施

→教育目標(D)と関連

3) 講義と実習を併用した分かり易い教育

→教育目標(B)、(D)、(E)と関連

4) 少人数で理解度に応じた教育

→教育目標(B)、(C)、(E)と関連

5) 総合的な教育の最終目標として卒業研究を重視

→教育目標全体と関連

教育では学生諸君との絆と協力が重要です。諸君もこれを考え、自主的に学習努力することを求めます。

なお、学生による「授業評価」制度があり、授業内容など教育に関する要望を提出できます。

システム情報工学科開講学年別授業科目表 (システム情報コース)

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	卒 業 研 究	⑥
キャリアデザインⅣ	1	●心 理 学	2	○職 業 倫 理	2	★原子燃料サイクル・安全工学	2
情報基礎ゼミナール②		●文 学	2	●日 本 国 憲 法	2		
情報科学アラカルト②		●哲 学	2	■実 践 日 本 語 表 現	2		
情報工学概論	②	□英語コミュニケーションⅠ	1	□英 語 特 別 演 習	1		
●歴 史	2	□英語コミュニケーションⅡ	1	■ド イ ツ 語 特 別 演 習	1		
●経 済 学	2	■ド イ ツ 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅰ	1	■中 国 語 特 別 演 習	1		
■日 本 語 表 現 法	2	■ド イ ツ 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅱ	1	◆主 題 別 講 義	2		
現 代 英 語 Ⅰ	①	■中 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅰ	1	★情 報 ネットワーク設計	2		
現 代 英 語 Ⅱ	①	■中 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅱ	1	★情 報 ネットワーク構築	2		
■ド イ ツ 語 基 礎 Ⅰ	1	◆ス ポ ー ツ 健 康 学	1	☆情 報 シ ス テ ム 論	2		
■ド イ ツ 語 基 礎 Ⅱ	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	2	☆制 御 工 学	2		
■中 国 語 基 礎 Ⅰ	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ	2	☆ロ ボ ッ ト 工 学	2		
■中 国 語 基 礎 Ⅱ	1	△確 率 ・ 統 計	2	☆情 報 セ キ ュ リ テ ィ	2		
◆体 育 学	1	▲基 礎 物 理 学 Ⅱ	2	☆シ ム ュ レ ー シ ョ ン 工 学	2		
◆ス ポ ー ツ 特 別 演 習	1	▲基 礎 物 理 学 Ⅲ	2	★デ ィ ジ タ ル 信 号 処 理	2		
◆海 外 研 修	1	▲環 境 と エ ネ ル ギ ー	2	★知 識 工 学	2		
◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	2	▲生 命 科 学	2	★パ タ ー ン 情 報 処 理	2		
微 分	②	情 報 通 信 工 学	②	☆言 語 と コ ン バ イ ラ	2		
積 分	②	☆情 報 ネットワーク入門	2	☆数 値 解 析	2		
線 形 代 数	②	シ ス テ ム 数 理	②	☆集 積 回 路	2		
▲基 礎 物 理 学 Ⅰ	2	☆計 測 情 報 工 学	2	★マ ル チ メ デ ィ ア 工 学	2		
▲物 理 科 学	2	情 報 数 理	②	★情 報 文 化 論	2		
▲基 礎 化 学 Ⅰ	2	☆オ ペ レ ー テ ィ ン グ シ ス テ ム	2	★人 間 情 報 科 学	2		
▲基 礎 化 学 Ⅱ	2	☆デ ー タ ベ ー ス	2	情 報 工 学 応 用 実 験 Ⅰ	①		
▼物 理 学 実 験	2	ア ル ゴ リ ズ ム	②	情 報 工 学 応 用 実 験 Ⅱ	①		
▼化 学 実 験	2	プ ロ グ ラ ム 設 計	②	☆情 報 専 門 ゼ ミ ナ ー ル	2		
基 礎 情 報 科 学	②	コ ン ピ ュ ー タ シ ス テ ム	②	★情 報 工 学 特 別 講 義	2		
㊦数 学 基 礎 Ⅰ	1	☆論 理 回 路	②	★学 外 研 修	1		
㊦数 学 基 礎 Ⅱ	1	☆コ ン ピ ュ ー タ グ ラ フ ィ ク ス	2	★設 計 ・ 製 図	2		
㊦物 理 基 礎	2	★パ ー チ ャ ル リ ア リ テ ィ	2	★電 子 工 学	2		
㊦英 語 基 礎 Ⅰ	1	☆産 業 情 報 論	2	★機 械 工 学 概 論	2		
㊦英 語 基 礎 Ⅱ	1	☆経 営 情 報 論	2	★原 子 力 体 感 研 修	2		
☆離 散 数 学	2	情 報 工 学 基 礎 実 験 Ⅰ	①				
☆グ ラ フ 理 論 入 門	2	情 報 工 学 基 礎 実 験 Ⅱ	①				
プ ロ グ ラ ム 入 門	②	★電 気 工 学	2				
プ ロ グ ラ ム 言 語	②	★放 射 線 の 利 用	2				
ウ ェ ブ デ ザ イ ン	②						
★デ ィ ジ タ ル 映 像 表 現	2						
★原 子 力 エ ネ ル ギ ー	2						

注1. ○で囲まれた数字は必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。
 注2. この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。
 注3. ■、□、●、○、◆は総合教養の選択科目、▲、△、▼は工学基礎の選択科目、㊦はリメディアル科目、★、☆は専門および専門関連の選択科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている(次ページの卒業要件を参照のこと)。
 注4. システム情報コースでは、□、△、☆の選択科目の履修を推奨する。

システム情報工学科単位集計表 (システム情報コース)

(平成29年度入学生用)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
		前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	11	11	22	22	11	5	16	38	1	1	2	40	0	6	6	46
	選択	20	23	43	43	24	24	48	91	26	32	58	149	2	0	2	151
	計	31	34	65	65	35	29	64	129	27	33	60	189	2	6	8	197
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数	修得単位数 40単位以上				修得単位数 80単位以上				修得単位数 120単位以上				/				
進級 および 卒業要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 25単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 35単位以上 情報工学基礎実験 I、IIを修得のこと。				<ul style="list-style-type: none"> ・必修単位すべて46単位 ・●、○、■、□、◆の科目の合計単位数が18単位以上 ただし、●印の科目から8単位以上 ■、□印の科目から6単位以上 ・▲、△印の科目から10単位以上 ・▼印の科目から2単位以上 ・★、☆印の科目から40単位以上 ・上記の科目を含めて124単位以上 ただし、☐印の科目を含めてもよい。 				

注1. この表には、進級要件、卒業要件の単位表には含まれていない教職科目の単位数は含まれていない。

注2. 卒業要件の欄において、必修科目(46単位)、●、○、■、□、◆印(18単位)、▲、△印(10単位)、▼印(2単位)、★、☆印(40単位)の合計は116単位である。卒業要件を満たすには、そのほかに8単位以上の科目を修得し、合計124単位以上としなければならない。ただし、●印の科目からは8単位以上が、■、□印の科目からは6単位以上が含まれていなければならない。また、合計124単位の中に☐印の単位を含めることができる。

注3. システム情報コースでは、○、□、△、☆の選択科目の単位の修得を推奨する。

システム情報工学科カリキュラム (システム情報コース)

区分	分野	第1学年				第2学年			
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1			キャリアデザインⅡ	1		
	工学への関心	キャリアデザインⅣ	1						
総合教養科目	人間科学	情報基礎ゼミナール	②	情報工学概論	②				
		情報科学アラカルト	②						
	国際コミュニケーション	歴史	2	経済学	2	心理学	2	哲学	2
		日本語表現法	2		文学	2			
	体育科学	現代英語Ⅰ	①	現代英語Ⅱ	①	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1
		ドイツ語基礎Ⅰ	1	ドイツ語基礎Ⅱ	1	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1
総合学際	中国語基礎Ⅰ	1	中国語基礎Ⅱ	1	中国語コミュニケーションⅠ	1	中国語コミュニケーションⅡ	1	
	体育学	1	スポーツ特別演習	1	スポーツ健康学	1			
	海外研修(新設)	1	主題別ゼミナールⅠ	2	主題別ゼミナールⅡ	2	主題別ゼミナールⅢ	2	
工学基礎科目	工学基礎	微分	②	積分	②	確率・統計	2		
				線形代数	②				
				基礎物理学Ⅰ	2	基礎物理学Ⅱ	2	基礎物理学Ⅲ	2
		基礎化学Ⅰ	2	基礎化学Ⅱ	2				
		物理科学	2		環境とエネルギー	2	生命科学	2	
		物理学実験	2	化学実験	2				
リメディアル科目	リメディアル	基礎情報科学	②						
		数学基礎Ⅰ	1						
		数学基礎Ⅱ	1						
		物理基礎	2						
		英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1				
専門科目	システム分野					情報通信工学	②	情報ネットワーク入門	2
						システム数理	②		
	情報分野	離散数学	2	グラフ理論入門	2	情報数理	②	計測情報工学	2
						オペレーティングシステム	2	データベース	2
		プログラミング入門	②	プログラミング言語	②	アルゴリズム	②	プログラム設計	②
						コンピュータシステム	②	論理回路	②
	人間・社会分野	デジタル映像表現	2	ウェブデザイン	②	コンピュータグラフィックス	2	バーチャルリアリティ	2
						産業情報論	2	経営情報論	2
	実験・研修・その他					情報工学基礎実験Ⅰ	①	情報工学基礎実験Ⅱ	①
専門関連科目	専門関連						電気工学	2	
	原子力工学			原子力エネルギー	2	放射線の利用	2		
進級要件 総計25単位以上(必修10単位以上) 修得単位数					進級要件 総計60単位以上(必修25単位以上) 修得単位数				

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。■は必修科目、その他は選択科目を意味する。

■の選択科目の単位の修得を推奨する。

注2. 総合教養科目から必修を含めて20単位以上を修得すること。

ただし、この中には、人間科学分野から8単位以上、国際コミュニケーション分野から必修を含めて8単位以上を含むこと。

注3. 工学基礎科目(物理学実験、化学実験を除く)から必修を含めて18単位以上を修得すること。

(平成29年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位		
キャリアデザインⅢ			2					キャリアデザイン	導入転換科目
								工学への関心	
職業倫理	2	日本国憲法	2					人間科学	総合教養科目
実践日本語表現	2							国際コミュニケーション	
英語特別演習	1								
ドイツ語特別演習	1								
中国語特別演習	1							体育科学 総合学際	
		主題別講義	2						
								工学基礎	工学基礎科目
								リメディアル	リメディアル科目
情報ネットワーク設計	2	情報ネットワーク構築	2					システム分野	専門科目
情報システム論	2	ロボット工学	2						
		情報セキュリティ	2					情報分野	
制御工学	2	シミュレーション工学	2						
デジタル信号処理	2	知識工学	2						
		パターン情報処理	2						
		数値解析	2					人間・社会分野	
		言語とコンパイラ	2						
		集積回路	2						
		マルチメディア工学	2						
人間情報科学	2	情報文化論	2						
情報工学応用実験Ⅰ	①	情報工学応用実験Ⅱ	①	卒業研究⑥					
情報工学特別講義	2	情報専門セミナー	2					実験・研修・その他	
学外研修	1								
設計・製図	2								
電子工学	2							専門関連	専門関連科目
機械工学概論	2							原子力工学	
		原子力体感研修	2	原子燃料サイクル・安全工学	2				
進級要件 総計100単位以上(必修35単位以上) 修得単位数				卒業要件 総計124単位以上(必修46単位を含む) 修得単位数					

注4. 物理学実験、化学実験から2単位以上を修得すること。

注5. 専門科目と専門関連科目から必修を含めて70単位以上を修得すること。

注6. 注2～注5までの修得条件に加えて、科目区分を問わず8単位以上を修得すること。

注7. 3年から4年への進級要件には情報工学基礎実験Ⅰ、Ⅱの単位を含むこと。

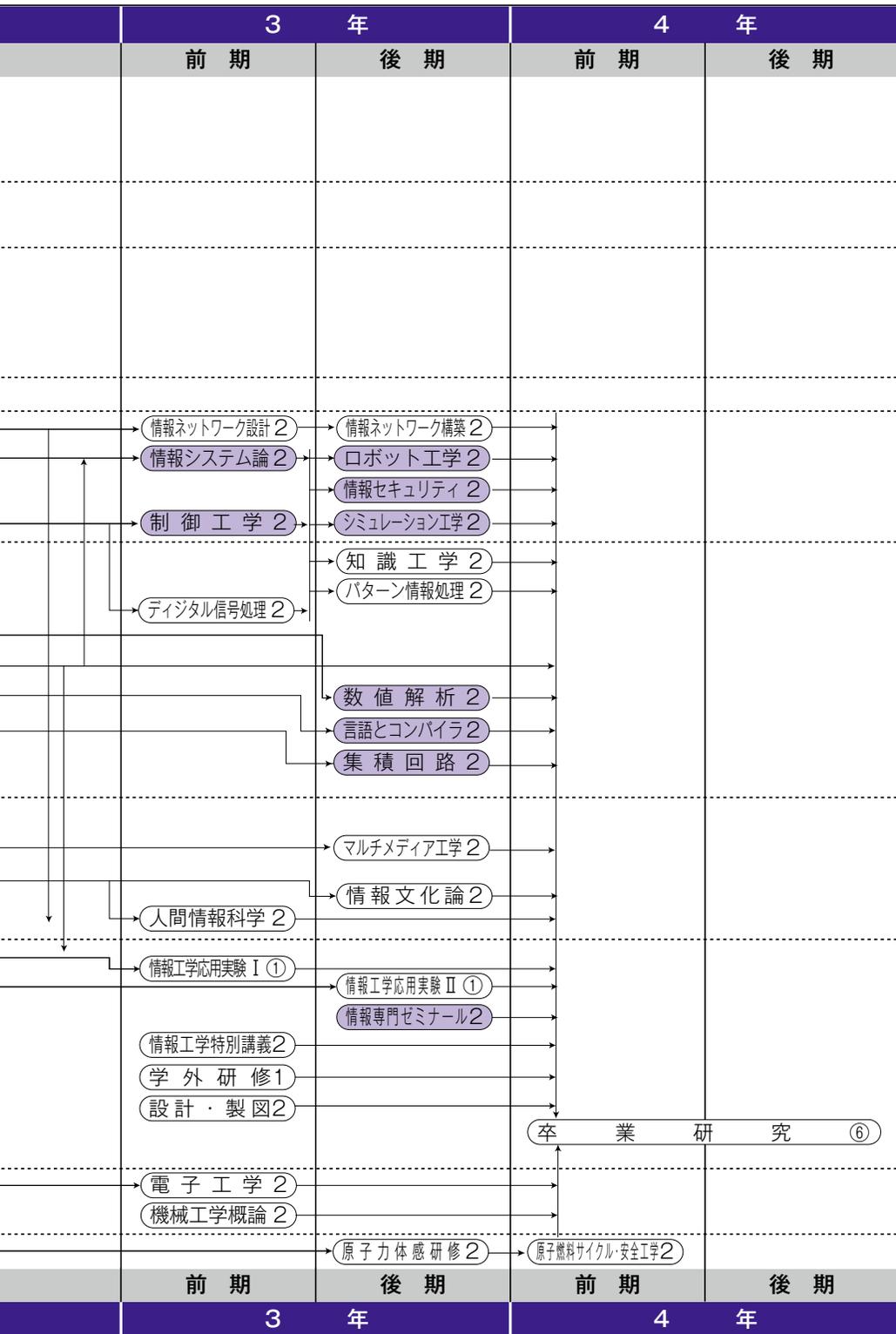
システム情報工学科 工学基礎科目および専門科目を中心とした履修

区分	学年	1年		2年	
	学期	前期	後期	前期	後期
導入・転換科目	工学への関心	情報基礎ゼミナール②			
		情報科学アラカルト②	情報工学概論②		
工学基礎科目	数学	微分②	積分② 線形代数②	確率・統計②	
	自然科学	基礎化学②	基礎物理学Ⅰ②	基礎物理学Ⅱ②	基礎物理学Ⅲ②
		物理学実験②	基礎化学Ⅱ②		
		物理科学②	化学実験②		
情報	基礎情報科学②		環境とエネルギー②	生命科学②	
専門科目	システム			情報通信工学② システム数理②	情報ネットワーク入門② 計測情報工学②
	情報	離散数学②	グラフ理論入門②	情報数理② オペレーティングシステム②	データベース②
		プログラミング入門②	プログラミング言語②	アルゴリズム② コンピュータシステム②	プログラム設計② 論理回路②
		人間・社会	デジタル映像表現②	ウェブデザイン②	コンピュータグラフィクス② 産業情報論②
	実験・実習・その他			情報工学基礎実験Ⅰ①	情報工学基礎実験Ⅱ①
専門関連科目	専門関連			電気工学②	
	原子力工学		原子力エネルギー②	放射線の利用②	
区分	学期	前期	後期	前期	後期
	学年	1年		2年	

注1：科目名称の後の数字は単位数を表す。○は必修科目、その他は選択科目の単位数を表す。注2：システム情報コース推奨科目

の流れ (システム情報コース)

(平成29年度入学生用)



システム情報工学科開講学年別授業科目表 (情報メディアコース)

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	卒 業 研 究	⑥
キャリアデザインⅣ	1	●心 理 学	2	●職 業 倫 理	2	★原子燃料サイクル・安全工学	2
情報基礎ゼミナール②		●文 学	2	●日 本 国 憲 法	2		
情報科学アラカルト②		●哲 学	2	■実 践 日 本 語 表 現	2		
情報工学概論	②	■英語コミュニケーションⅠ	1	■英語特別演習	1		
●歴 史	2	■英語コミュニケーションⅡ	1	■ドイツ語特別演習	1		
●経 済 学	2	■ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	■中国語特別演習	1		
■日 本 語 表 現 法	2	■ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	◆主 題 別 講 義	2		
現 代 英 語 Ⅰ	①	■中国語コミュニケーションⅠ	1	★情報ネットワーク設計	2		
現 代 英 語 Ⅱ	①	■中国語コミュニケーションⅡ	1	★情報ネットワーク構築	2		
■ドイ ツ 語 基 礎 Ⅰ	1	◆ス ポ ー ツ 健 康 学	1	★情報システム論	2		
■ドイ ツ 語 基 礎 Ⅱ	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	2	★制 御 工 学	2		
■中 国 語 基 礎 Ⅰ	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ	2	★ロ ボ ッ ト 工 学	2		
■中 国 語 基 礎 Ⅱ	1	▲確 率 ・ 統 計	2	★情報セキュリティ	2		
◆体 育 学	1	▲基 礎 物 理 学 Ⅱ	2	★シミュレーション工学	2		
◆ス ポ ー ツ 特 別 演 習	1	▲基 礎 物 理 学 Ⅲ	2	★ディジタル信号処理	2		
◆海 外 研 修	1	▲環 境 と エ ネ ル ギ ー	2	★知 識 工 学	2		
◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	2	▲生 命 科 学	2	★パター ン 情 報 処 理	2		
微 分	②	情 報 通 信 工 学	②	★言 語 と コ ン バ イ ラ	2		
積 分	②	★情報ネットワーク入門	2	★数 値 解 析	2		
線 形 代 数	②	シ ス テ ム 数 理	②	★集 積 回 路	2		
▲基 礎 物 理 学 Ⅰ	2	★計測情報工学	2	★マルチメディア工学	2		
▲物 理 科 学	2	情 報 数 理	②	★情 報 文 化 論	2		
▲基 礎 化 学 Ⅰ	2	★オペレーティングシステム	2	★人 間 情 報 科 学	2		
▲基 礎 化 学 Ⅱ	2	★デ ー タ ベ ー ス	2	情報工学応用実験Ⅰ	①		
▼物 理 学 実 験	2	ア ル ゴ リ ズ ム	②	情報工学応用実験Ⅱ	①		
▼化 学 実 験	2	プ ロ グ ラ ム 設 計	②	★情報専門ゼミナール	2		
基礎情報科学②		コ ン ピ ュ ー タ シ ス テ ム	②	★情報工学特別講義	2		
㊦数学基礎Ⅰ	1	論 理 回 路	②	★学 外 研 修	1		
㊦数学基礎Ⅱ	1	★コンピュータグラフィクス	2	★設 計 ・ 製 図	2		
㊦物理基礎	2	★バーチャルリアリティ	2	★電 子 工 学	2		
㊦英語基礎Ⅰ	1	★産 業 情 報 論	2	★機 械 工 学 概 論	2		
㊦英語基礎Ⅱ	1	★経 営 情 報 論	2	★原 子 力 体 感 研 修	2		
☆離 散 数 学	2	情報工学基礎実験Ⅰ	①				
☆グ ラ フ 理 論 入 門	2	情報工学基礎実験Ⅱ	①				
プログラミング入門②		★電 気 工 学	2				
プログラミング言語②		★放 射 線 の 利 用	2				
ウェブデザイン②							
★デジタル映像表現	2						
★原子力エネルギー	2						

注1. ○で囲まれた数字は必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注2. この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

注3. ■、●、◆は総合教養の選択科目、▲、▼は工学基礎の選択科目、㊦はリメディアル科目、★は専門および専門関連の選択科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている(次ページの卒業要件を参照のこと)。

システム情報工学科単位集計表 (情報メディアコース)

(平成29年度入学生用)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	11	11	22	22	11	5	16	38	1	1	2	40	0	6	6	46
	選択	20	23	43	43	24	24	48	91	26	32	58	149	2	0	2	151
	計	31	34	65	65	35	29	64	129	27	33	60	189	2	6	8	197
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数	修得単位数 40単位以上				修得単位数 80単位以上				修得単位数 120単位以上				/				
進級 および 卒業要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 25単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 35単位以上 情報工学基礎実験 I、IIを修得のこと。				<ul style="list-style-type: none"> ・必修単位すべて46単位 ・●、■、◆の科目の合計 単位数が18単位以上 ただし、●印の科目から 8単位以上 ■印の科目から 6単位以上 ・▲印の科目から10単位以上 ・▼印の科目から2単位以上 ・★印の科目から40単位以上 ・上記の科目を含めて 124単位以上 ただし、□印の科目を 含めてもよい。 				

注1. この表には、進級要件、卒業要件の単位表には含まれていない教職科目の単位数は含まれていない。

注2. 卒業要件の欄において、必修科目(46単位)、●、■、◆印(18単位)、▲印(10単位)、▼印(2単位)、★印(40単位)の合計は116単位である。卒業要件を満たすには、そのほかに8単位以上の科目を修得し、合計124単位以上としなければならない。ただし、●印の科目からは8単位以上が、■印の科目からは6単位以上が含まれていなければならない。また、合計124単位の中に□印の単位を含めることができる。

システム情報工学科カリキュラム (情報メディアコース)

区分	分野	第 1 学 年				第 2 学 年			
		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
導入 転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1			キャリアデザインⅡ	1		
	工学への関心	キャリアデザインⅣ	1						
総合 教養科目	人間科学	歴史	2	経済学	2	心理学	2	哲学	2
	国際 コミュニケーション			日本語表現法	2	文学	2		
		現代英語Ⅰ	①	現代英語Ⅱ	①	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1
		ドイツ語基礎Ⅰ	1	ドイツ語基礎Ⅱ	1	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1
	体育科学 総合学際	中国語基礎Ⅰ	1	中国語基礎Ⅱ	1	中国語コミュニケーションⅠ	1	中国語コミュニケーションⅡ	1
		体育学	1	スポーツ特別演習	1	スポーツ健康学	1		
		海外研修	1	主題別ゼミナールⅠ	2	主題別ゼミナールⅡ	2	主題別ゼミナールⅢ	2
工学 基礎科目	工学基礎	微分	②	積分	②	確率・統計	2		
				線形代数	②				
				基礎物理学Ⅰ	2	基礎物理学Ⅱ	2	基礎物理学Ⅲ	2
		基礎化学Ⅰ	2	基礎化学Ⅱ	2				
		物理科学	2			環境とエネルギー	2	生命科学	2
		物理学実験	2	化学実験	2				
リメ ディアル科目	リメディアル	基礎情報科学	②						
		数学基礎Ⅰ	1						
		数学基礎Ⅱ	1						
		物理基礎	2						
		英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1				
専門 科目	システム分野					情報通信工学	②	情報ネットワーク入門	2
						システム数理	②		
	情報分野	離散数学	2	グラフ理論入門	2	情報数理	②	計測情報工学	2
						オペレーティングシステム	2	データベース	2
		プログラミング入門	②	プログラミング言語	②	アルゴリズム	②	プログラム設計	②
						コンピュータシステム	②	論理回路	②
	人間・社会分野	デジタル映像表現	2	ウェブデザイン	②	コンピュータグラフィックス	2	バーチャルリアリティ	2
						産業情報論	2	経営情報論	2
	実験・研修・その他					情報工学基礎実験Ⅰ	①	情報工学基礎実験Ⅱ	①
専門 関連科目	専門関連						電気工学	2	
	原子力工学			原子力エネルギー	2	放射線の利用	2		
進級要件 総計25単位以上 (必修10単位以上) 修得単位数					進級要件 総計60単位以上 (必修25単位以上) 修得単位数				

- 注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。■は必修科目、その他は選択科目を意味する。
 注2. 総合教養科目から必修を含めて20単位以上を修得すること。
 ただし、この中には、人間科学分野から8単位以上、国際コミュニケーション分野から必修を含めて8単位以上を含むこと。
 注3. 工学基礎科目(物理学実験、化学実験を除く)から必修を含めて18単位以上を修得すること。
 注4. 物理学実験、化学実験から2単位以上を修得すること。

(平成29年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位		
キャリアデザインⅢ			2					キャリアデザイン	導入 転換科目
								工学への関心	
職業倫理	2	日本国憲法	2					人間科学	総合 教養科目
実践日本語表現	2							国際	
英語特別演習	1							コミュニケーション	
ドイツ語特別演習	1							体育科学	
中国語特別演習	1							総合学際	
		主題別講義	2						工学 基礎科目
								工学基礎	
								リメディアル	
情報ネットワーク設計	2	情報ネットワーク構築	2					システム分野	専 門 科 目
情報システム論	2	ロボット工学	2						
		情報セキュリティ	2					情報分野	
制御工学	2	シミュレーション工学	2						
デジタル信号処理	2	知識工学	2						
		パターン情報処理	2						
		数値解析	2					人間・社会分野	
		言語とコンパイラ	2						
		集積回路	2						
		マルチメディア工学	2					人間・社会分野	
人間情報科学	2	情報文化論	2						
情報工学応用実験Ⅰ	①	情報工学応用実験Ⅱ	①	卒業研究⑥					実験・研修・その他
情報工学特別講義	2	情報専門ゼミナール	2						
学外研修	1								
設計・製図	2								
電子工学	2							専 門 関 連 科 目	
機械工学概論	2								
		原子力体感研修	2	原子燃料サイクル・安全工学				原子力工学	
進級要件 総計100単位以上(必修35単位以上) 修得単位数				卒業要件 総計124単位以上(必修46単位を含む) 修得単位数					

注5. 専門科目と専門関連科目から必修を含めて70単位以上を修得すること。

注6. 注2～注5までの修得条件に加えて、科目区分を問わず8単位以上を修得すること。

注7. 3年から4年への進級要件には情報工学基礎実験Ⅰ、Ⅱの単位を含むこと。

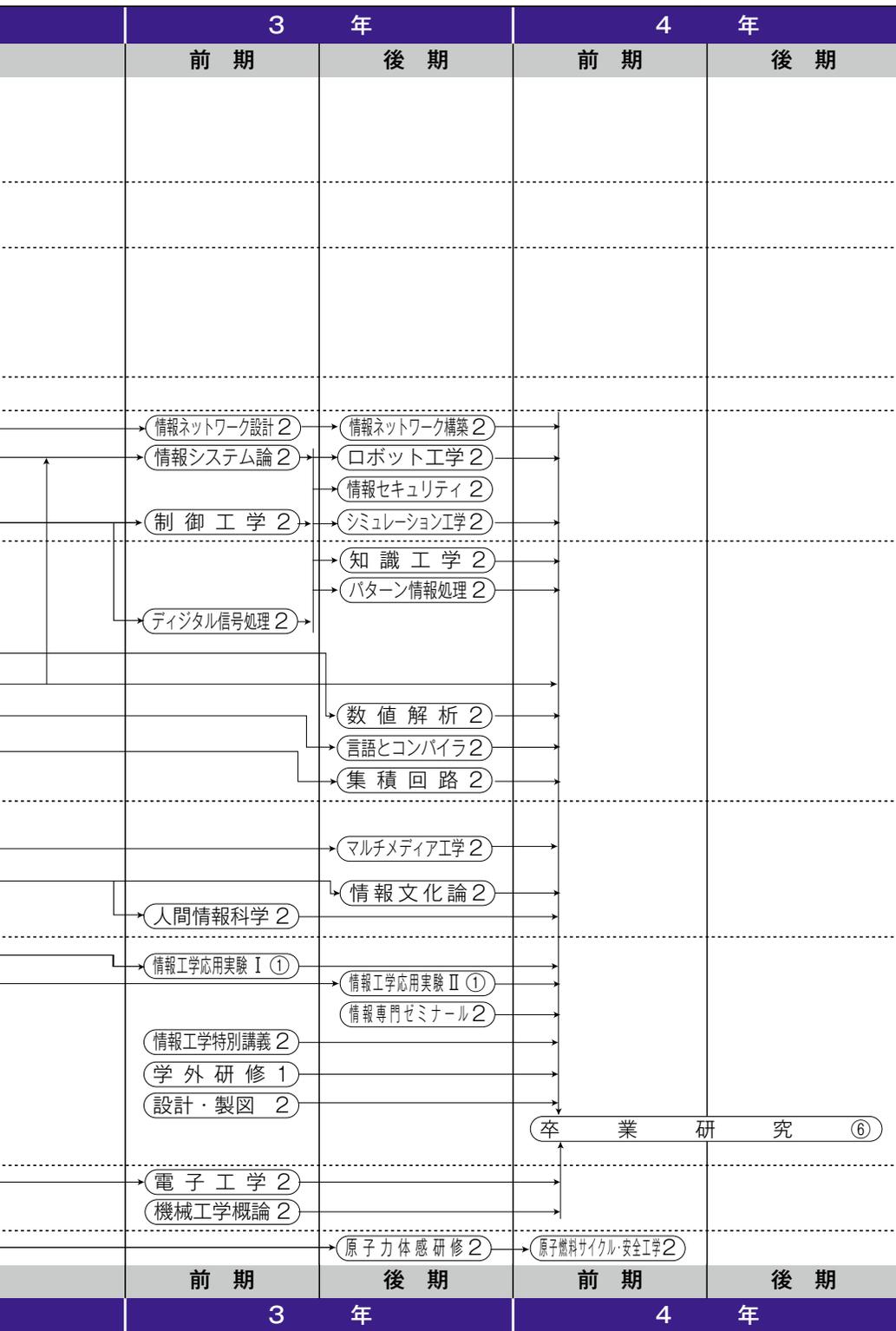
システム情報工学科 工学基礎科目および専門科目を中心とした履修の

区分	学 年	1 年		2 年	
	学 期	前 期	後 期	前 期	後 期
導入・転換科目	工学への関心	情報基礎ゼミナール② 情報科学アラカルト②	情報工学概論②		
工学基礎科目	数 学	微 分②	積 分② 線形代数②	確率・統計②	
	自 然 科 学	基礎化学 ② 物理学実験 ② 物理科学 ②	基礎物理学Ⅰ② 基礎化学Ⅱ② 化学実験②	基礎物理学Ⅱ②	基礎物理学Ⅲ②
	情 報	基礎情報科学②		環境とエネルギー②	生命科学②
専門科目	シ ス テ ム			情報通信工学② システム数理②	情報ネットワーク入門② 計測情報工学②
	情 報	離散数学 ② プログラミング入門②	グラフ理論入門② プログラミング言語②	情報数理② オペレーティングシステム② アルゴリズム② コンピュータシステム②	データベース② プログラム設計② 論理回路②
	人 間 ・ 社 会	デジタル映像表現②	ウェブデザイン②	コンピュータグラフィクス②	バーチャルリアリティ② 経営情報論②
	実験・実習・その他			産業情報論② 情報工学基礎実験Ⅰ①	情報工学基礎実験Ⅱ①
専門関連科目	専門関連				電気工学②
	原子力工学		原子力エネルギー②	放射線の利用②	
区分	学 期	前 期	後 期	前 期	後 期
	学 年	1 年		2 年	

注1：科目名称の後の数字は単位数を表す。○は必修科目、その他は選択科目の単位数を表す。

流れ (情報メディアコース)

(平成29年度入学生用)



2.11.4 バイオ環境工学科の学習・教育目標と教育課程

今日、社会経済の発展や豊かな生活の実現は、環境と調和した方法で安全性にも十分配慮して達成されなければなりません。生産活動においては、プロセスの高効率化や最適化を図る新たな方法の開発あるいはプロセスの改善など化学工学分野の技術が環境負荷低減にとって極めて大切です。一方、持続可能な循環型社会の実現には、これに加え背後で生産活動を支える、環境浄化技術、廃棄物の再資源化や資源回収技術、生産活動による環境への影響を評価する環境計測など、環境を保全する観点からの環境工学分野の取り組みも重要となります。また、近年プロセス技術や環境を保全する分野におけるバイオテクノロジーの導入はめざましく、化学工業・発酵工業・医薬品製造・農業などの幅広い分野で、微生物や遺伝子組換え技術による、有用物質の生産や作物の育種技術などが取り入れられていて不可欠な技術となっています。

バイオ環境工学科では、広い視野と技術者としての倫理観・責任感を持ち、プロセス技術、環境工学およびバイオテクノロジーなどの複数領域の必要な知識と技術を合わせ持ち、応用展開力およびデザイン力を発揮して、化学や食品の製造やその製造設備、環境浄化や環境分析などの複合分野に関わる課題に対する解決力を有する技術者の育成を目的とします。

■バイオ環境工学科の学習・教育目的

環境との調和と人間の豊かさを併せ持つバイオ環境工学に対応するため、バイオ環境工学科はバイオテクノロジー、食品の安心・安全、環境調和プロセス技術、環境修復技術などに関わる科学的・専門的知識と、幅広い教養やコミュニケーション力・デザイン力、人間性豊かな総合判断力と応用展開能力、ならびに生涯学習能

力をもつ技術者の育成を学習・教育の目的としています。

バイオ環境工学科には、バイオサイエンスコースと環境工学コース、およびバイオ環境工学コースの3コースがあります。学生諸君はいずれかのコースに所属して学習を進めることになります。所属コースの確定は3学年進級時に、学生諸君の希望に基づいて行われますが、バイオ環境工学コースでは必修として扱う科目が多いので、このコースが目安として定めている単位取得目標を十分考慮して決めることが大切です。

1. バイオサイエンスコース

バイオサイエンスコースは、バイオテクノロジー分野に関わる技術者を育成するコースです。微生物の機能や遺伝子操作、あるいは生態系や生物中の生理活性物質の解析などに関する理解を深め、環境保全・修復や生物資源の有効利用に必要な専門知識と応用展開能力を身につけます。

バイオサイエンス分野に関連する科目を選択履修することが可能で、卒業後は、バイオ産業、食品産業、環境分析関連分野などで社会貢献できます。

2. 環境工学コース

環境工学コースは、環境工学分野に関わる技術者を育成するコースです。環境保全・修復に関わる環境・化学・食品プロセスを科学的に理解し、環境調和製品の生産や環境修復に必要な専門知識と応用展開能力を身につけます。

環境工学分野に関連する科目を選択履修することが可能で、卒業後は、環境産業、化学産業、食品産業、環境分析産業、エネルギー関連分野などで社会貢献できます。

3. バイオ環境工学コース

バイオ環境工学コースは、バイオサイエンスと環境工学を融合した分野の応用展開能力をもつ高度な技術者の育成コースです。

そのため、バイオ環境工学コースの履修モデルは他のコースよりも修得するべき科目が多くなっており、それらを学習することで、環境保全・修復関連産業、バイオ・食品産業における物質・エネルギー変換プロセスのバイオ・科学的理解、環境調和・環境修復プロセス全般の専門知識と応用展開力およびデザイン力を身につけます。卒業後は、環境・化学・発酵・食品・薬品産業や環境分析・エネルギー関連分野などで社会貢献できます。

■ バイオサイエンスコースの学習・教育目標

バイオサイエンスコースでは、次のような技術者の育成を教育目標とします。

- (A) 社会人として倫理観と強い責任感を持ち、地域社会と地球の将来を考え得るバイオサイエンス技術者
 - (A-1) 職業倫理を通して、社会人としての立場・役割を認識し、技術者として強い倫理観を持って行動できる能力を身につける。
 - (A-2) バイオテクノロジー分野の学習などを通して、地域社会ひいては地球の将来のために環境調和型発展を推進できる能力を身につける。
- (B) 数学・自然科学・情報技術の基礎知識を着実に理解し、それを応用できる能力を持つ技術者
 - (B-1) 数学、化学、物理および情報技術などの工学基礎に関する知識を身につける。
 - (B-2) バイオテクノロジーあるいは環境科学などの幅広い基礎知識とそれらを環境調和型思考に発展させ得る能力を身につける。
- (C) 基礎的な専門知識を着実に理解し、それを応用できる能力を持つ技術者
 - (C-1) 情報技術を含む工学基礎に関する知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力を身につける。
 - (C-2) バイオテクノロジー、微生物工学、遺伝子工学、生化学および酵素工学などバイオテクノロジー・生物化学に関する専門基礎知識を身につける。
 - (C-3) 環境生物学、生理学など生命科学に関する専門基礎知識と生態・環境関連の能力を身につける。
 - (C-4) 物理化学、分析化学、環境化学量論およびエネルギーと物質の循環など環境化学・環境工学に関する基礎的能力を身につける。
 - (C-5) バイオテクノロジー実験、食品プロセス実習および卒業研究などを通して、課題の発掘・調査・解決能力を身につける。
- (D) 環境調和型技術および食品衛生技術に関する理解と運用ができる技術者
 - (D-1) 環境生物学、グリーンケミストリー、環境影響評価論などを通して、環境影響をデザインできる学際的な素養と能力を身につける。
 - (D-2) 品質管理および技術マネジメントを通して、地域社会における環境調和型技術の習得と運用ができる能力を身につける。
 - (D-3) 食品工学、食品製造学および食品衛生学など食品衛生に関する専門基礎知識を身につける。
 - (D-4) 食品などの製造プラントの体験実習などを通して、食品プロセスおよびプラントの実際を理解し、食品製造に関する専門基礎知識を身につける。
- (E) コミュニケーション能力と国際的な感覚を併せ持つ人間性豊かな技術者
 - (E-1) 教養科目を幅広く学ぶことにより、多面的な見方・考え方、主体的に行動する力、バランス感覚を身につける。
 - (E-2) 国内外の人々とのコミュニケーションにより、自己を確立し、異文化を理解するための語学力を身につける。
- (F) 自ら考え、積極的に行動し、将来の資格取得能力と生涯自己学習能力を持つ技術者

(F-1) バイオ・環境関連ならびにバイオ技術者などの資格取得に挑戦できる実力を身につける。

(F-2) 大学における学習を通して、生涯にわたり、新しい知識の獲得を常に目指して積極的に学び、それを活用し、身近な課題を解決できる力を恒常的に身につける。

■バイオサイエンスコースのカリキュラム編成方針

次の方針でカリキュラムを編成しています。なお、科目の配置、科目間のつながりなどは、科目表、カリキュラム図、履修の流れ図に示してあります。

1) 4年間一貫教育：導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、リメディアル科目、専門科目の5区分の科目により、総合的に調和のとれた4年間一貫教育を実施する。

→学習・教育目標(A)、(B)、(C)、(D)、(E)、(F)の実現

2) 導入転換科目：将来の自己の確立を促す科目および高校教育から大学教育への円滑な誘導を促す科目。キャリアデザイン、工学への関心。

→学習・教育目標(A)、(B)、(C)、(D)、(F)の実現

3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際分野の科目群。

→学習・教育目標(A)、(E)の実現

4) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、物理、化学、情報処理の科目群。

→学習・教育目標(B)の実現

5) リメディアル科目：大学教育に必要な数学と英語の学力を必要に応じて再習得するための科目群。

→学習・教育目標(B)、(E)の実現

6) 専門科目：専門基礎、バイオサイエンス、環境工学、総合、実験・実習・演習、研修、

原子力工学の科目群

→学習・教育目標(A)、(B)、(C)、(D)、(F)の実現

■バイオサイエンスコースの学習・教育方法

次の方法により学習・教育を実施します。

1) 個別指導により、大学生活への円滑な移行を支援し、きめ細かい履修指導を行う。

→学習・教育目標(F)の実現

2) 実験、実習、演習、研修など実践体験型学習を重視し、学問の理解、課題の発見、適切な対応を通して創造的な人間性を育成する教育。

→学習・教育目標(B)、(C)、(D)の実現

3) IT社会において、実践的な人材として活躍できる、情報機器を活用した学習・教育。

→学習・教育目標(B)、(C)の実現

4) 総合的な学習・教育の場としてセミナー、卒業研究を重視し、プレゼンテーション能力の育成を図る。

→学習・教育目標(C)、(E)の実現

5) 経済性、安全性、信頼性、社会および環境への影響を考慮しながら問題解決に対応できる応用能力、デザイン能力、マネジメント能力の充実を目指す学習・教育。

→学習・教育目標(A)、(D)の実現

6) 少人数教育の実施やオフィスアワーを設け学生諸君と教職員との絆を築くことにより、学生諸君が自主的、継続的に学習できる能力を身につける指導を行う。

→学習・教育目標(F)の実現

7) 学生による「授業評価制度」を設け、授業内容など学習・教育に関する要望についての「授業評価アンケート」結果に基づき継続的な教育改善を実施していきます。なお、教育環境についても整備していきます。

■環境工学コースの学習・教育目標

環境工学コースは、次のような技術者を育成することを教育の目標とします。

(A) 社会人として倫理観と強い責任感を持ち、地域社会と地球の将来を考え、環境保全・環境修復に配慮できる技術者

(A-1) 職業倫理を通して、社会人としての立場・役割を認識し、技術者として強い倫理観を持って行動できる能力を身につける。

(A-2) 環境工学分野の学習を通して、地域社会ひいては地球の将来のために環境調和型発展を推進できる能力を身につける。

(B) 数学・自然科学・情報技術の基礎知識を着実に理解し、それを応用できる能力を持つ技術者

(B-1) 数学、化学、物理および情報技術などの工学基礎に関する知識を身につける。

(B-2) バイオテクノロジーあるいは環境工学などの幅広い基礎知識とそれらを環境調和型思考に発展させ得る能力を身につける。

(C) 基礎的な専門知識の着実な理解とその応用・展開能力を持ち、実務に対処し得る技術者

(C-1) 工業数学、情報技術を含む工学基礎に関する知識、およびそれらを問題課題解決に利用できる能力を身につける。

(C-2) 環境化学量論、エネルギーと物質の循環など環境工学に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる基礎的能力を身につける。

(C-3) リサイクル工学、環境応答学、エコインダストリーなど環境工学に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる基礎的能力を身につける。

(C-4) 無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、環境汚染物質分析学あるいは計測工学など環境化学・環境分析に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用で

きる基礎的能力を身につける。

(C-5) 食品などの製造プラントの体験実習および食品工学などを通して、プロセスおよびプラントの実際を理解し、環境調和型プロセスおよびプラントに関する基礎的な専門知識を身につける。

(C-6) 環境工学、環境化学、エコインダストリーならびに環境影響評価を通して、環境調和型製品のデザイン能力を身につける。

(C-7) 実験、実習および卒業研究などを通して、課題の発掘・調査・解決能力を身につける。

(D) 環境調和型技術の実践を目指し、その技術の理解と運用ができる技術者

(D-1) グリーンケミストリー、環境影響評価論、環境応答学などを通して、環境影響をデザインできる学際的な素養と能力を身につける。

(D-2) 品質管理、エコインダストリーおよび技術マネジメントを通して、地域社会における環境調和型技術の習得と、運用ができる能力を身につける。

(E) コミュニケーション能力と国際的な感覚を併せ持つ人間性豊かな技術者

(E-1) 教養科目を幅広く学ぶことにより、多面的な見方・考え方、主体的に行動する力、バランス感覚を身につける。

(E-2) 国内外の人々とのコミュニケーションにより、自己を確立し、異文化を理解するための語学力を身につける。

(F) 自ら考え、積極的に行動し、将来の資格取得能力と生涯自己学習能力を持つ技術者

(F-1) 化学および環境関連の資格取得に挑戦できる実力を身につける。

(F-2) 大学における学習を通して、生涯にわたり、新しい知識の獲得を常に目指して積極的に学び、それを活用し、身近な課題を解決できる力を恒常的に身につける。

■環境工学コースのカリキュラム編成方針

次の方針でカリキュラムを編成しています。なお、科目の配置、科目間のつながりなどは、科目表、カリキュラム図、履修の流れ図に示してあります。

- 1) 4年間一貫教育：導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、リメディアル科目、専門科目の5区分の科目により、総合的に調和のとれた4年間一貫教育を実施する。
→学習・教育目標(A)、(B)、(C)、(D)、(E)、(F)の実現
- 2) 導入転換科目：将来の自己の確立を促す科目および高校教育から大学教育への円滑な誘導を促す科目。キャリアデザイン、工学への関心。
→学習・教育目標(A)、(B)、(C)、(D)、(F)の実現
- 3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際分野の科目群。
→学習・教育目標(A)、(E)の実現
- 4) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、物理、化学、情報処理の科目群。
→学習・教育目標(B)、(C)の実現
- 5) リメディアル科目：大学教育に必要な数学と英語の学力を必要に応じて再習得するための科目群。
→学習・教育目標(B)、(E)の実現
- 6) 専門科目：専門基礎、バイオサイエンス、環境工学、総合、実験・実習・演習、研修、原子力工学の科目群
→学習・教育目標(A)、(B)、(C)、(D)、(F)の実現

■環境工学コースの学習・教育方法

次の方法により学習・教育を実施します。

- 1) 個別指導により、大学生活への円滑な移行を支援し、きめ細かい履修指導を行う。

→学習・教育目標(F)の実現

- 2) 実験、実習、演習、研修など実践体験型学習を重視し、学問の理解、課題の発見、適切な対応を通して創造的な人間性を育成する教育。
→学習・教育目標(B)、(C)、(D)の実現
- 3) IT社会において、実践的な人材として活躍できる、情報機器を活用した学習・教育。
→学習・教育目標(B)、(C)の実現
- 4) 総合的な学習・教育の場としてセミナー、卒業研究を重視し、プレゼンテーション能力の育成を図る。
→学習・教育目標(C)、(E)の実現
- 5) 経済性、安全性、信頼性、社会および環境への影響を考慮しながら問題解決に対応できる応用能力、デザイン能力、マネジメント能力の充実を目指す学習・教育。
→学習・教育目標(A)、(D)の実現
- 6) 少人数教育の実施やオフィスアワーを設け学生諸君と教職員との絆を築くことにより、学生諸君が自主的、継続的に学習できる能力を身につける指導を行う。
→学習・教育目標(F)の実現
- 7) 学生による「授業評価制度」を設け、授業内容など学習・教育に関する要望についての「授業評価アンケート」結果に基づき継続的な教育改善を実施していきます。なお、教育環境についても整備していきます。

■バイオ環境工学コースの学習・教育目標

バイオ環境工学コースは、次のような技術者を育成することを教育の目標とします。

- (A) 社会人として倫理観と強い責任感を持ち、地域社会と地球の将来を考え、環境保全・環境修復に配慮できる技術者
- (A-1) 社会、地球環境、生命など、複数の視点から多面的に物事を考える能力を身につける。

- (A-2) 職業倫理を通して、社会人としての立場・役割を認識し、技術者として強い倫理観を持って行動できる能力を身につける。
- (B) 数学・自然科学・情報技術の基礎知識を着実に理解し、それを応用できる能力を持つ技術者
- (B-1) 自然科学、情報技術など工学の基礎となる知識とそれらを応用できる能力を身につける。
- (C) 基礎的な専門知識の着実な理解とその応用・展開能力を持ち、実務に対処し得る技術者
- (C-1) バイオ・環境工学に関わる技術者として備えるべき生命科学分野の基礎知識を身につける。
- (C-2) 微生物、食品に関連する知識を習得し、物質生産、環境修復などへ応用できる能力を身につける。
- (C-3) バイオ・環境工学に関わる技術者として備えるべき化学各分野の基礎知識を身につける。
- (C-4) 化学工学に関連する知識を習得し、環境調和型プロセスの設計に応用できる能力を身につける。
- (C-5) 環境の分析や計測に関連する知識を習得し、環境問題の解決に応用できる能力を身につける。
- (D) 環境調和型技術の実践を目指し、複数分野の技術の理解と運用ができる技術者
- (D-1) バイオ、プロセスシステム、環境の知識を融合して、環境調和と人類の豊かさを両立するための環境調和型プロセスをデザインできる素養と能力を身につける。
- (E) コミュニケーション能力と国際的な感覚を併せ持つ人間性豊かな技術者
- (E-1) 日本語で論理的な記述や口頭による表現および討論ができる能力を身につける。
- (E-2) 外国語による読解と表現の基礎能力を

習得し、技術者として必要なコミュニケーション能力を身につける。

- (F) 自ら考え、積極的に行動し、生涯自己学習能力を持つ技術者
- (F-1) 生涯にわたり、常に新しい知識の獲得を目指して自主的に学び、それを活用した課題解決能力および資格取得のための能力を身につける。
- (F-2) 実験、実習および卒業研究などを通して、与えられた制約の下で計画的に仕事を進めることができる能力を身につける。

■バイオ環境工学コースのカリキュラム編成方針

次の方針でカリキュラムを編成しています。なお、科目の配置、科目間のつながりなどは、科目表、カリキュラム図、履修の流れ図に示してあります。

- 1) 4年間一貫教育：導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、リメディアル科目、専門科目の5区分の科目により、総合的に調和のとれた4年間一貫教育を実施する。
→学習・教育目標(A)、(B)、(C)、(D)、(E)、(F)の実現
- 2) 導入転換科目：将来の自己の確立を促す科目および高校教育から大学教育への円滑な誘導を促す科目。キャリアデザイン、工学への関心。
→学習・教育目標(A)、(C)、(D)、(E)、(F)の実現
- 3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際分野の科目群。
→学習・教育目標(A)、(E)、(F)の実現
- 4) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、物理、化学、情報処理の科目群。
→学習・教育目標(A)、(B)、(C)、(F)の実現
- 5) リメディアル科目：大学教育に必要な数学と英語の学力を必要に応じて再習得する

ための科目群。

→学習・教育目標(B)、(E)の実現

6) 専門科目：専門基礎、バイオサイエンス、環境工学、総合、実験・実習・演習、研修、原子力工学の科目群

→学習・教育目標(A)、(B)、(C)、(D)、(F)の実現

継続的な教育改善を実施していきます。なお、教育環境についても整備していきます。

■バイオ環境工学コースの学習・教育方法

次の方法により学習・教育を実施します。

1) 個別指導により、大学生活への円滑な移行を支援し、きめ細かい履修指導を行う。

→学習・教育目標(F)の実現

2) 実験、実習、演習、研修など実践体験型学習を重視し、学問の理解、課題の発見、適切な対応を通して創造的な人間性を育成する教育。

→学習・教育目標(B)、(C)の実現

3) IT 社会において、実践的な人材として活躍できる、情報機器を活用した学習・教育。

→学習・教育目標(B)の実現

4) 総合的な学習・教育の場としてセミナー、卒業研究を重視し、プレゼンテーション能力の育成を図る。

→学習・教育目標(C)、(E)の実現

5) 経済性、安全性、信頼性、社会および環境への影響を考慮しながら問題解決に対応できる応用能力、デザイン能力、マネジメント能力の充実を目指す学習・教育。

→学習・教育目標(A)、(D)の実現

6) 少人数教育の実施やオフィスアワーを設け学生諸君と教職員との絆を築くことにより、学生諸君が自主的、継続的に学習できる能力を身につける指導を行う。

→学習・教育目標(F)の実現

7) 学生による「授業評価制度」を設け、授業内容など学習・教育に関する要望についての「授業評価アンケート」結果に基づき

バイオ環境工学科カリキュラム (平成29年度入学生)

導入転換科目から下記の必修科目を修得すること。

導入転換科目		
科目名	必修 / 選択	単位数
バイオ環境工学概論	必修	2
バイオ環境工学導入デザインⅠ	必修	2
バイオ環境工学導入デザインⅡ	必修	2
導入転換科目合計		6

総合教養科目から下記の必修科目を含めて20単位以上修得すること。

導入教養科目		
科目名	必修 / 選択	単位数
職業倫理	必修	2
現代英語Ⅰ	必修	1
現代英語Ⅱ	必修	1
英語コミュニケーションⅠ	必修	1
英語コミュニケーションⅡ	必修	1
歴史	バイオ環境工学コース推奨	2
経済学	バイオ環境工学コース推奨	2
実践日本語表現	バイオ環境工学コース推奨	2
上記を含めて、 人間科学分野から8単位以上、 国際コミュニケーション分野から8単位以上、 となるように総合教養科目から20単位以上修得すること。		
総合教養科目合計		20

工学基礎科目から下記の必修科目を修得すること。

工学基礎科目		
科目名	必修 / 選択	単位数
微分	必修	2
積分	必修	2
基礎化学Ⅰ	必修	2
化学実験	必修	2
基礎情報科学	必修	2
線形代数	バイオ環境工学コース推奨	2
確率・統計	バイオ環境工学コース推奨	2
基礎物理学Ⅰ	バイオ環境工学コース推奨	2
基礎物理学Ⅱ	バイオ環境工学コース推奨	2
基礎物理学Ⅲ	バイオ環境工学コース推奨	2
基礎化学Ⅱ	バイオ環境工学コース推奨	2
工学基礎科目合計		10

卒業に必要な最低単位数を各区分ごとに下記に示す。

卒業案件		
コース	区分	単位数
バイオサイエンスコース 環境工学コース バイオ環境工学コース	導入転換科目	6
	総合教養科目	20
	工学基礎科目	10
	専門科目	70
	全区分合計	124

「必修」は全コースで必修、「バイオ環境工学コース推奨」はバイオ環境工学コースにおいて履修することが望ましい科目であることを示す。

専門科目から下記の必修科目を含めて70単位以上修得すること。

専門科目		
科目名	必修 / 選択	単位数
バイオテクノロジー	必修	2
生化学	必修	2
物理化学	必修	2
分析化学	必修	2
環境化学量論	必修	2
エネルギーと物質の循環	必修	2
微生物学	必修	2
分子遺伝学	必修	2
環境熱力学	必修	2
グリーンケミストリー	必修	2
バイオ環境工学基礎演習Ⅰ	必修	2
バイオ環境工学基礎演習Ⅱ	必修	2
バイオ環境工学演習Ⅰ	必修	2
バイオ環境工学演習Ⅱ	必修	2
バイオ環境工学基礎実験	必修	1
バイオ環境工学実験Ⅰ	必修	1
バイオ環境工学実験Ⅱ	必修	1
バイオ環境プロセス実習Ⅰ	必修	1
バイオ環境プロセス実習Ⅱ	必修	1
バイオ環境工学セミナー	必修	1
卒業研究	必修	6
無機化学	バイオ環境工学コース推奨	2
有機化学	バイオ環境工学コース推奨	2
微生物工学	バイオ環境工学コース推奨	2
酵素工学	バイオ環境工学コース推奨	2
食品工学	バイオ環境工学コース推奨	2
リサイクル工学	バイオ環境工学コース推奨	2
エコインダストリー	バイオ環境工学コース推奨	2
環境影響評価論	バイオ環境工学コース推奨	2
品質管理	バイオ環境工学コース推奨	2
技術マネジメント	バイオ環境工学コース推奨	2
環境材料学	選択	2
伝熱工学	選択	2
計測工学	選択	2
遺伝子工学	選択	2
環境生物学	選択	2
プログラミング実習	選択	1
生物有機化学	選択	2
食品分析学	選択	2
食品製造学	選択	2
食品化学	選択	2
食品衛生学	選択	2
公衆衛生学	選択	2
生理学	選択	2
環境応答学	選択	2
機器分析	選択	2
環境汚染物質分析学	選択	2
地球環境システム科学	選択	2
電気電子工学概論	選択	2
機械工学概論	選択	2
原子力エネルギー	選択	2
放射線の利用	選択	2
原子力体感研修	選択	2
原子燃料サイクル・安全工学	選択	2
専門科目合計		70

バイオ環境工学科開講学年別授業科目表

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	★公衆衛生学	2
キャリアデザインⅣ	1	■哲 学	2	職 業 倫 理	②	★電気電子工学概論	2
バイオ環境工学概論	②	■文 学	2	■日本国憲法	2	★機械工学概論	2
バイオ環境工学導入デザインⅠ	②	■心 理 学	2	□実践日本語表現	2	バイオ環境工学セミナー	①
バイオ環境工学導入デザインⅡ	②	英語コミュニケーションⅠ	①	□英語特別演習	1	卒 業 研 究	⑥
■歴 史	2	英語コミュニケーションⅡ	①	□ドイツ語特別演習	1	★原子燃料サイクル・安全工学	2
■経 済 学	2	□ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	□中国語特別演習	1		
□日 本 語 表 現 法	2	□ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	◆主 題 別 講 義	2		
現 代 英 語 Ⅰ	①	□中国語コミュニケーションⅠ	1	★伝 熱 工 学	2		
現 代 英 語 Ⅱ	①	□中国語コミュニケーションⅡ	1	★計 測 工 学	2		
□ドイ ツ 語 基 礎 Ⅰ	1	◆ス ポ ー ツ 健 康 学	1	★遺 伝 子 工 学	2		
□ドイ ツ 語 基 礎 Ⅱ	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	2	★酵 素 工 学	2		
□中 国 語 基 礎 Ⅰ	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ	2	★生 物 有 機 化 学	2		
□中 国 語 基 礎 Ⅱ	1	▲確 率 ・ 統 計	2	★食 品 分 析 学	2		
◆体 育 学	1	▲工 業 数 学	2	★食 品 製 造 学	2		
◆ス ポ ー ツ 特 別 演 習	1	▲基 礎 物 理 学 Ⅱ	2	★食 品 工 学	2		
◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	2	▲基 礎 物 理 学 Ⅲ	2	★食 品 衛 生 学	2		
◆海 外 研 修	1	▲環 境 と エ ネ ル ギ ー	2	★生 理 学	2		
▲線 形 代 数	2	生 化 学	②	★環 境 応 答 学	2		
微 分	②	物 理 化 学	②	★エ コ イ ン ダ ス ト リ ー	2		
積 分	②	分 析 化 学	②	★環 境 影 響 評 価 論	2		
▲基 礎 物 理 学 Ⅰ	2	★有 機 化 学	2	★環 境 汚 染 物 質 分 析 学	2		
基 礎 化 学 Ⅰ	②	★環 境 材 料 学	2	★品 質 管 理	2		
▲基 礎 化 学 Ⅱ	2	環 境 化 学 量 論	②	★技 術 マ ネ ジ メ ン ト	2		
▲物 理 学 実 験	2	エ ネ ル ギ ー と 物 質 の 循 環	②	バイオ環境工学演習Ⅰ	②		
化 学 実 験	②	微 生 物 学	②	バイオ環境工学演習Ⅱ	②		
▲物 理 科 学	2	★微 生 物 工 学	2	バイオ環境工学実験Ⅰ	①		
▲生 命 科 学	2	分 子 遺 伝 学	②	バイオ環境工学実験Ⅱ	①		
基 礎 情 報 科 学	②	★食 品 化 学	2	バイオ環境プロセス実習Ⅱ	①		
㊦数 学 基 礎 Ⅰ	1	環 境 熱 力 学	②	★原 子 力 体 感 研 修	2		
㊦数 学 基 礎 Ⅱ	1	★リ サ イ ク ル 工 学	2				
㊦物 理 基 礎	2	★機 器 分 析	2				
㊦英 語 基 礎 Ⅰ	1	★地 球 環 境 シ ス テ ム 科 学	2				
㊦英 語 基 礎 Ⅱ	1	バイオ環境工学基礎演習Ⅰ	②				
バイオテクノロジー	②	バイオ環境工学基礎演習Ⅱ	②				
★無 機 化 学	2	バイオ環境工学基礎実験	①				
★環 境 生 物 学	2	バイオ環境プロセス実習Ⅰ	①				
グリーンケミストリー	②	★放 射 線 の 利 用	2				
★プ ロ グ ラ ム ミ ング 実 習	1						
★原 子 力 エ ネ ル ギ ー	2						

注1. ○で囲まれた数字は必修科目の単位数である。

注2. この科目表には、進級要件、卒業単位数に含まれない教職科目は記載されていない。

注3. ■、□、◆はそれぞれ、総合教養科目の人間科学分野、国際コミュニケーション分野、体育科学分野または総合学際分野の選択科目である。▲は工学基礎科目の選択科目、㊦はリメディアル科目、★は専門科目の選択科目である。

それぞれについて、卒業に必要な修得単位数が定められている(卒業要件を参照のこと)。

バイオ環境工学科単位集計表

(平成29年度入学生用)

学年		第1学年				第2学年				第3学年				第4学年			
		前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
開講 単位 数	区分																
	必修	15	7	22	22	13	11	24	46	5	4	9	55	1	6	7	62
	選択	19	23	42	42	19	23	42	84	19	26	45	129	6	2	8	137
	計	34	30	64	64	32	34	66	130	24	30	54	184	7	8	15	199
標準 修得 単 位 数	修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上				/				
進級 および 卒業 要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 12単位以上				修得単位数 58単位以上 必修の修得単位数 30単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 47単位以上 バイオ環境工学基 礎実験、バイオ環 境工学実験Ⅰ・Ⅱ を修得のこと				必修科目のすべて 62単位 ■、□、◆印の科 目の合計が14単位 以上、 ただし、 ■印の科目から 6単位以上 □印の科目から 4単位以上 ★印の科目から 30単位以上 上記の科目を含め 124単位以上				

注1. この集計表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2. 卒業要件の欄において、必修科目(62単位)、■、□、◆印(14単位)、★印(30単位)の合計は106単位である。
卒業要件を満たすには、その他に18単位以上の科目を修得し、合計124単位以上とする必要がある。

バイオ環境工学科カリキュラム

区分	分野	第1学年				第2学年			
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	1	キャリアデザインⅣ	1
	工学への関心	バイオ環境工学概論 バイオ環境工学導入デザインⅠ	② ②	バイオ環境工学導入デザインⅡ	②				
総合教養科目	人間科学	歴史	2	経済学	2	文学 心理学	2 2	哲学	2
	国際コミュニケーション	現代英語Ⅰ ドイツ語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅰ	① 1 1	現代英語Ⅱ ドイツ語基礎Ⅱ 中国語基礎Ⅱ	① 1 1	英語コミュニケーションⅠ ドイツ語コミュニケーションⅠ 中国語コミュニケーションⅠ	① 1 1	英語コミュニケーションⅡ ドイツ語コミュニケーションⅡ 中国語コミュニケーションⅡ	① 1 1
	体育科学	体育学	1	スポーツ特別演習	1	スポーツ健康学	1		
	総合学際	海外研修	1	主題別ゼミナールⅠ	2	主題別ゼミナールⅡ	2	主題別ゼミナールⅢ	2
	工学基礎	微分 物理科学 基礎化学Ⅰ 化学実験 基礎情報科学 生命科学	② 2 ② ② ② 2	積分 線形代数 基礎物理学Ⅰ 物理学実験 基礎化学Ⅱ	② 2 2 2 2	確率・統計 基礎物理学Ⅱ	2 2	工業数学 基礎物理学Ⅲ 環境とエネルギー	2 2 2
リメディアル	数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 物理基礎 英語基礎Ⅰ	1 1 2 1	英語基礎Ⅱ	1					
専門科目	専門基礎	バイオテクノロジー	②	無機化学	2	生化学 物理化学	② ②	環境材料学 分析化学	2 ②
	バイオサイエンス	環境生物学	2			有機化学 環境化学量論 微生物学	2 ② ②	エネルギーと物質の循環 微生物工学 分子遺伝学	② 2 ②
	環境工学			グリーンケミストリー	②	地球環境システム科学	2	食品化学 環境熱力学 リサイクル工学 機器分析	2 ② 2 2
	総合								
	実験・実習・演習	プログラミング実習	1			バイオ環境工学基礎演習Ⅰ バイオ環境工学基礎実験 バイオ環境プロセス実習Ⅰ	② ① ①	バイオ環境工学基礎演習Ⅱ	②
	研修								
	原子力工学			原子力エネルギー	2	放射線の利用	2		
進級要件 総計25単位以上(必修12単位以上) 修得単位数					進級要件 総計58単位以上(必修30単位以上) 修得単位数				

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。■は必修科目、その他は選択科目を意味する。
 注2. 導入転換科目から6単位修得すること。
 注3. 総合教養科目から必修を含めて20単位以上修得すること。ただし、人間科学分野からは8単位以上、国際コミュニケーション分野からは8単位以上修得すること。

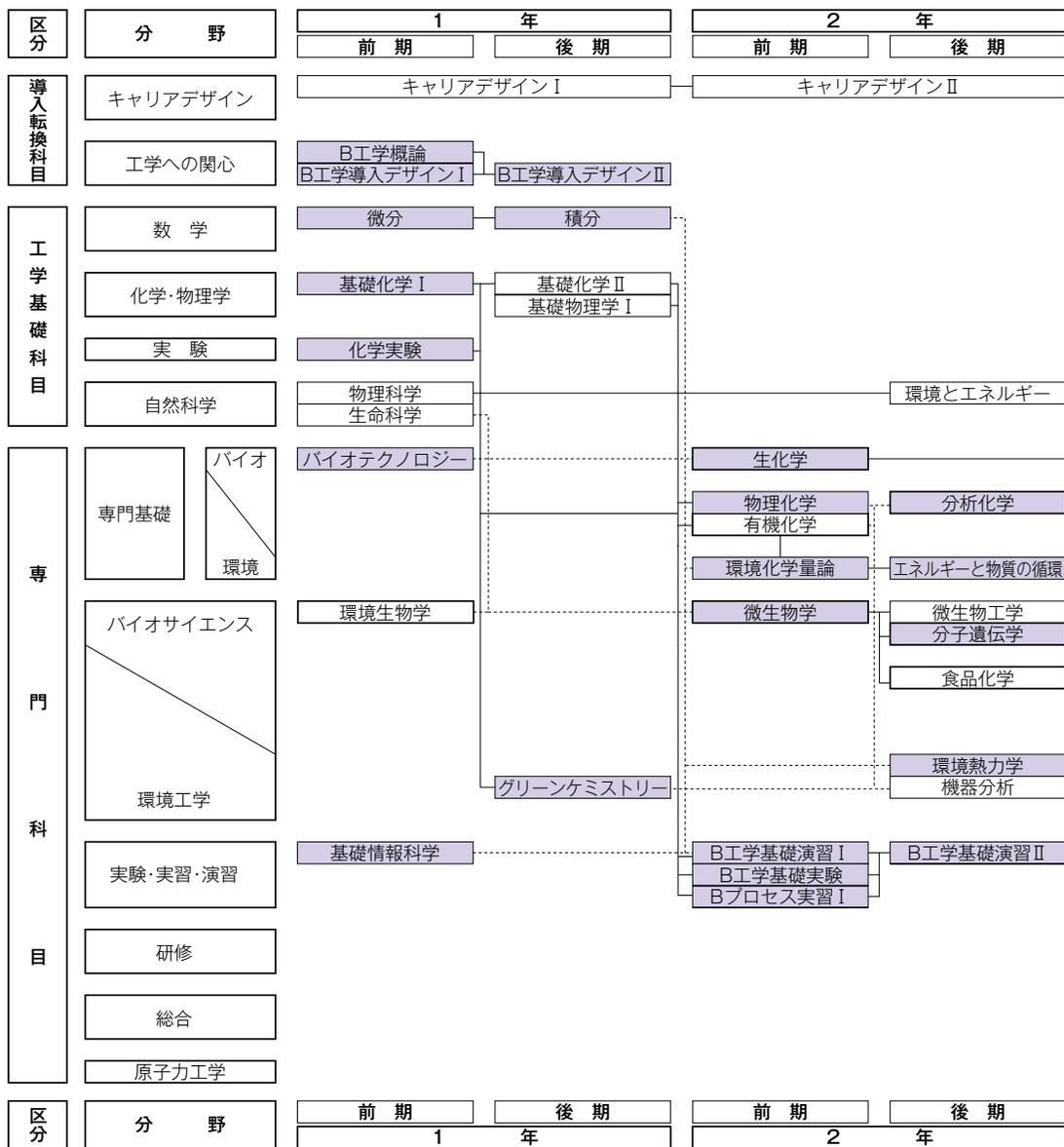
(平成29年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位		
キャリアデザインⅢ	2							キャリアデザイン	導入 転換 科目
								工学への関心	
		職業倫理②	2					人間科学	総合 教養 科目
実践日本語表現	2	日本国憲法	2					国際	
英語特別演習	1							コミュニケーション	
ドイツ語特別演習	1							体育科学	
中国語特別演習	1							総合学際	
		主題別講義	2						
								工学基礎	工学 基礎 科目
								リメディアル	リ メ デ ィ ア ル 科 目
		計測工学	2					専門基礎	専 門 科 目
伝熱工学	2	生理学	2					バイオサイエンス	
遺伝子工学	2	酵素工学	2						
生物有機化学	2	食品分析学	2						
食品工学	2	食品製造学	2						
		食品衛生学	2	公衆衛生学	2				
環境汚染物質分析学	2	環境応答学	2					環境工学	
		環境影響評価論	2						
技術マネジメント	2			電気電子工学概論	2			総合	
品質管理	2			機械工学概論	2				
バイオ環境工学演習Ⅰ	②	バイオ環境工学演習Ⅱ	②					実験・実習・演習	
バイオ環境工学実験Ⅰ	①	バイオ環境工学実験Ⅱ	①						
		バイオ環境プロセス実習Ⅱ	①						
				バイオ環境工学セミナー	①			研 修	
				卒 業 研 究	⑥				
		原子力体感研修	2			原子燃料サイクル・安全工学	2	原子力工学	
進級要件 総計100単位以上（必修47単位以上）				卒業要件 総計124単位以上（必修62単位を含む）					
修得単位数				修得単位数					

注4. 専門科目から必修を含めて70単位以上を修得すること。

注5. 3年から4年への進級要件の必修47単位の中にはバイオ環境工学基礎実験、バイオ環境工学実験Ⅰ、バイオ環境工学実験Ⅱの単位を含むこと。

バイオ環境工学科 工学基礎科目および専門科目を中心とした履修の



は必修科目。
 は食品衛生管理者資格の取得に必要な科目。
 また、「B」は「バイオ環境」を表す。

流れ (バイオサイエンスコース)

(平成29年度入学生用)

3 年	
前期	後期
キャリアデザインⅢ	

4 年	
前期	後期

カリキュラムと学習・教育目標との関係

A-2、B-2、C-5、D-1、F-2

B-1

B-1

B-1

B-1、B-2

C-2

C-4

C-4

C-4

C-3、C-4、D-3

A-2、B-1、C-1、C-4、D-1

B-1、C-1、C-2、C-4、C-5、
D-3、D-4、F-1、F-2

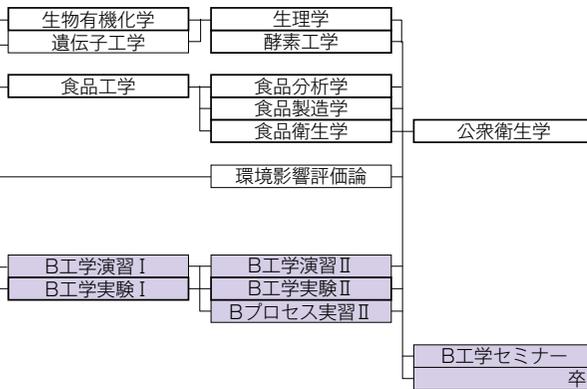
B-2、C-1、C-2、C-3、C-4、
C-5、D-1、F-2

C-1、D-2、F-2

前期	後期
3 年	

前期	後期
4 年	

カリキュラムと学習・教育目標との関係



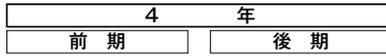
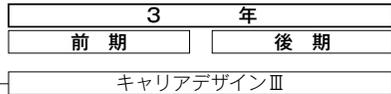
バイオ環境工学科 工学基礎科目および専門科目を中心とした履修の

区分	分野	1年		2年	
		前期	後期	前期	後期
導入 転換 科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ	
	工学への関心	B工学概論 B工学導入デザインⅠ	B工学導入デザインⅡ		
工学 基礎 科目	数学	微分	積分 線形代数		工業数学
	化学・物理学	基礎化学Ⅰ	基礎化学Ⅱ 基礎物理学Ⅰ		
	実験	化学実験			
	自然科学	物理科学 生命科学			環境とエネルギー
専 門 科 目	専門基礎	バイオテクノロジー	無機化学	生化学 物理化学 有機化学	分析化学 環境材料学
	バイオ			環境化学量論	エネルギーと物質の循環
	環境			微生物学	分子遺伝学
	バイオサイエンス	環境生物学			
	環境工学		グリーンケミストリー		環境熱力学 リサイクル工学 機器分析
	実験・実習・演習	基礎情報科学		B工学基礎演習Ⅰ B工学基礎実験 Bプロセス実習Ⅰ	B工学基礎演習Ⅱ
	研修				
	総合				
	原子力工学				
	区分	分野	前期	後期	前期
		1年		2年	

は必修科目。
 は食品衛生管理者資格の取得に必要な科目。
 また、「B」は「バイオ環境」を表す。

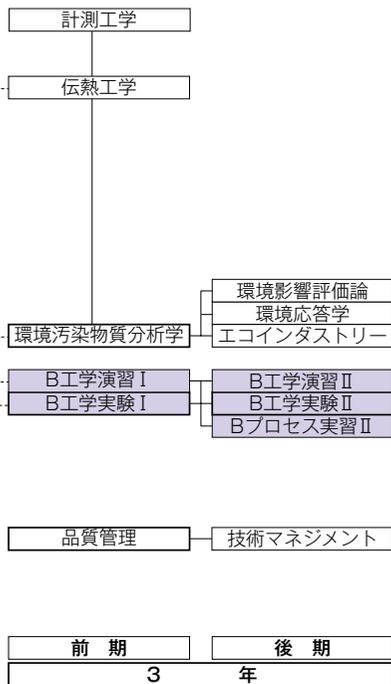
流れ (環境工学コース)

(平成29年度入学生用)



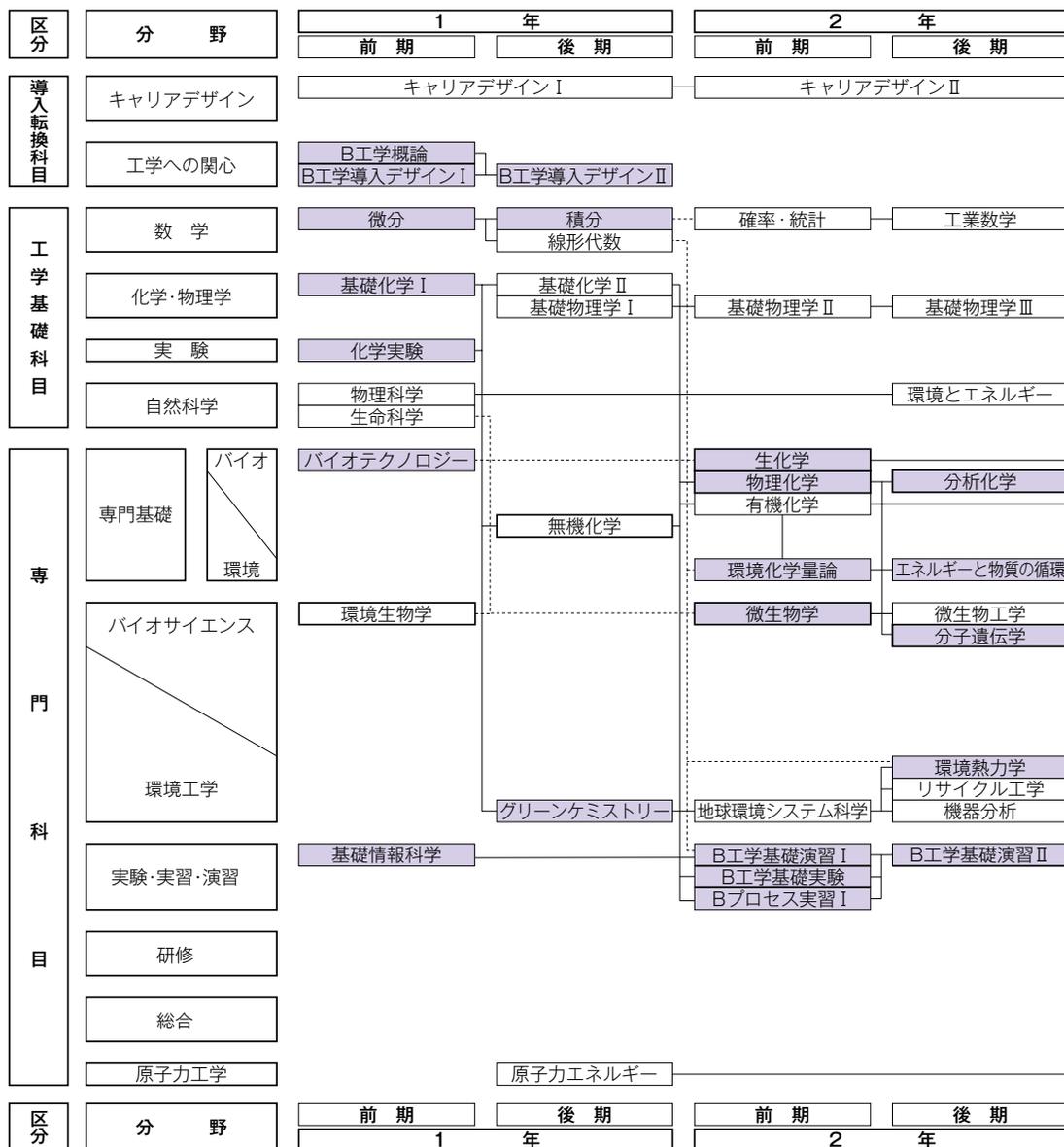
カリキュラムと学習・教育目標との関係

- A-2、B-2、C-7、D-1、F-2
- B-1、C-1
- B-1
- B-1
- B-1、B-2
- B-2
- C-4
- C-2
- B-2、C-4
- C-4、C-5
- A-2、B-1、C-2、C-3、C-4、C-6、D-1、D-2
- A-2、B-1、B-2、C-1、C-2、C-4、C-5、C-7、F-1、F-2
- B-2、C-1、C-2、C-3、C-4、C-5、C-6、C-7、D-1、F-2
- C-1、D-2、F-2



カリキュラムと学習・教育目標との関係

バイオ環境工学科 工学基礎科目および専門科目を中心とした履修の



は必修科目。
 は食品衛生管理者資格の取得に必要な科目。
 また、「B」は「バイオ環境」を表す。

流れ (バイオ環境工学コース)

(平成29年度入学生用)

3 年	
前期	後期
キャリアデザインⅢ	

4 年	
前期	後期

カリキュラムと学習・教育目標との関係

A-1、C-1、C-3、D-1、E-1、F-2

B-1、C-4

B-1、C-3

B-1、C-3、F-2

A-1、B-1、C-1

C-1

B-1、C-3、C-5

C-4

C-1、C-2、C-3

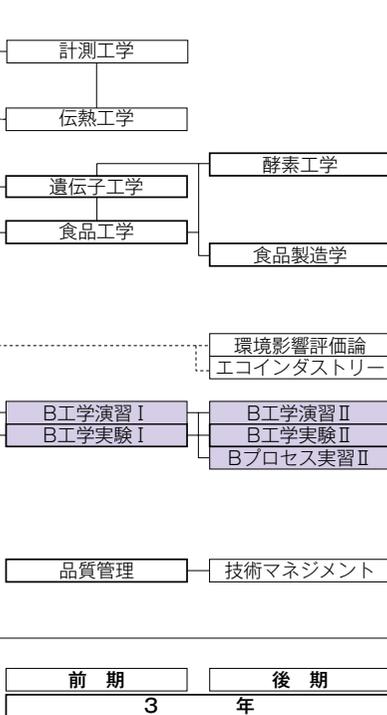
C-2、C-4、C-5

A-1、B-1、C-2、C-4、C-5

A-1、B-1、C-1、C-2、C-3、C-4、C-5、F-1、F-2

C-1、C-2、C-3、C-4、C-5、D-1、F-1、F-2

A-1、B-1、C-3、F-2



原子燃料サイクル・安全工学

3 年	
前期	後期

4 年	
前期	後期

カリキュラムと学習・教育目標との関係

2.11.5 土木建築工学科の学習・教育到達目標と教育課程

■土木建築工学科の学習・教育目的

近年、社会基盤と居住空間の整備、自然環境と調和した地域社会の発展、地域・文化・時代により変化する建設分野への要請および諸課題へ対応するため、土木・建築の双方の基礎領域を理解しうる技術者が必要となってきました。さらに、土木と建築の両分野がこれまでに専門分化し培ってきた概念や技術を融合し、都市・地域社会マネジメントの観点に基づく「安全で快適なまちづくり」を計画・実施していくため、分野間を超えて協調・協力していくことの重要性が指摘されています。

この社会的な要請にこたえるため、土木建築工学科 (Civil Engineering and Architecture) では、必要な科学と土木・建築工学に係る技術と知識、幅広い教養と倫理観、コミュニケーション能力を有し、人間性豊かな総合判断力と応用展開能力、および生涯自己学習能力を身につけた技術者の養成を目的としています。

■土木建築工学科の学習・教育到達目標

(A) 社会人としての良識と倫理を備え、地域社会と地球の将来を考える素養を持つ技術者

(A-1) 総合教養的な知識や学力を修得し、技術者として歴史や風土・文化的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける

【総合教養と多面的考察力】

(A-2) 技術者としての倫理観を備え、科学技術と自然環境・社会との関わりや社会への貢献を意識して行動できる素養を身につける

【技術者倫理】

(B) 科学・情報技術の基礎知識を有し、それらを活用して一般社会に貢献できる技術者

(B-1) 科学と工学基礎に関する知識や学力を修得し、実社会で活用できる能力を身につける

【科学技術の知識と応用能力】

(B-2) 情報技術に関する基本的な知識とスキルを修得し、実社会で活用できる能力を身につける

【情報技術のスキルと応用能力】

(C) 技術的・社会的に十分な日本語コミュニケーション能力を身につけ、国際交流にも抵抗感のない技術者

(C-1) 技術的・社会的に十分に通用する日本語コミュニケーション能力を身につける

【日本語表現能力】

(C-2) 外国語によるコミュニケーション基礎能力を修得し、国際交流・協調に関する素養を身につける

【国際コミュニケーション基礎力】

(D) 基本的な専門知識と応用・展開の素養を身につけた技術者

(D-1) 構造工学、測量学、計画学、材料、製図などの土木・建築工学共通の基本的な知識と学力を修得する

【土木・建築専門基礎科目の基礎学力】

(D-2) 水工学、地盤工学、コンクリート工学などの土木工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、中堅技術者として応用・展開できる能力を身につける

【土木専門基幹科目の基礎学力と応用展開能力】

(D-3) 環境工学または土木計画・道路工学の基礎的な知識と学力を修得し、それを応用・展開できる素養を身につける

【土木専門関連科目の基礎学力と応用展開能力】

(D-4) 建築の設計・製図・計画、建築環境と建築設備、建築構造、施工など建築に関する基礎的な知識と学力を修得し、応用・展開できる能力を身につける

【建築専門科目の基礎学力】

(D-5) 建築に関する特定領域の高度な専門知識を修得し、応用・展開できる能力を身につける

【建築専門科目の応用展開力】

(E) デザイン能力・チームワーク力を備え、自ら積極的に学んで行動し、実社会において実務に対処しうる技術者

(E-1) 課題に対する計画、遂行、分析・評価、解決などの総合的なデザイン能力を身につける

【デザイン能力】

(E-2) 常に新しい技術に関心を持ち、実験・実習・演習などを通じて、自ら積極的に学び・行動する能力を身につける

【自主的・継続的学習能力と行動力】

(E-3) 専門知識や工学ツールを用いて与えられた条件の下で課題を解決しまとめる能力を身につける

【プロジェクトマネジメント力】

(E-4) チームで仕事をする際に自分の役割や責任・仕事の目的を理解し、目的を達成するために適切な行動ができる能力を身につける

【チームワーク力】

(F) 北東北地域の土木・建築技術に関心を持つとともに、国際的視野も合わせ持った技術者

(F-1) 北東北地域の自然・社会特性とこれに係わる土木・建築技術に関する知識や素養を身につける

【地域の土木・建築技術への関心】

(F-2) 国内外の土木・建築技術に関心をもち、技術的な課題を国際的な視点からも考える素養を身につける

【国内外の土木・建築技術事情への関心】

以上が土木建築工学科の学習・教育到達目標です。教育プログラム（カリキュラム、教員組織、教育環境など全てを含む）は学生と教員がこれらの目標を達成するために実施されるものです。学生諸君はこれらの目標を達成したことが評価・証明されてはじめて卒業生（プログラム修了生）となることができます。したがって、学習・教育到達目標を常に意識して学習を進める必要があります。

■土木建築工学科の履修コース

土木建築工学科は、これまで「土木工学」および「建築工学」で実施されてきた専門教育を柱とし、両分野を融合させた新しい教育課程となっています。学科では将来の進路や取得資格を想定した教育上の履修コースとして、「社会デザインコース」、「土木工学コース」および「建築工学コース」の3コースを設定しています。それぞれの人材育成像は以下の通りです。

・社会デザインコース：土木分野および建築分野における一般的な専門知識を身につけ、地域社会に貢献できる技術者

卒業時に、建築分野の科目は2級建築士や木造建築士の受験要件を満たし、土木分野の科目を履修して測量士補を取得します。建築分野・土木分野で十分に活躍でき、住宅産業・資材供給産業・建設系企業で双方の知識を必要とする新しい建設技術者を目指すコースです。

・土木工学コース：主として土木分野における高度な専門知識を身につけ、地域社会に貢献できる技術者

卒業時に、日本技術者教育認定機構 JABEE 認定修了生および測量士補を取得します。JABEE 認定修了生（修習技術者）は、技術士を卒業後4年で受験できます。技術への積極的な取り組みが必要とされる建設コンサルタント・公務員・建設系企業などを旨とするコースです。

・建築工学コース：主として建築分野における高度な専門知識を身につけ、地域社会に貢献できる技術者

卒業時に、実務経験2年で1級建築士の受験要件を満たします。また、すまいデザイナー科目を履修するなど高い自由度の中で建築分野の幅広い学習が可能です。新しい構想・提案が必要とされる建築設計事務所・建設系企業・起業などを旨とするコー

スです。

履修コースにより応用的な学習分野の比重は異なるものの、いずれのコースにおいても土木分野および建築分野における双方の基礎技術を横断的に学習できることが大きな特色となっています。

■土木建築工学科のカリキュラム編成方針

次の方針でカリキュラムを編成しています。

- 1) 4年間一貫教育：調和と連携のとれた教育を目指し、導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、リメディアル科目、そして専門基礎科目、土木専門科目、建築専門科目、専門応用科目の8区分の科目群で構成されています。
- 2) 導入転換科目：高校教育から大学教育への円滑な移行と将来のキャリアプランニング、さらに土木建築工学への興味を喚起するための科目を配置します。
- 3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際 of 4分野にわたる教養科目を配置します。
- 4) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、物理、化学、情報処理等の自然科学に係わる科目群を配置します。
- 5) リメディアル科目：大学教育に必要な数学、物理、英語の学力を必要に応じて再修得するための科目を配置します。
- 6) 専門基礎科目：土木工学および建築工学を学ぶ上で必要となる、構造工学、測量学、計画学、材料、製図などの共通の基礎科目を配置します。
- 7) 土木専門科目：土木工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、それらを応用・展開できる能力を修得することを目的として、土木基礎、環境保全、防災建設、土木応用の4分野から構成される科目を配置します。

8) 建築専門科目：建築工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、それらを応用・展開できる能力を修得することを目的として、建築基礎、アーキテクト、すまいデザイナー、建築応用の4分野から構成される科目を配置します。

9) 専門応用科目：土木建築工学における応用・実用的な能力を深めることを目的として、インターンシップ、学外研修などの科目や卒業研究を配置します。さらに、原子力工学関連科目も配置しています。

■土木建築工学科の学習・教育方法

次の方法により教育を実施します。

- 1) 履修コースと指導：将来の進路や取得可能な資格の希望に応じた履修コースが設けられ、2年進級時に履修コースを選択します。各履修コースには、その人材育成像に応じた履修要件が設定されています。3年進級前までは、コースの変更ができます。原則として3年進級以降はコース変更はできません。また、学年担任が学生一人一人に対して適切な履修計画の立案および学修の指導を行います。
- 2) 実験・実習などの実践的教育：講義で学んだ知識を実践して理解をさらに深め、かつ応用力を養うこと、また新たな学習課題を自ら発見することを目的としています。
- 3) 設計・演習教育：設計および演習教育を特に重視します。構造（建築）物を実際に設計し、かつ表現、建設できることは、土木・建築に対する理解を深めるとともに、デザイン能力や多様な実務を処理する能力の養成に役立ちます。
- 4) 視聴覚・情報機器の活用：本学科では、ITルームを整備し、大学での授業・教育に加えて、自宅での自律的な学習・利用を促進します。また、通常の授業においても視

聴覚機器を積極的に活用し、理解度の向上に努めます。

- 5) 卒業研究：4年間の学習・教育の総仕上げとして位置づけられています。本科目では、より総合的な学習や特定領域における研究活動を通じて、土木建築工学に関する応用展開能力を育成し、さらには学術・技術の発展に貢献することが求められます。

土木建築工学科開講学年別授業科目表 (社会デザインコース)

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	●建築プレゼンテーション	2
キャリアデザインⅣ	1	□哲 学	2	職 業 倫 理②	2	●機械工学概論	2
建 築 概 論②	2	□文 学	2	□日 本 国 憲 法	2	●電気電子工学概論	2
土 木 工 学 概 論	②	□心 理 学	2	■実 践 日 本 語 表 現 演 習 Ⅰ	1	●卒業研究	⑥
□歴 史	2	英語コミュニケーションⅠ	①	■英 語 特 別 演 習 Ⅰ	1	●原子燃料サイクル・安全工学	2
□経 済 学	2	英語コミュニケーションⅡ	①	■ドイ ツ 語 特 別 演 習 Ⅰ	1		
■日 本 語 表 現 法	2	■ドイ ツ 語 コミュニケーションⅠ	1	■中 国 語 特 別 演 習 Ⅰ	1		
現 代 英 語 Ⅰ①	①	■ドイ ツ 語 コミュニケーションⅡ	1	◆主 題 別 講 義	2		
現 代 英 語 Ⅱ	①	■中 国 語 コミュニケーションⅠ	1	▲応 用 数 学	2		
■ドイ ツ 語 基 礎 Ⅰ	1	■中 国 語 コミュニケーションⅡ	1	都 市 計 画②	②		
■ドイ ツ 語 基 礎 Ⅱ	1	◆ス ポー ツ 健 康 学	1	応 用 測 量 学 及 び 実 習	②		
■中 国 語 基 礎 Ⅰ	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナー ル Ⅱ	2	上 下 水 道 工 学②	②		
■中 国 語 基 礎 Ⅱ	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナー ル Ⅲ	2	●水 処 理 工 学	2		
◆体 育 学	1	▲確 率 ・ 統 計 学	2	河 川 の 科 学②	②		
◆ス ポー ツ 特 別 演 習	1	▲基 礎 物 理 学 Ⅱ	2	海 岸 ・ 港 湾 工 学	②		
◆主 題 別 ゼ ミ ナー ル Ⅰ	2	▲基 礎 物 理 学 Ⅲ	2	道 路 ・ 交 通 工 学②	②		
◆海 外 研 修	1	▲環 境 と エ ネ ル ギ ー	2	●応 用 構 造 力 学	2		
微 積 分②	②	▲生 命 科 学	2	地 盤 構 造 工 学②	②		
線 形 代 数②	②	測 量 学②	②	●コ ン ク リー ト 構 造 学	2		
▲基 礎 物 理 学 Ⅰ	2	測 量 実 習①	①	●構 造 物 の メ ン テ ナ ンス	2		
▲基 礎 化 学 Ⅰ	2	構 造 力 学 Ⅰ②	②	●施 工 技 術	2		
▲基 礎 化 学 Ⅱ	2	構 造 力 学 Ⅱ②	②	●土 木 工 学 実 験 Ⅱ	1		
▲物 理 科 学	2	建 設 材 料 学②	②	●水 工 学 設 計 ・ 演 習	2		
▲基 礎 情 報 科 学②	②	材 料 の 力 学②	②	●橋 工 学 設 計 ・ 演 習	2		
▼物 理 学 実 験	2	●情 報 処 理 処 理	2	●地 盤 工 学 設 計 ・ 演 習	2		
▼化 学 実 験	2	●情 報 処 理 応 用	2	●コ ン ク リー ト 工 学 設 計 ・ 演 習	2		
㊦数 学 基 礎 Ⅰ	1	●廃 棄 物 と 工 事 排 水	2	●キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ Ⅰ	2		
㊦数 学 基 礎 Ⅱ	1	基 礎 水 理 学②	②	●キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ Ⅱ	2		
㊦物 理 基 礎 Ⅱ	2	●流 れ の 力 学②	②	●土 木 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ	2		
㊦英 語 基 礎 Ⅰ	1	●計 画 数 理	2	●土 木 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ	2		
㊦英 語 基 礎 Ⅱ	1	地 盤 の 科 学②	②	●技 術 英 文 読 解	2		
基 礎 製 図②	②	地 盤 の 力 学②	②	●地 球 温 暖 化 と 防 災	2		
C A D 基 礎 演 習	②	●コ ン ク リー ト の 材 料 科 学	2	●火 災 学	2		
地 球 環 境 論	②	土 木 工 学 実 験 Ⅰ	②	建 築 法 規 規 則②	②		
●デ ッ サ ン	2	建 築 設 計 Ⅰ③	③	建 築 材 料 実 験②	②		
●原 子 力 エ ネ ル ギ ー	2	建 築 設 計 Ⅱ③	③	●建 築 設 計 Ⅲ	3		
		住 居 計 画②	②	●音 ・ 光 環 境 演 習	1		
		建 築 計 画②	②	●音 ・ 光 環 境 演 習 備 備	2		
		建 熱 ・ 空 気 環 境②	②	●建 築 設 計	2		
		建 築 構 造②	②	●鉄 筋 コ ン ク リー ト 構 造	2		
		建 築 施 工②	②	●鋼 構 造	2		
		●建 築 史	2	●構 造 設 計	2		
		●熱 ・ 空 気 環 境 演 習	1	●建 築 生 産	2		
		●構 造 力 学 演 習 Ⅰ	1	●す ま い 設 計	3		
		●構 造 力 学 演 習 Ⅱ	1	●C A D ・ C G 演 習 Ⅰ	2		
		●イ ン テ リ ア デ ザ イ ン	2	●C A D ・ C G 演 習 Ⅱ	2		
		●住 生 活 学	2	●木 構 造	2		
		●色 彩 学	2	●雪 国 建 築	2		
		●応 用 電 子 計 算 機	2	●建 築 セ ミ ナー	2		
		●学 外 研 修 Ⅰ	1	●卒 業 研 究 プレ セ ミ ナー	2		
		●放 射 線 の 利 用	2	●イ ン タ ー ン シ ッ プ	1		
				●学 外 研 修 Ⅱ			
				●原 子 力 体 感 研 修	1		

注1：○で囲まれた数字は土木建築工学科およびコース履修上の必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注2：この科目表には、進級要件・卒業単位数に含まれない教職科目は記載されていない。

注3：□、■、◆は総合教養の選択科目、▲、▼は工学基礎の選択科目、●は専門の選択科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている(右ページの卒業要件を参照のこと)。注4：㊦はリメディアル科目である。

土木建築工学科単位集計表 (社会デザインコース)

(平成29年度入学生用)

学年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
		前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
開講 単位 数	区分																
	必修	9	11	20	20	21	18	39	59	14	6	20	79	0	6	6	85
	選択	20	19	39	39	26	26	52	91	35	46	81	172	8	0	8	180
	計	29	30	59	59	47	44	91	150	49	52	101	251	8	6	14	265
標準修得 単 位 数	修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上				/				
進級 および 卒業要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 32単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 56単位以上				<ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目の全て 85単位 ・ □、■、◆印の 科目の合計が20 単位以上た だし、 ・ □印の科目から 8単位以上 ・ ■印の科目から 4単位以上 ・ ▲印の科目から 12単位以上 ・ ▼印の科目から 2単位以上 ・ ●印の科目から 5単位以上 ・ 上記の科目を含 め124単位以上 				

注1：この集計表には、進級要件・卒業要件の単位数には含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2：卒業要件の欄において、必修科目（85単位）、□、■、◆印（20単位）、▲印（12単位）、▼印（2単位）、●印（5単位）の合計は124単位である。

注3：開講単位数（必修・選択の単位数）は、コースの履修要件により算出したものである。

土木建築工学科カリキュラム (社会デザインコース)

区分	分野	第 1 学 年				第 2 学 年			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
導入科目	キャリア形成	キャリアデザインⅣ①	デザインⅠ①	キャリアデザインⅠ①	デザインⅡ①				
	工学への関心	建築概論②	土木工学概論②						
総合教養科目	人間科学	歴史②	経済学②	文学②	哲学②				
	国際コミュニケーション	現代英語Ⅰ①	日本語表現Ⅱ②	英語コミュニケーションⅠ①	英語コミュニケーションⅡ①				
	体育科学	ドイツ語基礎Ⅰ①	ドイツ語基礎Ⅱ①	ドイツ語コミュニケーションⅠ①	ドイツ語コミュニケーションⅡ①				
	総合学際	中国語基礎Ⅰ①	中国語基礎Ⅱ①	中国語コミュニケーションⅠ①	中国語コミュニケーションⅡ①				
		体育①	スポーツ特別演習Ⅰ①	スポーツ健康学①	主観別ゼミナールⅢ②				
工学基礎科目	数 学	海外研修①	積分②	線形代数②	確率・統計学②				
	物理学・化学		基礎物理学Ⅰ②	基礎物理学Ⅱ②	基礎物理学Ⅲ②				
	その他の自然科学	基礎化学Ⅰ②	基礎化学Ⅱ②	環境とエネルギー②	生命科学②				
	情報	基礎情報科学②	化学実験②						
	実 験	物理学実験②							
リメディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ①	数学基礎Ⅱ②						
		英語基礎Ⅰ①	英語基礎Ⅱ①						
専門基礎科目	専門基礎	基礎製図②	CAD基礎演習②	測量学習①	構造力学Ⅰ②	構造力学Ⅱ②			
		デッサン②	地球環境論②	建設材料学②	材料の力学②	情報処理②	情報処理応用②		
土木専門科目	基礎木								
	保環境	(工学・測量)							
	防災建設	(環境衛生工学)							
		(水工学)							
		(計画・交通工学)							
土木応用科目	土木応用	(構造工学)							
		(地盤工学)							
		(コンクリート工学)							
建築専門科目	建築基礎	(施工)							
		(実験)							
	アーキテクト	(設計・演習)							
	デザすまひ	{キャリアデザイン}							
	応用建築	(土木総合デザイン)							
専門応用科目	建築基礎	(総合科目)							
		(建築設計)							
		(計画)							
		(環境)							
		(構造・施工・法規)							
原子力工学	建築基礎	(実験)							
	アーキテクト								
	デザすまひ								
	応用建築								
	専門応用								
原子力工学									
		進級の要件 修得単位数25以上 (必修10単位以上)				進級の要件 修得単位数60以上 (必修32単位以上)			
		標準修得単位数 35単位				標準修得単位数 75単位			

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。 は土木建築工学科およびコースの必修科目、その他は選択科目を意味する。注2. 導入転換科目から4単位を修得すること。
 注3. 総合教養科目から必修を含み20単位以上を習得すること。ただし、人間科学分野から必修を含めて10単位以上、国際コミュニケーション分野から必修を含めて8単位以上を修得すること。

土木建築工学科開講学年別授業科目表 (土木工学コース)

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	ー 建築プレゼンテーション	2
キャリアデザインⅣ	1	□ 哲 学	2	職 業 倫 理 ②	2	● 機 械 工 学 概 論	2
建 築 概 論 ②	2	□ 文 学	2	□ 日 本 国 憲 法	2	● 電 気 電 子 工 学 概 論	2
土 木 工 学 概 論	②	□ 心 理 学	2	■ 実 践 日 本 語 表 現	①	卒 業 研 究	⑥
□ 歴 史	2	英語コミュニケーションⅠ	①	■ 英 語 特 別 演 習	1	● 原 子 燃 料 サ イ ク ル ・ 安 全 工 学	2
□ 経 済 学	2	英語コミュニケーションⅡ	①	■ ドイツ語特別演習	1		
■ 日 本 語 表 現 法	2	■ ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	■ 中 国 語 特 別 演 習	1		
現 代 英 語 Ⅰ ①	①	■ ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	◆ 主 題 別 講 義	2		
現 代 英 語 Ⅱ ①	①	■ 中 国 語 コミュニケーションⅠ	1	▲ 応 用 数 学	2		
■ ドイツ語基礎Ⅰ	1	■ 中 国 語 コミュニケーションⅡ	1	● 都 市 計 画	2		
■ ドイツ語基礎Ⅱ	1	◆ スポーツ健康学	1	応用測量学及び実習	②		
■ 中 国 語 基 礎 Ⅰ	1	◆ 主題別ゼミナールⅡ	2	上 下 水 道 工 学 ②	②		
■ 中 国 語 基 礎 Ⅱ	1	◆ 主題別ゼミナールⅢ	2	★ 水 処 理 工 学	2		
◆ 体 育 学 習	1	▲ 確 率 ・ 統 計 学	2	★ 河 川 の 科 学	2		
◆ スポーツ特別演習	1	▲ 基 礎 物 理 学 Ⅱ	2	★ 海 岸 ・ 港 湾 工 学	2		
◆ 主題別ゼミナールⅠ	2	▲ 基 礎 物 理 学 Ⅲ	2	★ 道 路 ・ 交 通 工 学	2		
◆ 海 外 研 修	1	▲ 環 境 と エ ネ ル ギ ー	2	★ 応 用 構 造 力 学	2		
微 積 分 ②	②	▲ 生 命 科 学	2	地 盤 構 造 工 学 ②	②		
線 形 代 数 ②	②	測 量 学 ②	②	コ ン ク リ ー ト 構 造 学 ②	②		
▲ 基 礎 物 理 学 Ⅰ	2	測 量 実 習 ①	①	★ 構 造 物 の メ ン テ ナ ンス	2		
▲ 基 礎 化 学 Ⅰ	2	構 造 力 学 Ⅰ ②	②	★ 施 工 技 術	2		
▲ 基 礎 化 学 Ⅱ	2	構 造 力 学 Ⅱ ②	②	土 木 工 学 実 験 Ⅱ ①	①		
▲ 物 理 科 学	2	● 建 設 材 料 学	2	水 工 学 設 計 ・ 演 習 ②	②		
▲ 基 礎 情 報 科 学 ②	②	材 料 の 力 学	②	☆ 橋 工 学 設 計 ・ 演 習	2		
▼ 物 理 学 実 験	2	情 報 処 理 ②	②	地 盤 工 学 設 計 ・ 演 習	②		
▼ 化 学 実 験	2	● 情 報 処 理 応 用	2	コ ン ク リ ー ト 工 学 設 計 ・ 演 習	②		
㊦ 数 学 基 礎 Ⅰ	1	廃 棄 物 と 工 事 排 水	②	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ Ⅰ	②		
㊦ 数 学 基 礎 Ⅱ	1	基 礎 水 理 学 ②	②	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ Ⅱ	②		
㊦ 物 理 基 礎 Ⅰ	2	流 れ の 力 学 ②	②	☆ 土 木 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ	②		
㊦ 英 語 基 礎 Ⅰ	1	★ 計 画 数 理 ②	②	☆ 土 木 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ	②		
㊦ 英 語 基 礎 Ⅱ	1	地 盤 の 科 学 ②	②	技 術 英 文 読 解	②		
基 礎 製 図 ②	②	地 盤 の 力 学 ②	②	☆ 地 球 温 暖 化 と 防 災	2		
C A D 基 礎 演 習	②	コ ン ク リ ー ト の 材 料 科 学	②	☆ 火 災 学	2		
地 球 環 境 論	②	土 木 工 学 実 験 Ⅰ	②	● 建 築 法 規 劃	2		
● デ ッ サ ン	2	● 建 築 設 計 Ⅰ	3	● 建 築 材 料 実 験	2		
● 原 子 力 エ ネ ル ギ ー	2	● 建 築 設 計 Ⅱ	3	● 建 築 設 計 Ⅲ	3		
		● 住 居 計 画	2	● 音 ・ 光 環 境	2		
		● 建 築 計 画	2	● 音 ・ 光 環 境 演 習	1		
		● 熱 ・ 空 気 環 境	2	● 建 築 設 計 備 備	2		
		● 建 築 構 造	2	● 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 構 造	2		
		● 建 築 施 工	2	● 鋼 構 造	2		
		● 建 築 史	2	● 構 造 設 計	2		
		● 熱 ・ 空 気 環 境 演 習	1	● 建 築 生 産	2		
		● 構 造 力 学 演 習 Ⅰ	1	ー す ま い 設 計	3		
		● 構 造 力 学 演 習 Ⅱ	1	ー C A D ・ C G 演 習 Ⅰ	2		
		● インテリアデザイン	2	ー C A D ・ C G 演 習 Ⅱ	2		
		● 住 生 活 学	2	● 木 構 造	2		
		● 色 彩 学	2	● 雪 国 建 築	2		
		● 応 用 電 子 計 算 機	2	● 建 築 セ ミ ナ ー	2		
		● 学 外 研 修 Ⅰ	1	ー 卒 業 研 究 プ レ セ ミ ナ ー	2		
		● 放 射 線 の 利 用	2	● インターンシップ	1		
				● 学 外 研 修 Ⅱ	1		
				● 原 子 力 体 感 研 修	2		

注1：○で囲まれた数字は土木建築工学科およびコース履修上の必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。
 注2：この科目表には、進級要件・卒業単位数に含まれない教職科目は記載されていない。
 注3：□、■、◆は総合教養の選択科目、▲、▼は工学基礎の選択科目、★、☆、●は専門の選択科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている（右ページの卒業要件を参照のこと）。注4：㊦はリメディアル科目である。
 注5：一印は原則としてコースによって修得できない科目である。

土木建築工学科単位集計表（土木工学コース）

（平成29年度入学生用）

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
		前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
開講 単位 数	区分																
	必修	9	11	20	20	14	13	27	47	14	10	23	70	0	6	6	76
	選択	20	19	39	39	33	31	64	103	35	42	78	181	8	0	8	189
	計	29	30	59	59	47	44	91	150	49	52	101	251	8	6	14	265
標準修得 単 位 数	修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上				/				
進級 および 卒業要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 32単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 56単位以上				<ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目の全て 76単位 ・ □、■、◆印の 科目の合計が20 単位以上た だし、 □印の科目から 8単位以上 ■印の科目から 4単位以上 ・ ▲印の科目から 12単位以上 ・ ▼印の科目から 2単位以上 ・ ●印の科目から 5単位以上 ・ 上記の科目を含 め124単位以上 				

注1：この集計表には、進級要件・卒業要件の単位数には含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2：卒業要件の欄において、必修科目（76単位）、□、■、◆印（20単位）、▲印（12単位）、▼印（2単位）、★印（12単位）、☆印（2単位）の合計は124単位である。

注3：開講単位数（必修・選択の単位数）は、コースの履修要件により算出したものである。

土木建築工学科カリキュラム (土木工学コース)

区分	分野	第 1 学 年				第 2 学 年			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
導入換 科目	キャリア形成	キャリアデザインⅣ	デザインⅠ	キャリアデザインⅠ	デザインⅡ				
	工学への関心	建築概論②	土木工学概論②						
総合教養科目	人間科学	歴史	経済学	文学	哲学				
	国際コミュニケーション	現代英語Ⅰ①	日本語表現Ⅱ	英語コミュニケーションⅠ①	英語コミュニケーションⅡ①				
	体育科学	ドイツ語基礎Ⅰ	ドイツ語基礎Ⅱ	ドイツ語コミュニケーションⅠ	ドイツ語コミュニケーションⅡ				
	総合学際	中国語基礎Ⅰ	中国語基礎Ⅱ	中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ				
		体育学	スポーツ特別演習Ⅰ	スポーツ健康学	主観別ゼミナールⅢ				
工学基礎科目	数 学	海外研修Ⅰ	積分②	線形代数②	確率・統計学				
	物理学・化学		基礎物理学Ⅰ	基礎物理学Ⅱ	基礎物理学Ⅲ				
	その他の自然科学	基礎化学Ⅰ	基礎化学Ⅱ	環境とエネルギー	生命科学				
	情報	基礎情報科学②	化学実験②						
	実 験	物理学実験Ⅰ	物理学実験Ⅱ						
リメディア ル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ	数学基礎Ⅱ						
		英語基礎Ⅰ	英語基礎Ⅱ						
専門基礎 科目	専門基礎	基礎製図②	CAD基礎演習②	測量学習①	測量実習①				
		デッサン②	地球環境論②	構造力学Ⅰ②	構造力学Ⅱ②				
土木専門 科目	基礎木			情報処理②	情報処理応用②				
	保環境			基礎水理学②	廃棄物と工事排水②				
	防災建設			材料の力学②	流れの力学②				
				情報処理②	計画数理②				
	土木応用			地盤の科学②	地盤の力学②				
建築専門 科目	建築基礎			コンクリートの材料科学②	土木工学実験Ⅰ②				
	アーキテクト								
	デザイン								
	応用建築								
専門応用 科目	専門応用								
	原子力工学								
		進級の要件 修得単位数25以上 (必修10単位以上) 標準修得単位数 35単位				進級の要件 修得単位数60以上 (必修32単位以上) 標準修得単位数 75単位			

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。 は土木建築工学科およびコースの必修科目、その他は選択科目を意味する。注2. 導入換換科目から4単位を修得すること。
注3. 総合教養科目から必修を含み20単位以上を習得すること。ただし、人間科学分野から必修を含めて10単位以上、国際コミュニケーション分野から必修を含めて8単位以上を修得すること。

(平成29年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年			
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
キャリアデザインⅢ	2						
職業倫理②		日本国憲法	2				
実践日本語表現	2						
英語特別演習	2						
ドイツ語特別演習	2						
中国語特別演習	2						
		主題別講義	2				
応用数学	2						
都市計画	2						
		応用測量学及び実習②					
上下水道工学	②	水処理工学	2				
河川の科学	2	海岸・港湾工学	2				
道路・交通工学	2						
応用構造力学	②						
地盤構造工学	2						
コンクリート構造学	②	構造物のメンテナンス	2				
		施工技術	2				
土木工学実験Ⅱ	1						
水工学設計・演習	2	橋工学設計・演習	2				
		地盤工学設計・演習	②				
		コンクリート工学設計・演習	②				
キャリアプランニングⅠ	②	キャリアプランニングⅡ	②				
土木総合デザインⅠ	②	土木総合デザインⅡ	②				
		技術英文読解	②				
		地球温暖化と防災学	2				
		火災	2				
		建築法規	2				
建築材料実験	2						
建築設計Ⅲ	3						
音・光環境	2						
音・光環境演習	1	建築設備	2				
鉄筋コンクリート構造	2						
鋼構	2	構造設計	2				
		建築生産	2				
		すまい設計	3				
CAD・CG演習Ⅰ	2	CAD・CG演習Ⅱ	2				
木構造	2						
		雪国建築	2				
建築セミナー	2	卒業研究プレゼミナー	2	建築プレゼンテーション	2		
インターンシップ	1	学外研修Ⅱ	1				
				機械工学概論	2		
				電気電子工学概論	2		
				卒業研究		⑥	
		原子力体感研修	2	原子燃料サイクル・安全工学	2		
進級の要件 修得単位数100以上(必修56単位以上)				卒業要件 修得単位数124以上(必修76単位以上)			
標準修得単位数 115単位				他に4要件(注2、3、4、5)			

注4. 工学基礎科目から必修を含み22単位以上を修得すること。ただし、実験分野から2単位以上を修得すること。
 注5. 専門科目から必修を含み72単位以上を修得すること。ただし、環境保全分野・防災建設分野から必修を含み30単位以上、土木応用分野から必修を含み17単位以上を修得すること。
 注6. は原則としてコースによって修得できない科目である。

土木建築工学科開講学年別授業科目表 (建築工学コース)

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	●建築プレゼンテーション	2
キャリアデザインⅣ	1	□哲 学	2	職 業 倫 理②	2	●機械工学概論	2
建 築 概 論②	2	□文 学	2	□日 本 国 憲 法	2	●電気電子工学概論	2
土 木 工 学 概 論	②	□心 理 学	2	■実 践 日 本 語 表 現	2	卒 業 研 究	⑥
□歴 史	2	英語コミュニケーションⅠ	①	■英 語 特 別 演 習	1	●原子燃料サイクル・安全工学	2
□経 済 学	2	英語コミュニケーションⅡ	①	■ドイ ツ 語 特 別 演 習	1		
■日 本 語 表 現 法	2	■ドイ ツ 語 コミュニケーションⅠ	1	■中 国 語 特 別 演 習	1		
現 代 英 語 Ⅰ①	①	■ドイ ツ 語 コミュニケーションⅡ	1	◆主 題 別 講 義	2		
現 代 英 語 Ⅱ	①	■中 国 語 コミュニケーションⅠ	1	▲応 用 数 学	2		
■ドイ ツ 語 基 礎 Ⅰ	1	■中 国 語 コミュニケーションⅡ	1	都 市 計 画②	②		
■中 国 語 基 礎 Ⅰ	1	◆ス ポー ツ 健 康 学	1	●応 用 測 量 学 及 び 実 習	2		
■中 国 語 基 礎 Ⅱ	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナー ル Ⅱ	2	●上 下 水 道 工 学	2		
◆体 育	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナー ル Ⅲ	2	●水 処 理 工 学	2		
◆ス ポー ツ 特 別 演 習	1	▲確 率 ・ 統 計 学	2	●河 川 の 科 学	2		
◆主 題 別 ゼ ミ ナー ル Ⅰ	2	▲基 礎 物 理 学 Ⅱ	2	●海 岸 ・ 港 湾 工 学	2		
◆海 外 研 修	1	▲基 礎 物 理 学 Ⅲ	2	●道 路 ・ 交 通 工 学	2		
微 積 分②	②	▲環 境 と エ ネ ル ギ ー	2	●応 用 構 造 力 学	2		
線 形 代 数②	②	▲生 命 科 学	2	●地 盤 構 造 工 学	2		
▲基 礎 物 理 学 Ⅰ	2	測 量 学②	②	●コ ン ク リ ー ト 構 造 学	2		
▲基 礎 化 学 Ⅰ	2	測 量 実 習①	①	●構 造 物 の メ ン テ ナ ンス	2		
▲基 礎 化 学 Ⅱ	2	構 造 力 学 Ⅰ②	②	●施 工 技 術	2		
▲物 理 科 学	2	構 造 力 学 Ⅱ②	②	土 木 工 学 実 験 Ⅱ	1		
基礎情報科学②	②	建 設 材 料 学②	②	水 工 学 設 計 ・ 演 習	2		
▼物 理 学 実 験	2	●材 料 の 力 学	2	橋 工 学 設 計 ・ 演 習	2		
▼化 学 実 験	2	●情 報 処 理	2	地 盤 工 学 設 計 ・ 演 習	2		
㊦数 学 基 礎 Ⅰ	1	●情 報 処 理 応 用	2	コ ン ク リ ー ト 工 学 設 計 ・ 演 習	2		
㊦数 学 基 礎 Ⅱ	1	●廃 棄 物 と 工 事 排 水	2	●キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ Ⅰ	2		
㊦物 理 基 礎 Ⅱ	2	●基 礎 水 理 学	2	●キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ Ⅱ	2		
㊦英 語 基 礎 Ⅰ	1	●流 れ の 力 学	2	土 木 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ	2		
㊦英 語 基 礎 Ⅱ	1	●計 画 数 理	2	土 木 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ	2		
基 礎 製 図②	②	●地 盤 の 科 学	2	●技 術 英 文 読 解	2		
C A D 基 礎 演 習	②	●地 盤 の 力 学	2	●地 球 温 暖 化 と 防 災	2		
地 球 環 境 論	②	●コ ン ク リ ー ト の 材 料 科 学	2	●火 災 学	2		
●デ ッ サ ン	2	土 木 工 学 実 験 Ⅰ	2	建 築 法 規 規 則②	②		
●原 子 力 エ ネ ル ギ ー	2	建 築 設 計 Ⅰ③	③	●建 築 材 料 実 験	2		
		建 築 設 計 Ⅱ③	③	建 築 設 計 Ⅲ③	③		
		住 居 計 画②	②	音 ・ 光 環 境 演 習②	②		
		建 築 計 画②	②	★音 ・ 光 環 境 演 習 備 用	1		
		建 熱 ・ 空 気 環 境	②	建 築 設 計	②		
		建 築 構 造②	②	鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 構 造②	②		
		建 築 施 工②	②	★鋼 構 造	2		
		建 築 史②	②	★構 造 設 計	2		
		★熱 ・ 空 気 環 境 演 習	1	建 築 生 産②	②		
		★構 造 力 学 演 習 Ⅰ	1	☆す ま い 設 計	3		
		★構 造 力 学 演 習 Ⅱ	1	☆C A D ・ C G 演 習 Ⅰ	2		
		☆イ ン テ リ ア デ ザ イ ン	2	☆C A D ・ C G 演 習 Ⅱ	2		
		☆住 生 活 学	2	☆木 構 造	2		
		☆色 彩 学	2	雪 国 建 築	②		
		●応 用 電 子 計 算 機	2	建 築 セ ミ ナー	②		
		●学 外 研 修 Ⅰ	1	卒 業 研 究 プ レ セ ミ ナー	②		
		●放 射 線 の 利 用	2	●イ ン タ ー ン シ ッ プ	1		
				●学 外 研 修 Ⅱ	1		
				●原 子 力 体 感 研 修	2		

注1：○で囲まれた数字は土木建築工学科およびコース履修上の必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注2：この科目表には、進級要件・卒業単位数に含まれない教職科目は記載されていない。

注3：□、■、◆は総合教養の選択科目、▲、▼は工学基礎の選択科目、★、☆、●は専門の選択科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている（右ページの卒業要件を参照のこと）。注4：㊦はリメディアル科目である。

注5：一印は原則としてコースによって修得できない科目である。

土木建築工学科単位集計表 (建築工学コース)

(平成29年度入学生用)

学年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	9	11	20	20	17	12	29	49	11	10	21	70	2	6	8	78
	選択	20	19	39	39	30	32	62	101	38	42	80	181	6	0	6	187
	計	29	30	59	59	47	44	91	150	49	52	101	251	8	6	14	265
標準修得 単 位 数	修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上				/				
進級 および 卒業要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 32単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 56単位以上				<ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目の全て 78単位 ・ □、■、◆印の 科目の合計が20 単位以上た だし、 □印の科目から 8単位以上 ■印の科目から 4単位以上 ・ ▲印の科目から 12単位以上 ・ ▼印の科目から 2単位以上 ・ ★印の科目から 5単位以上 ・ ☆印の科目から 2単位以上 ・ ●印の科目から 5単位以上 ・ 上記の科目を含 め124単位以上 				

注1：この集計表には、進級要件・卒業要件の単位数には含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2：卒業要件の欄において、必修科目（78単位）、□、■、◆印（20単位）、▲印（12単位）、▼印（2単位）、★印（5単位）、☆印（2単位）、●印（5単位）の合計は124単位である。

注3：開講単位数（必修・選択の単位数）は、コースの履修要件により算出したものである。

土木建築工学科カリキュラム (建築工学コース)

区分	分野	第1学年				第2学年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
導入科目	キャリア形成	キャリアデザインⅣ①	デザインⅠ①	キャリアデザインⅣ①	デザインⅡ①				
	工学への関心	建築概論②	土木工学概論②						
総合教養科目	人間科学	歴史②	経済学②	文理学②	哲学②				
	国際コミュニケーション	現代英語Ⅰ①	日本語表現Ⅱ②	英語コミュニケーションⅠ①	英語コミュニケーションⅡ①				
	ドイツ語基礎Ⅰ①	ドイツ語基礎Ⅱ①	ドイツ語コミュニケーションⅠ①	ドイツ語コミュニケーションⅡ①					
	中国語基礎Ⅰ①	中国語基礎Ⅱ①	中国語コミュニケーションⅠ①	中国語コミュニケーションⅡ①					
	中国語基礎Ⅰ①	中国語基礎Ⅱ①	中国語コミュニケーションⅠ①	中国語コミュニケーションⅡ①					
体育科学	体育①	スポーツ特別演習Ⅰ①	スポーツ健康学①	主選別ゼミナールⅢ②					
総合学際	海外研修①	主選別ゼミナールⅠ②	主選別ゼミナールⅡ②	主選別ゼミナールⅢ②					
工学基礎科目	数学	微分②	積分②	確率・統計学②					
	物理学・化学	基礎物理学Ⅰ②	基礎物理学Ⅱ②	基礎物理学Ⅲ②					
	その他の自然科学	基礎化学Ⅰ②	基礎化学Ⅱ②	環境とエネルギー②	生命科学②				
	情報	基礎情報科学②	化学実験②						
	実験	物理学実験②							
リメディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ①	数学基礎Ⅱ①						
	英語基礎Ⅰ①	英語基礎Ⅱ①							
専門基礎科目	専門基礎	基礎製図②	CAD基礎演習②	測量学習①	測量実習①				
	(製図・CAD・測量)	デッサン②	地球環境論②	構造力学Ⅰ②	構造力学Ⅱ②				
土木専門科目	基礎土木			材料の力学②	情報処理②	情報処理応用②			
	環境			基礎水理学②		廃棄物と工事排水②			
	防災建設			地盤の科学②		流れの力学②			
	土木応用					計画数理②			
							地盤の力学②		
建築専門科目	建築基礎			建築設計Ⅰ③	建築設計Ⅱ③				
	アーキテクト			居住計画②	建築計画②				
	デザナー			建築構造②	建築施工②				
	応用建築					熱・空気環境演習①			
						構造力学演習Ⅰ①	構造力学演習Ⅱ①		
専門応用科目	専門応用			建築史②					
	原子力工学			インテリアデザイン②	色彩生活学②				
		進級の要件 修得単位数25以上 (必修10単位以上)				進級の要件 修得単位数60以上 (必修32単位以上)			
		標準修得単位数 35単位				標準修得単位数 75単位			

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。は土木建築工学科およびコースの必修科目、その他は選択科目を意味する。注2. 導入転換科目から4単位を修得すること。
 注3. 総合教養科目から必修を含み20単位以上を習得すること。ただし、人間科学分野から必修を含めて10単位以上、国際コミュニケーション分野から必修を含めて8単位以上を修得すること。

(平成29年度入学生用)

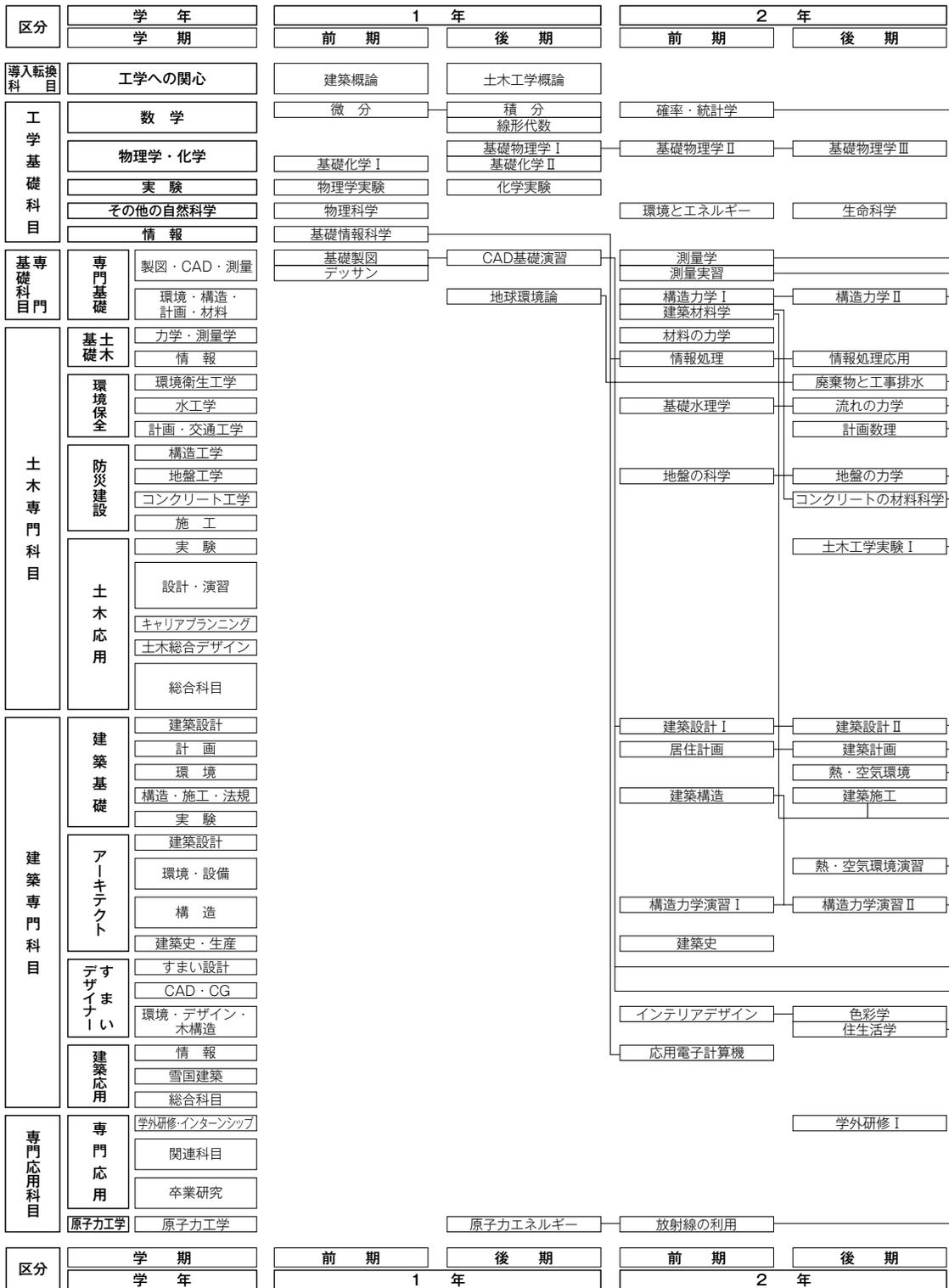
第 3 学 年				第 4 学 年			
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
キャリアデザインⅢ	2						
職業倫理②		日本国憲法	2				
実践日本語表現	2						
英語特別演習	2						
ドイツ語特別演習	2						
中国語特別演習	2						
		主題別講義	2				
応用数学	2						
都市計画②		応用測量学及び実習②					
上下水道工学	2	水処理工学	2				
河川の科学	2	海岸・港湾工学	2				
道路・交通工学	2						
応用構力工学	2						
地盤構造工学	2						
コンクリート構造学	2	構造物のメンテナンス 施工技術	2				
土木工学実験Ⅱ	1						
水工学設計・演習	2	橋工学設計・演習	2				
		地盤工学設計・演習	2				
		コンクリート工学設計・演習	2				
キャリアプランニングⅠ	2	キャリアプランニングⅡ	2				
土木総合デザインⅠ	2	土木総合デザインⅡ	2				
		技術英文読解	2				
		地球温暖化と防災学	2				
		火 災	2				
		建築法規②					
建築材料実験	2						
建築設計Ⅲ	③						
音・光環境	②						
音・光環境演習	1	建築設備②					
鉄筋コンクリート構造	②						
鋼 構 造	2	構造設計	2				
		建築生産②	②				
		すまい設計	3				
CAD・CG演習Ⅰ	2	CAD・CG演習Ⅱ	2				
木 構 造	2						
		雪国建築②					
建築セミナー②		卒業研究プレセミナー②		建築プレゼンテーション	2		
インターンシップⅠ	1	学 外 研 修 Ⅱ	1	機械工学概論	2		
				電気電子工学概論	2		
				卒 業 研 究			⑥
		原子力体感研修	2	原子燃料サイクル・安全工学	2		
進級の要件 修得単位数100以上(必修56単位以上)				卒業要件 修得単位数124以上(必修76単位以上)			
標準修得単位数 115単位				他に4要件(注2、3、4、5)			

注4. 工学基礎科目から必修を含み22単位以上を修得すること。ただし、実験分野から2単位以上を修得すること。

注5. 専門科目から必修を含み72単位以上を修得すること。ただし、アーキテクト分野から必修を含み18単位以上、すまいデザイナー分野から必修を含み2単位以上を修得すること。

注6. ⑥は原則としてコースによって修得できない科目である。

土木建築工学科 工学基礎科目および専門科目を中心とした履修の流れ



(平成29年度入学生用)

3 年	
前 期	後 期

4 年	
前 期	後 期

応用数学

都市計画	応用測量学及び実習
上下水道工学	水処理工学
河川の科学	海岸・港湾工学
道路・交通工学	
応用構造力学	
地盤構造工学	
コンクリート構造学	構造物のメンテナンス
	施工技術
土木工学実験Ⅱ	
水工学設計・演習	橋工学設計・演習
	地盤工学設計・演習
	コンクリート工学設計・演習
キャリアプランニングⅠ	キャリアプランニングⅡ
土木総合デザインⅠ	土木総合デザインⅡ
	技術英文読解
	地球温暖化と防災
	火薬学

	建築法規
建築材料実験	
建築設計Ⅲ	
音・光環境	建築設備
音・光環境演習	
鉄筋コンクリート構造	構造設計
鋼構造	建築生産
	すまい設計
CAD・CG演習Ⅰ	CAD・CG演習Ⅱ

木構造	
	雪国建築
建築セミナー	卒業研究プレセミナー
インターンシップ	学外研修Ⅱ

建築プレゼンテーション
機械工学概論
電気電子工学概論
卒業研修
原子力体感研修
原子燃料サイクル・安全工学

3 年	
前 期	後 期

4 年	
前 期	後 期

2.12 感性デザイン学部の教育目標・教育課程

■教育目標

教育理念にそった人材を育成するため、感性デザイン学部では以下の教育目標を掲げます。

- ①豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とするデザインの素養をもった人材を育成する
- ②社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもったデザイナーを育成する
- ③デザインの諸原理の理解とそれらの応用・展開力をもったデザイナーを育成する
- ④公共的問題や地域社会が抱える問題を自ら発見し、デザイン手法を用いて解決する力をもったデザイナーを育成する
- ⑤多文化、異文化を理解し、グローバルな視点でモノを考えることができ、それを課題解決に活かす力をもったデザイナーを育成する

■教育課程編成方針・教育実施基本方針

感性デザイン学部では、教育目標に掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

①教育課程の骨格

カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「リメディアル科目」、「専門科目」で編成します。

②総合的な人間力を養成する教育を実施します

総合教養科目においては、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え、総合的な判断力を養うための科目と、コミュニケーションスキルを獲得するための科目を編成します。また大学における学修計画や達成度評価、職業指導等を通じて将来のキャリア形成を支援するためのキャリアデザイン科目を導入転換科目として配置します。専門科目には、PBL、アクティブ・ラーニングなどを取り入れた科目を編成します。これにより、豊かな人

間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

③専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します

感性デザイン学部の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせ、専門基礎原理を繰り返し学習できるような授業を展開します。これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

④専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します

発想力、発表力、自ら問題を解決する力などの実践的な力を養成するため、少人数ゼミナール、演習・実習科目を重点的に編成します。授業の中では多くのプレゼンテーションを実施し、自ら考え纏めたことを発表、表現する授業を展開します。また身につけた専門知識やスキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業制作・論文」を必修とします。

⑤地域社会との繋がりを重視した教育を実施します

公共的問題や地域社会が抱える課題を発見し、それを解決に導く力を養成するために、デザイン手法を学ぶ教育を実施、また地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を実施します。これにより、地域社会への関心をもって物事を考えることができる能力も養成します。

⑥グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します

グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成するために、総合教養科目、並びに学部の専門科目における複数の科目でグローバルな視点での授業を展開します。

2.12.1 感性デザイン学科の学習・教育目標と教育課程

■学習・教育目的

近年、国家、地域の垣根を越え、政治、経済、文化など様々な側面においてグローバル化が加速しています。更に少子高齢社会、高度情報化社会を迎えている今日、住みよい社会システムの構築、革新的なモノやサービスの提供、地域再生・地域活性化などの地域経済に貢献する仕組みの構築が求められています。

デザインとは、造形活動を通じた文化と文明の創造であり、人間と人間の関わりあい、人間と「もの」の共存、人間と自然の交流など、大きな問題について提案していく行為です。言い換えれば、精神・物質の両面で人間生活の秩序や向上を図っていく行為です。従って、デザインは、政治・経済から人間の心理にいたるまでの様々な社会現象を左右し、様々な課題の解決や状況の改善を図る大きな役割を担っています。社会においては、このような役割を果たすことの出来るデザイン能力を持った人材が求められています。

また近年、デザイン分野においては、ビジュアル、プロダクト、住環境などのデザイン対象の完成をゴールとするだけでなく、ユーザーの意見を取り入れ、様々なコミュニケーションを通じて、適切で使いやすい商品やサービス、システムの提供を目指すなどの、プロセスを重視した、ユーザー中心デザイン、共創デザインが主要になってきており、それを展開できるスキルを持った人材も求められています。

こうした社会の要請に応えるために感性デザイン学科では、以下のように学習・教育の目的を掲げ、プロセスを重視したデザイン教育を実施します。

- (1) 地域の文化的特徴や伝統について学び、ローカルとグローバル二つの視点から多様な人間性・文化を理解できる能力を身につ

けさせます。国や地域の文化的相違を受け入れながら新しい価値を生み出すグローバル人材を育成します。

- (2) 環境に応じて建設的な人間関係を形成するコミュニケーション能力を身につけさせます。自分の考えを自分の言葉で伝え、他者との関わりの中での共感を通して、新しい価値を創造できる実現力や実行力を備えた人材を育成します。
- (3) 企業や団体、あるいはさまざまな専門家との協働の授業を展開し、地域活性化のための活動に参加させます。実社会において自己やコミュニティの課題の発見と解決に取り組み、状況に応じたデザイン手法を展開できる人材を育成します。

■学習・教育目標

感性デザイン学科では、学習・教育目的を達成するために、以下を具体的な学習・教育の目標とします。

- 色彩、形態、材質、テクスチャーなどに関するデザイン基礎能力を身につける。
- デザインに活かすための、心理、文化、歴史、福祉、自然科学などの幅広い知識を身につける。
- 制作やモノづくりの実践を通じて、デザイン活動において、手を動かす、モノを造ることを厭わない姿勢を身につける。
- 地域のもつ多様な特色を理解し、それをグローバルな視点で物事を捉える姿勢を身につける。
- ローカルとグローバル二つの視点に立って新しい価値を生み出す能力を身につける。
- 他者を理解し、自己を表現するコミュニケーション能力を身につける。
- 社会の変化に対応できる柔軟な思考力と、実践的な行動力を身につける。
- 時代のニーズをとらえ、新しい価値を創造

できる実現力を身につける。

- 社会における課題を見出し、状況に応じたデザイン手法を展開できる能力を身につける。

■カリキュラム編成方針

感性デザイン学科には、学習・教育の目標を達成するため、ビジュアルデザイン、住環境デザイン、および、文化コミュニケーションの3つのコースが設けられています。以下に、コースに関連する科目を含む教育カリキュラムの編成方針を掲げます。

- (1) 4年間一貫教育：導入転換科目、総合教養科目、リメディアル科目、専門科目からなる各科目群を適切に配置し、調和の取れた学習内容を提供します。
- (2) 導入転換科目：感性デザイン入門、キャリアデザインの2分野で編成し、高校教育から大学教育への円滑な移行を図るとともに、キャリア教育を通じて社会への関心を高め、将来の生活設計を行うことを支援します。
- (3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際 of 4分野で編成し、人間と社会、健康についての理解およびコミュニケーション能力の向上を目指します。
- (4) リメディアル科目：高校までの学習内容の理解を確実にするとともに、さらに高度な学びへの関心を高め、大学教育への円滑な移行を支援します。
- (5) 専門科目：感性デザイン基礎、ビジュアルデザイン、住環境デザイン、感性デザイン応用の各科目群で編成します。それぞれの概略は以下の通りです。
 - 感性デザイン基礎：ビジュアルデザイン、住環境デザイン、文化コミュニケーションの3コースに共通した、感性デザインの基

礎となる科目群で、人間の感性の理解とデザイン感覚の基本、現代社会に生きるデザイナーに必要な基礎力を育成します。

- ビジュアルデザイン：ビジュアルデザインコース関連の専門科目群で、ビジュアルデザイナーに必要な基礎造形の理解と、デザイン専門基礎力、並びに実践力を育成します。
- 住環境デザイン：住環境デザインコース関連の専門科目群で、くらし、福祉・健康の基礎の理解と、快適な福祉住環境をデザインする力を育成します。
- 文化コミュニケーションコースは、これら2つの科目群に配置された専門科目を組み合わせることで学習します。科目の選択方法については、担任ガイダンス等で詳細な案内があります。
- 感性デザイン応用：実践的な感性デザイン能力を育成するための科目群です。学内外での実習などを通じて、これまでに身につけたデザインに関する知識やスキルを応用するとともに、卒業制作・論文で総合力を高めます。

■学習・教育方法

以下の方法を活用して、効果的な学習・教育活動を実施します。

- (1) 担任制度やオフィスアワーを設置して、大学生活への円滑な移行を促すとともに、各科目群のバランスのよい単位履修や卒業後の進路について、きめ細かく指導します。
- (2) 演習・実習・研修など体験型の学習を重視した教育を行います。
- (3) 学生の理解度に応じた習熟度別教育や討論・発表・プレゼンテーション能力の向上のため、少人数クラスを編成するなど、対話を重視した指導を実践します。
- (4) 学生による授業評価を実施し、授業方法・

内容の改善を継続的に行います。

- (5) 企画立案・情報収集・論理的思考・作業実践などを含めた総合的なデザイン力を培えるよう、卒業制作・論文などの応用科目群を重視します。

■コース制について

みなさんは、ビジュアルデザイン、住環境デザイン、文化コミュニケーションの3つのコースのうちいずれか一つを、1学年の年度当初に選ぶことになります。卒業後の進路や将来を見据え、自己の目的に適った能力を効果的に高めるためには、早期からコースに沿った履修計画を立てて、学習する必要があるからです。選択したコースをやむを得ない事情により変更する場合は、各年度の始めに申請することで認められます。

- コースの決定：入学後のガイダンス等を通じて、各コースの特徴を理解した上でいずれかを選択し、「コース決定届」を提出します。
- 科目履修：選択したコースで求められる学習内容に沿って、担任の指導の下で履修計画を立て、学習を進めます。
- コースの変更：2学年、3学年の始め（4月）に限り、コースの変更を認めます。この場合「コース変更届」を提出する必要があります。

感性デザイン学科開講学年別授業科目表

(平成29年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後	授 業 科 目	単 位 前 後
オープニングセミナー②		■キャリアデザインⅡ	1	■キャリアデザインⅢ	2	■職業倫理	2
■キャリアデザインⅠ	1	■哲 学	2	■日本国憲法	2	■知的財産論	2
■歴 史	2	■文 学	2	■実践日本語表現	2	卒業制作・論文	⑥
■経 済 学	2	■心 理 学	2	■英語特別演習	1		
■自然科学概論	2	■英語コミュニケーションⅠ	1	■ドイツ語特別演習	1		
■数 学	2	■英語コミュニケーションⅡ	1	■中国語特別演習	1		
■日本語表現法	2	■ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	▲デザインマーケティング論	2		
現代英語Ⅰ①		■ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	▲感性心理学	2		
現代英語Ⅱ①		■中国語コミュニケーションⅠ	1	▲地域文化論	2		
■ドイツ語基礎Ⅰ	1	■中国語コミュニケーションⅡ	1	▲比較文化論	2		
■ドイツ語基礎Ⅱ	1	■スポーツ健康学	1	▲情報メディア論	2		
■中国語基礎Ⅰ	1	■主題別ゼミナールⅡ	2	★広告論	2		
■中国語基礎Ⅱ	1	ユニバーサルデザイン論②		★映像メディア論	2		
■体 育 学	1	▲生涯スポーツ演習	2	★イラストレーションⅠ	2		
■主題別ゼミナールⅠ	2	▲感性行動科学	2	★イラストレーションⅡ	2		
■主題別講義	2	▲日本の文化	2	★美術史	2		
■海外研修	1	感性CAD&CG演習Ⅰ②		★芸術批評	2		
■英語基礎Ⅰ	1	▲感性CAD&CG演習Ⅱ	2	★ビジュアルデザイン演習Ⅲ	2		
■英語基礎Ⅱ	1	★Webデザイン	2	★ビジュアルデザイン演習Ⅳ	2		
感性デザイン総論②		★彫 刻	2	★ワークデザイン	2		
コンピュータ基礎演習②		★ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2	★スポーツ健康論	2		
プレゼンテーション②		★ビジュアルデザイン演習Ⅱ	2	★レクリエーション余暇論	2		
デ ッ サ ン②		★介 護 論	2	★福祉心理学	2		
色 彩 学②		★地域福祉論	2	★リハビリテーション論	2		
▲デザイン史	2	★ボランティア実習	2	★音と光デザイン	2		
社会福祉論②		★福祉人間工学	2	★景観デザイン	2		
▲ボランティア論	2	★福祉機器デザイン	2	★住環境デザイン演習Ⅱ	2		
★絵 画 Ⅰ	2	★インテリアデザイン	2	★住環境デザイン演習Ⅲ	2		
★絵 画 Ⅱ	2	★エクステリアデザイン	2	★学 外 研 修	1		
★表現技法	2	★住環境デザイン演習Ⅰ	2	★インターンシップ	2		
★図 学	2			★感性デザイン特別講義	1		
★タイポグラフィ論	2			感性デザイン応用演習②			
★ビジュアルデザイン論	2						
★工 芸 学	2						
★工 芸 実 習	2						
★老人福祉論	2						
★住まいのデザイン	2						
★福祉住環境デザイン	2						

注1：○で囲まれた数字は必修単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注2：この科目表には、進級要件・卒業単位数に含まれない自由聴講科目は記載されていない。

注3：■は導入転換、総合教養、リメダルの選択科目、▲は感性デザイン基礎の選択科目、★はビジュアルデザイン、住環境デザイン、感性デザイン応用の選択科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている（右ページの卒業要件を参照のこと）。

感性デザイン学科単位集計表

(平成29年度入学生用)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
		区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計
開講 単位 数	必修	11	5	16	16	4	0	4	20	0	2	2	22	0	6	6	28
	選択	21	28	49	49	22	26	48	97	28	29	57	154	4	0	4	158
	計	32	33	65	65	26	26	52	117	28	31	59	176	4	8	10	186
	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
修得 単位 数	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数	修得単位数 38単位以上				修得単位数 78単位以上				修得単位数 118単位以上				/				
進級 および 卒業要件	2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件				
	修得単位数 28単位以上 必修の修得単位数 12単位以上				修得単位数 62単位以上 必修の修得単位数 16単位以上				修得単位数 102単位以上 必修の修得単位数 18単位以上				必修科目全て 28単位 ■印の導入転換科 目・総合教養科 目・リメディアル 科目から26単位以 上 ▲印の感性デザイ ン基礎科目から12 単位以上 ★印のビジュアル デザイン、住環境 デザイン、感性デ ザイン応用分野科 目から52単位以上 ・上記の科目を含 め124単位以上 を修得するこ と。				

注1. 卒業要件の欄において、必修科目（28単位）、■印（26単位）、▲印（12単位）、★印（52単位）の合計は118単位である。
卒業要件を満たすにはその他に6単位以上の科目を修得し、合計124単位以上とする必要がある。

感性デザイン学科カリキュラム

区分	分野	第1学年				第2学年				
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	
導入 科目 目	感性デザイン入門・ キャリアデザイン	オープニングセミナー②								
		キャリアデザインⅠ		1	キャリアデザインⅡ		1			
リ メ デ ィ ア ル		英語基礎Ⅰ	1	英語基礎Ⅱ	1					
総 合 教 養 科 目	人 間 科 学	自然科学概論	2	経済学	2	文 学	2	哲 学	2	
		数 学	2			心 理 学	2			
		歴 史	2							
	国 際 コ ミュ ニ ケー ション				日本語表現法	2				
		現代英語Ⅰ	①	現代英語Ⅱ	①	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1	
		ドイツ語基礎Ⅰ	1	ドイツ語基礎Ⅱ	1	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	
	体 育 科 学	中国語基礎Ⅰ	1	中国語基礎Ⅱ	1	中国語コミュニケーションⅠ	1	中国語コミュニケーションⅡ	1	
		体 育 学	1			スポーツ健康学	1			
	総 合 学 際				主題別ゼミナールⅠ	2	主題別ゼミナールⅡ	2		
		海 外 研 修	1	主 題 別 講 義	2					
専 門 科 目	感 性 デ ザ ィ ン 基 礎	感性デザイン総論	②			日本の文化	2			
		コンピュータ基礎演習	②	プレゼンテーション	②	ユニバーサルデザイン論	②			
		デ ッ サ ン	②	色 彩 学	②	感性CAD & CG演習Ⅰ	②	感性CAD & CG演習Ⅱ	2	
		社会福祉論	②	ボランティア論	2			生涯スポーツ演習	2	
				デザイン史	2			感性行動科学	2	
	ビ ジ ュ ア ル デ ザ ィ ン	絵 画 Ⅰ	2	絵 画 Ⅱ	2			web デザイン	2	
		表 現 技 法	2	図 学	2	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2	ビジュアルデザイン演習Ⅱ	2	
		タイポグラフィ論	2	ビジュアルデザイン論	2					
				工 芸 学	2	工 芸 実 習	2	彫 刻	2	
					2	老人福祉論	2	介 護 論	2	地 域 福 祉 論
	住 環 境 デ ザ ィ ン						ボ ラ ン テ ィ ア 実 習	2		
							福祉人間工学	2	福祉機器デザイン	2
		住まいのデザイン	2	福祉住環境デザイン	2	インテリアデザイン	2	エクステリアデザイン	2	
									住環境デザイン演習Ⅰ	2
	感 性 デ ザ ィ ン 応 用									
	進級要件 総計28単位以上(必修12単位以上)					進級要件 総計62単位以上(必修16単位以上)				
	修得単位数					修得単位数				

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。○は必修科目、その他は選択科目を意味する。
 注2. 導入転換科目、総合教養科目、リメディアル科目から必修を含めて30単位以上修得すること。
 注3. 専門科目の感性デザイン基礎分野から必修を含めて30単位以上修得すること。
 注4. 専門科目のビジュアルデザイン分野、住環境デザイン分野、感性デザイン応用分野から必修を含めて60単位以上修得すること。

(平成29年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位		
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	2							感性デザイン入門・ キャリアデザイン	科 導 入 転 換 目 録
								リメディアル	
		日本国憲法	2	知的財産論	2			人 間 科 学	総 合 教 養 科 目
				職業倫理	2				
実践日本語表現	2							国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	
英語特別演習	1								
ドイツ語特別演習	1								
中国語特別演習	1								
								体 育 科 学	
								総 合 学 際	
地 域 文 化 論	2	比 較 文 化 論	2					感 性 デ ザ イ ン 基 礎	
情報メディア論	2	デザインマーケティング論	2						
		感性心理学	2					ビ ジ ュ ア ル デ ザ イ ン	
美 術 史	2	芸 術 批 評	2						
ビジュアルデザイン演習Ⅲ	2	ビジュアルデザイン演習Ⅳ	2						
広 告 論	2								
イラストレーションⅠ	2	イラストレーションⅡ	2						
映像メディア論	2								
福祉心理学	2	リハビリテーション論	2						
スポーツ健康論	2	レクリエーション余暇論	2						
音と光デザイン	2	景観デザイン	2						
		ワークデザイン	2						
住環境デザイン演習Ⅱ	2	住環境デザイン演習Ⅲ	2					住 環 境 デ ザ イ ン	
学 外 研 修	1	インターンシップ	2	卒 業 制 作 ・ 論 文 ⑥				感 性 デ ザ イ ン 応 用	
		感性デザイン特別講義	1						
		感性デザイン応用演習②	2						
進級要件 総計102単位以上(必修18単位以上)				卒業要件 総計124単位以上(必修28単位を含む)					
修得単位数				修得単位数					

②は必修科目

感性デザイン学科関連科目履修の流れ

区分	分野	第 1 学 年		第 2 学 年	
		前 期	後 期	前 期	後 期
科導入 目録換	感性デザイン入門・ キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ 1		キャリアデザインⅡ 1	
	リメディアル	オープニングセミナー2			
総合 教養科目	人間科学	英語基礎Ⅰ 1	英語基礎Ⅱ 1	文 学 2	心 理 学 2
		数 学 2			哲 学 2
		自然科学概論2			
		歴 史 2	経 済 学 2		
			日本語表現法2		
	国際 コミュニケーション	現代英語Ⅰ 1	現代英語Ⅱ 1	英語コミュニケーションⅠ 1	英語コミュニケーションⅡ 1
		ドイツ語基礎Ⅰ 1	ドイツ語基礎Ⅱ 1	ドイツ語コミュニケーションⅠ 1	ドイツ語コミュニケーションⅡ 1
		中国語基礎Ⅰ 1	中国語基礎Ⅱ 1	中国語コミュニケーションⅠ 1	中国語コミュニケーションⅡ 1
	総合学際	海外研修1	主題別ゼミナールⅠ 2	主題別ゼミナールⅡ 2	
			主題別講義2		
	体育科学	体 育 学 1		スポーツ健康学2	
	専 門 科 目	感性デザイン 基 礎	感性デザイン総論2		日本の文化2
		コンピュータ基礎演習2	プレゼンテーション2	ユニバーサルデザイン論2	
		デ ッ サ ン 2	色 彩 学 2	感性CAD&CG演習Ⅰ 2	感性CAD&CG演習Ⅱ 2
		社会福祉論2	ボランティア論2		生涯スポーツ演習2
			デザイン史2		感性行動科学2
ビジュアル デ ザ イ ン		絵 画 Ⅰ 2	絵 画 Ⅱ 2		webデザイン2
		表現技法2	図 学 2	ビジュアルデザイン演習Ⅰ 2	ビジュアルデザイン演習Ⅱ 2
		タイポグラフィ論2	ビジュアルデザイン論2		
		工 芸 学 2	工 芸 実 習 2	彫 刻 2	
住 環 境 デ ザ イ ン			老人福祉論2	介 護 論 2	地 域 福 祉 論 2
				ボ ラ ン テ ィ ア 実 習 2	
				福 祉 人 間 工 学 2	福 祉 機 器 デ ザ イ ン 2
	住まいのデザイン2	福祉住環境デザイン2	インテリアデザイン2	エクステリアデザイン2	
				住環境デザイン演習Ⅰ 2	
感性デザイン 応 用					

注1： 必修科目 () 選択科目
 注2： 科目名称の後の数字は単位数を示す。

(平成29年度入学生用)

第 3 学 年		第 4 学 年	
前 期	後 期	前 期	後 期
→ キャリアデザインⅢ 2			
	→ 日本国憲法2	→ 知的財産論2	
		→ 職業倫理2	
→ 実践日本語表現2			
→ 英語特別演習1			
→ ドイツ語特別演習1			
→ 中国語特別演習1			
→ 地域文化論2	→ 比較文化論2		
→ 情報メディア論2	→ デザインマーケティング論2		
	→ 感性心理学2		
→ 美術史2	→ 芸術批評2		
→ ビジュアルデザイン演習Ⅱ2	→ ビジュアルデザイン演習Ⅳ2		
→ 広告論2			
→ イラストレーションⅠ2	→ イラストレーションⅡ2		
→ 映像メディア論2			
→ 福祉心理学2	→ リハビリテーション論2		
	→ ワークデザイン2		
→ スポーツ健康論2	→ レクリエーション余暇論2		
→ 音と光デザイン2	→ 景観デザイン2		
→ 住環境デザイン演習Ⅱ2	→ 住環境デザイン演習Ⅲ2		
→ 学外研修2	→ インターンシップ2		
	→ 感性デザイン特別講義1		
	→ 感性デザイン応用演習2	→ 卒業制作・論文6	

第3章

学生生活について

3. 1	健康管理	140
3. 2	学生保険	140
3. 3	学生相談室・学修支援室	141
3. 4	通学	141
3. 5	学生旅客運賃割引証（学割）	142
3. 6	奨学制度	142
3. 7	アルバイト	142
3. 8	下宿	142
3. 9	学友会	143
3. 10	課外活動	143

3.1 健康管理

■ 日常の健康

生活で大切なことの一つに、健康の維持・増進があります。大学生になると不規則な食生活、運動不足、睡眠不足になりがちです。バランスの良い食事を心がけ、適度な運動と十分な睡眠をとり規則正しい生活に努めてください。掃除、洗濯をまめにやり清潔な環境を保ちましょう。

また、飲酒・喫煙の機会があると思いますが、できるだけ節制し健康に留意するとともに周囲に迷惑をかけない学生生活に努めましょう。

■ 定期健康診断

毎年4月～5月に学校保健安全法に定められている健康診断（内科健診、眼科健診、耳鼻咽喉科健診、胸部X線検査、尿検査）を実施しています。

また、次年度卒業見込み学生を対象に就職活動のための健康診断を行っています。健康診断書が必要な学生は必ず受診してください。実施日に受診しなければ医療機関にて自己負担で受診することになります。

健康診断の日程については、学内掲示板やユニバーサルパスポートで周知しますので必ず受診してください。

■ 保健室

保健室では、けがや体調不良の場合の応急処置や健康相談に応じることができます。病気にかからないよう各自予防に努める事が大切ですが、気兼ねなく学生課を訪ねてください。

■ 緊急呼出電話・ボタンについて

緊急呼出電話は、教養棟旧館2階廊下、教養棟2階廊下に設置しています。受話器を取ると受付と学生課に繋がりますのでお話しください。

緊急呼出ボタンは、教養棟2階身体障害者用トイレ内に設置しています。ボタンを押すと受付と学生課の電話が鳴ります（会話はできません）。速やかに職員が駆けつけますので体調不

良等の非常時にご利用ください。

■ 健康保険証・遠隔地被保険者証

病院で診察を受ける際に、毎回保険証の提示が必要ですので常に携帯してください。



■ 学校医

内科 於本 章（於本病院）

八戸市大工町10番地

TEL 0178-43-4647

眼科 久保 勝文（吹上眼科）

八戸市吹上二丁目10-5

TEL 0178-72-3372

耳鼻咽喉科 西村 哲也（西村耳鼻咽喉科医院）

八戸市南類家二丁目17-28

TEL 0178-24-3381

3.2 学生保険

■ 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、講義や学校行事中あるいは課外活動中に不慮の事故により災害を被った時の救済制度であり、本学では大学負担で全員加入しています。その概要は、入学時に渡された「学生教育研究災害傷害保険のしおり」に記載されておりますのでよく読んでください。

■ 学研災付帯賠償責任保険

この保険は、講義中・学校行事中・課外活動中あるいは教育実習やインターンシップ中に相手にけがをさせた、他人の物を破損したなどの賠償するための保険で任意加入となります。加入希望者は学生課で手続きをしてください。

また、教育実習やインターンシップに行く学生は必ず加入しなければなりませんので教務課

や就職課の指示に従ってください。

■青森県交通災害共済保険

交通事故による災害を受けた方々の救済を図るための制度で、本学では通学中の配慮として大学負担で全員加入しています。24時間日本国内において自転車を含む車両が絡む事故に適用されます。

■災害にあわれた方は速やかに学生課まで申出てください。

また、不明な点等については学生課まで問い合わせてください。

3.3 学生相談室・学修支援室

■本学では単に勉学のみにとどまらず、広く学生生活全体にわたって皆さんの「よろず相談」の窓口として学生相談室・学修支援室を開設しています。

相談員は本学の教職員とカウンセラーで構成されており、皆さんと一緒に考えながら、誰にもある悩み等の解決にあたります。また、必要に応じて弁護士への相談も行います。

■また各学科・学年毎に担任を配置し教務課、学生課等と連携を保ち、あらゆる相談に応じていますので、困ったことがある場合は気軽に相談してください。そして、学生生活を不安なく、有意義に過ごしてください。

3.4 通学

本学周辺には下宿、アパートが多くあり徒歩での通学が可能です。これらに居住する学生はできるだけ徒歩により通学してください。交通事情により、やむを得ず車両により通学する場合は、許可を受けてください。

■交通機関を利用して通学する場合

◆通学定期乗車券で通学する場合は、通学証明書が必要となります。通学証明書は学

生課に申し込み交付を受けてください。

- ・JRについては、乗降車駅で通学証明書を提出し購入します。
- ・バスについては、各営業所等の窓口にて備付けの申し込み用紙に必要事項を記入し、学生証を提示することで購入できます。
- ◆通学証明書の有効期限は、各交通機関により異なるので注意してください。

JR 1ヵ月間

■車両を利用して通学する場合

- ◆車両（自動二輪車、四輪車）で通学を希望する学生は、許可を受ける必要があります。
- ・四輪車で通学を希望する学生は、必要書類（第7章7.15八戸工業大学車両通学に関する規程を参照）を整えて学生課で許可を受けてください。
- 許可を受けた学生には、ステッカーを交付します。校内駐車場に駐車するときは、ステッカーを、四輪車ではリアウィンドウ助手席側の表から貼付しなければなりません。
- ・自動二輪車についても同様に許可を受け、二輪車専用駐輪場に駐車してください。
- ◆車両通学の許可を受けた場合に限り、車両での通学および学内への乗り入れを許可しています。

◆二輪車専用駐輪場、四輪車指定駐車場以外に駐車すると、緊急車両等の通行の妨げとなったり、交通事故発生の原因や大学周辺住民に迷惑をかけることにもなりますので、絶対に駐車場以外には駐車しないでください。

また、学内の制限速度は20キロ以下ですので、制限速度を守ってください。

なお、交通事故が発生した場合は必ず学生課に届け出てください。

3.5 学生旅客運賃割引証（学割）

JRを利用して旅行する場合は、学割を利用できます。学割を必要とする際は、証明書自動発行機を利用してください。

学割は、旅客鉄道株式会社（JR各社）の営業キロで100キロメートルを超える区間を乗車する際に利用できる制度です。

発行にあたっては、帰省、正課及び正課外の教育活動、就職のための受験等の目的をもって旅行する必要があると認められる場合に限り発行することができます。

有効期限は発行日から3か月です。学割の使用にあたっては、学割裏面の使用上の注意をよく読んで、規則を厳守し、使用してください。

フェリーを利用する場合は、乗船券を購入する際に学生証を提示してください。

3.6 奨学制度

本学の学生が受けられる奨学生制度には次のようなものがあります。

■八戸工業大学特待生・奨学生制度

本学には特待生と奨学生の2種類あります。選考は、学業、スポーツ活動等の成績が優秀な者の中から特待生は入学時、奨学生は2、3学年終了時に選考委員会により決定されます。

但し、特待生は2学年終了時の適格審査により継続の可否が決定されますので、日頃から自己研鑽に励んでください。

また、奨学生は単年度ごとに決定されます。

■日本学生支援機構奨学生

独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて実施するものです。

出願資格は、人物、学業ともに優秀でかつ健康で、学資の支弁が困難であると認められる学生です。

奨学金の種別は、第一種奨学金（無利子）、

第二種奨学金（有利子）があります。

募集の際には、出願の資格、書類等についての説明会を開き詳しく説明します。

募集、説明会案内等は掲示しますので希望する学生は、掲示板・ユニバーサルパスポートをよく見るようにしてください。

■その他の奨学生

上記のほかに地方公共団体、各種団体の奨学生があります。

地方公共団体、各種団体から本学に募集案内があったときは掲示し、本学で選考の上適格者を推薦します。

また、地方公共団体では各自が要項を取り寄せて直接申請するものもあります。大学の記入事項、あるいは推薦書の必要がある場合には、要項を添えて学生課に申し出てください。

3.7 アルバイト

大学の性格上、講義のほか実験実習等も多く、アルバイトは勉学に支障となる場合がありますので慎重に考えてから行ってください。学生課では勉学に影響のない程度のものについては掲示で紹介しています。

学生課の紹介以外でアルバイトをする場合においても、風紀上・衛生上好ましくないもの、危険度の高いアルバイトはしないようにしてください。

3.8 下宿

学生課では親元を離れて勉学する学生のために、**下宿の紹介**を行っています。下宿での生活は周囲の人達へ迷惑をかけないことが大切です。大学生らしい良識のある生活をしましょう。必要なときは紹介を受けてください。部屋はいつでも個室となっており、下宿料は地域や部屋の新旧、設備等によって異なりますが、概ね次

のとおりです。ただし、光熱費は別です。

部屋の広さ	下宿料(2食付)
6畳以上	42,000~50,000円

ゴミの出し方には居住する地区によりルールがあります。

- 階上町 収集日、場所が決まっている。
不燃物、可燃物を分類して出す。
透明な袋を使用する。等々
- 八戸市 収集日、場所が決まっている。
不燃物、可燃物を分類して出す。
決められたゴミ袋(有料)を使用する。等々

地域住民に迷惑をかけないようルールを守ってゴミを出すようにしてください。



3.9 学友会

学生は入学と同時に本学の学友会の会員となります。学友会とは、学生相互の親睦を深め、自主的サークル活動を行うなど人間性を高め、有意義な学生生活を送るうえでの母体となっているものです。

学友会は本学学生(正会員)と本学教職員(特別会員)で組織されており、学友会委員会の下部機構に体育会と文化会があります。

学友会が中心になって自主的に行われる活動には、体育祭、彩才祭、学園祭があります。

3.10 課外活動

大学教育の中で正課授業とともに重要な教育的な意義をもつのが課外活動です。この活動を通じて、協調性、忍耐力などを養成し、また、たくさんの友人をつくり、より楽しい学生生活を送れるものと思います。

学生が中心になって自主的に行われる課外活動には、体育会所属の体育スポーツ系、文化会所属の文化芸術系あわせて約60団体あり、学内外において活発に活動しています。

■学友会団体への入部、入会

本学の課外活動への入部、入会に関しては、入学式後のガイダンス時に行われるクラブ紹介と掲示等による勧誘が行われますので、自分の適性や趣味、希望等をよく考え、加入してください。

■団体の結成、継続、廃部など

新しい団体の結成を希望する学生は、**団体結成願**の用紙に必要事項を記入のうえ、学生課へ申し出てください。また、各団体は毎年度始めに**団体継続届**を提出しないと廃部、廃会となりますので注意してください。解散する場合は**団体解散届**を学生課へ提出してください。

■サークルの紹介（平成29年3月現在）

体育会（27団体）

団体名	顧問	監督	コーチ	部員数	主な活動
ソフトテニス部	渡辺 武秀	寺井 孝男		10	2016 全日本大学選手権出場
男子バスケットボール部	小比類巻孝幸	小比類巻孝幸		27	2016 県内外大会出場、東北学生連盟主催大会出場
レスリング部	太田 勝	水戸 芳広		10	2016 東北地区大学レスリング選手権大会74kg準優勝、86kg優勝
少林寺拳法部	武山 泰	千葉 誠			
アイススケート部	竹内 貴弘	佐々木 宏 本間 貴士	戸賀沢 晃 田島 尚幸 戸来 太一 工藤 孝 坂本 寛治	17	2003-05、08-14、16 インカレ出場（ホッケー部門） 2013 インカレベスト8（ホッケー部門） 2012-15 日本学生氷上競技選手権大会出場（フィギュア部門） 2012、14-15 全日本選手権出場（フィギュア部門）
ボクシング部	高橋 晋	大塚 哲	寺井 孝男	9	
硬式野球部	福士 憲一 大室 康平	寺下 弘 笹田 公烈	神 広文 小林 純樹 阿部 誠二	38	2015 秋季1部復帰 2016 北東北大学野球春季1部リーグ戦5位 2016 北東北大学野球秋季1部リーグ戦5位 2016 大館トーナメント大会ベスト4
サッカー部	金子 賢治	迫井 裕樹	風張 洋介	24	2016 青森県大学・高専サッカーリーグ出場
男子硬式庭球部	野田 英彦	三上 晃	大山 翔	19	2016 八戸市B、C級ダブルス・シングルスオープンテニス大会単優勝、準優勝複優勝3位、東北学生連盟主催大会出場
ソフトボール部	小藤 一樹	坂本 勝男	小嶋 高良	18	2016 北海道・東北地区大学ソフトボール大会出場
バドミントン部	宮腰 直幸	宮腰 直幸		19	
卓球部	野田 英彦	蛭名 昭人	夏坂 光男 中村 優孝	22	2003-07、09-16 インカレ出場 2004-06、09-16 全日本大学選手権出場 2016 NHK 杯青森県卓球選手権大会優勝
バレーボール部	関 秀廣	竹本 成喜	小西 孝則	21	2002-06、08-10、13、15 インカレ出場 2016 東北大学1部春季リーグ戦6位 2016 東北大学1部秋季リーグ戦5位 2016 青森県一般男女6人制春季・秋季バレーボール選手権大会優勝 2016 青森県大学バレーボール選手権大会優勝
柔道部	佐藤 手織	佐藤 手織		3	
ラグビー部	渡辺 武秀	島田 典彰		2	
陸上競技部	金子 賢治	金子 賢治		9	2016 南部陸上競技選手権大会男子100m2位、東北学生連盟主催大会出場
スキー部	佐々木幹夫	佐々木幹夫		7	2009 全日本学生スキー選手権大会4部個人3種目優勝 2012 札幌国際スキーマラソン大会男子50km優勝
空手道部	山本 忠	山本 忠	吉田 和孝	4	2016 県内外大会出場、東北学生連盟主催大会出場
サンボ部	太田 勝	水戸 芳広		11	2016 東日本サンボ選手権大会74kg3位82kg3位
アーチェリー部	鈴木 寛	畑中 広明	桂山 清美	8	2012-14 全日本学生選手権出場 2013-14 全日本学生室内選手権出場 2016 東北学生アーチェリー王座決定戦3位 2016 東北学生アーチェリー新人選手権大会2位
女子硬式庭球部	川守田礼子	三上 晃	板垣恵美子	5	2016 東北学生連盟主催大会出場
剣道部	阿波 稔	阿波 稔		5	
山岳部	鮎川 恵理	夏坂 光男		14	登山（階上岳、戸来岳、岩木山、八甲田山、吹越鳥帽子岳）、キャンプ
女子バスケットボール部	小比類巻孝幸	小比類巻孝幸		3	
軟式野球部	武藤 一夫	武藤 一夫		28	2007-8、16 東日本大学軟式野球選手権大会出場
弓道部	柴田 幸司	清水 能理	加藤 正和	19	2016 東北地区大学体育大会決勝進出、県内外大会出場
ビリヤード部	鈴木 寛	鈴木 寛		17	

文化会（13団体）

団体名	顧問	副顧問	部員数	主な活動
美術研究部	坂本 禎智	川本菜穂子	8	工大祭・彩才祭参加
吹奏楽部	安部 信行		16	工大祭・彩才祭参加 2016 付属幼稚園運動会・なかよし祭参加、クリスマスコンサート・クリスマスコンサートニューイヤーコンサート開催、八戸地区吹奏楽祭参加
映像研究部	宮腰 直幸		22	工大祭・彩才祭参加 本学行事等のニュースを映像化八戸テレビで2ヶ月に1本放映
音楽研究部	佐藤 学		24	工大祭・彩才祭参加
情報科学研究部	小玉 成人		3	
アーツテック研究部	横溝 賢		49	工大祭・彩才祭参加
動力研究部	工藤 祐嗣	黒滝 捻	10	2010-11.15 電気自動車エコラン競技大会 inSUGO 大学部門優勝 2011-13.15-16 手作り自動車省燃費競技大会大学部門優勝 2016 Honda エコマイレージチャレンジ2016（2台完走）※サークル歴代最高記録更新、はちのへホコテン展示、Hondacars 八戸西工大前店マシン展示、科学であそぼう in ラビア参加
自動車部	工藤 祐嗣	浅川 拓克	12	2016 自動車技術独創アイデアコンテスト優秀賞受賞
ゲーム研究部	伊藤 智也	齊藤 克治	13	工大祭・彩才祭参加
電創部	山口 広行		21	工大祭・彩才祭参加
将棋部	田中 義幸		21	工大祭・彩才祭参加 2016 階上場所将棋大会交流戦準優勝
ADL（建築デザイン研究会）	小藤 一樹		34	工大祭・彩才祭参加 2011 東日本大震災に関する研究成果発表 2011 八戸市から助成金を受け小中野小と協力（防災デザインスクール活動を実施） 2012 社会人基礎力育成グランプリ北海道・東北地区奨励賞 2013 ソロプチミスト「学生ボランティア賞」受賞 2016 八戸市まちづくり助成事業への参加
合唱部	小林 正樹	岩崎真梨子	10	工大祭・彩才祭参加 2016 八戸市民合唱祭参加、はっちポップスコンサート参加、WINTER CONCERT 参加



愛好会・研究会（25団体）

団体名	顧問	副顧問	部員数	主な活動
サイエンス愛好会	川本 清	川本菜穂子		
フットサル研究同好会	小玉 成人	伊藤 智也	35	工大祭参加
ダーツ愛好会	松浦 勉			
NU vivarce (ストリートダンス愛好会)	安部 信行		10	工大祭参加
文芸愛好会	岩崎真梨子		3	工大祭・彩才祭参加
茶道愛好会 (茶々-SASA-)	川守田礼子		11	工大祭・彩才祭参加
SKATE BOARD愛好会	鈴木 拓也			
Hachinohe Civil Lady (HCL)	熊谷 浩二			
プラモデル研究会	花田 一磨		11	工大祭・彩才祭参加
メカトロニクス研究会	藤澤 隆介	日影 学 篠塚 智	9	
サバイバルゲーム同好会	鈴木 拓也	玉川 邦夫	8	
食品研究会	小林 正樹	青木 秀敏	14	工大祭参加 2012 キャンパスベンチャーグランプリ (CVG) 東北地区大会最優秀賞受賞 東北代表として全国大会出場 2013 八戸市主催「第3回学生まちづくりコンペティション」市長賞受賞 2015 青森県未来の起業家 (大学生) 育成事業採択
TCG愛好会 (トレーディングカードゲーム)	小林 正樹		11	工大祭・彩才祭参加
キックボクシング愛好会	安部 信行		24	工大祭参加
アウトドア愛好会	小玉 成人			
BeCゲーム制作愛好会	藤岡 与周		11	彩才祭参加
合気道愛好会	大室 康平		11	工大祭参加
サイクリング同好会	武藤 一夫		9	
ボウリング愛好会	佐々木崇徳			
English 研究会 (E研)	斎藤 明宏		5	
写真愛好会 (Little Snaps)	斎藤 明宏		11	
漫画研究会	今出 俊彦		5	
ライトフィッシング同好会	竹内 貴弘	中田 光弘	14	
宇宙工学同好会	佐々木崇徳		7	
遊戯研究会	今出 俊彦		11	

第4章

進路・資格について

4. 1	就職	148
4. 2	進学	148
4. 3	資格	148
4. 3. 1	工学部	149
4. 3. 2	感性デザイン学部	149
4. 4	同窓会	164

将来の進路として、一般企業、公務員あるいは教員などの就職と、大学院への進学があります。就職の決定にあたっては、各学科の担任、就職担当教員そして就職課が相談に応じますので、気軽に相談してください。進学については、教務課が窓口になっています。資料がありますので利用してください。

4.1 就職

就職については、各学科の担当教員と就職課が中心となって求人の開拓、紹介、斡旋を行っています。本学では、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を単位化して各種の就職支援を行っていますので、必ず出席して自己のキャリア形成に不利なことがないように注意してください。

採用試験においては、成績と人物が大きく評価されています。学業については、多くの場合採用試験時に確認される成績は3学年までのものとなるため、4学年に進級してからでは遅くなってしまいます。このため不断の努力を怠りなく行うことが大切です。また、課外活動などに参加すること、資格を取っておくことなども有利な評価の対象となっているようです。

公務員には国の機関で働く国家公務員と市役所や県庁などに勤める地方公務員があります。これらをめざす学生は、公務員試験に合格しなければなりません。学内にて公務員対策講座・模擬試験を開催していますので、就職課へお問い合わせください。

また、本学が開催する「学生と企業との就職懇談会」には、本学の学生を採用したい企業等が多数参加します。これがきっかけとなり多くの学生が採用に繋がっていますので積極的に参加してください。

就職に関する相談は各学科の就職担当の教員および就職課で行っています。また、就職資料コーナーには、企業ファイル、試験内容報告書、

就職情報誌、参考図書などがある他、1・2学年は希望者、3学年からは全員が就職情報検索システムを利用して求人情報をタイムリーに見ることができますので、大いに活用してください。

4.2 進学

ここまでの知識をさらに深めるために、大学院への進学を考えている人も多いと思います。本学の大学院は、機械・生物化学工学専攻、電子電気・情報工学専攻および社会基盤工学専攻の3専攻からなっています。この大学院の3専攻と工学部の5学科の関係は、機械・生物化学工学専攻は機械情報技術学科およびバイオ環境工学科、電子電気・情報工学専攻は電気電子システム学科、システム情報工学科およびバイオ環境工学科、社会基盤工学専攻は土木建築工学科と関連性が強く、どの学科に在籍しても本学大学院への進学の道が開かれています。また、他の大学の大学院へ進学する場合があります。

大学院進学では専門科目と語学に関する入学試験がありますので、入学試験科目に合わせた履修計画を立て十分学力を養っておく必要があります。本学の大学院においては、大学院入学試験に関する説明会などを適時行っておりますので、大学院進学を考えている人は出席して入学試験の概要を把握しておくことが必要です。

4.3 資格

ここで示す卒業後に取得できる資格には、①卒業と同時に取得できるもの、②卒業後に所定期間の実務経験後取得できるもの、③卒業後実務経験を経て受験資格が生まれ試験合格後取得できるものなど、さまざまな取得手続き様式があるので注意してください。各自で申請することを原則としています。不明な点があるときは担任に相談してください。

4.3.1 工学部

■教育職員免許状

教育課程の単位を修得し本学を卒業すると、全学科において中学校教諭一種免許状（技術）および高等学校教諭一種免許状（工業）を、またシステム情報工学科においては高等学校教諭一種免許状（情報）、バイオ環境工学科においては高等学校教諭一種免許状（理科）も取得することができます。詳しくは第7章「八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程」を参照してください。

4.3.2 感性デザイン学部

■教育職員免許状

教育課程の単位を修得し本学を卒業すると、感性デザイン学科において中学校教諭一種免許状（美術）および高等学校教諭一種免許状（美術）および（工芸）を取得することができます。詳しくは第7章「八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程」を参照してください。

■機械情報技術学科

機械情報技術学科を卒業後に得られる資格は数多くありますが、ここにはその一部を紹介します。

大分類	資格名
在学中の取得を支援する 主な資格	CAD 利用技術者 FE（米国公認技術者資格） 技能士（3級、2級、機械保全、機械加工） 機械設計技術者（3級）
所定の単位を取得し、 卒業と同時に得られる資格	高等学校教諭一種免許状（工業） 中学校教諭一種免許状（技術） 技術士補（創生工学コース修了者）
所定の単位を取得して卒業後、 実務経験を経て受験資格を得られる資格	ボイラー・タービン主任技術者 管工事施工管理技士 特級ボイラー技士
特定の教科の単位を取得することによっ て、試験の一部が免除される資格	自動車整備士（2級ガソリン）（自動車工学コース修了者）

■電気電子システム学科

(1) 電気主任技術者

本学電気電子システム学科において、指定された科目の単位を修得して卒業した者は、表2の実務経験により電気主任技術者の免状交付申請資格が得られる。指定された科目は表1に示す通りである。

表1 関係学科の区分別学科目一覧表

※表中の「◎科目」の単位は、すべて修得すること(卒業要件とは異なる)。■は本学科の必修科目を意味する

区分	科目	単位	区分	科目	単位		
1. 電気電子理論 ◎科目 ※◎科目の他に ○科目は 可能な限り 修得すること	電磁気学Ⅰ	②	3. 電気利用等 ◎科目 ※◎科目の他に ○科目から 2単位以上 修得すること	電気機器工学	2		
	電磁気学Ⅱ	②		制御工学Ⅰ	2		
	電磁気学演習Ⅰ	②		制御工学Ⅱ	2		
	電磁気学演習Ⅱ	②		パワーエレクトロニクス	2		
	電気回路Ⅰ	②		電気利用工学	2		
	電気回路Ⅱ	②		○科目	知能ロボット工学	2	
	電気回路演習Ⅰ	②		センサー応用工学	2		
	電気回路演習Ⅱ	②		情報メディア工学	2		
	電気電子計測	②		情報通信工学Ⅰ	2		
	電磁波工学	2		通信ネットワーク工学	2		
	情報通信工学Ⅱ	2		4. 実験・実習 ◎科目	創造工学実験	②	
	○科目	電子回路Ⅰ			②	電気電子基礎実験	②
	電子回路Ⅱ	2			電子情報システム実験	2	
半導体工学	2	電気エネルギーシステム実験	2				
2. 電力発生輸送 ◎科目 ※◎科目の他に ○科目から 2単位以上 修得すること	電力発生工学	2	5. 電気設計製図 ◎科目	電気電子設計製図	2		
	電力輸送工学	2					
	電気電子材料工学	2					
	電気法規と電気施設管理	2					
	○科目	高電界工学	2				
	電力システム工学	2					
	原子燃料サイクル・安全工学	2					

(備考) 以下の内容は、卒業後免状交付申請を円滑に進めるために重要な内容となっているので、必ず熟読すること。
なお、免除交付を行うにあたり、実務経験が必要となる。

- ① 「電気電子材料工学」は「高電界工学」で振り替えることができる。
- ② 卒業後に、科目等履修制度によって不足単位を補充でき、卒業後3年以内に修得した単位のみ認められる。ただし、単位不足を補充できる科目は、表1の区分1.~5.ごとに1科目である。
- ③ 不足している科目に相当する電気主任技術者試験に合格することにより不足単位を補うことができる。

表2 実務経験年数

免状の種類	実務の経験	
	実務の内容	経験年数
第1種電気主任技術者	電圧5万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が5年以上
第2種電気主任技術者	電圧1万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が3年以上
第3種電気主任技術者	電圧500ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が1年以上

(最終改正平成5年12月)

電気主任技術者について

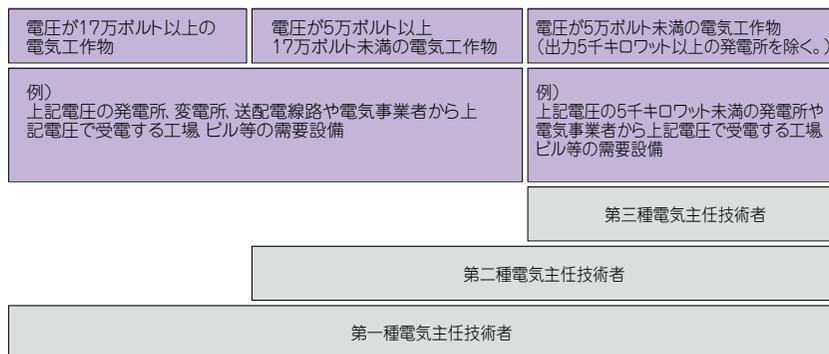
電気保安の確保の観点から、電気事業法により、事業用電気工作物（電気事業用及び自家用電気工作物）の設置者（所有者）には、電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督をさせるために、電気主任技術者を選任しなくてはならないことが義務付けられている。

電気主任技術者は、国家資格の中でも評価が高く、有資格者がまだ少ない状況のため、電気主任技術者資格を持てば職場でも責任ある地位が与えられる。また、電気主任技術者に対して資格手当を与える企業が数多くある。

電気主任技術者の資格には、免状の種類により第一種、第二種及び第三種電気主任技術者の3種類があり、電気工作物の電圧によって必要な資格が定められている。

まずは、第三種電気主任技術者試験から挑戦してほしい。

事業用電気工作物



第三種電気主任技術者試験について

第三種電気主任技術者試験（通称：電験三種）は筆記試験のみである。

「理論」、「電力」、「機械」及び「法規」の4科目があり、各科目の解答方式はマークシートに記入する五肢択一方式により行う。科目合格制なので、有効期限の3年間を使って勉強する方法もとれる。

試験は年1回9月上旬に実施され、試験会場は東北地区では仙台市、山形市、滝沢市となる。

本学科では電験三種の資格支援講座を設けるとともに、学生の経済的負担を軽減するために、最寄りの試験会場までの直行バスも運行している。従って、在学中に積極的に受験することを勧める。

受験についての詳細は、(財)電気技術者試験センターのホームページを参照してほしい。

(財)電気技術者試験センター <http://www.shiken.or.jp/>

電気主任技術者の免状交付申請資格を得るための履修の流れ

(平成29年度入学生用)

区分	2年		3年		4年		免状交付申請資格を得る条件	区分
	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎	電磁気学Ⅰ 電磁気学演習Ⅰ 電気回路Ⅰ 電気回路演習Ⅰ	電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ 電気回路Ⅱ 電気回路演習Ⅱ					左の科目すべてを修得	◎科目 1.電気電子理論
	電力発生工学	電力輸送工学	電気機器工学	電気利用工学	電気法規と電機設備管理 パワーエレクトロニクス		左の科目すべてを修得 左の科目すべてを修得	◎科目 2.電力発生輸送 ◎科目 3.電気利用等
電気エネルギーシステム系				高電界工学 電力システム工学			左から2単位以上修得	◎科目 2.電力発生輸送
原子工学					電子計測イグナル・安全工			
情報・通信・メディア系	情報メディア工学		電磁波工学	情報通信工学Ⅱ			左の科目すべてを修得	◎科目 1.電気電子理論
			情報通信工学Ⅰ	通信ネットワーク工学			左から2単位以上修得	◎科目 3.電気利用等
電子デバイス・システム制御系	電気電子計測	センサー応用工学	電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ 半導体工学			左の科目すべてを修得	◎科目 1.電気電子理論
		電子物性工学		電気電子材料工学			左から可能な限り修得	◎科目 2.電力発生輸送
実験・製図・研究	制御工学Ⅰ	制御工学Ⅱ	電気電子基礎実験	電子情報システム実践	電気エネルギーシステム実践		左の科目すべてを修得	◎科目 3.電気利用等
	創造工学実験	電気電子基礎実験	電子情報システム実践	電気電子基礎実験	電気エネルギーシステム実践	電気電子設計製図	左の科目すべてを修得	◎科目 4.実験・実習 ◎科目 5.電気設計製図

注1： 学部の必修科目 免状交付資格を得るための必修科目 免状交付資格を得るための選択必修科目 選択科目

注2：「電気電子材料工学」は「高電界工学」で振り替えることができる。

(2) 第二種電気工事士

本学電気電子システム学科において、指定された科目の単位を修得して卒業した者は、第二種電気工事士試験の筆記試験が免除となる。指定された科目は下表3に示すとおりである。

なお、電気主任技術者免状を有している者においても筆記試験が免除となる。

表3 区分別学科目一覧表

※表中の単位は、すべて修得すること(卒業要件とは異なる)。■は本学科の必修科目を意味する。

区分	学科目	単位	区分	学科目	単位
1. 電気理論	電磁気学Ⅰ	②	3. 電気機器	電気機器工学	2
	電磁気学Ⅱ	②		4. 電気材料	電気電子材料工学
	電磁気学演習Ⅰ	②	5. 送配電		電力輸送工学
	電磁気学演習Ⅱ	②		電力システム工学	2
	電気回路Ⅰ	②	6. 製図	電気電子設計製図	2
	電気回路Ⅱ	②		7. 電気法規	電気法規と電気施設管理
	電気回路演習Ⅰ	②			
	電気回路演習Ⅱ	②			
2. 電気計測	電気電子計測	②			

(備考) 卒業後に、科目等履修制度によって不足単位を補充できる。

電気工事士試験について

電気工事士として、第一種と第二種の2種類の資格がある。第二種の資格では一般住宅や店舗などの600ボルト以下で受電する設備の、第一種の資格では第二種の範囲と500キロワット未満の需要設備の、それぞれの工事が出来る。

試験は、四肢択一方式でマークシートに記入する筆記試験と、実技による技能試験との2段階で行われる。筆記試験の合格者はその年と次の年の2回、技能試験に挑戦する権利(次の年は、筆記試験免除者として技能試験を受験する。)がある。

試験は年1回、第一種は地域毎に1ヶ所以上(東北地区だと仙台市または新潟市)、第二種は都道府県毎に1ヶ所以上(青森県だと青森市)の試験会場で実施される。

第二種電気工事士の場合、筆記試験は毎年、上期は6月上旬頃、下期は10月上旬ごろに実施される。また、技能試験は上期は7月下旬頃、下期は12月上旬頃に実施される。

第二種電気工事士試験は、電気系国家資格の中でも比較的取得しやすい資格であり、高校生でも数多く取得している。したがって、在学中に積極的に受験することを勧める。

第一種電気工事士の場合、筆記試験は毎年10月上旬頃に、また、技能試験は12月上旬頃に実施される。

第一種電気工事士試験は、学校卒業による筆記試験の免除はないが、電気主任技術者免状を有している者は筆記試験が免除となる。第二種電気工事士免状を有している者は、在学中に積極的に受験することを勧める。

受験についての詳細は、(財)電気技術者試験センターのホームページを参照してほしい。

(財)電気技術者試験センター <http://www.shiken.or.jp/>

第二種電気工事士試験の筆記試験免除を得るための履修の流れ

区分	分野	2年		3年		4年		区分	筆記試験免除となる条件
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門	専門基礎	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ					1. 電気理論	左の科目すべてを修得
		電磁気学演習Ⅰ	電磁気学演習Ⅱ						
科目	電気エネルギーシステム系	電気回路Ⅰ	電気回路Ⅱ	電気機器工学				3. 電気機器	
		電気回路演習Ⅰ	電気回路演習Ⅱ	電力輸送工学	電力システム工学			5. 送配電	
					電気法規と電気施設管理			7. 電気法規	
	電子デバイス・システム制御系	電気電子計測						2. 電気計測	
	実験製図 研修 研究			電気電子材料工学				4. 電気材料	
							電気電子設計製図	6. 製図	

注: ■ 学科の必修科目 ○ 筆記試験免除となるための必修科目

電気通信主任技術者

本学電気電子システム学科において指定された科目の単位を修得した者は、電気通信主任技術者資格試験のうち、試験科目「電気通信システム」の試験が免除される。指定された科目は表4に示すとおりである。

表4 電気通信主任技術者試験の一部科目免除となるための指定科目一覧

(平成22年度以降の入学生に適用)

科 目	必要時間数	科 目	授業時間数 時間/単位	科目免除の対象 となる条件	
基礎 専門 教育 科目	数 学	○微 分	30/2	左から2科目以上を修得	
		○積 分	30/2		
		○線 形 代 数	30/2		
		○電 気 回 路 入 門	30/2		
		○電 気 電 子 数 学	30/2		
	物 理 学	○基 礎 物 理 学 I	30/2	左から2科目以上を修得	
		○基 礎 物 理 学 II	30/2		
		○物 理 科 学	30/2		
	電 磁 気 学	60	○電 磁 気 学 I	30/2	左から2科目以上を修得
			○電 磁 気 学 II	30/2	
○電 磁 気 学 演 習 I			30/2		
○電 磁 気 学 演 習 II			30/2		
電 気 回 路	60	○電 気 回 路 I	30/2	左から2科目以上を修得	
		○電 気 回 路 II	30/2		
		○電 気 回 路 演 習 I	30/2		
		○電 気 回 路 演 習 II	30/2		
電 子 回 路	60	○電 子 回 路 I	30/2	左から2科目以上を修得	
		○電 子 回 路 II	30/2		
デジタル回路	30	デ ィ ジ タ ル 回 路	30/2	左の科目を修得	
情 報 工 学	30	コンピュータプログラミングI	30/2	左から1科目以上を修得	
		コンピュータプログラミングII	30/2		
電 気 計 測	60	○電 気 電 子 計 測 セ ン サ ー 応 用 工 学	30/2 30/2	左から2科目以上を修得	
専門 教育 科目	伝送線路工学	情 報 通 信 工 学 II	30/2	左の科目を修得	
	交換工学	情 報 通 信 工 学 I	30/2	左の科目を修得	
	電気通信システム	通 信 ネットワーク工学	30/2	左の科目を修得	

注：卒業後科目履修生として修得した単位は認めない。必ず在学中に必要単位を修得すること。

○印の科目は本学電気電子システム学科の必修科目である。

電気通信主任技術者試験の試験科目「電気通信システム」の試験免除を得るための履修の流れ

(平成29年度入学生用)

区分	1年		2年		3年		科目免除の対象となる条件	科目
	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
工学基礎科目	微分	積分 線形代数 電気回路入門	確率・統計学 電気電子数学				左から2科目以上を修得	数学
	物理学	物理学I 基礎物理学I	基礎物理学II				左から2科目以上を修得	物理学
専門基礎			電磁気学I 電磁気学演習I	電磁気学II 電磁気学演習II			左から2科目以上を修得	電磁気学
			電気回路I 電気回路演習I	電気回路II 電気回路演習II			左から2科目以上を修得	電気回路
			電気電子計測 センサー応用工学		電子回路I 電子回路II		左から2科目以上を修得	電気計測
	電子デバイス・システム制御系				電子回路I 電子回路II 半導体工学		左から2科目以上を修得	電子回路
情報・通信・メディア系				コンピュータグラフィ	コンピュータグラフィ		左から1科目以上を修得	情報工学
				デジタル回路	デジタル回路		左の科目を修得	デジタル回路
				情報通信工学I	情報通信工学I		左の科目を修得	交換工学
					情報通信工学II 通信ネットワーク工学		左の科目を修得	伝送線路工学 電気通信システム

注： ○ 学科の必修科目 ○ 科目免除を受けるための必修科目 ○ 科目免除を受けるための選択必修科目 ○ 選択科目

(4) 第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士

本学電気電子システム学科において指定された科目の単位をすべて修得したものは、卒業後の総務省・東北総合通信局への申請により「第一級陸上特殊無線技士」および「第二級海上特殊無線技士」の資格が与えられる。なお、2つの資格の申請はおのおの個別に行う必要がある。指定された科目は表5に示すとおりである。

表5 第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士の取得のための指定科目一覧

科目内容	授業科目名	資格取得の条件
無線機器学その他無線機器に関する科目	電磁波工学	左の科目を修得
	情報通信工学Ⅰ	左の科目を修得
	○電子情報システム実験	左の科目を修得
電磁波工学その他空中線系及び電波伝送に関する科目	電磁波工学	左の科目を修得
	情報通信工学Ⅱ	左の科目を修得
	○電子情報システム実験	左の科目を修得
電子計測その他無線測定に関する科目	○電気電子計測	左の科目を修得
	○電子情報システム実験	左の科目を修得
電波法規その他電波法令に関する科目	情報通信法規	左の科目を修得

注：卒業後科目履修生として修得した単位は認めない。必ず在学中に必要な単位を修得すること。

○印の科目は本学電気電子システム学科の必修科目（但し、電子情報システム実験は選択必修科目）である。

第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士の資格を取得するまでの履修の流れ

(平成29年度入学生用)

区分	分野	2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	無線機器学その他無線機器に関する科目			電磁波工学 情報通信工学Ⅰ ○電子情報システム実験			
	電磁波工学その他空中線系及び電波伝送に関する科目			電磁波工学 ○電子情報システム実験	情報通信工学Ⅱ		
	電子計測その他無線測定に関する科目	○電気電子計測		○電子情報システム実験			
	電波法規その他電波法令に関する科目					情報通信法規	

上記科目をすべて修得のこと。

注：○印は本学科の必修科目（但し、電子情報システム実験は選択必修科目）

第一級陸上特殊無線技士における無線設備の操作範囲

多重無線設備を使用した固定局等の無線設備、陸上と移動する形態の無線局、VSAT局等の衛星通信無線設備、陸上レーダ無線、MCA、携帯電話の基地局等の無線設備の技術操作

■システム情報工学科

システム情報工学科に関わる資格は多数ありますが、ここには一部を紹介します。

1. 所定科目を修得すれば取得できる資格

資格名称	概要・特典など
中学校教諭一種免許状 (技術)	中学校で技術の教科を教えることができます。
高等学校教諭一種免許状 (工業)	工業高校で教えることができます。
高等学校教諭一種免許状 (情報)	情報関係の教科を教えることができます。普通高校への就職も可能です。

2. 受験のための指導体制を整備している資格

資格名称	概要・特典など
シスコ技術者認定 (CCENT、CCNA)	<p>シスコシステムズという会社が行っている技術者向けの認定試験です。この会社は、ネットワーク間の接続機器（ルータ等）では世界トップシェアを誇っています。</p> <p>本学科では試験に備えて、ネットワーク実習用の機器を導入し、特別の訓練を経て指導者として認定された教員が学生の指導に当たっています。さらに、学生の負担を減らすため、学科内でも受験できる体制を整えています。</p> <p>【対象科目】 3年：情報ネットワーク設計、情報ネットワーク構築</p>
ITパスポート	<p>社会人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を持ち、情報技術に携わる業務に就くか、担当業務に対して情報技術を活用しようとする者を対象としている国家資格です。</p> <p>試験直前には、試験対策講座を実施しています。</p>
基本情報技術者	<p>高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を持ち、実践的な活用能力を身に付けた者を対象としている国家資格です。</p> <p>以下の講義の単位を修得し、学科内で行われる修了試験に合格すれば基本情報技術者試験の午前試験が1年間免除されます。</p> <p>【対象科目】(9科目) 1年：情報工学概論 2年：コンピュータシステム、情報通信工学、アルゴリズム、プログラム設計、データベース、産業情報論、経営情報論、オペレーティングシステム 3年：(情報工学特別講義 ※修了試験)</p>

資格名称	概要・特典など
CG-ARTS 検定	<p>CG や Web ページなどのコンテンツ制作技術や知識を評価する文部科学省後援の資格です。</p> <p>本学科は、CG-ARTS 検定を主催している CG-ARTS 協会（財団法人画像情報教育振興会）から認定された「認定教育校」です。この資格は学科内で受験できるため学生に人気です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CG クリエイター検定 ● CG エンジニア検定 ● 画像処理エンジニア検定 ● マルチメディア検定 ● Web デザイナー検定 <p>【対象科目】</p> <p>1年：ウェブデザイン、デジタル映像表現 2年：コンピュータグラフィックス、バーチャルリアリティ 3年：マルチメディア工学</p>

3. 資格取得のための支援を行っている資格

資格名称	概要・特典など
応用情報技術者	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立した者を対象とした国家資格です。
情報セキュリティマネジメント ネットワークスペシャリスト エンベッドシステムスペシャリスト 情報セキュリティスペシャリスト データベーススペシャリスト	IT パスポート、基本情報技術者、応用情報技術者の次の段階としてネットワークや組み込みシステム、セキュリティ、データベースなどのスペシャリストを対象とした国家資格です。

■ バイオ環境工学科

「高等学校教諭一種(理科)」、「中学校教諭一種(技術)」、「高等学校教諭一種(工業)」の他、本学科に関連する資格として以下があります。

(1) 食品衛生管理者および食品衛生監視員資格(任用資格)

食品衛生管理者は厚生労働省が認定する国家資格です。食肉製品、乳製品、食用油脂などを製造・加工する施設の営業者は、この資格を有する者を置く事が義務づけられています(食品衛生法第48条)。そして、この資格取得者は食の安全確保のための知識や技術を有する者として社会において高く評価されています。

食品衛生監視員は厚生労働省が認定する国家資格です。保健所などの公的機関に所属する食品衛生監視員は、食品販売業者や外食産業など食品を取り扱っている業者の衛生状況の監視、あるいは輸入食品の監視業務や試験検査などの業務を行います。本資格は、公務員として食品衛生に関する業務を行う者には必要な資格です。

バイオ環境工学科は食品衛生管理者および食品衛生監視員の養成施設として国の認可を得ており、別表に指定する科目(食品衛生指定科目という)の所定の単位を修得し、本学を卒業することにより、食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を取得することができます。

なお、いずれのコースを学生が選択しても、食品衛生指定科目を修得することによって本資格を取得できます。

対象学生は平成21年度以降の入学者です。

○履修方法

バイオ環境工学科(平成21年度以降入学生対象)で、「食品衛生監視員」「食品衛生管理者」の資格取得可能者は、別表に定める所定の食品衛生指定科目と、卒業に必要な単位を修得することが資格取得要件です。

資格取得に必要な食品衛生指定科目は、必修26単位と選択14単位です。

別表 食品衛生指定科目

必修科目	単 位
分析化学	2
有機化学	2
無機化学	2
生化学	2
食品化学	2
生理学	2
食品分析学	2
微生物学	2
食品製造学	2
公衆衛生学	2
食品衛生学	2
分子遺伝学	2
バイオ環境工学実験Ⅰ	1
バイオ環境工学実験Ⅱ	1
合 計	26

必修科目	単 位
環境生物学	2
微生物工学	2
酵素工学	2
生物有機化学	2
食品工学	2
機器分析	2
環境汚染物質分析学	2
品質管理	2
合 計	16

上記選択科目から14単位以上を修得する必要がある。

(2) 公害防止管理者

受験資格は問われない。大気関係第1種～第4種、水質関係第1種～第4種、騒音関係、特定粉じん関係、一般粉じん関係、振動関係、公害防止主任管理者の13種類の試験がある。想定される学力は、主任管理者は大卒程度で実務経験5年以上、他の試験は短大卒または高卒程度で、いずれも実務経験3年以上。

試験科目と授業の関連（水質関係の場合）

試験科目	本学開講科目
公害総論	グリーンケミストリー（1年）、環境とエネルギー（2年）、B 演習I（3年）
水質概論	環境汚染物質分析学（3年）、B 演習I（3年）
汚水処理特論	物理化学（2年）、分析化学（2年）、機器分析（2年）、リサイクル工学（2年）、微生物工学（2年）、環境影響評価論（3年）、B 演習I（3年）
水質有害物質特論	物理化学（2年）、分析化学（2年）、有機化学（2年）、機器分析（2年）、微生物工学（2年）、計測工学（3年）、環境汚染物質分析学（3年）、環境影響評価論（3年）、B 演習I（3年）
大規模水質特論	微生物学（2年）、微生物工学（2年）、環境汚染物質分析学（3年）、環境影響評価論（3年）、B 演習I（3年）

「B」は「バイオ環境工学」を表す。

(3) バイオ技術者認定資格

(上級バイオ技術者認定試験)：

バイオ技術の進歩に対応して「生命工学技術の中で生物利用技術を中心に遺伝情報利用技術、増殖能利用技術および安全管理技術、並びにそれらに関する知識を持ち、指導的立場でそれを実際にバイオテクノロジーに応用し得る資質を高めた高度な技術者」を認定するものである。受験資格は3年修了見込み。

(中級バイオ技術者認定試験)：

バイオ技術の進歩に対応して、「遺伝子組換え技術、細胞融合技術、増殖能利用技術並びに生物及び生物由来材料利用技術、そしてこれらを行うための安全管理に関する知識をもち、適切な指導者の元で実際にバイオテクノロジーに適応しうる資質」を認定するものである。受験資格は2年修了見込み。

バイオ技術者認定資格試験は本学で受験できる。

試験科目と授業の関連

出題科目／中級試験	出題科目／上級試験	本学開講科目
バイオテクノロジー総論 (機器・バイオ英語・環境安全)	安全管理・バイオ機器	物理化学（2年）、分析化学（2年）、機器分析（2年）、 B 基礎演習II（2年）
生化学	核酸・タンパク質・酵素	生化学（2年）
微生物学	微生物バイオテクノロジー	バイオテクノロジー（1年）、微生物学（2年）、微生物工学（2年）
分子生物学		生命科学（1年）、分子遺伝学（2年）、遺伝子工学（3年）
遺伝子工学		分子遺伝学（2年）、遺伝子工学（3年）
	微生物バイオテクノロジー 動物バイオテクノロジー 植物バイオテクノロジー	バイオテクノロジー（1年）、微生物工学（2年）

「B」は「バイオ環境工学」を表す。

(4) 環境計量士（濃度関係）

受験資格は問われない。（物質濃度の）計量に関する専門の知識・技能を有する者に対して一定の資格を与え、適正な計量の実施の確保を推進するための制度。化学工業、食品プラント、廃棄物処理等の企業から研究施設まで広く要求される資格である。

試験科目と授業の関連

区分	出題科目	本学開講科目
専門科目	環境計量に関する基礎知識 環境関係法規および化学に関する基礎知識	基礎化学Ⅰ（1年）、基礎化学Ⅱ（1年）、グリーンケミストリー（1年）、無機化学（1年）、物理化学（2年）、分析化学（2年）、有機化学（2年）、環境熱力学（2年）、環境化学量論（2年）、B基礎演習Ⅰ・Ⅱ（2年）、B演習Ⅰ・Ⅱ（3年）
	化学分析概論および濃度の計量	環境化学量論（2年）、分析化学（2年）、機器分析（2年）
共通科目	計量関係法規	環境計量士勉強会（3年、4年）
	計量管理概論	確率・統計（2年）、品質管理（3年）、計測工学（3年）

〔B〕は「バイオ環境工学」を表す。

(5) 環境測定分析士 3級

環境測定分析作業に必要な技術・技能に関する基礎知識を（社）日本環境測定分析協会が認定。学生の場合は、大学において環境測定・分析に関する科目を履修したことを証明する書面（単位修得証明書等）を願書に添付すれば受験資格を得る。

試験科目と授業の関連

出題科目	本学開講科目
環境測定分析一般	無機化学（1年）、有機化学（2年）、分析化学（2年）、機器分析（2年）、計測工学（3年）、環境汚染物質分析学（3年）
環境法規	グリーンケミストリー（1年）、リサイクル工学（2年）、エコインダストリー（3年）

(6) 危険物取扱者乙種第四類

受験資格は問われない。危険物の取扱い、取扱いの立会および保安監督などを行うには、消防法で一定の資格を必要としている。危険物取扱者は、危険物の取扱いに関して、消防法令上強い権限が付与されていると共に、大きな責務を有している。

(7) ガス主任技術者

甲種、乙種、丙種の3種類がある。受験資格は問われないが、甲種は1年以上の実務経験が必要である。国家試験に合格すれば資格を取得できる。

注：任用資格とは、その資格を取得するに十分な教育・訓練を受けた人員がいる企業などの事業所において、必要に応じて当該事務局に資格申請することでその人が資格所有者となるものです。個人で自由に取得することはできません。

■土木建築工学科 (社会デザインコース・土木工学コース・建築工学コース)

在学中の取得を支援する主な資格	<ul style="list-style-type: none"> ●商業施設士補 ●商業施設士
卒業後申請により得られる資格	<ul style="list-style-type: none"> ●測量士補 (土木工学コース・社会デザインコース) ●技術士補 (土木工学コース)
卒業後、実務経験を経て自動的に得られる資格	<ul style="list-style-type: none"> ●測量士 (土木工学コース・社会デザインコース) ●ダム水路主任技術者 ●ダム管理主任技術者
特定の教科の単位を取得することによって、卒業と同時に受験資格が得られる資格	<ul style="list-style-type: none"> ●二級建築士 ●木造建築士
特定の教科の単位を取得することによって、卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	<ul style="list-style-type: none"> ●一級建築士
卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	<ul style="list-style-type: none"> ●土木施工管理技士 ●建築施工管理技士 ●管工事施工管理技士 ●造園施工管理技士 ●建設機械施工管理技士 ●電気工事施工管理技士 ●土地区画整理士 ●コンクリート診断士 ●コンクリート主任技士 ●地質調査技士
特定の教科の単位を取得することによって、試験の一部が免除される資格	<ul style="list-style-type: none"> ●火薬類取扱保安責任者
所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校教諭一種免許状 (技術) ●高等学校教諭一種免許状 (工業)
その他、科目設定により取得を支援している資格	<ul style="list-style-type: none"> ●土地家屋調査士 ●宅地建物取引主任者 ●福祉住環境コーディネーター ●インテリアプランナー ●インテリアコーディネーター 他

■感性デザイン学科

(1) 所定の単位を修得し、卒業と同時に得られる資格

●高等学校教諭一種免許状（工芸）
●高等学校教諭一種免許状（美術）
●中学校教諭一種免許状（美術）
●商業施設士補 注：本学で開催される講習会への参加が必要となります

(2) 在学中の取得を支援する主な資格

資格名称	取得支援を実施する主な科目
●CAD 利用技術者	感性 CAD&CG 演習
●Illustrator クリエイター能力認定	コンピュータ基礎演習／ビジュアルデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
●Photoshop クリエイター能力認定	コンピュータ基礎演習／ビジュアルデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
●TOEIC	現代英語Ⅰ・Ⅱ／英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ／英語特別演習
●Web デザイン検定	Web デザイン／ビジュアルデザイン演習Ⅲ
●インテリアコーディネーター	インテリアデザイン／住環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ
●色彩検定	色彩学／住環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ／ビジュアルデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
●カラーコーディネーター	
●福祉住環境コーディネーター	福祉住環境デザイン／住環境デザイン演習Ⅰ
●リビングスタイリスト	住環境デザイン演習Ⅰ
●日本語検定	日本語表現法／実践日本語表現／主題別ゼミナールⅡ
●日本漢字能力検定	

■外国語資格副専攻コース

八戸工業大学では、外国語の資格を取得するために、英語、ドイツ語、中国語の各専攻コースを設置しています。総合教養科目(最大) 9科目13単位で構成する外国語資格副専攻コースです。最終目標資格を取得すると、コース修了となります。詳細は別冊子『外国語資格副専攻コース案内』を参照してください。

外国語資格副専攻コースの取得目標資格です。

外国語資格副専攻コースの名称	目標資格の名称
英語検定資格コース	工業英語能力検定試験 (2級、3級、4級)
	実用英語技能検定試験 (準1級、2級、準2級、3級)
	TOEIC L&R (580点以上、450点以上、400点以上)
ドイツ語検定資格コース	ドイツ語技能検定試験 (3級、4級、5級)
中国語検定資格コース	中国語検定試験 (3級、4級、準4級)

4.4 同窓会

本学には、卒業生相互の親睦を図ることを目的に同窓会が組織されています。

同窓会は、卒業生(正会員)、在学生(準会員)、そして教職員(特別会員)で構成されています。

在学生のみなさんは、卒業すると同時に正会員になります。

同窓会は大学内に本部を、また仙台市、札幌市、秋田市、東京都に支部を置いています。

同窓会の活動内容は、会報の発行、総会(集う会)の開催や母校の発展に寄与するための活動など多岐にわたっております。



第16回 八戸工業大学同窓生の集う会 平成28年10月1日 於 八戸グランドホテル

第5章

施設の利用について

5. 1	図書館	166
5. 2	メディアセンター	167
5. 3	スポーツ施設	168

5.1 図書館

図書館は、大学で行う教育研究活動に必要な図書や雑誌を中心とする資料を通して情報を提供する機関です。図書資料としては図書、雑誌および視聴覚資料などがあります。レポートの作成のための資料調査あるいは研究活動のための文献調査に、図書館を利用してください。

図書館は多くの利用者のための施設です。利用にあたっては、利用規則を守り互いに迷惑をかけないように利用してください。利用に関する不明な点は、図書館員に気軽に相談してください。

■開館時間

月～金曜日 9:00～21:00

土曜日 10:00～17:00

日曜日（試験期間） 10:00～17:00

夜間開館 17:00～21:00

（春季、夏季、冬季の各休業日の一部期間は17:00まで）

ただし、試験期間を除く日曜日、国民の祝日および年末年始は休館とします。また、整理作業等のため臨時に休館することがあります。

■学生証

図書資料の館外貸出、書庫1、2および4層の利用などの際には学生証が必要です。

■図書資料と利用方法

1. 学生閲覧室

事典、辞書、百科辞典、ハンドブック、新刊雑誌、視聴覚資料のほか、図書館検索システムとして、OPACがあります。また、無線LANアクセスポイントを設置していますので、個人のノートパソコンを持ち込んでインターネットに接続できます。館内には自由に利用できるデスクトップパソコン約10台があり、マイクロソフトオフィスを使用できます。ビデオ、CD、DVD、マルチメディアコーナーを利用する際は閲覧カウンターで手続きをして下さい。自由に館内で閲

覧できるほか、館外への貸出も行っております。

2. 書庫

書庫は4層になっています。学生閲覧室につながっている階は3層です。3層の図書は自由に館内で閲覧できます。館外へ帯出したいときは学生証を持参し、閲覧カウンターで手続きをしてください。1、2および4層の図書を見たいあるいは借りたいときは、学生証を持参し閲覧カウンターで手続きしてください。



3. 新聞閲覧室

新聞11紙と小冊子が閲覧できます。

4. 雑誌閲覧室

雑誌のバックナンバーを所蔵しています。所蔵されている雑誌のリストは雑誌閲覧室および閲覧カウンターにあります。学生証を持参の上、閲覧カウンターで手続きをして利用できます。貸出はできません。

5. 多目的ホール

パソコンやビデオ・DVDを接続可能な液晶プロジェクターを備えた多目的ホールは、講義や講演会・シンポジウムあるいはサークル活動などの発表の場として活用できます。利用したいときは、図書館へ申し込んで下さい。

■守ってほしいこと

- ・館内では飲食、談話はできません。ただし、指定された場所での飲食（フタをすることができ容器に入ったものに限る）の摂取は可とします。
- ・館内での携帯電話での通話、資料の撮影はお控えください。
- ・図書などの資料は大切に扱い、書き込みや破損のないようにしてください。
- ・紛失あるいは著しく汚したり損傷させたときは、同一の図書あるいは相当の代金をもって弁償してもらうことがあります。
- ・返却期間を守らないなど、ルールを守らなかったり係員の指示に従わないときは、利用を停止することがあります。

■その他

学生閲覧室にはコピー機があり有料で利用できます。ただし、図書館の資料をコピーする場
合に限ります。

5.2 メディアセンター

メディアセンターは、多目的なホール、会議室等で構成されています。

また、パソコン、ネットワーク環境が整備されており、勉学や研究資料の収集等にも有効です。

普段は学習室として利用されているホールには、大型スクリーンや液晶プロジェクター、HDDレコーダー等のOA・AV機器も設備されており、学術講演やサークルの発表、演奏会の場などにも利用できます。

利用の際は、教職員を通じて申し込んで下さい。

■開館時間

月～金曜日 8：30～19：30

※土日、祝日、年末年始、その他大学行事のある日は原則として利用できませんが、行事の内容によっては開館する場合があります。

■窓口

利用に関する申し込み、問い合わせ、質問等は、学事課までお気軽に相談して下さい。



5.3 スポーツ施設

スポーツ施設として体育館、テニスコート、プール、運動公園などが利用できます。施設の借用及び、用具の借用方法等についてはそれぞれの問い合わせ先に相談してください。

施設と設備	問い合わせ先
体育館（体育室、レスリング場、ボクシング場、トレーニング室、男女更衣室など） 陸上競技場（400mトラック、ラグビー場） 野球場、サッカー場、ソフトボール場 尚志館、室内練習場 テニスコート3面（人工芝）テニスコート2面（クレー）	施設借用：学生課 （本館1F） 用具借用：体育教員
運動公園（50mプール、テニスコート3面（オムニコート）、キャンプ場） 合宿所（30名宿泊可能）2棟	法人事務局総務課 （本館3F）



第6章

願い・届け・証明書の手続き

6. 1	休学願	170
6. 2	復学願	170
6. 3	退学願	170
6. 4	転学願	170
6. 5	転学科願	170
6. 6	欠席届	171
6. 7	忌引届	171
6. 8	特別欠席願	171
6. 9	変更届	171
6. 10	学生残留・出校届	171
6. 11	時間外・休業日課外活動願	171

これまで述べてきたように、学籍の変更、履修手続き、証明書の交付などの願い、届け、各種証明書交付手続きをまとめると別表(P172)のようになります。特に注意すべき手続きについて説明しますが、不明な点は手続きの提出先あるいは担任に相談してください。証明書の作成に時間を要するものもありますから、余裕をもって手続きしてください。

また、手続きの際は必ず**学生証**と**印鑑**を持参してください。

6.1 休学願

- ①病気その他の理由で引続き3ヵ月以上修学できない場合は、所定の休学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教務課に提出し、学長の許可を得て休学することができます。(無断欠席は不利な取り扱いを受けることになります。)
- ②病気、けがによる休学の際は診断書を添付しなければなりません。
- ③休学期間は1年以内とし、2年度にわたる場合は年度ごとに休学願を提出することになります。
- ④許可された休学期間が満了したときは、復学となります。その際は、**復学届**を教務課に提出してください。
- ⑤休学している者が、許可された休学期間を過ぎても復学できないときは、再休学願を教務課に提出し、学長の許可を得て再休学することができます。ただし、休学期間は通算して4年を超えることはできません。

6.2 復学願

- ①許可された休学期間の途中で休学理由がなくなり復学したいときは、所定の復学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教務課に

提出し、学長の許可を得て復学することができます。

- ②復学の手続きには復学願、病気・けがで休学していたときは診断書、復学する学期の学費が必要です。

6.3 退学願

- ①病気その他の理由で退学しようとする場合は、所定の退学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。
- ②退学願には学生証を添付しなければなりません。

6.4 転学願

- ①他の大学に転学を志望する場合は、所定の転学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。
- ②転学願には学生証を添付し、所属学科長の承認が必要です。

6.5 転学科願

転学科を志望する者がいるときは、選考のうえ許可することがあります。

- ①出願の時期および手続き
 - (a)出願の時期は、原則として1年次または2年次の3月1日から3月10日までです。
 - (b)願書は、学生の所属学科長が受け付けます。
- ②許可の条件等について
 - (a)やむを得ないと認められる理由があること。
 - (b)原則として、出願学生の入学試験成績が希望する学科の成績の最下位以上で、かつ入

学後の成績が所属学科の中位以上であること。

(c)出願学生の所属学科の運営および教育に支障がないと認められること。

(d)希望受入れ学科の運営および教育に支障がないと認められること。

(e)転学科を認められた者は、再び転学科の出願をすることはできません。

6.6 欠席届

引続き3日以上欠席する場合は、必ずその理由を明記し保証人連署のうえ欠席届を教務課に提出しなければなりません。また、病欠などで7日以上欠席する場合は必ず診断書などの証明書を添付しなければなりません。

欠席届出の日数が3ヵ月を超える場合は休学願を提出することになります。

6.7 忌引届

忌引をするときは、所定の忌引届に保証人連署のうえ教務課に提出しなければなりません。

6.8 特別欠席願

学生会活動や、クラブ活動の対外試合など課外活動で授業を欠席するときは、特別欠席願を提出することによって出席について考慮されることがあります。願い出は、団体毎に一括して学生課で承認を受けて、担当教員へ提出してください。

6.9 変更届

次の項目について変更があったときは、すみやかに学生課へ変更届を提出しなければなりません。この提出がないために連絡ができないばかりか不利益を被ることがあります。

- ・現住所
- ・本人氏名
- ・本籍
- ・保証人氏名
- ・保証人住所

6.10 学生残留・出校届

卒業研究、製図、実験などで放課後も学内に残留するときや、休業日に出勤するときには学生残留・出校届を提出しなければなりません。届出用紙は各学科事務室に置いてありますので、必要事項を記入の上担当教員の承認を受けて学事課に提出してください。

- ①授業のある日で19時以降学内に残留するときは、当日の16時50分までに提出してください。
- ②休業日に出勤するときは、前日の16時50分までに提出してください。

届出は、いずれの場合も休業日を除く平日に提出してください。詳しくは残留・出校者心得(7.14)をよく読んで、事故のないように注意してください。

6.11 時間外・休業日課外活動願

学内において、平日の8時30分～20時以外の時間や休業日に課外活動を行おうとする場合は、時間外・休業日課外活動願を学生課へ提出しなければなりません。この願い出の提出は、活動しようとする日の3日前までに手続きしなければなりません。

願い出・証明書等の手続き

種 別	取扱窓口	備 考
休学願 再休学願 復学願 復学届 退学願 転学願 転学科願	教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 教務課	事由が発生した時(病気による場合は診断書を添付) 休学期間を延長する時 休学期間途中で復学する時 休学期間が満了した時 事由が発生した時(学生証を返却) 事由が発生した時 1年次または2年次の所定の期間
履修届 他学科講義科目履修願	教務課 教務課	学年始め 学期始め
欠席届 忌引届 特別欠席願	教務課 教務課 学生課	事由が発生した時 事由が発生した時 事由が発生した時
在学証明書 成績証明書 卒業証明書 卒業見込証明書 単位修得証明書 修得学科目証明書 教員免許状取得見込証明書 健康診断証明書 学生証再交付願 学生旅客運賃学割証(学割) 通学証明書	教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 学生課 学生課 学生課 学生課	手数料 200円 即日交付 手数料 200円 即日交付 手数料 200円 申請日より3日後交付 手数料 200円 即日交付 手数料 200円 申請日より3日後交付 手数料 200円 申請日より3日後交付 手数料 200円 申請日より3日後交付 手数料 200円 即日交付 手数料 1,500円 申請日より2日後交付 無料 即日交付 無料 申請日より2日後交付
駐車場使用許可願	学生課	事由が発生した時
宿所変更届 氏名変更届 本籍変更届 保証人変更届 保証人氏名変更届 保証人住所変更届	学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課	事由が発生した時 事由が発生した時(戸籍抄本を添付) 事由が発生した時(戸籍抄本を添付) 事由が発生した時 事由が発生した時 事由が発生した時
学費延納願	財務課	学費納入期限日までに
就職模試 公務員模試	就職課 就職課	受験料 1,000円 即日交付 受験料 3,000円 即日交付
学生残留・出校届	学事課	

学生会・課外活動関係

種 別	取扱窓口	備 考
団体結成願 団体継続届 団体解散届 学外団体加盟願 学外課外活動参加願 学外課外活動参加結果報告書 学外者の学内活動参加願 時間外・休業日課外活動願 部室借用願(新規・継続) 部室返納届 集会許可願 学内掲示等許可願 印刷物発行・配布・回覧願 施設・設備・備品等使用願 放送願	学生課	「学生の諸活動に関する規程参照のこと」

第7章

諸規程

7. 1	八戸工業大学学則（抄）	174
	別表第1 教育課程表、教職課程表	
	別表第2 学費、入学検定料	
7. 2	八戸工業大学学位規程	198
7. 3	八戸工業大学学費納入規程	203
7. 4	八戸工業大学学生心得	204
7. 5	八戸工業大学履修規程	206
7. 6	八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程	213
7. 7	編入学者および転入学者の履修等に関する規程	225
7. 8	八戸工業大学GPA取り扱い要項	226
7. 9	八戸工業大学図書館利用規程	228
7. 10	八戸工業大学情報ネットワーク施設利用規程	230
7. 11	学生の諸活動に関する規程	231
7. 12	学友会館使用規程	233
7. 13	施設・設備・備品等管理規程	234
7. 14	残留・出校者心得	235
7. 15	八戸工業大学車両通学に関する規程	235
7. 16	八戸工業大学学部各種証明書等交付に関する規程	237
7. 17	学友会会則	238
7. 18	学友会の選挙に関する規程	240
7. 19	学友会会費規程	241

7.1 八戸工業大学学則（抄）

制 定 昭和47年4月1日

改 正 平成27年4月1日

第1章 目的および自己点検・評価

第1条 本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」を教育理念とし、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造ならびに地域社会の発展に寄与することを目的とする。

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表するとともに、公的機関による認証評価を受けるものとする。

2 本学は、教育研究の内容等等の改善を図るための組織的な研修および研究を実施する。

3 前二項の点検および評価等についての必要な事項は、八戸工業大学自己点検・評価取扱要綱を準用する。

第2章 学部構成および教育研究上の目的

第3条 本学に、次の学部および学科を置く。

工学部

機械情報技術学科

電気電子システム学科

システム情報工学科

バイオ環境工学科

土木建築工学科

感性デザイン学部

感性デザイン学科

2 工学部および感性デザイン学部の教育研究上の目的は、次の通りとする。

一 工学部

豊かな人間性と総合的な判断力をもった技術者、工学の基礎原理を踏まえ高度な応用展開能力をもった技術者および地域社会への関心とともに国際的な視野をもった技術者を育成するとともに、機械、電子・電気、土木・建築、情報およびバイオ・環境などの工学に関する教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

二 感性デザイン学部

現代社会が抱える問題を発見、理解できる能力、並びにその問題の解決ができるデザイン能力を有し、豊かな生活と幸福な社会づくりに貢献できる人材を育成するとともに、人々の生活の視点に立った感性デザインを探究し、これらの成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

3 各学科における教育研究上の目的は、次の通りとする。

一 機械情報技術学科

多様化した社会ニーズに応えるため、必要な科学と機械ならびに情報技術の知識、幅広い教養と倫理観および問題解決・応用展開能力をもった機械技術者を養成するとともに、材料および設計・製造加工学、エネルギーおよび熱・流体工学、情報および制御工学、自動車工学、ロボット工学などに関する研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

- 二 電気電子システム学科
科学技術の高度化、知能化およびシステム化の進展とエネルギー環境問題の解決ならびに地域のニーズに応えるため、幅広い教養と技術者としての倫理観をもち、電気電子技術に関する知識の応用力と構想力を備えた技術者を育成する。また、電子デバイス、情報・通信・メディア、エネルギーシステム制御に関する研究の実施と成果の還元を通じて社会の発展に貢献すること
- 三 システム情報工学科
情報通信技術の分野で地域産業の活性化と発展をはかるため、科学技術の基礎知識、情報工学の専門知識ならびに国際的視野に立った幅広い教養と倫理観を備え、時代の変化に対応できる能力をもった技術者を養成するとともに、情報工学、システム工学、マルチメディア工学および情報関連分野に関する研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること
- 四 バイオ環境工学科
バイオ基礎として生物がもつ特異な機能を種々のシステムに有効活用できるバイオテクノロジーに関する専門知識と食品衛生管理技術を身につけたバイオ技術者および環境に負荷を与えない環境調和・環境修復に関する知識と実務能力をもつ環境調和技術者を育成するとともに、生物、環境科学に関する研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること
- 五 土木建築工学科
社会基盤と居住空間の整備、自然環境と調和した地域社会の発展、地域・文化・時代により変化する建設分野への要請および諸課題へ対応するため、必要な科学と土木・建築工学技術の知識、幅広い教養と倫理観、コミュニケーション能力、生涯自己学習能力および問題解決・応用展開能力をもった技術者を養成するとともに、土木工学および建築工学に関する研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること
- 六 感性デザイン学科
現代社会の構造変化、価値観の多様化などの社会的背景を理解し、多角的な視点でモノを表現するデザイン力、並びに豊かな住環境を提供するデザイン力をもって、幸福で美しい社会づくりに積極的に携わることができる人材を養成するとともに、人々の生活の視点に立った感性デザインを探究し、これらの成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

第3章 修業年限および収容定員

第4条 本学の修業年限は、4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

第5条 本学の入学定員および収容定員は、次の通りとする。

		入学定員	収容定員
一	工学部 機械情報技術学科	80名	320名
二	工学部 電気電子システム学科	60名	240名
三	工学部 システム情報工学科	70名	280名
四	工学部 バイオ環境工学科	60名	240名
五	工学部 土木建築工学科	70名	280名
六	感性デザイン学部 感性デザイン学科	60名	240名

第4章 開学記念日、学年、学期および休業日

第6条 開学記念日は、1月29日とする。

2 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第7条 学年を分けて、次の2学期とする。

一 前期（4月1日より9月15日まで）

二 後期（9月16日より翌年3月31日まで）

第8条 学年中の休業日は、次の通りとする。

一 土曜日および日曜日

二 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

三 春季休業

四 夏季休業

五 冬季休業

2 前項の第3号から第5号の休業日については、毎年度定める。

3 必要がある場合、第1項の休業日を臨時に変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

4 必要がある場合、第1項の休業日に授業等を行うことがある。

第5章 入学、再入学、転入学、編入学、復籍、転学部、転学科および保証人

第9条 入学、転入学および編入学の時期は、学年の初めから30日以内とする。

2 再入学の時期は、学期の初めとする。

第10条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

一 高等学校を卒業した者

二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）

三 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

五 専修学校の高等課程で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

六 文部科学大臣の指定した者

七 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

八 相当の年齢に達し、本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第11条 入学を志願する者に対しては、入学試験の上、入学を許可する。

第12条 本学を退学した者または第22条第五号の規定により除籍となった者が、再入学を志願するときは、選考の上、許可することができる。

2 第22条第二号、第三号および第四号の規定により除籍された者の復籍については、認めない。

3 第22条第五号の規定により除籍された者の復籍については、別に定める。

第13条 次の各号の一に該当する者は、人員に余裕のある場合に限り、選考の上、転入学又は編入学を許可することができる。

一 他の大学に在学する者で、その学長または学部長の許可を得て転入学を志願する者

二 大学、短期大学、高等専門学校を卒業した者並びに文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者（学校教育法第90条に規定する者に限る。）で、本学に編入学を志願する者

第14条 転学部あるいは転学科を志願する者があるときは、選考の上、許可することができる。

第15条 再入学、転入学、編入学、転学部または転学科を許可された者の、すでに修得した授業科目とその単位数および修業年数は、審査の上、その一部または全部を認めることがある。

第16条 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）について、教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。ただし、この認定に関連して修業年限の短縮は行わない。

2 前項による単位の認定は、合計30単位を超えない範囲で行うものとする。

第17条 入学、再入学、転入学または編入学を許可された者は、保証人連署の誓約書を指定期日までに提出し、その他本学所定の入学手続きを完了しなければならない。

2 正当の理由なく前項の手続きをしないときは、入学、再入学、転入学または編入学の許可はその効力を失う。

第18条 保証人は父母または独立生計を営む成年の者とする。

2 保証人は、入学、再入学、転入学または編入学を許可された者の誓約に関し、連帯責任を負うものとする。

3 保証人の変更、転居、改印、改氏名等は、そのつど届け出なければならない。

第6章 休学、転学、退学および除籍

第19条 病気その他の事由により、引続き3月以上修学することができない場合は、願い出て許可を受けて休学することができる。

2 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、願い出により期間の延長を許可することができる。

3 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

4 休学期間中に事由がなくなったときは、許可を受けて復学することができる。

5 休学期間は、修業期間に算入しない。

第20条 他の大学に転学を志願する者は、事由を具して、その許可を願い出なければならない。

第21条 退学しようとする者は、事由を具して、その許可を願い出なければならない。

第22条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

一 死亡の届け出のあった者

二 病気その他やむを得ない事情により修学の見込みのない者

三 第4条の在学年数を経て、なお所定の課程を修了できない者

四 第19条第3項の休学期間に達しても、なお修学できない者

五 授業料等の滞納期間が2月を超える者

第7章 教育課程および履修の方法

第23条 本学の開設する授業科目、単位数、授業時間数およびその配置等は、別表第1による。

2 学生が所属する学部学科以外の学科の講義科目を履修することを認めることがある。

3 学部または学科に、必要に応じて履修上のコースを設けることができる。

第24条 各授業科目に対する単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

一 講義および演習については、毎週1時間15週または毎週2時間15週の授業をもって1単位とする

二 実験、実習および実技については、実験室または実習場等で行われるものであることを考慮し、毎週2時間15週または毎週3時間15週の実験、実習または実技をもって1単位とする

- 2 一つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前項各号に規定する基準をもって1単位とする。

第25条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第26条 学生は、毎学期の初めに、履修しようとする授業科目を、所定の手続きにより届け出なければならない。

- 2 学生は、届け出た科目に限り、単位修得の認定を受けることができる。

第27条 授業科目の単位修得の認定は、試験による。ただし、平常の成績を加味することがある。

- 2 実験、実習、演習および実技は、平常の成績をもって試験にかえることがある。

第28条 試験は原則として、学期末に行う。

- 2 各授業科目の成績評価は、S、A、B、CおよびDによるものとし、S、A、B、Cは合格Dは不合格とする。

- 3 病気その他やむを得ない事故で定期の試験に欠席した者に対しては、追試験を行うことがある。

- 4 その他試験の施行に関しては、別に定める。

第29条 各学年において、修得単位数が、別に定める基準に満たない場合には、その学年に留年とする。

第30条 卒業に必要な修得単位数は、別表第1に定める単位を含め、124単位以上とする。

第31条 卒業研究あるいは卒業制作・論文の題目および研究計画は、卒業しようとする年度の初めに、所定の手続きにより、届け出なければならない。

第32条 学長は、学生が他の大学の授業科目を履修することまたは、これに相当する教育機関等において修学することが教育上有益であると認めるときは、教授会の議を経て当該大学等と協議のうえ、履修することまたは修学することを認めることができる。

- 2 学長は、学生が外国の大学またはこれに相当する教育機関等において修学することが教育上有益であると認めるときは、教授会の議を経て当該大学等と協議の上、留学することを認めることができる。

- 3 留学の期間は、修業期間に算入する。

- 4 学長は、第1項の規定により修得した成果および、第2項の規定により留学して得た修学の成果について、教授会の議を経て本学において修得したものとして認定するものとする。

- 5 前項の規定により修得したものとみなす単位数は、第16条の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第8章 卒業および学位授与

第33条 本学において4年以上修業し、所定の授業科目を履修し所定の単位を修得した者は卒業とし、工学部にあつては学士（工学）、感性デザイン学部にあつては学士（感性デザイン）の学位を授与する。

- 2 前項の規定にかかわらず文部科学大臣の定めるところにより、本学に3年以上在学した者で、卒業の要件として本学が定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合は、卒業を認めるものとする。

- 3 学位の授与についての必要な事項は、八戸工業大学学位規程に定める。

第9章 教育職員免許状

第34条 教育職員免許状を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許法および同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。この修得すべき授業科目ならびに単位数は別表第1に掲げる。

- 2 前項の所要条件を満たした者に対しては、次に掲げる教育職員免許状取得の資格を与える。

免許状の種類	免許教科の種類	学 科
中学校教諭 一種免許状	技 術	工学部 機械情報技術学科 電気電子システム学科 システム情報工学科 バイオ環境工学科 土木建築工学科
	美 術	感性デザイン学部 感性デザイン学科
高等学校教諭 一種免許状	工 業	工学部 機械情報技術学科 電気電子システム学科 システム情報工学科 バイオ環境工学科 土木建築工学科
	情 報	工学部 システム情報工学科
	理 科	工学部 バイオ環境工学科
	美 術	感性デザイン学部 感性デザイン学科
	工 芸	感性デザイン学部 感性デザイン学科

第10章 学費および入学検定料

第35条 本学に納付すべき学費および入学検定料は、別表第2の通りとする。

第36条 納入方法その他の取扱いについては、別に定める。ただし、休学期間中の授業料は、原則としてこれを免除する。

第11章 科目等履修生

第37条 本学の授業科目のうち、1科目または数科目を選んで履修を志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

第38条 科目等履修生の入学の時期は、学年または学期の初めとする。

第39条 科目等履修生はその履修科目を学修するのに十分な学力がなければならない。

第40条 科目等履修生の在学期間は1年以内とする。ただし、願い出によって期間を延長することがある。

第41条 科目等履修生は、その履修科目の試験を受けることができる。

2 試験に合格した者には、大学の定めるところにより、単位修得の認定をする。

第42条 科目等履修生の学費および入学検定料は、別表第2の通りとする。

第43条 科目等履修生には、本章の規定のほか、第4章（学年、学期および休業日）、第17条（入学手続）、第18条（保証人）、第6章（休学、転学、退学および除籍）、第7章（教育課程および履修の方法）、第9章（教育職員免許状）および第15章（賞罰）の規定を準用する。

第12章 特別聴講学生

第44条 本学と他の大学または、これに相当する教育機関等との協議に基づき、本学の学生が当該他大学等で開設する授業科目の履修および単位の修得を希望するとき、若しくは当該他大学等の学生が本学で開設する授業科目の履修および単位の修得を希望するときは、特別聴講学生として扱い、その履修および単位の修得を認めることができる。

2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

第45条 受入れ特別聴講学生には、本章の規定のほか第4章（学年、学期および休業日）、第7章（教育課程および履修の方法）および第15章（賞罰）の規定を準用する。

第13章 研究生

第46条 本学において特定の事項について研究することを願い出た者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

第47条 研究生の入学の時期は、学年または学期の初めとする。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。

第48条 研究生を志願できるものは、次の各号の一に該当する者とする。

一 大学を卒業した者

二 短期大学、高等専門学校またはこれと同等以上の学校を卒業した者で、関係学科を履修した者

三 本学において前二号と同等以上の学力があると認めたる者

第49条 研究生の在学期間は、1年以内とする。ただし引き続き在学を願い出たときは、在学期間の延長を許可することがある。

第50条 研究生が研究事項について証明を願い出たときは、研究証明書を交付することがある。

第51条 研究生がその研究に関係のある授業科目の履修を願い出たときは、許可することがある。

第52条 研究生の学費および入学検定料は、別表第2の通りとする。

第53条 研究生には、本章の規定のほか第4章（学年、学期および休業日）、第17条（入学手続）、第18条（保証人）、第6章（休学、転学、退学および除籍）、第7章（教育課程および履修の方法）および第15章（賞罰）の規定を準用する。

2 研究生が授業科目を履修する場合は、その履修科目について、第11章（科目等履修生）の規定を準用する。

第14章 外国人特別留学生

第54条 外国人で特別留学生として入学を希望する者があるときは、第10条の規定によらず、特別に選抜の上入学を許可することがある。

第55条 外国人特別留学生の取り扱いについては、別に定める規程による外はすべて本学学生に関する規定を準用する。

第15章 賞 罰

第56条 顕著な善行があった者は表彰することがある。

2 卒業に際して、人物、学業ともに優秀で他の学生の模範とするに足る者は表彰することがある。

第57条 本学の規則、命令に違反し、または学生の本分に反する行為のあった者は、懲戒する。

2 懲戒の種類は、訓告、停学および退学とする。

3 停学3月以上にわたるときは、その期間は修業期間に算入しない。

4 懲戒処分の基準およびその手続については、別に定める。

第58条 前条の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

一 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

- 二 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者
- 三 正当の理由がなく出席常でない者
- 四 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

第16章 職員組織および教授会

(省略)

第17章 基礎教育研究センター、図書館、工作技術センターおよび研究所

第63条 本学に基礎教育研究センター、図書館、工作技術センターおよび研究所を置く。

- 2 基礎教育研究センター、図書館、工作技術センターおよび研究所の運営等に関する事項は、別に定める。

第18章 大学院

第64条 本学に大学院を置く。

- 2 大学院に関する事項は、別に定める。

第19章 公開講座

第65条 本学に公開講座を開設することができる。

- 2 公開講座の運営等に関する事項は、別に定める。

第20章 学則の改廃

第66条 この学則の改廃は、教授会の議を経て、理事会が行う。

附 則 (平成23年2月23日 八工大総第75号)

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第28条第2項については、平成22年度以前に入学した学生は従前の規定を適用する。附則の一部を省略している。

附 則 (平成27年3月31日 八工大総第86号)

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

機械情報技術学科課程表

別表第1

平成21年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要				
			必修	選択	1年		2年		3年		4年						
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1											
		キャリアデザインⅡ		1			1	1									
		キャリアデザインⅢ		2						2	2						
		キャリアデザインⅣ		1	2												
	工学への関心	機械情報ゼミナールⅠ		1		2											
機械情報技術概論			2			2											
エンジン解剖実習			1		3												
総合教養科目	人間科学	哲学		2					2							左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること	
		文学		2			2										
		心理学		2			2										
		職業倫理	2							2							
		歴史		2	2												
		経済学		2		2											
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2										左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること	分野を問わず左記の科目から必修を含み20単位以上を修得すること
		実践日本語表現		2						2							
		現代英語Ⅰ	1		2												
		現代英語Ⅱ	1			2											
		英語コミュニケーションⅠ	1				2										
		英語コミュニケーションⅡ	1					2									
		英語特別演習		1						2							
		ドイツ語基礎Ⅰ		1	2												
		ドイツ語基礎Ⅱ		1		2											
		ドイツ語コミュニケーションⅠ		1			2										
		ドイツ語コミュニケーションⅡ		1				2									
		ドイツ語特別演習		1							2						
		中国語基礎Ⅰ		1	2												
		中国語基礎Ⅱ		1		2											
	中国語コミュニケーションⅠ		1			2											
	中国語コミュニケーションⅡ		1				2										
	中国語特別演習		1							2							
	体育科学	体育学		1	2												
		スポーツ健康学		1			2										
		スポーツ特別演習		1		2											
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2											
主題別ゼミナールⅡ			2			2											
主題別ゼミナールⅢ			2				2										
主題別講義			2							2							
海外研修			1	2													
工学基礎科目	工学基礎	機械基礎数学		2	2										左記の科目から必修を含み14単位以上修得すること		
		線形代数		2		2											
		微分		2		2											
		積分		2		2											
		確率・統計		2			2										
		応用数学		2						2							
		基礎物理学Ⅰ		2		2											
		基礎物理学Ⅱ		2			2										
		基礎物理学Ⅲ		2				2									
		基礎化学Ⅰ		2	2												
		基礎化学Ⅱ		2		2											
		物理学実験		2	4												
		化学実験		2		4											
		物理科学		2	2												
		環境とエネルギー		2			2										
		生命科学		2				2									
基礎情報科学		2	2														
リメディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ		1	2												
		数学基礎Ⅱ		1	2												
		物理基礎		2	2												
		英語基礎Ⅰ		1	2												
		英語基礎Ⅱ		1		2											

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要		
			必修	選択	1年		2年		3年		4年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目	材力・機力	材力・機力学基礎		2		2									
		材料力学	2				2								
		CAE 材料力学		2				2							
		機械力学	2						2						
		CAE 機械力学		2						2					
	熱・流体	熱・流体学基礎		2		2									
		熱力学	2				2								
		熱工学		2				2							
		伝熱工学	2						2						
		CAE 伝熱工学		2							2				
冷凍空調工学			2									2			
流れ学		2				2									
CAE 流れ学			2				2								
流体機械システム工学		2							2						
情報・制御	パソコン工作学	2		2											
	基礎機械情報工学	2			2										
	応用機械情報工学		2			2									
	計測工学	2					2								
	メカトロニクス基礎		2					2							
	ロボット工学		2									2			
	電気電子工学概論		2			2									
	電子回路工学		2				2								
	制御工学	2							2						
	CAE 制御工学		2							2					
材料・設計・加工	機械材料工学	2		2											
	先進材料工学		2		2										
	基礎設計工学	2				2									
	応用設計工学		2				2								
	工作学	2			2										
	機械加工学		2						2						
	成形加工学		2							2					
	マイクロマシンシステム		2									2			
	基礎設計製図	2				6									
	CAD 設計製図	2					6								
	機械設計技法	2										6			
	機械工作実習	1								3					
	ロボット創作	1									3				
	品質管理		2							2					
	自動車工学	潤滑工学		2							2				
自動車エンジン			2							2					
自動車測定検査概論			2								2				
自動車構造Ⅰ			2									2			
自動車構造Ⅱ			2										2		
自動車法規			2										2		
自動車工学			2										2		
カーエレクトロニクス			2										2		
自動車検査			2										2		
自動車整備実習			6										9	9	
総合工学	機械工学実験Ⅰ	1								3					
	機械工学実験Ⅱ	1									3				
	機械工学演習Ⅰ	2				2									
	機械工学演習Ⅱ	2					2								
	機械工学演習Ⅲ	2						2							
	機械工学演習Ⅳ	2							2						
	機械情報ゼミナールⅡ	1							2						
	機械情報ゼミナールⅢ	1											2		
	機械創造	2				2									
	学外研修		1						1						
	卒業研究		6										9	9	
原子力工学	原子力エネルギー		2		2										
	放射線の利用		2			2									
	原子力体感研修		2							2					
	原子燃料サイクル・安全工学		2									2			
機械情報技術学科総計			70	151	46	43	45	35	41	28	42	22			

専門科目から必修を含み70単位以上を修得すること

電気電子システム学科課程表

別表第1

平成22年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要					
			必修	選択	1年		2年		3年		4年							
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1												
		キャリアデザインⅡ		1			1	1										
		キャリアデザインⅢ		2						2	2							
		キャリアデザインⅣ		1	2													
	工学への関心	電気電子システム入門	2		2													
		電気電子システム概論	2			2												
総合教養科目	人間科学	歴史		2	2													
		経済学		2		2												
		文学		2			2											
		心理学		2			2											
		哲学		2				2										
		職業倫理	2						2									
		日本国憲法		2							2							
		環境とエネルギー	2				2											
		生命科学		2				2										
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2												
		実践日本語表現		2						2								
		現代英語Ⅰ	1		2													
		現代英語Ⅱ	1			2												
		英語コミュニケーションⅠ	1				2											
		英語コミュニケーションⅡ	1					2										
		英語特別演習		1						2								
		ドイツ語基礎Ⅰ		1	2													
		ドイツ語基礎Ⅱ		1		2												
		ドイツ語コミュニケーションⅠ		1			2											
		ドイツ語コミュニケーションⅡ		1				2										
		ドイツ語特別演習		1						2								
		中国語基礎Ⅰ		1	2													
		中国語基礎Ⅱ		1		2												
	中国語コミュニケーションⅠ		1			2												
	中国語コミュニケーションⅡ		1				2											
	中国語特別演習		1						2									
	体育科学	体育学		1	2													
スポーツ健康学			1			2												
スポーツ特別演習			1		2													
総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2													
	主題別ゼミナールⅡ		2			2												
	主題別ゼミナールⅢ		2				2											
	主題別講義		2							2								
	海外研修		1	2														
工学基礎科目	数学	微分	2		2													
		積分	2			2												
		線形代数	2			2												
		確率・統計学	2				2											
		応用数学	2					2										
	物理学・化学	物理学		2	2													
		基礎物理学Ⅰ	2			2												
		基礎物理学Ⅱ		2			2											
		基礎物理学Ⅲ	2					2										
		基礎化学Ⅰ		2	2													
	基礎化学Ⅱ		2		2													
	情報	基礎情報科学	2		2													
	実験	物理学実験		2	4													
化学実験			2		4													
リメディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ		1	2													
		数学基礎Ⅱ		1	2													
		物理基礎		2	2													
		英語基礎Ⅰ		1	2													
		英語基礎Ⅱ		1		2												

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要								
			必修	選択	1年		2年		3年		4年										
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
専門科目	専門基礎	電気回路入門	2			2															
		電気電子数学	2				2														
		電磁気学Ⅰ	2				2														
		電磁気学Ⅱ	2					2													
		電磁気学演習Ⅰ	2				2														
		電磁気学演習Ⅱ	2					2													
		電気回路Ⅰ	2				2														
		電気回路Ⅱ	2					2													
		電気回路演習Ⅰ	2				2														
		電気回路演習Ⅱ	2					2													
		技術英語	2									2									
		電子デバイス・システム制御系	電気電子計測	2				2													
			センサー応用工学		2				2												
	電子回路Ⅰ		2						2												
	電子回路Ⅱ			2							2										
	知能集積回路		2										2								
	電子物性工学		2					2													
	電気電子材料工学		2							2											
	半導体工学		2								2										
	制御工学Ⅰ		2					2													
	制御工学Ⅱ		2							2											
	知能ロボット工学		2									2									
	情報・通信・メディア系	ネットワーク基礎		2		2															
		情報メディア工学		2			2														
		コンピュータプログラミングⅠ		2				2													
		コンピュータプログラミングⅡ		2						2											
		デジタル回路		2					2												
		電磁波工学		2						2											
		情報通信工学Ⅰ		2						2											
		情報通信工学Ⅱ		2								2									
		通信ネットワーク工学		2									2								
	情報通信法規		2										2								
	電気エネルギーシステム系	電力発生工学		2				2													
		電力輸送工学		2						2											
		電気機器工学		2							2										
		電力システム工学		2								2									
		電気利用工学		2								2									
		高電界工学		2								2									
		パワーエレクトロニクス		2									2								
		プラズマ工学		2										2							
		機械工学概論		2											2						
		電気法規と電気施設管理		2												2					
	実験・製図・研修・研究	創造工学実験	2				6														
電気電子基礎実験		2					6														
電子情報システム実験			2							6											
電気エネルギーシステム実験			2								6										
電気電子設計製図			2													4					
学外研修		1									2										
先端技術工学		1									1										
卒業研究		6														9	9				
原子力工学	原子力エネルギー		2		2																
	放射線の利用		2			2															
	原子力体感研修		2								2										
	原子燃料サイクル・安全工学		2												2						
電気電子システム学科総計			62	140	37	37	43	43	34	35	23	13									

左記の科目から必修を含み70単位以上を修得すること

電子情報システム実験、電気エネルギーシステム実験のいずれかを修得すること

システム情報工学科課程表

別表第1

平成21年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要				
			必修	選択	1年		2年		3年		4年						
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1											
		キャリアデザインⅡ		1			1	1									
		キャリアデザインⅢ		2						2	2						
		キャリアデザインⅣ		1													
	工学への関心	情報基礎ゼミナール	2		2												
		情報科学アラカルト	2		2												
総合教養科目	人間科学	哲学		2				2								左記の科目から8単位以上を修得すること	
		文学		2			2										
		心理学		2			2										
		職業倫理		2					2								
		歴史		2	2												
		経済学		2		2											
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2										左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること	
		実践日本語表現		2						2							
		現代英語Ⅰ	1		2												
		現代英語Ⅱ	1			2											
		英語コミュニケーションⅠ		1			2										
		英語コミュニケーションⅡ		1				2									
		英語特別演習		1						2							
		ドイツ語基礎Ⅰ		1	2												
		ドイツ語基礎Ⅱ		1		2											
		ドイツ語コミュニケーションⅠ		1			2										
		ドイツ語コミュニケーションⅡ		1				2									
		ドイツ語特別演習		1							2						
		中国語基礎Ⅰ		1	2												
		中国語基礎Ⅱ		1		2											
	中国語コミュニケーションⅠ		1			2											
	中国語コミュニケーションⅡ		1				2										
	中国語特別演習		1							2							
	体育科学	体育学		1	2												
		スポーツ健康学		1			2										
		スポーツ特別演習		1		2											
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2											
主題別ゼミナールⅡ			2			2											
主題別ゼミナールⅢ			2				2										
主題別講義			2							2							
海外研修			1	2													
工学基礎科目	工学基礎	微分	2		2										左記の科目から必修を含み18単位以上を修得すること		
		積分	2			2											
		線形代数	2			2											
		基礎物理学Ⅰ		2		2											
		基礎物理学Ⅱ		2			2										
		基礎物理学Ⅲ		2				2									
		基礎化学Ⅰ		2	2												
		基礎化学Ⅱ		2		2											
		基礎情報科学	2		2												
		確率・統計		2			2										
		物理科学		2	2												
		環境とエネルギー		2			2										
		生命科学		2					2								
		物理学実験		2	4											左記の科目から2単位以上を修得すること	
		化学実験		2		4											
リメディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ		1	2												
		数学基礎Ⅱ		1	2												
		物理基礎		2	2												
		英語基礎Ⅰ		1	2												
		英語基礎Ⅱ		1		2											

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要							
			必修	選択	1年		2年		3年		4年									
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
専門科目	システム	システム数理	2				2													
		情報通信工学	2				2													
		制御工学		2						2										
		計測情報工学		2						2										
		情報ネットワーク入門		2						2										
		ロボット工学		2									2							
		情報ネットワーク設計		2								2								
		シミュレーション工学		2										2						
		情報ネットワーク構築		2											2					
	情報システム論		2										2							
	情報セキュリティ		2											2						
	情報	プログラミング入門	2		2															
		離散数学		2		2														
		グラフ理論入門		2		2														
		プログラミング言語	2			2														
		情報数理	2				2													
		プログラム設計	2						2											
		オペレーティングシステム		2				2												
		コンピュータシステム	2						2											
		デジタル信号処理		2								2								
		アルゴリズム	2						2											
		言語とコンパイラ		2									2							
		論理回路	2									2								
		数値解析		2											2					
		データベース		2									2							
	知識工学		2												2					
	集積回路		2													2				
	パターン情報処理		2														2			
	人間・社会	ウェブデザイン	2		2															
		デジタル映像表現		2		2														
		コンピュータグラフィックス		2					2											
		バーチャルリアリティ		2						2										
		人間情報科学		2								2								
		産業情報論		2					2											
		マルチメディア工学		2									2							
		経営情報論		2									2							
		情報文化論		2												2				
	関連	電子工学		2									2							
		電気工学		2									2							
		機械工学概論		2									2							
	実験・研修・その他	情報工学基礎実験Ⅰ	1					4												
		情報工学基礎実験Ⅱ	1								4									
		情報工学応用実験Ⅰ	1									4								
		情報工学応用実験Ⅱ	1										4							
		設計・製図		2									4							
		情報工学特別講義		2									2							
学外研修			1									2								
情報専門ゼミナール			2											2						
卒業研究			6													9	9			
原子力工学	原子力エネルギー		2		2															
	放射線の利用		2			2														
	原子力体感研修		2										2							
	原子燃料サイクル・安全工学		2												2					
システム情報工学科総計			46	151	43	41	43	35	42	32	11	9								

左記の科目から必修を含み70単位以上を修得すること

バイオ環境工学科課程表

別表第1

平成21年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要				
			必修	選択	1年		2年		3年		4年						
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1											
		キャリアデザインⅡ		1			1	1									
		キャリアデザインⅢ		2						2	2						
		キャリアデザインⅣ		1	2												
	工学への関心	バイオ環境工学概論	2		2												
		バイオ環境工学導入デザインⅠ	2		2												
		バイオ環境工学導入デザインⅡ	2			2											
総合教養科目	人間科学	哲学		2				2								左記の科目から必修を含み8単位以上修得すること	
		文学		2			2										
		心理学		2			2										
		職業倫理	2						2								
		歴史		2	2												
		経済学		2		2											
		日本国憲法		2							2						
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2										左記の科目から必修を含み8単位以上修得すること	
		実践日本語表現		2					2								
		現代英語Ⅰ	1		2												
		現代英語Ⅱ	1			2											
		英語コミュニケーションⅠ	1				2										
		英語コミュニケーションⅡ	1					2									
		英語特別演習		1						2							
		ドイツ語基礎Ⅰ		1	2												
		ドイツ語基礎Ⅱ		1		2											
		ドイツ語コミュニケーションⅠ		1			2										
		ドイツ語コミュニケーションⅡ		1				2									
		ドイツ語特別演習		1						2							
		中国語基礎Ⅰ		1	2												
	中国語基礎Ⅱ		1		2												
	中国語コミュニケーションⅠ		1			2											
	中国語コミュニケーションⅡ		1				2										
	中国語特別演習		1						2								
	体育科学	体育学		1	2												
		スポーツ健康学		1			2										
		スポーツ特別演習		1		2											
総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2												
	主題別ゼミナールⅡ		2			2											
	主題別ゼミナールⅢ		2				2										
	主題別講義		2						2								
	海外研修		1	2													
工学基礎科目	工学基礎	線形代数		2		2											
		微分	2		2												
		積分	2			2											
		確率・統計		2			2										
		工業数学		2				2									
		基礎物理学Ⅰ		2		2											
		基礎物理学Ⅱ		2			2										
		基礎物理学Ⅲ		2				2									
		基礎化学Ⅰ	2		2												
		基礎化学Ⅱ		2		2											
		物理学実験		2			4										
		化学実験	2			4											
		物理科学		2	2												
		環境とエネルギー		2			2										
		生命科学		2	2												
基礎情報科学		2	2														
リメディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ		1	2												
		数学基礎Ⅱ		1	2												
		物理基礎		2	2												
		英語基礎Ⅰ		1	2												
		英語基礎Ⅱ		1		2											

土木建築工学科課程表

別表第1

平成21年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要		
			必修	選択	1年		2年		3年		4年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1									
		キャリアデザインⅡ		1			1	1							
		キャリアデザインⅢ		2						2	2				
		キャリアデザインⅣ		1	2										
	工学への関心	建築概論	2		2										
		土木工学概論	2			2									
総合教養科目	人間科学	哲学		2				2							
		文学		2			2								
		心理学		2			2								
		職業倫理	2							2					
		歴史		2	2										
		経済学		2		2									
		日本国憲法		2							2				
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2									
		実践日本語表現		2						2					
		現代英語Ⅰ	1		2										
		現代英語Ⅱ	1			2									
		英語コミュニケーションⅠ	1				2								
		英語コミュニケーションⅡ	1					2							
		英語特別演習		1						2					
		ドイツ語基礎Ⅰ		1	2										
		ドイツ語基礎Ⅱ		1		2									
		ドイツ語コミュニケーションⅠ		1			2								
		ドイツ語コミュニケーションⅡ		1				2							
		ドイツ語特別演習		1						2					
		中国語基礎Ⅰ		1	2										
	中国語基礎Ⅱ		1		2										
	中国語コミュニケーションⅠ		1			2									
	中国語コミュニケーションⅡ		1				2								
	中国語特別演習		1						2						
	体育科学	体育学		1	2										
		スポーツ健康学		1			2								
		スポーツ特別演習		1		2									
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2									
		主題別ゼミナールⅡ		2			2								
		主題別ゼミナールⅢ		2				2							
主題別講義			2						2						
海外研修			1	2											
工学基礎科目	数学	線形代数	2			2									
		微分	2		2										
		積分	2			2									
		確率・統計		2			2								
		応用数学		2						2					
	物理学・化学	基礎物理学Ⅰ		2		2									
		基礎物理学Ⅱ		2			2								
		基礎物理学Ⅲ		2				2							
		基礎化学Ⅰ		2	2										
		基礎化学Ⅱ		2		2									
	その他の自然科学	物理科学		2	2										
		環境とエネルギー		2			2								
		生命科学		2				2							
	情報	基礎情報科学	2		2										
	実験	物理学実験		2	4										
		化学実験		2		4									
	リメディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ		1	2									
数学基礎Ⅱ				1	2										
物理基礎				2	2										
英語基礎Ⅰ				1	2										
英語基礎Ⅱ				1		2									

左記の科目から必修を含み26単位以上を修得すること

左記の科目から必修を含み22単位以上を修得すること

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要					
			必修	選択	1年		2年		3年		4年							
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門基礎科目	専門基礎	基礎製図	2		4													
		CAD基礎演習	2			4												
		地球環境論	2			2												
		デッサン		2	4													
		測量学		2			2											
		測量実習		1			3											
		都市計画		2						2								
		構造力学Ⅰ	2				2											
		構造力学Ⅱ		2				2										
		建設材料学		2				2										
		土木専門科目	土木基礎	材料の力学		2			2									
				情報処理		2			2									
				情報処理応用		2				2								
環境保全	応用測量学及び実習			2							3							
	廃棄物と工事排水			2				2										
	上下水道工学			2					2									
	水処理工学			2						2								
	基礎水理学			2			2											
	流れの力学			2			2											
	河川の科学			2					2									
	海岸・港湾工学			2						2								
	計画数値			2				2										
	道路・交通工学			2					2									
防災建設	応用構造力学			2					2									
	地盤の科学			2			2											
	地盤の力学			2				2										
	地盤構造工学			2					2									
	コンクリートの材料科学			2					2									
	コンクリート構造学			2						2								
	建造物のメンテナンス			2							2							
土木応用	施工技術			2							2							
	土木工学実験Ⅰ			2				6										
	土木工学実験Ⅱ			1						3								
	水工学設計・演習			2						4								
	橋工学設計・演習			2								4						
	地盤工学設計・演習			2									4					
	コンクリート工学設計・演習			2										4				
	キャリアプランニングⅠ			2					2									
	キャリアプランニングⅡ			2						2								
	土木総合デザインⅠ			2						2								
	土木総合デザインⅡ			2							2							
	技術英文読解			2								2						
	地球温暖化と防災			2								2						
火災学		2								2								
建築専門科目	建築基礎	建築設計Ⅰ		3			6											
		建築設計Ⅱ		3				6										
		住居計画		2			2											
		建築計画		2					2									
		熱・空気環境		2					2									
		建築構造		2			2											
		建築施工		2				2										
		建築法規		2							2							
		建築材料実験		2						4								
		アーキテクト	建築設計Ⅲ		3						6							
			建築史		2			2										
			熱・空気環境演習		1				2									
	音・光環境			2					2									
	音・光環境演習			1						2								
	建築設備			2							2							
	構造力学演習Ⅰ			1			2											
	構造力学演習Ⅱ			1				2										
	鉄筋コンクリート構造			2						2								
	鋼構造			2							2							
	すまいデザイナー	構造設計		2							2							
		建築生産		2							2							
		すまい設計		3							6							
		CAD・CG演習Ⅰ		2						4								
		CAD・CG演習Ⅱ		2							4							
		インテリアデザイン		2			2											
		住生活学		2				2										
	建築応用	木構造		2						2								
色彩学			2					2										
建築プレゼンテーション			2									4						
応用電子計算機			2			2												
雪国建築			2							2								
建築セミナー			2							2								
専門応用科目	専門応用	卒業研究プレセミナー		2						2								
		インターンシップ		1						2								
		学外研修Ⅰ		1				2										
		学外研修Ⅱ		1							2							
		機械工学概論		2								2						
	原子力工学	電気電子工学概論		2								2						
		卒業研究	6									9	9					
		原子力エネルギー		2		2												
		放射線の利用		2			2											
		原子力体感研修		2							2							
原子燃料サイクル・安全工学		2								2								
土木建築工学科総計			32	233	45	39	58	57	67	65	19	9						

左記の科目から必修を含み72単位以上を修得すること

感性デザイン学科課程表

別表第1

平成21年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要		
			必修	選択	1年		2年		3年		4年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
導入転換科目	感性デザイン入門・キャリアデザイン	オープニングセミナー	2		2										
		キャリアデザインⅠ		1	1	1									
		キャリアデザインⅡ		1			1	1							
		キャリアデザインⅢ		2						2	2				
総合教養科目	人間科学	哲学		2				2							
		文学		2			2								
		心理学		2			2								
		職業倫理		2										2	
		歴史		2	2										
		経済学		2		2									
		知的財産論		2										2	
		日本国憲法		2								2			
		自然科学概論		2	2										
		数学		2	2										
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2									
		実践日本語表現		2						2					
		現代英語Ⅰ	1		2										
		現代英語Ⅱ	1			2									
		英語コミュニケーションⅠ		1			2								
		英語コミュニケーションⅡ		1				2							
		英語特別演習		1						2					
		ドイツ語基礎Ⅰ		1	2										
		ドイツ語基礎Ⅱ		1		2									
		ドイツ語コミュニケーションⅠ		1			2								
		ドイツ語コミュニケーションⅡ		1				2							
		ドイツ語特別演習		1						2					
		中国語基礎Ⅰ		1	2										
		中国語基礎Ⅱ		1		2									
	中国語コミュニケーションⅠ		1			2									
	中国語コミュニケーションⅡ		1				2								
	中国語特別演習		1						2						
	体育科学	体育学		1	2										
		スポーツ健康学		1			2								
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2									
		主題別ゼミナールⅡ		2			2								
		主題別講義		2		2									
海外研修			1	2											
リメディアル科目	リメディアル	英語基礎Ⅰ		1	2										
		英語基礎Ⅱ		1		2									

左記の科目から必修を含み30単位以上を修得すること

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要			
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門科目	感性デザイン基礎	感性デザイン総論	2		2											左記の科目から必修を含み28単位以上を修得すること
		コンピュータ基礎演習	2		2											
		プレゼンテーション	2			2										
		デッサン	2		4											
		色彩学	2			2										
		デザイン史	2	2		2										
		ユニバーサルデザイン論	2				2									
		デザインマーケティング論	2	2							2					
		社会福祉論	2	2												
		ボランティア論	2	2		2										
		生涯スポーツ演習	2					2								
		感性行動科学	2					2								
		感性心理学	2								2					
		日本の文化	2				2									
		地域文化論	2								2					
		比較文化論	2									2				
		情報メディア論	2								2					
		感性CAD&CG演習Ⅰ	2				4									
感性CAD&CG演習Ⅱ	2					4										
ビジュアルデザイン	絵画Ⅰ	2	4												左記の科目から必修を含み60単位以上を修得すること	
	絵画Ⅱ	2		4												
	表現技法	2	2													
	図学	2	2		2											
	タイポグラフィ論	2	2													
	ビジュアルデザイン論	2		2												
	Webデザイン	2					4									
	広告論	2							2							
	映像メディア論	2							2							
	イラストレーションⅠ	2							4							
	イラストレーションⅡ	2								4						
	工芸学	2	2													
	工芸実習	2		4												
	彫刻	2				4										
	美術史	2							2							
	芸術批評	2								2						
	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2				4										
	ビジュアルデザイン演習Ⅱ	2					4									
	ビジュアルデザイン演習Ⅲ	2						4								
	ビジュアルデザイン演習Ⅳ	2								4						
住環境デザイン	老人福祉論	2		2											左記の科目から必修を含み60単位以上を修得すること	
	介護論	2			2											
	地域福祉論	2				2										
	ボランティア実習	2			2	2										
	福祉人間工学	2			2											
	福祉機器デザイン	2				2										
	ワークデザイン	2								2						
	スポーツ健康論	2							2							
	レクリエーション余暇論	2								2						
	福祉心理学	2							2							
	リハビリテーション論	2								2						
	住まいのデザイン	2	2													
	福祉住環境デザイン	2		2												
	インテリアデザイン	2			2											
	エクステリアデザイン	2				2										
	音と光デザイン	2					2									
	景観デザイン	2								2						
	住環境デザイン演習Ⅰ	2					4									
	住環境デザイン演習Ⅱ	2						4								
住環境デザイン演習Ⅲ	2								4							
感性デザイン応用	学外研修		1						2							
	インターンシップ		2							2						
	感性デザイン特別講義		1								1					
	感性デザイン応用演習		2								2					
	卒業制作・論文		6									9	9			
感性デザイン学科総計			28	158	43	41	39	37	40	37	13	9				

教職課程表

別表第1

平成22年度入学生より適用

免許状の種類別	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要			
		必修	選択	1年		2年		3年		4年					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
中1種技術 中1種美術 高1種工業 高1種情報 高1種理科 高1種美術 高1種工芸	教職総論	2		2										各学科について、中1種技術、中1種美術、高1種工業、高1種情報、高1種理科、高1種美術および高1種工芸とも共通に必修	
	教育基礎論	2		2											
	認知と人格の発達	2				2									
	教育の制度	2								2					
	教育課程論	2					2								
	特別活動	2			2										
	教育工学	2								2					
	生徒指導・進路指導	2							2						
	教育相談	2					2								
	教職実践演習(中・高)	2											2		
	事前・事後指導	1											2		
	教育実習Ⅰ	2											4		
	日本国憲法	2								2					
体育学	1		2												
スポーツ健康学	1				2										
中1種技術 中1種美術	道徳教育	2			2									各学科共通に必修	
	教育実践論	2							2						
	教育実習Ⅱ	2											4		
中1種技術	技術科指導法Ⅰ	4							2	2				機械情報技術学科、電気電子システム学科、システム情報工学科、バイオ環境工学科、土木建築工学科に必修	
	技術科指導法Ⅱ		2										2	機械情報技術学科、電気電子システム学科、システム情報工学科、バイオ環境工学科、土木建築工学科に選択	
	技術科指導法Ⅲ		2										2	機械情報技術学科、電気電子システム学科、システム情報工学科、バイオ環境工学科、土木建築工学科に必修	
	木材加工	2								2				機械情報技術学科、電気電子システム学科、システム情報工学科、バイオ環境工学科、土木建築工学科に必修	
	栽培	2							2					機械情報技術学科、電気電子システム学科、システム情報工学科、バイオ環境工学科、土木建築工学科に必修	
	基礎情報科学	2		2										機械情報技術学科必修	
	電気電子工学概論	2				2								電気電子システム学科、システム情報工学科、バイオ環境工学科、土木建築工学科に必修	
	工作学	2			2									電気電子システム学科、システム情報工学科、バイオ環境工学科、土木建築工学科に必修	
	機械工作実習	1								3				電気電子システム学科、システム情報工学科、バイオ環境工学科、土木建築工学科に必修	
	デジタル回路	2						2							電気電子システム学科必修
	電気機器工学	2							2						
	機械工学概論	2										2			
	電気電子設計製図	2												4	
	コンピュータプログラミングⅠ	2						2							
	機械工学概論	2								2					システム情報工学科必修
	ロボット工学	2								2					
	電子工学	2								2					
	電気工学	2						2							
	デジタル信号処理	2								2					
	設計・製図	2									4				
	制御工学	2								2					
	グラフ理論入門	2				2									
	機械加工学	2								2					バイオ環境工学科に必修
	電気電子工学概論	2											2		
	機械工学概論	2											2		
	伝熱工学	2								2					
	計測工学	2								2					
リサイクル工学	2						2								
プログラミング実習	1				2										
機械加工学	2								2					土木建築工学科に必修	
構造力学Ⅱ	2						2								
材料の力学	2						2								
鋼構造	2								2						
機械工学概論	2											2			
原子力エネルギー	2					2									
原子燃料サイクル・安全工学	2											2			
電気電子工学概論	2											2			
情報処理応用		2					2								土木建築工学科いずれか1科目選択必修
応用電子計算機		2					2								

免許状の種類別	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要		
		必修	選択	1年		2年		3年		4年				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
中1種美術	美術科指導法Ⅰ	4						2	2					感性デザイン学科に必修
	美術科指導法Ⅱ		2								2			感性デザイン学科に選択
	美術科指導法Ⅲ		2									2		感性デザイン学科に選択
	コンピュータ基礎演習	2		2										感性デザイン学科に必修 } ビジュアルデザイン演習Ⅱ、ビジュアルデザイン演習Ⅲ、 } ビジュアルデザイン演習Ⅳのいずれか1科目選択必修
	絵画Ⅰ	2		4										
	絵画Ⅱ	2			4									
	彫刻	2				4								
	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2				4								
	ビジュアルデザイン演習Ⅱ		2				4							
	ビジュアルデザイン演習Ⅲ		2					4						
	ビジュアルデザイン演習Ⅳ		2						4					
	イラストレーションⅠ	2					4							
	Webデザイン	2				4								
	工芸実習	2			4									
	美術史	2						2						
デザイン史	2			2										
芸術批評	2								2					
表現技法	2		2											
ビジュアルデザイン論	2		2											
高1種工業	工業科指導法	4								2	2			機械情報技術学科、電気電子システム学科、システム情報工学科、バイオ環境工学科、土木建築工学科に必修
	職業指導	4								2	2			
	電気電子工学概論	2			2									
	機械工学概論	2								2				電気電子システム学科必修
	電気電子工学概論	2									2			バイオ環境工学科、土木建築工学科に必修
	機械工学概論	2								2				
	ロボット工学	2								2				システム情報工学科に必修
	デジタル信号処理	2							2					
	集積回路	2								2				
	電子工学	2							2					
	電気工学	2				2								
	機械工学概論	2					2							
	設計・製図	2						4						
	制御工学	2							2					
	グラフ理論入門	2			2									
	数値解析	2								2				
	情報専門ゼミナール	2								2				
	計測工学	2							2					
	リサイクル工学	2					2							
	品質管理	2							2					
	技術マネジメント	2								2				
	プログラミング実習	1			2									
	測量学	2				2								土木建築工学科に必修
	測量実習	1				3								
	都市計画	2							2					
	構造力学Ⅱ	2					2							
	建設材料学	2				2								
	材料の力学		2			2								
	応用測量学及び実習		2							3				
	廃棄物と工事排水		2				2							
	上下水道工学		2						2					
	基礎水理学		2			2								
	流れの力学		2				2							
	地盤の科学		2				2							
	地盤の力学		2				2							
地盤構造工学		2						2						
建築設計Ⅰ		3				6								
建築設計Ⅱ		3				6								
住居計画		2			2									
建築計画		2				2								
熱・空気環境		2				2								
建築構造		2			2									
建築施工		2				2								
建築法規		2							2					
建築材料実験		2						4						
情報処理応用		2				2								
応用電子計算機		2			2									

免許状の種類別	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要
		必修	選択	1年		2年		3年		4年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
高1種情報	情報科指導法	4								2	2	システム情報工学科に必修
	計測情報工学	2				2						
	情報ネットワーク入門	2				2						
	シミュレーション工学	2							2			
	データベース	2				2						
	産業情報論	2			2							
	マルチメディア工学	2						2				
	情報文化論	2							2			
情報システム論	2							2				
離散数学	2			2								
高1種理科	理科指導法Ⅰ	2						2				バイオ環境工学科に必修
	理科指導法Ⅱ	2							2			
	基礎物理学Ⅰ	2		2								
	基礎物理学Ⅱ	2			2							
	基礎物理学Ⅲ	2				2						
	物理科学	2	2									
	基礎化学Ⅱ	2		2								
	有機化学	2			2							
	無機化学	2		2								
	生命科学	2			2							
地球環境システム科学	2				2							
物理学実験	2			4								
高1種美術	美術科指導法Ⅰ	4						2	2			感性デザイン学科に必修 } ビジュアルデザイン演習Ⅱ、ビジュアルデザイン演習Ⅲ、 } ビジュアルデザイン演習Ⅳのいずれか1科目選択必修
	絵画Ⅰ	2		4								
	絵画Ⅱ	2			4							
	彫刻	2				4						
	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2				4						
	ビジュアルデザイン演習Ⅱ	2	2				4					
	ビジュアルデザイン演習Ⅲ	2						4				
	ビジュアルデザイン演習Ⅳ	2							4			
	イラストレーションⅠ	2						4				
	イラストレーションⅡ	2							4			
	Webデザイン	2					4					
	感性CAD&CG演習Ⅱ	2					4					
	美術史	2						2				
	デザイン史	2			2							
芸術批評	2							2				
表現技法	2		2									
タイポグラフィ論	2		2									
ビジュアルデザイン論	2			2								
高1種工芸	工芸科指導法	4						2	2			感性デザイン学科に必修 } ビジュアルデザイン演習Ⅱ、ビジュアルデザイン演習Ⅲ、 } ビジュアルデザイン演習Ⅳのいずれか1科目選択必修
	図学	2			2							
	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2				4						
	ビジュアルデザイン演習Ⅱ	2	2				4					
	ビジュアルデザイン演習Ⅲ	2						4				
	ビジュアルデザイン演習Ⅳ	2							4			
	イラストレーションⅠ	2						4				
	イラストレーションⅡ	2							4			
	Webデザイン	2					4					
	感性CAD&CG演習Ⅱ	2					4					
	工芸実習	2			4							
	工芸学	2		2								
	美術史	2							2			
	デザイン史	2			2							
	芸術批評	2							2			
	表現技法	2		2								
タイポグラフィ論	2		2									
ビジュアルデザイン論	2			2								

学費、入学検定料

別表第2

工学部学費

学費種別	学部学生	科目等履修生	研究生
入学金 (入学時)	250,000円	27,500円	66,000円
授業料	年額 942,000円	1単位につき 講義科目 22,000円 実験実習科目 41,000円	月額 24,000円
施設設備費 (年額)	300,000円		
実験実習費 (年額)	1年次 30,000円 2年次以降 65,000円		実費徴収

感性デザイン学部学費

学費種別	学部学生	科目等履修生	研究生
入学金 (入学時)	250,000円	27,500円	66,000円
授業料	年額 650,000円	1単位につき 講義科目 22,000円 実験実習科目 41,000円	月額 24,000円
施設設備費 (年額)	170,000円		
実験実習費 (年額)	1年次 30,000円 2年次以降 65,000円		実費徴収

入学検定料は、工学部、感性デザイン学部ともに次の通りとする。

学部学生	30,000円 (ただし、「センター入学試験」で志願する者は、15,000円とする。)
科目等履修生	20,000円
研究生	20,000円

7.2 八戸工業大学学位規程

制定 平成7年1月13日 理事会
改正 平成25年9月19日 工学研究科委員会
平成25年9月19日 教授会

(趣旨)

第1条 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条の規定により、八戸工業大学（以下「本学」という。）が授与する学位については、八戸工業大学学則及び八戸工業大学大学院学則に定めるほか、この規程に定めるところによる。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士（工学）、学士（感性デザイン）、修士（工学）及び博士（工学）とする。

(学士の学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第4条 修士の学位は、本学大学院の博士前期課程を修了した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第5条 博士の学位は、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

- 2 前項に定める者のほか、博士の学位は、本学大学院学則第34条第2項の定めるところにより、博士論文の審査に合格し、かつ、博士後期課程の修了者と同等以上の学力を有すると確認された者に授与する。

(研究成果等の審査)

第6条 第4条の規定により学位の申請をする者については、工学研究科委員会（以下「委員会」という）が課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査または博士論文研究基礎力審査をもって論文の審査に代えることができる。

(論文の提出)

第7条 修士及び博士の学位の授与を受けようとする者は、定められた期日までに修士論文又は博士論文、論文の要旨を指導教員を通じて、学長に提出するものとする。

- 2 第5条第2項の規定により博士の学位の授与を申請する者は、学位申請書に博士論文、論文の要旨及び別表に定める論文審査手数料を添え、学長に提出しなければならない。
- 3 提出した学位論文及び納付した論文審査手数料は、いかなる事由があっても返付しない。

(論文審査等の付託)

第8条 学長は、学位論文を受理したときは、その審査及び最終試験又は審査及び学力確認を委員会に付託するものとする。

(審査委員会)

第9条 委員会は、前条の規定による審査の付託があったときは、本学大学院担当の複数の教員で組織する審査委員会を設ける。

- 2 主査には指導教員があたる。
- 3 審査委員会は、審査にあたって必要があるときは、委員会の議を経て、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

(最終試験)

第10条 最終試験は、学位論文を中心とした専攻分野に関する研究能力及び学識について、口答又は筆答により行うものとする。

(学力確認の方法)

第11条 第5条第2項の規定による学力の確認は、博士論文に関連ある専攻分野の科目及び外国語について、口答又は筆答により行うものとする。

(審査後の省略)

第12条 審査委員会は学位論文の審査の結果、不合格と判定したときは、最終試験及び学力確認を行わないものとする。

(審査期間)

第13条 学位論文の審査及び最終試験は、在学期間中に終了するものとする。

- 2 第5条第2項の規定により博士論文が提出されたときは、その提出日から1年以内に博士論文の審査及び学力の確認を終了するものとする。ただし、特別の事由があるときは委員会の議を経て、その期間を延長することができる。

(審査結果の報告)

第14条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験又は学位論文の審査及び学力確認が終了したときは、その結果を文書により委員会に報告するものとする。

(学位授与の審議)

第15条 委員会は、修得単位並びに前条の報告に基づいて審議し、学位授与の可否について議決する。

(学位の授与)

第16条 学長は、委員会の議を経て、学位を授与できると認める者に所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知するものとする。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。

この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

- 3 博士の学位を授与された者が行う第1項および第2項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとする。
- 4 第1項の規定により公表する場合は「八戸工業大学審査学位論文（博士）」、第2項の規定により公表する場合は「八戸工業大学審査学位論文（博士）の要旨」と明記しなければならない。

(審査要旨等の公表)

第18条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位授与の報告)

第19条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

(学位の名称)

第20条 学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、八戸工業大学の文字を付記するものとする。

(学位の取消)

第21条 学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は、委員会の議に基づいて、その授与された学位を取消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

- 一 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき
- 二 名誉を汚す行為があったとき

(学位記の様式)

第22条 学位記の様式は、別記のとおりとする。

(学位記の再交付)

第23条 学位記の再交付を受けようとする者は、その理由を記載した申請書に所定の手数料を添えて、学長に願出するものとする。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

別 表 論文審査手数料

規程第7条第2項による博士論文
130,000円

- ・ 本学大学院の博士後期課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けて退学後3年以内の者の論文審査手数料は免除する。

別 記 学位記の様式

1. 学士

第3条の規定により授与する学位記の様式

第 号	年 月 日	業 した こと を 認 め 学 士 (工 学) の 学 位 を 授 与 す る	本学工学部	学位記	氏名	年 月 日生
			学科所定の課程を修めて本学を卒業したことを認め学士(工学)の学位を授与する	大学印	氏名	年 月 日生
			八戸工業大学長	氏名印		

第3条の規定により授与する学位記の様式

第 号	年 月 日	を 授 与 す る	本学感性デザイン学部	学位記	氏名	年 月 日生
			本学を卒業したことを認め学士(感性デザイン)の学位を授与する	大学印	氏名	年 月 日生
			八戸工業大学長	氏名印		

2. 修士

第4条の規定により授与する学位記の様式

修 第 号	年 月 日	八戸工業大学長 氏 名 印	学位記	大学印	氏名	年 月 日生
			専攻の博士前期課程 において所定の単位を修得し学位論文の審査および最終 試験に合格したので修士（工学）の学位を授与する	本学大学院工学研究科		

3. 博士

第5条第1項の規定により授与する学位記

博 第 号	年 月 日	八戸工業大学長 氏 名 印	学位記	大学印	氏名	年 月 日生
			専攻の博士後期課程 において学位論文の審査および最終試験に合格したので 博士（工学）の学位を授与する	本学大学院工学研究科		

第5条第2項の規定により授与する学位記

第 号	年 月 日	八戸工業大学長 氏 名 印	学位記	大学印	氏名	年 月 日生
			本学に博士論文を提出し所定の審査および試験に合格 したので博士（工学）の学位を授与する			

7.3 八戸工業大学学費納入規程

制定 平成5年1月21日 理事会

改正 平成27年9月24日 理事会

(目的)

第1条 この規程は、八戸工業大学学則第36条の規定に基づき、学費の納入方法その他の取扱いについて定める。

(学費)

第2条 学費とは、入学金並びに授業料、施設設備費、実験実習費、演習実習費（以下「授業料等」という。）をいう。

2 授業料等はこれを二分割し、半額をⅠ期授業料等、他の半額をⅡ期授業料等という。

(納入期限)

第3条 Ⅰ期授業料等は5月10日までに、Ⅱ期授業料等は10月10日までに納入しなければならない。ただし、納入期限が金融機関の休業日に当たる場合は、翌営業日を納入期限とする。

(入学時の納入期限)

第4条 前条の規定にかかわらず、入学の許可を得ようとする者の学費は、所定の入学手続締切日までに納入しなければならない。

(納入方法)

第5条 学費の納入方法は、原則として銀行振込みとする。

2 各期授業料等は、原則として各々一括して納入しなければならない。延納を許可されたときにおいても同様とする。

(延納許可)

第6条 授業料等の延納を希望する者があるときは、次の各号の一に該当する者に限り許可することがある。

- 一 授業料等支弁者が、死亡または不慮の災害等により支払いが困難であると認められる者
- 二 その他やむを得ない事由があると認められる者

(延納の手続き)

第7条 授業料等の延納を希望するときは、原則として第3条に定める納入期限までに、所定の「授業料等延納願い」により願い出なければならない。

2 前項より願い出るとき、延納の事由を明らかにする証明書等の提出を求めることがある。

(延納納入期限)

第8条 授業料等の延納納入日は、原則として、Ⅰ期授業料等においては7月20日、Ⅱ期授業料等においては翌年1月10日を超えることができない。

(延納許可の取消)

第9条 授業料等の延納を許可された者の願い出が虚偽であることが明らかになったときは、延納の許可を取り消す。

(滞納の起算日)

第10条 学則第22条第5号に定める授業料等滞納期間の起算日は、Ⅰ期・Ⅱ期授業料等の各納入期限の翌日、延納が許可されたときは第8条に定める各延納納入期限の翌日、休学者が復学するときは復学する日を起算日とする。

(除籍者)

第11条 学則第22条第5号に基づき除籍する者の氏名は、学内掲示場に掲示する。

2 除籍された者は、学生としての全ての資格を失う。

(復籍)

第12条 前条により除籍された者が復籍を願い出たときは、これを許可することがある。

- 2 復籍願い出の期限は、原則として除籍後15日以内とする。
- 3 復籍を願い出るときは、復籍願いを提出し、所定の授業料等を納入しなければならない。

(休学者の学費)

- 第13条 休学を許可された者の授業料等は、学年の始めから終りまでの期間に対する休学期間の割合に応じて案分し、休学期間に相当する授業料等は、これを免除する。
- 2 授業料等の延納を許可された者が休学を申し出るときは、所定の授業料等を納入しなければならない。
 - 3 休学者が復学するとき、所定の授業料等を納入しなければならない。
 - 4 第1項の規定にかかわらず、入学手続時に納入した学費については、これを免除しない。

(年度途中卒業等)

- 第14条 年度途中で卒業、退学または転学する者は、Ⅰ期授業料等またはⅡ期授業料等を完納していなければならない。
- 2 授業料等の延納を許可された者が退学または転学を申し出るときは、所定の授業料等を納入しなければならない。

(既納の学費)

第15条 既に納入した学費は、別に定めるときを除いて、事情の如何にかかわらず返戻しない。

(在学3年を超える大学院博士後期課程の授業料)

第16条 3年間の授業料等を納入した博士後期課程学生が、特別研究活動を継続している場合、授業料等の1割を納入することで在学できる。ただし、在学期間は6年を超えることはできない。

(事務の取扱い)

- 第17条 この規程に基づく事務処理は、財務課が行う。
- 2 前項に定めるほか、この規程に基づく事務処理に関し必要な事項は、理事長が定める。

(改 廃)

第18条 この規程の改廃は、理事会の議を経て行う。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成27年10月1日から施行する。

7.4 八戸工業大学学生心得

本学の目的および使命を達成するためには、学生および関係教職員が一体となって協力し、各々の本分を遺憾なく発揮すべく努力しなければならない。

学生は、学則はもとより、その他の本学で定める規則等を遵守し、学生の本分を守るとともに相互の敬愛と協力によって、学園としてふさわしい環境を維持するように努めなければならない。

(目 的)

第1条 この学生心得は、本学学生の遵守すべき事項を定めることを目的とする。

(誓 約 書)

第2条 本学に入学を許可された者は、入学の際、速やかに本学所定の様式に従って、学則および諸規則・規程を遵守し学生としての本分を守る旨の誓約をしなければならない。

(在学保証書)

第3条 本学に入学を許可された者は、入学の際、学則に従って保証人を定め、速やかに在学保証書を学長に届け出なければならない。

(身上調書)

第4条 本学に入学を許可された者は、入学の際、速やかに本学所定の様式に従って、写真貼付の身上調書・学籍簿2部を学生課に提出しなければならない。

(住 民 票)

- 第5条 本学に入学を許可された者は、入学の際、速やかに住民票を教務課に提出しなければならない。
- 2 外国籍者は外国人登録済証明書を前項に準じて提出しなければならない。

(高等学校卒業証明書)

- 第6条 本学に入学を許可された者は、入学の際、速やかに高等学校卒業証明書を教務課に提出しなければならない。

(学 生 証)

- 第7条 学生は入学の際、学生証の交付を受けて常時これを携帯しなければならない。
- 2 学生証の交付を受ける場合は、無帽の上半身像写真(縦4b×横3b)1枚を学生課に提出しなければならない。
- 3 学生証の有効期間は発行日から原則4年間とする。
- 4 学生証を持たないで、教室、研究室および図書館等に入ることができない。携帯しないときは退場を命ずることがある。
- 5 学生証は、本学教員その他しかるべき者の要請があったときは、いつでもこれを提示しなければならない。
- 第8条 学生証を汚損または紛失したときは、ただちに本学所定の様式により学生課に届け出て、再交付を受けなければならない。この場合の有効期間は再発行の日から通常修業年限終了までとする。
- 第9条 学生証は、卒業、転学、転学科、退学、除籍により学籍を離れたとき、または有効期間を経過したときは、ただちに学生課に返却しなければならない。なお、有効期間を超えて在籍するときは、更新の手続きを行わなければならない。

(欠席・忌引および遅刻早退の届出)

- 第10条 3日以上欠席するときは本学所定の様式により、必ずその理由を明記し保証人と連署して教務課に届け出なければならない。
- ただし、7日以上欠席するときは必ず証明書を添付することを要する。
- 2 学友会活動、課外活動等による特別欠席の場合は、所定用紙に記入し、代表学生および顧問の署名押印のうえ、その活動の3日前までに学生課に提出し、学務部長の許可を受けなければならない。
- 3 忌引の場合は前項に準じて本学所定の忌引届を教務課に提出しなければならない。
- 4 遅刻・早退は必ず教科担任へ口頭もしくは書面で届け出るものとする。

(諸変更届)

- 第11条 氏名、本籍および宿所(住所)を変更したときは、そのつど本学所定の様式により遅滞なく学生課に届け出なければならない。
- 第12条 保証人の変更および保証人が氏名または住所を変更した場合は、そのつど速やかに本学所定の様式により学生課に届け出なければならない。

(諸 願)

- 第13条 休学、再休学、復学、退学、転学、または転学科を希望する場合は、本学所定の様式により保証人連署のうえ願い出て学長の許可を受けなければならない。

(受 講)

- 第14条 学生は教場においては静粛を旨とし雑談、喫煙、その他粗暴の挙動があってはならない。
- 2 授業中に退席することはできない。
- やむを得ない事由があって退席するときは、教員の許可を受けなければならない。

(服装、校舎への出入、喫煙等)

- 第15条 服装は良識により、清潔端正で品位を保ち異様なものはまとわないこと。
- 2 下駄・サンダル類を用いないこと。
- 3 校舎への出入りは所定の出入口を利用すること。

- 4 構地内および学内の危険立入禁止場所には立ち入らないこと。
- 5 指定の場所以外で喫煙しないこと。
- 6 満20才未満の者の飲酒、喫煙は法により禁じられている。

(定期健康診断)

第16条 学生は学校保健安全法（昭和33年法律第56号）により、毎年本学で行う健康診断を必ず受けなければならない。

- 2 疾病その他正当の理由により前項の健康診断を受けることができないときは、その事由を付して学生課に届け出なければならない。

(学園の秩序維持)

第17条 学生は学園にふさわしい環境を整えることに協力し、学園の秩序を乱すような行動をしてはならない。

(事故発生時)

第18条 火災、盗難には特に注意し、事故発生の際は事務部に急報するとともに消火、防止に努めること。

附則の一部を省略している。

附 則 この心得は、平成18年4月1日より施行する。

7.5 八戸工業大学履修規程

制定 平成14年2月21日 教授会
改正 平成28年3月8日 教授会

(趣旨)

第1条 この規程は、八戸工業大学学則に規定するもの他、授業科目の履修について必要な事項を定める。

(履修年次等)

第2条 授業科目（以下「科目」という。）の履修年次等は、学則別表第1に定めるとおりとする。

- 2 下記のように履修上のコースを定める。各コースの履修科目等は別表1に定めるとおりとする。
工学部土木建築工学科社会デザインコース、土木工学コース、建築工学コース
工学部全学科原子力工学コース

(履修登録と履修)

第3条 科目の履修にあたっては、当該年度に履修しようとする全科目について履修登録（以下「登録」という。）を行わなければならない。

- 2 登録の時期は、学年の初めとし、所定の期間をすぎた登録は原則として認めない。
- 3 登録しない科目は、受講しても単位は与えない。
- 4 上位学年次に配置される科目は、原則として登録することはできない。
- 5 第6条第4項の受講免除科目を除き、同一時限に行われる科目を2科目以上重複登録することはできない。
- 6 登録の有効期限は、当該年度限りとする。
- 7 欠席した授業については、学生自身が自主学習によって補うことを原則とする。ただし、科目担当教員の判断により、課題・補習等を課す場合がある。

(登録の修正)

第4条 登録科目の修正は、各学期の所定の期間において行うことができる。

(成績の評価と単位の修得)

第5条 成績の評価は科目担当教員が行い、評価は次のとおりとする。

評価	評価の点数	合 否	評価	評価の点数	合 否
S	90点以上～100点	合 格	C	60点以上～70点未満	合 格
A	80点以上～90点未満		D	60点未満	不合格
B	70点以上～80点未満				

- 2 単位の修得は、上表の合格の場合に認定される。ただし、学費等の未納期間の単位は認定されない。

(再履修登録)

第6条 単位が認定されなかった科目（以下「再履修科目」という。）は次の年度以降に登録することができる。

- 2 必修科目を指定の年次に修得できなかったときは、その科目を他に優先して履修しなければならない。
- 3 単位が認定された科目は、再び登録することができない。
- 4 再履修科目の登録にあたり、科目担当教員が認めた場合は、受講を免除することがある。

(他学部・他学科科目の履修)

第7条 所属学科以外の科目（講義科目）を履修したいときは、所定の手続きを経て10単位を限度として進級要件、卒業要件の選択科目の単位として修得することができる。

(単位互換科目の履修)

第8条 単位互換協定を締結した他大学において科目を履修したいときは、所定の手続きを経て30単位を限度として進級要件、卒業要件の選択科目の単位として修得することができる。ただし、1学年の履修は認めない。

(成績の通知)

第9条 成績は、所定の学業成績通知書をもって本人および保護者に通知する。

- 2 学業成績通知書には、評価S、A、B、C、Dで記載し、あわせてGrade Point Average (GPA) を記載する。
- 3 GPAの取り扱いについては別に定める。

(定期試験)

第10条 定期試験は年2回各学期末の一定期間に行う。

- 2 試験の時間割は試験実施の2週間前に公表する。
- 3 試験は原則として筆答によるが、平常の成績のほか、レポート、口答および実技をもって試験に代えることができる。

(追試験)

第11条 学生に病気、その他やむを得ぬ事情が生じて、定期試験を受けられないときは追試験の機会を与える。

- 2 追試験受験の可否の判定は学生の願い出（医師の診断書、保証人の証明書など添付）にもとづき科目担当教員が行う。
- 3 追試験を受けようとする者は、追試験時までに追試験受験手続きを行わなければならない。追試験料は別表2のとおりとする。

(再試験)

第12条 定期試験、追試験に合格できなかった者に対して、再試験の機会を与えることがある。

- 2 再試験の受験資格は当該科目担当の教員の認定による。
- 3 再試験を受けようとする者は、再試験時までに再試験受験手続きを行わなければならない。再試験料は別表2のとおりとする。
- 4 再試験の成績は、定期試験と同等またはそれ以上の基準で評価する。

(受験資格)

第13条 定期試験の受験資格は次の要件を満たした者に与える。

- 一 当該科目の登録をしていること。
- 二 原則として、出席時数が授業時数の3分の2以上であること。ただし、実験、実習、演習および実技科目については、これ以上の出席時数を必要とする場合がある。
- 三 教授会において特に失格条件がないことを認められていること。ただし、二の号に関して考慮すべき事情のある学生は科目担当教員に届け出て、科目担当教員が受験資格の有無を判定する。

(進級要件)

第14条 各学年において上位の学年に進級するためには、下表の要件を満たしていなければならない。

		工 学 部					感性デザイン学部				
		機械情報技術学科	電気電子システム学科	システム情報工学科	バイオ環境工学科	土木建築工学科	感性デザイン学科				
1 学 年	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上	修得単位数 28単位以上 必修の修得単位数 12単位以上	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 12単位以上	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上	修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上	修得単位数 28単位以上 必修の修得単位数 12単位以上				
2 学 年	修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 30単位以上	修得単位数 65単位以上 必修の修得単位数 36単位以上	修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 25単位以上	修得単位数 58単位以上 必修の修得単位数 30単位以上	修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 12単位以上	修得単位数 62単位以上 必修の修得単位数 16単位以上	修得単位数 62単位以上 必修の修得単位数 16単位以上				
3 学 年	修得単位数 95単位以上 必修の修得単位数 45単位以上	修得単位数 105単位以上 必修の修得単位数 50単位以上 電気電子システム 入門と電気電子シ ステム概論を修得 のこと。物理学実 験と化学実験のい ずれかを修得のこ と。基幹科目16単 位中12単位以上修 得のこと。 <table border="1" data-bbox="353 894 518 1016"> <tr> <th>基幹科目</th> </tr> <tr> <td>電磁気学Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>電気回路Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>電気回路演習Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> </table> 創造工学実験、電 気電子基礎実験を 修得のこと	基幹科目	電磁気学Ⅰ、Ⅱ	電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ	電気回路Ⅰ、Ⅱ	電気回路演習Ⅰ、Ⅱ	修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 35単位以上 情報工学基礎実験 Ⅰ・Ⅱを修得のこ と	修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 47単位以上 バイオ環境工学基 礎実験、バイオ環 境工学実験Ⅰ・Ⅱ を修得のこと	修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 16単位以上	修得単位数 102単位以上 必修の修得単位数 18単位以上
基幹科目											
電磁気学Ⅰ、Ⅱ											
電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ											
電気回路Ⅰ、Ⅱ											
電気回路演習Ⅰ、Ⅱ											

(受験の心得)

第15条 学生は学生証を持参し、指示する座席につき厳正に受験しなければならない。なお、学生証を携帯していない場合は、受験票の交付を受けて受験しなければならない。受験票の交付手数料は別表3のとおりとする。

- 原則として、試験開始20分後の入場を認めない。また、試験開始後30分以上経過するまで退場を認めない。
- 試験は監督教員の指示で行われる。試験に際し、不正行為を行った学生には学則第57条により懲戒を行う。かつ、その学期に受験した科目はすべて零点とする。
- 実験、実習、製図および実技科目については、開講学年において単位を修得することを原則とし、修得できない場合は以後の履修科目を制限することがある。

(規程の改廃)

第16条 本規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

- この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 第5条、第9条第2項および第3項については、平成22年度以前に入学した学生は従前の規定を適用する。

附 則 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

土木建築工学科 コース別履修表（導入転換・総合教養・工学基礎・リメディアル科目）

別表1

(平成28年度以降入学生用)

区分	分野	授業科目	単位数	履修コース			卒業に必要な修得単位数	年次および週時間数										
				必修	選択	社会デザインコース		土木工学コース	建築工学コース	1年		2年		3年		4年		
										前	後	前	後	前	後	前	後	
導入転換科目	キャリア形成	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ	1 1 2 1					1	1		1	1						
	工学への関心	建築概論 土木工学概論	2 2															
総合教養科目	人間科学	哲学	2															
		文学	2															
		心理学	2															
		職業倫理	2															
		歴史	2															
		経済学	2															
		日本国憲法	2															
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2															
		実践日本語表現	2															
		現代英語Ⅰ	1															
		現代英語Ⅱ	1															
		英語コミュニケーションⅠ	1															
		英語コミュニケーションⅡ	1															
		英語特別演習	1															
		ドイツ語基礎Ⅰ	1															
		ドイツ語基礎Ⅱ	1															
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	1															
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	1															
		ドイツ語特別演習	1															
		中国語基礎Ⅰ	1															
中国語基礎Ⅱ	1																	
中国語コミュニケーションⅠ	1																	
中国語コミュニケーションⅡ	1																	
中国語特別演習	1																	
体育科学	体育学	1																
	スポーツ健康学	1																
	スポーツ特別演習	1																
総合学際	主題別ゼミナールⅠ	2																
	主題別ゼミナールⅡ	2																
	主題別ゼミナールⅢ	2																
	主題別講義	2																
	海外研修	1																
工学基礎科目	数学	線形代数	2															
		微分	2															
		積分	2															
	物理学・化学	確率・統計	2															
		応用数学	2															
		基礎物理学Ⅰ	2															
		基礎物理学Ⅱ	2															
		基礎物理学Ⅲ	2															
その他の自然科学	基礎化学Ⅰ	2																
	基礎化学Ⅱ	2																
	物理科学	2																
情報	環境とエネルギー	2																
	生命科学	2																
	基礎情報科学	2																
実験	物理学実験	2																
	化学実験	2																
リメディアル科目	リメディアル	数学基礎Ⅰ	1															
		数学基礎Ⅱ	1															
		物理基礎	2															
		英語基礎Ⅰ	2															
		英語基礎Ⅱ	1															
小計			18	74														

土木建築工学科 コース別履修表（専門科目）

区分	分野	授業科目	単位数		履修コース			卒業に必要な修得単位数	年次および週時間数									
			必修	選択	社会デザインコース	土木工学コース	建築工学コース		1年		2年		3年		4年			
									前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	キャリア形成	基礎製図	2						4									
		CAD基礎演習	2							4								
		地球環境論	2							2								
		デッサン	2						4									
		測量学	2	○		○		○			2							
		測量実習	1	○		○		○			3							
		都市計画	2	○				○					2					
		構造力学Ⅰ	2								2							
		構造力学Ⅱ	2	○		○		○				2						
		建設材料学	2	○				○				2						
土木専門科目	土木基礎	材料の力学	2	○		○					2							
		情報処理	2			○					2							
		情報処理応用	2									2						
		応用測量学及び実習	2	○		○								3				
	環境保全	廃棄物と工事排水	2			○						2						
		上下水道工学	2	○		○							2					
		水処理工学	2			○								2				
		基礎水理学	2	○		○					2							
		流れの力学	2	○		○						2						
		河川の科学	2	○								2			2			
		海岸・港湾工学	2	○											2			
		計画数理	2									2						
	道路・交通工学	2	○											2				
	防災建設	応用構造力学	2										2					
		地盤の科学	2	○		○						2						
		地盤の力学	2	○		○							2					
		地盤構造工学	2	○		○								2				
		コンクリートの材料科学	2			○							2					
		コンクリート構造学	2			○								2				
		構造物のメンテナンス	2												2			
施工技術		2												2				
土木応用		土木工学実験Ⅰ	2	○		○							6					
		土木工学実験Ⅱ	1			○									3			
	水工学設計・演習	2			○									4				
	橋工学設計・演習	2			○										4			
	地盤工学設計・演習	2			○										4			
	コンクリート工学設計・演習	2			○										4			
	キャリアプランニングⅠ	2			○									2				
	キャリアプランニングⅡ	2			○										2			
	土木総合デザインⅠ	2			○										2			
	土木総合デザインⅡ	2			○										2			
技術英文読解	2													2				
地球温暖化と防災	2													2				
火薬学	2													2				

※次のページへ続く

(平成28年度以降入学生用)

区分	分野	授業科目	単位数		履修コース			卒業に必要な修得単位数	年次および週時間数												
			必修	選択	社会デザインコース	土木工学コース	建築工学コース		1年		2年		3年		4年						
									前	後	前	後	前	後	前	後					
建築専門科目	建築基礎	建築設計Ⅰ		3	○						6										
		建築設計Ⅱ		3	○							6									
		住居計画		2	○							2									
		建築計画		2	○								2								
		熱・空気環境		2	○								2								
		建築構造		2	○								2								
		建築施工		2	○									2							
		建築法規		2	○																2
		建築材料実験		2	○																4
	アーキテクト	建築設計Ⅲ		3																	6
		建築史		2									2								
		熱・空気環境演習		1									2								
		音・光環境		2										2							
		音・光環境演習		1										2							
		建築設備		2																	2
		構造力学演習Ⅰ		1									2								
		構造力学演習Ⅱ		1										2							
		鉄筋コンクリート構造		2																	2
		鋼構造		2																	2
	構造設計		2																	2	
	建築生産		2																	2	
	すまいデザイナー	すまい設計		3																	6
		CAD・CG演習Ⅰ		2				—													4
		CAD・CG演習Ⅱ		2				—													4
		インテリアデザイン		2									2								
		住生活学		2										2							
		木質構造		2											2						
建築応用	建築プレゼンテーション		2					—												4	
	応用電子計算機		2									2									
	雪国建築		2																	2	
	建築セミナー		2																	2	
	卒業研究プレセミナー		2					—												2	
専門応用科目	専門応用	インターンシップ		1																2	
		学外研修Ⅰ		1																2	
		学外研修Ⅱ		1																2	
		機械工学概論		2																2	
		電気電子工学概論		2																2	
		卒業研究		6																9	
	原子力工学		2									2									
		2										2							2		
		2																	2		
		2																	2		
小計		14	159								8	8	37	42	53	59	19	9			
総計		32	233								45	39	58	57	67	65	19	9			

○印はコース履修上の必修科目 ー印は原則としてコースによって修得できない科目

工学部全学科原子力工学コース履修表

別表1

下表のように計10単位を修得し、これを含めて各学科の卒業要件を満たすこと。

平成20年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘要	
			必修	選択	1年		2年		3年		4年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目 注1	原子力工学	原子力エネルギー		2		2								左記の4科目計8単位を修得すること
		放射線の利用		2			2							
		原子力体感研修		2						2				
		原子燃料サイクル・安全工学		2								2		
	注2	機械加工学		2						2				機械情報技術学科指定科目2単位を修得すること
		プラズマ工学		2								2		電気電子システム学科指定科目2単位を修得すること
		計測情報工学		2				2						システム情報工学指定科目2単位を修得すること
		計測工学		2						2				バイオ環境工学指定科目2単位を修得すること
		地盤工学設計・演習		2							4			土木建築工学科土木工学コース指定科目2単位を修得すること
		建設材料学		2				2						土木建築工学科社会デザインコース・土木建築工学科建築工学コース指定科目2単位を修得すること

注1：土木建築工学科においては専門応用科目。

注2：分野は各学科の課程表（学則別表第1）を参照。

注3：平成20年度入学生（旧カリキュラム適用）については、下記のように単位を振り替えて、本コースを履修したものとみなす。

振り替え科目

履修したい科目（新カリキュラム科目名）	履修すべき科目（旧カリキュラム科目名）
原子力エネルギー	主題別ゼミナールⅠ「21世紀における原子力の役割Ⅰ—エネルギーと環境」
放射線の利用	主題別ゼミナールⅡ「21世紀における原子力の役割Ⅱ—暮らしと放射線利用」
原子力体感研修	主題別講義「チャレンジ原子力体感研修」
原子燃料サイクル・安全工学	原子力工学
機械加工学	機械加工学
プラズマ工学	プラズマ工学
計測情報工学	計測情報工学
計測工学	計測工学
地盤工学設計・演習	地盤工学設計・演習
建設材料学	建築材料

別表2 試験料

試験区	分試験料
追試験	1科目につき500円
再試験	1科目につき1,500円

別表3 受験票交付手数料

交付手数料
300円

7.6 八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程

制定 平成13年3月15日 (教授会)

改正 平成29年3月7日 (教授会)

(目 的)

第1条 この規程は、八戸工業大学学則第34条の規定に基づき、教職課程の履修等について定める。

(免許状の取得資格)

第2条 教育職員免許状を取得するためには次の要件をすべて満たしていなければならない。

- 一 卒業要件を満足すること
- 二 第4条に規定する教職課程を履修し、所定の単位を修得していること
- 三 中学校教諭一種免許状(技術)および(美術)取得のためには、第5条に規定する介護等体験を終了していること

(免許状の種類)

第3条 前条の取得要件を満たした者には、次の教育職員免許状の取得資格が与えられる。

免許状の種類	免許教科の種類	学 科
中学校教諭 一種免許状	技 術	工学部 機械情報技術学科 電気電子システム学科 システム情報工学科 バイオ環境工学科 土木建築工学科
	美 術	感性デザイン学部 感性デザイン学科
高等学校教諭 一種免許状	工 業	工学部 機械情報技術学科 電気電子システム学科 システム情報工学科 バイオ環境工学科 土木建築工学科
	情 報	工学部 システム情報工学科
	理 科	工学部 バイオ環境工学科
	美 術	感性デザイン学部 感性デザイン学科
	工 芸	

(教職課程の履修)

第4条 前条の取得資格を得るためには、別表1の所要資格を満たすように、免許状と免許教科の種類に応じて別表2、別表3および別表4に定める教職課程表の授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

(介護等体験)

第5条 中学校教諭一種免許状（技術）および（美術）を取得するためには、所定の手続きを経て社会福祉施設および特別支援学校における7日間の介護等体験を終了しなければならない。なお、介護等体験の実施時期は原則3学年とする。

- 2 介護等体験を受講するためには所定の健康診断を受診するとともに、麻疹の抗体を有することについて医師の証明を必要とする。

(教育実習)

第6条 教育実習を受講するためには、次に掲げる要件をすべて満たしていなければならない。ただし、特別の事情があり、かつ、教育実習を受講するのに支障がない場合は、この限りではない。

- 一 当該年度に卒業の見込みがあること
- 二 3学年までに開講されている当該免許に関わる教職科目をすべて修得していること
- 三 3学年までに導入転換科目（ただし、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を除く）をすべて修得していること
- 四 「日本国憲法」2単位を修得していること
- 五 3学年までに開講されている必修の実験・実習・製図の全科目、別表2に定める体育区分の2単位、および「基礎情報科学」(工学部)または「コンピュータ基礎演習」(感性デザイン学部)2単位を修得していること
- 六 中学校教諭一種免許状を取得する者は介護等体験を終了していること
- 七 前条第2項に定める健康診断受診と麻疹抗体検査に係る要件を満たしていること
- 2 前項に規定する教育実習の受講は、教職課程の学修過程などをもとに、受講するのに相応しくないと判断されたときは、制限することがある。

附 則

1. この規程は、平成22年4月1日から施行する。
2. 平成22年3月31日に在学する者に係る教職課程は、入学時の教職課程表による。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

別表1 教育職員免許法に定められている所要資格および最低修得単位数（抜粋）

所要資格 免許状の種類	基礎資格	最低修得単位数			
		教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合計単位数
中学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること	20	31	8	59
高等学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること	20	23	16	59

※「教科又は教職に関する科目」の単位数には、「教科又は教職に関する科目」に設定している科目の単位数に加え「教科に関する科目」、「教職に関する科目」の法定単位を超えて修得した単位数を含めることが出来る。

別表2 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	法定 単位数	本学の開設授業科目		備 考
		授業科目	単位数	
日本国憲法	2	日本国憲法	2	全学部全学科必修
体育	2	体育学	1	全学部全学科必修
		スポーツ健康学	1	
外国語コミュニケーション	2	現代英語Ⅰ	1	全学部全学科必修
		現代英語Ⅱ	1	
情報機器の操作	2	基礎情報科学	2	工学部必修
		コンピュータ基礎演習		感性デザイン学部必修

別表3
機械情報技術学科 〈中1種（技術）〉

平成21年度入学生より摘要

施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必 修	選 択	
教科に 関する 科目	木材加工（製図および実習を含む）	木材加工	2		
		基礎設計製図	2		
		CAD設計製図	2		
		機械設計技法	2		
	金属加工（製図および実習を含む）	工作学	2		
		機械加工学		2	
	機械（実習を含む）	機械情報技術概論	2		
		材料力学	2		
		機械力学	2		
		熱力学	2		
		伝熱工学	2		
		流れ学	2		
		機械材料工学	2		
		基礎設計工学	2		
		機械工作実習	1		
	電気（実習を含む）	計測工学	2		
		電気電子工学概論	2		
		制御工学	2		
	栽培（実習を含む）	栽培	2		
	情報とコンピュータ（実習を含む）	基礎機械情報工学	2		
応用機械情報工学			2		
計			37	4	

施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関 する科目	木材加工（製図および実習を含む）	木材加工	2		
		電気電子設計製図	2		
	金属加工（製図および実習を含む）	工作学	2		
		機械加工学		2	
	機械（実習を含む）	電気機器工学	2		
		機械工学概論	2		
		機械工作実習	1		
	電気（実習を含む）	電気電子システム概論	2		
		電気電子数学	2		
		電磁気学Ⅰ	2		
		電磁気学Ⅱ	2		
		電磁気学演習Ⅰ	2		
		電磁気学演習Ⅱ	2		
	電気回路Ⅰ	2			
	電気回路Ⅱ	2			
	電気回路演習Ⅰ	2			
	電気回路演習Ⅱ	2			
	電気電子計測	2			
	電子回路Ⅰ	2			
	創造工学実験	2			
	電気電子基礎実験	2			
	電子情報システム実験		2		
	電気エネルギーシステム実験		2		
栽培（実習を含む）	栽培	2			
情報とコンピュータ（実習を含む）	デジタル回路	2			
	コンピュータプログラミングⅠ	2			
	計	45	6		

施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関 する科目	木材加工（製図および実習を含む）	木材加工	2		
		設計・製図	2		
	金属加工（製図および実習を含む）	工作学	2		
		機械加工学		2	
	機械（実習を含む）	機械工学概論	2		
		ロボット工学	2		
		機械工作実習	1		
	電気（実習を含む）	グラフ理論入門	2		
		電子工学	2		
		電気工学	2		
		制御工学	2		
		論理回路	2		
		集積回路		2	
	情報工学基礎実験Ⅰ	1			
	情報工学応用実験Ⅰ	1			
栽培（実習を含む）	栽培	2			
情報とコンピュータ（実習を含む）	プログラミング入門	2			
	デジタル信号処理	2			
	計	29	4		

バイオ環境工学科 〈中1種（技術）〉

平成21年度入学生より摘要

施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目	木材加工（製図および実習を含む）	木材加工	2		
		工作学	2		
	金属加工（製図および実習を含む）	機械加工学	2		
		機械（実習を含む）	機械工学概論	2	
		環境化学量論	2		
		環境熱力学	2		
		エネルギーと物質の循環	2		
		伝熱工学	2		
		リサイクル工学	2		
		環境材料学		2	
		原子燃料サイクル・安全工学		2	
		機械工作実習	1		
	電気（実習を含む）	電気電子工学概論	2		
		計測工学	2		
栽培（実習を含む）	栽培	2			
情報とコンピュータ（実習を含む）	バイオ環境工学基礎演習Ⅰ	2			
	プログラミング実習	1			
計			28	4	

土木建築工学科 〈中1種（技術）〉

平成21年度入学生より摘要

施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目	木材加工（製図および実習を含む）	木材加工	2		
		基礎製図	2		
	金属加工（製図および実習を含む）	工作学	2		
		機械加工学	2		
	機械（実習を含む）	CAD基礎演習	2		
		材料の力学	2		
		構造力学Ⅰ	2		
	電気（実習を含む）	構造力学Ⅱ	2		
		鋼構造	2		
		機械工学概論	2		
		機械工作実習	1		
		原子力エネルギー	2		
		原子燃料サイクル・安全工学	2		
	電気（実習を含む）	電気電子工学概論	2		
栽培（実習を含む）	栽培	2			
情報とコンピュータ（実習を含む）	情報処理応用		2	いずれか1科目選択必修	
	応用電子計算機		2		
計			31	2	

感性デザイン学科 〈中1種（美術）〉

平成21年度入学生より摘要

施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数		備考	
		必修	選択		
教科に関 する科目	絵画（映像メディア表現を含む）	絵画Ⅰ	2		
		絵画Ⅱ	2		
		デッサン	2		
	彫刻	彫刻	2		
デザイン（映像メディア表現を含む）		ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2	} いずれか1科目選択必修	
		ビジュアルデザイン演習Ⅱ			2
		ビジュアルデザイン演習Ⅲ			2
		ビジュアルデザイン演習Ⅳ			2
		イラストレーションⅠ	2		
		イラストレーションⅡ			2
		Webデザイン	2		
		感性CAD&CG演習Ⅰ	2		
	感性CAD&CG演習Ⅱ		2		
工芸	工芸実習	2			
美術理論および美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術およびアジアの美術を含む）		美術史	2		
		デザイン史	2		
		芸術批評	2		
		表現技法	2		
		色彩学	2		
		タイポグラフィー論			
		ビジュアルデザイン論	2	2	
計		32	10		

機械情報技術学科 〈高1種（工業）〉

平成21年度入学生より摘要

施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
教科に関 する科目	工業の関係科目	材料力学	2	
		機械力学	2	
		熱力学	2	
		伝熱工学	2	
		流れ学	2	
		基礎機械情報工学	2	
		応用機械情報工学		2
		計測工学	2	
		電気電子工学概論	2	
		制御工学	2	
		機械材料工学	2	
		基礎設計工学	2	
		工作学	2	
		機械加工学		2
		基礎設計製図	2	
		CAD設計製図	2	
		機械設計技法	2	
機械工作実習	1			
職業指導	職業指導	4		
計		35	4	

施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目	工業の関係科目	電気電子システム概論	2		
		電気電子数学	2		
		電磁気学Ⅰ	2		
		電磁気学Ⅱ	2		
		電磁気学演習Ⅰ	2		
		電磁気学演習Ⅱ	2		
		電気回路Ⅰ	2		
		電気回路Ⅱ	2		
		電気回路演習Ⅰ	2		
		電気回路演習Ⅱ	2		
		電気電子計測	2		
		電子回路Ⅰ	2		
		デジタル回路		2	
		コンピュータプログラミングⅠ		2	
		電気機器工学		2	
		機械工学概論	2		
		創造工学実験	2		
		電気電子基礎実験	2		
		電子情報システム実験		2	
		電気エネルギーシステム実験		2	
電気電子設計製図		2			
職業指導	職業指導	4			
計			34	12	

施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考		
			必修	選択			
教科に関する科目	工業の関係科目	グラフ理論入門	2				
		電子工学	2				
		電気工学	2				
		機械工学概論	2				
		制御工学	2				
		ロボット工学	2				
		プログラミング入門	2				
		デジタル信号処理	2				
		論理回路	2				
		数値解析	2				
		集積回路	2				
		バーチャルリアリティ		2			
		人間情報科学		2			
		情報工学基礎実験Ⅰ	1				
		情報工学応用実験Ⅰ	1				
		設計・製図	2				
		情報専門ゼミナール	2				
		職業指導	職業指導	4			
		計			32	4	

施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目	工業の関係科目	物理化学	2		
		機器分析		2	
		工業数学		2	
		電気電子工学概論	2		
		機械工学概論	2		
		環境化学量論	2		
		環境材料学		2	
		環境熱力学	2		
		計測工学	2		
		環境影響評価論		2	
		エネルギーと物質の循環	2		
		伝熱工学		2	
		エコインダストリー		2	
		リサイクル工学	2		
		環境応答学		2	
		品質管理	2		
		原子燃料サイクル・安全工学		2	
		技術マネジメント	2		
		バイオ環境工学基礎演習Ⅰ	2		
		バイオ環境工学基礎演習Ⅱ	2		
		バイオ環境工学演習Ⅰ	2		
		バイオ環境工学演習Ⅱ	2		
		バイオ環境工学実験Ⅰ	1		
プログラミング実習	1				
バイオ環境プロセス実習Ⅰ	1				
バイオ環境プロセス実習Ⅱ	1				
職業指導	職業指導	4			
	計	36	16		

施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必 修	選 択	
教科に関 する科目	工業の関係科目	建築概論	2		
		土木工学概論	2		
		基礎製図	2		
		CAD基礎演習	2		
		地球環境論	2		
		測量学	2		
		測量実習	1		
		都市計画	2		
		構造力学Ⅰ	2		
		構造力学Ⅱ	2		
		建設材料学	2		
		材料の力学		2	
		応用測量学及び実習		2	
		廃棄物と工事排水		2	
		上下水道工学		2	
		基礎水理学		2	
		流れの力学		2	
		地盤の科学		2	
		地盤の力学		2	
		地盤構造工学		2	
		建築設計Ⅰ		3	
		建築設計Ⅱ		3	
		住居計画		2	
		建築計画		2	
		熱・空気環境		2	
		建築構造		2	
		建築施工		2	
		建築法規		2	
		建築材料実験		2	
		情報処理応用		2	
		応用電子計算機		2	
					いずれか1科目選択必修
				2	
		2			
		2			
		2			
		4			
	計	49	26		

施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目	情報社会および情報倫理 コンピュータおよび情報処理（実習を含む）	情報文化論	2		
		情報工学概論	2		
		離散数学	2		
		情報数理	2		
		計測情報工学	2		
		プログラミング言語	2		
		コンピュータシステム	2		
		オペレーティングシステム		2	
		プログラム設計	2		
		アルゴリズム	2		
		言語とコンパイラ		2	
		知識工学		2	
		情報工学基礎実験Ⅱ	1		
	情報システム（実習を含む）	システム数理	2		
		データベース	2		
		情報システム論	2		
		情報基礎ゼミナール	2		
	情報通信ネットワーク（実習を含む）	情報通信工学	2		
		情報ネットワーク入門	2		
		情報ネットワーク構築		2	
シミュレーション工学		2			
パターン情報処理			2		
ウェブデザイン		2			
マルチメディア表現および技術（実習を含む）	マルチメディア工学	2			
	デジタル映像表現		2		
	コンピュータグラフィックス		2		
情報と職業	産業情報論	2			
計			39	14	

施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する科目	物理学	基礎物理学Ⅰ	2		
		基礎物理学Ⅱ	2		
		基礎物理学Ⅲ	2		
		物理科学	2		
	化学	基礎化学Ⅰ	2		
		基礎化学Ⅱ	2		
		分析化学	2		
		有機化学	2		
		無機化学	2		
	生物学	生命科学	2		
		バイオテクノロジー	2		
		生化学	2		
		微生物学	2		
		環境生物学		2	
		生理学		2	
		分子遺伝学	2		
	地学	地球環境システム科学	2		
		地盤の科学		2	
	「物理学実験（コンピュータ活用を含む）、 化学実験（コンピュータ活用を含む）、 生物学実験（コンピュータ活用を含む）、 地学実験（コンピュータ活用を含む）」	物理学実験	2		
		化学実験	2		
バイオ環境工学基礎実験		1			
バイオ環境工学実験Ⅱ		1			
計			36	6	
教科又は教職に関する科目	グリーンケミストリー	2			
	環境とエネルギー		2		
	環境汚染物質分析学	2	2		
計			38	4	
合 計				10	

施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
教科に関する科目	絵画（映像メディア表現を含む）	絵画Ⅰ	2	
		絵画Ⅱ	2	
		デッサン	2	
	彫刻	彫刻	2	
	デザイン（映像メディア表現を含む）	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2	いずれか1科目選択必修
		ビジュアルデザイン演習Ⅱ	2	
		ビジュアルデザイン演習Ⅲ	2	
		ビジュアルデザイン演習Ⅳ	2	
		イラストレーションⅠ	2	
		イラストレーションⅡ	2	
		Web デザイン	2	
		感性CAD&CG演習Ⅰ	2	
		感性CAD&CG演習Ⅱ	2	
	美術理論および美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術およびアジアの美術を含む）	美術史	2	
		デザイン史	2	
		芸術批評	2	
		表現技法	2	
		色彩学	2	
		タイポグラフィ論	2	
		ビジュアルデザイン論	2	
	計		36	4

施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
教科に関する科目	図法及び製図	図学	2	
		デッサン	2	
	デザイン	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2	いずれか1科目選択必修
		ビジュアルデザイン演習Ⅱ	2	
		ビジュアルデザイン演習Ⅲ	2	
		ビジュアルデザイン演習Ⅳ	2	
		イラストレーションⅠ	2	
		イラストレーションⅡ	2	
		Web デザイン	2	
		感性CAD&CG演習Ⅰ	2	
		感性CAD&CG演習Ⅱ	2	
	工芸製作（プロダクト制作を含む）	工芸実習	2	
	工芸理論、デザイン理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む）	工芸学	2	
		美術史	2	
		デザイン史	2	
		芸術批評	2	
		表現技法	2	
		色彩学	2	
		タイポグラフィ論	2	
		ビジュアルデザイン論	2	
	計		36	4

別表4

教職に関する科目

平成22年度入学生より摘要

施行規則に定める科目区分		左記に対応する本学の開設授業科目			備考
		授業科目	単位数		
科目	単位数			必修	選択
教職の意義等に関する科目	2	教職総論	2		
教育の基礎理論に関する科目	6	教育基礎論	2		
		認知と人格の発達	2		
		教育の制度	2		
教育課程及び指導法に関する科目	中12 ・ 高6	教育課程論	2		
		技術科指導法Ⅰ	4		中1種免(技術)についてのみ必修
		技術科指導法Ⅱ		2	中1種免(技術)についてのみ選択
		技術科指導法Ⅲ		2	中1種免(技術)についてのみ選択
		工業科指導法	4		高1種免(工業)についてのみ必修
		情報科指導法	4		高1種免(情報)についてのみ必修
		理科指導法Ⅰ	2		高1種免(理科)についてのみ必修
		理科指導法Ⅱ	2		高1種免(理科)についてのみ必修
		美術科指導法Ⅰ	4		中高1種免(美術)についてのみ必修
		美術科指導法Ⅱ		2	中1種免(美術)についてのみ選択
		美術科指導法Ⅲ		2	中1種免(美術)についてのみ選択
		工芸科指導法	4		高1種免(工芸)についてのみ必修
		道徳教育	2		中1種免のみ必修
		特別活動	2		
生徒指導、教育相談及び進路指導関する科目	4	教育実践論	2		中1種免のみ必修
		教育工学	2		
教職実践演習	2	生徒指導・進路指導	2		
		教育相談	2		
教育実習	中5 ・ 高3	教職実践演習(中・高)	2		
		事前・事後指導	1		
		教育実習Ⅰ	2		
		教育実習Ⅱ	2		中1種免のみ必修
<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許法に定める教員免許状取得のための最低修得単位数 31単位(中学校1種免)・23単位(高等学校1種免) ・本学で開設している教員免許状取得のための必修科目の単位数 33単位(中学校1種免)・27単位(高等学校1種免) 					

7.7 編入学者および転入学者の履修等に関する規程

制定 昭和63年2月18日 教授会

改正 平成23年1月20日 教授会

第1条 本学学則第13条により編入学または転入学を許可された者の履修等については、許可された入学年次に適用される学則および履修規程によるほか、本規程によるものとする。

第2条 編入学者および転入学者の既修得単位の認定は、次のとおりとする。

- (1) 単位認定に当たっては、出身学校の成績証明書および講義要目その他の資料を参考にし、当該学科等と協議の上既修得単位として認定する。
- (2) 総合教養科目に関しては、大学を卒業した者に対しては、必修単位の全てを含め、当該学科の卒業要件を上限とする単位数を、また、短期大学または高等専門学校を卒業した者に対しては、必修2単位を含め当該学科の卒業要件の2分の1を上限とする単位数を既修得単位として認定することができる。

第3条 編入学者および転入学者の進級については、編入年次または転入年次に進級するための要件は充足しているものとし、編入年次または転入年次後に修得した単位数を既修得単位として認定した単位数に加算した単位数をもって進級を判定することを原則とする。

第4条 外国人編入学者の既修得単位の認定ならびに進級については、原則として大学卒業者または短大・高専卒業者に準じて取り扱うものとする。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

7.8 八戸工業大学 GPA 取り扱い要項

制定 平成23年 1月 6日 (教務委員会)

改正 平成26年 2月 25日 (教務委員会)

(目的)

第1条 この要項は、八戸工業大学（以下「本学」という。）履修規程第9条および同大学院履修規程第7条（以下「履修規程」という。）に規定するGPA（Grade Point Average）の取り扱いについて必要な事項を定める。

(定義)

第2条 GPAとは、履修した科目の成績をGP（Grade Point）により点数化し、1単位あたりの平均値を求めたものをいう。

2 GPA算出の対象とする科目は、次の各号を除く科目とする。

- 一 教職関連科目等で、卒業または修了要件に算入しない科目
- 二 編入学・転入学等により入学した学生の既修得科目について単位認定した科目
- 三 卒業または修了要件に算入される科目のうち別表1に定める科目

(GP)

第3条 履修規程第5条に規定する成績評価とGPとの対応は次のとおりとする。

評価 (Grade)	GP
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0

(GPAの種類および計算方法)

第4条 GPAは、当該期間に履修した第2条2項に定めるGPA対象科目について、「学期GPA」、「年度GPA」、「累積GPA」に区分し、各区分の定める方法により計算するものとし、計算値は小数点第3位以下を切り捨てて表記する。

GPAの計算式

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{当該学期における(修得した科目の単位数} \times \text{GP)の計}}{\text{当該学期における評価を受けた科目の単位数の計}}$$

$$\text{年度GPA} = \frac{\text{当該年度における(修得した科目の単位数} \times \text{GP)の計}}{\text{当該年度における評価を受けた科目の単位数の計}}$$

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{入学以降に(修得した科目の単位数} \times \text{GP)の計}}{\text{入学以降に評価を受けた科目の単位数の計}}$$

(GPA 計算期日)

第5条 GPAの計算は、学期ごとに所定の期日までに確定した成績に基づいて行う。

- 2 GPA計算の期日は、原則として前期9月25日、後期3月25日とする。ただし、必要に応じて期日前にGPAを仮算出する場合がある。

(GPAの通知)

第6条 前条で計算したGPAは学業成績通知書に記載し、その計算方法、意義および推奨値とともに学生と保護者に通知する。

(成績証明書への記載)

第7条 成績証明書にはGPAの記載は行わない。

- 2 前項にかかわらず、申請者からGPAを記載した成績証明書の発行請求があった場合には「累積GPA」を成績証明書に記載する。なお、この場合においてはGPA算出の根拠となる不合格科目も併せて記載する。

(GPAの利用)

第8条 GPAは次の各号に示す事項の指標・基準等に使用することがある。

- 一 クラス分け、研究室配属など授業運営に係る指標
- 二 学業成績優秀者への顕彰などの選考基準
- 三 特待生・奨学生などの選考基準
- 四 履修指導・学修指導の指標
- 五 進級・卒業に係わる指標
- 六 就職試験等の推薦者選考基準
- 七 各種統計・調査
- 八 その他、本学の教育研究および活動に必要な事項

(その他)

第9条 この要項に定めのない、GPA制度運用に必要な事項については別に定める。

(改廃)

第10条 この要項の改廃については、教務委員会および学務委員会が行う。

附 則 この要項は、平成23年度入学生から適用する。

別表1 卒業または修了要件に算入される科目のうち、GPA算出の対象としない科目

平成23年度入学生～	八戸学院大学（旧八戸大学）との単位互換科目
------------	-----------------------

7.9 八戸工業大学図書館利用規程

制定 平成7年2月28日（図書委員会）
改正 平成29年1月13日（図書委員会）

（趣旨）

第1条 この規程は、八戸工業大学図書館規程第7条に基づき、八戸工業大学図書館（以下「図書館」という。）の利用について、必要な事項を定める。

（資料）

第2条 図書館の管理する資料（以下「図書類」という。）を次のとおりとする。

- (1) 図書
- (2) 逐次刊行物
- (3) 地図
- (4) 視聴覚資料
- (5) その他の資料

（利用者）

第3条 図書館を利用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本学教職員、名誉学長、名誉教授、非常勤講師および研究員（以下「第1種利用者」という。）
- (2) 本学学部学生、大学院学生、研究生、および科目等履修生（以下「第2種利用者」という。）
- (3) その他一般利用者（以下「第3種利用者」という。）

（休館日）

第4条 図書館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日、国民の祝日
- (2) 春季、夏季、冬季の各休業日の土曜日
- (3) 12月28日から1月4日まで

2 前項によらず、図書館長（以下「館長」という。）が必要と認めるときは、臨時に休館、開館することがある。

（開館時間）

第5条 開館時間は、次のとおりとする。

月曜日から金曜日は、午前9時から午後9時まで
ただし、春季、夏季、冬季の各休業日の一部期間の開館時間は午後5時まで
開館日の土曜日は、午前10時から午後5時まで

2 前項に定めるほか、館長が必要と認めるときは、臨時に開館時間を変更することがある。

（利用手続き）

第6条 資料の貸出を受けようとする場合は、八戸工業大学図書館利用券（以下「利用券」という。）を必要とする。

- 2 館長は希望者の求めに応じて利用券を交付する。
- 3 第1種、第2種利用者については、学生証、身分証明書またはこれに代わるものをもって利用券とすることができる。
- 4 第3種利用者は、所定の様式に必要な事項を記入の上、身分証明書またはこれに代わるものを提示して、交付申請を行う。
- 5 利用券の交付を受けた者は、利用券を他人に譲渡または転貸してはならない。また、それによって生じた事故の責めは、本人が負わなければならない。
- 6 利用券を紛失した者は、速やかにその旨を館長に届け出なければならない。
- 7 前項の届出のあった者に対しては、願い出により、利用券の再発行を行うことができる。
- 8 利用資格を失った者は、速やかに利用券を返却しなければならない。

（身分証明書等の提示）

第7条 図書館・情報事務室の職員（以下「職員」という。）などから利用券の提示を求められた場合は、これに応じなければならない。

（遵守事項）

第8条 図書館内においては次の事項を守らなければならない。

- (1) 静粛を保つこと

- (2) 喫煙、飲食および談話などをしないこと。ただし、指定された場所での飲料物の摂取は可とする
- (3) 図書類、備品および施設を丁重に扱うこと
- (4) 他人の迷惑となる行為をしないこと

(閲覧)

第9条 館内の図書類は、閉架図書類を除き自由閲覧とする。ただし、閲覧が終了したときは、所定の位置に返却するものとする。

(閉架図書の館内閲覧)

第10条 利用者は、あらかじめ所定の手続きを行って閉架図書、および視聴覚資料の館内閲覧ができる。ただし、一度に閲覧できるのは各々3冊(本)以内とし、閲覧した図書は閉館時まで所定の位置へ、視聴覚資料は閲覧カウンターへ返却しなければならない。

(館外貸出)

第11条 貸出できる図書、視聴覚資料の冊数および期間は次のとおりとする。

1. 図書

- (1) 第1種利用者は20冊まで、30日以内
- (2) 第2種利用者のうち、大学院学生および研究生は10冊まで、30日以内。学部4学年生は5冊まで、30日以内。それ以外の学部学生は5冊まで、14日以内。また、休業期間にわたる貸出は、休業期間終了まで延長できる
- (3) 第3種利用者は3冊まで、7日以内

2. 視聴覚資料

- (1) 貸出対象者は、本学教職員、研究員、本学学部学生、大学院学生、研究生とこれに準ずる者とする
- (2) 貸出本数は3本まで、7日以内

(貸出期間の更新)

第12条 第11条で規定する貸出期間を超えて引き続き貸出を希望する者は、所定の手続きにより1回に限り、貸出期間を更新することができる。

(貸出予約)

第13条 貸出希望図書、視聴覚資料が貸出中のときは、予約することができる。

(転貸の禁止)

第14条 館外貸出図書、視聴覚資料は、一切他に転貸してはならない。

(特別帯出許可の必要な図書類)

第15条 次の図書類を帯出するときは、館長の許可を得なければならない。

- (1) 貴重図書
- (2) 参考図書(事典、辞典、便覧および地図等)
- (3) 視聴覚資料
- (4) 新聞
- (5) 逐次刊行物
- (6) その他、館長の定めたもの

(貸出図書の返却)

第16条 貸出図書、視聴覚資料は、期間が終了したときは、直ちに返却しなければならない。

- 2 前項に定めるほか、教職員は、留学、休職、退職等の際、学生にあっては、卒業、修了、休学、退学、転学等の際に、それぞれ直ちに返却しなければならない。

第17条 館長は必要に応じ、貸出期間中であっても臨時に返却させることができる。

(貸出の停止)

第18条 貸出図書、視聴覚資料を特別な理由がなく貸出期間内に返却しなかった者については、返却するまで貸出を停止する。

(紛失・破損・汚損)

第19条 図書類を紛失、または著しく破損、汚損した者は、直ちに届け出なければならない。また、館長は、同一の図書または相当の代金をもって弁償させることがある。

(複写)

第20条 本館所蔵の図書類を複写しようとするときは、著作権法に従い、複写することができる。

- 2 前項に違反した場合は、利用者が一切の責任を負うものとする。

(相互協力)

- 第21条 第1種、第2種利用者が教育、研究または学習のために必要とするときは、所定の手続きにより、他の機関の利用または資料の複写、借り受け等の斡旋を図書館に依頼することができる。
- 2 館長は、他の機関から、図書館の利用、または資料の複写ならびに借り受け等の申込があった場合、支障のない範囲で、これに応ずることができる。
 - 3 前2項にて発生した経費については、依頼者が負担するものとする。

(分置)

第22条 研究図書類（第1種利用者が本学研究費で購入した図書類）は、所定の手続きにより、学内に分置することができる。

第23条 研究図書類以外の図書類は、館長が必要と認めるものに限り、相応の場所に分置することができる。

第24条 分置された図書類には保管責任者を置き、図書類の管理について一切の責任を負うものとする。

第25条 職員は分置された図書類の点検を行うことができる。

第26条 退職などにより分置を変更する場合は、図書館に届け出なければならない。

(多目的ホールの利用)

第27条 多目的ホールの利用については別に定める。

(罰則)

第28条 本規程に違反する者に対しては、館長は利用の制限、退館、または一定期間入館を禁止することができる。

(その他)

第29条 この規程に定めるもののほか、図書館の利用について必要な事項については、館長がこれを定める。

(改廃)

第30条 この規程の改廃は、図書委員会の議を経て行うものとする。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成29年1月13日から施行する。

7.10 八戸工業大学情報ネットワーク施設利用規程

制定 平成15年3月13日（教授会）

改正 平成28年10月20日（教授会）

(目的)

第1条 この規程は、八戸工業大学図書館規程第7条に基づき、情報ネットワーク施設の利用について定める。

(定義)

第2条 情報ネットワーク施設とは、本学LAN、本学の計算機施設および本学LANを經由して接続する学外のネットワークをいう。

(利用資格)

第3条 情報ネットワーク施設を利用できるものは、次のとおりとする。

- (1) 本学の教職員および学生
- (2) 情報メディア委員長が認めた者

(利用手続き)

第4条 情報ネットワーク施設への接続を希望する者は、ネットワーク接続申請書を図書館・情報事務室に提出し、インターネットアドレス（IPアドレス）を取得するものとする。

- 2 情報ネットワーク施設を利用する場合は、所定の手続きを行うものとする。

(利用の制限)

第5条 情報ネットワーク施設の利用者は、本規程および学術情報ネットワーク等の学外のネットワークの運用上の規程を遵守しなければならない。

- 2 ネットワークを利用する情報に関しては、営利行為や公序良俗に反する行為および著しく情報倫理を欠いた場合は、利用の制限を行うことがある。
- 3 ネットワークを利用する情報の内容に関しては、発信者が責任を負うものとする。

(雑則)

第6条 本規程に定めるもののほか、情報ネットワーク施設に関する必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第7条 本規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

7.11 学生の諸活動に関する規程

制定 昭和47年4月1日

学生の諸活動に関する規程を次のとおり定める。

第1章 総 則

第1条 学生の諸活動は、正課の学習以外において各人の才能と趣味に応じた自主的活動により、人格の陶冶、情操豊かな人間性の涵養、自律心の鍛錬等専ら社会人として必要な基本を錬成することにある。

第2条 学生は個人・団体を問わず、学内外の秩序を乱しまたは良識に反する行為をすることなく、正しく健全な諸活動を行うよう努めなければならない。

2 前項に違反する行為が行われ、または行われようとしている場合は、学生は本学および学生の名譽を守るため、その行為を制止する等最善の措置を講じなければならない。

第2章 団体の結成

第3条 本学学生を会員とする団体（研究会、愛好会等を含む。以下同じ）を結成しようとするときは、責任者は遅滞なく本学所定の団体結成願に、団体の名称、結成年月日、目的、顧問（教職員）、役員および会員の氏名を記入して、責任代表者が3名以上署名押印し、明文の規約（会則）を添えて、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

2 前項の団体規約（会則）またはその他届出事項を変更するときも前項に準ずる。

3 学生団体は毎年年度始め4月20日までに団体構成役員名簿および構成員名簿を添え、本学所定の団体継続届を前項に準じて学務部長を経て学長に届け出なければならない。届け出ない団体は、解散したものとみなす。

4 前項の団体の構成員は本学の学生または本学関係者でなければならない。

第4条 学生団体が学外団体に加盟しようとするときは、本学所定の学外団体加盟願に学外団体の規約を添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

2 学生が団体的に学外団体に加盟しようとするときも、前項に準じて許可を受けなければならない。

3 学生団体が学外団体の行事・集会等に参加しようとするときは、本学所定の学外団体参加願に参加者名簿を添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

4 学生が団体的に学外団体の行事・集会等に参加しようとするときも、前項に準じて許可を受けなければならない。

第5条 前条の学外団体への加盟または参加が本学の目的にそわないと認められた場合は、学長は許可を取り消すことがある。

第6条 学生団体の予算および決算に関する一切の収支は、会計年度ごとに学務部長を経て学長に報告しなければならない。

第7条 第3条により許可された学生団体において、その行為が国法や本学の規則等に違反したり、その他本学の機能を害しまたは秩序を乱しまたはそのおそれがあると認められるときは、その活動を禁止し、またはその団体の解散を命ずることがある。

第3章 集 会

第8条 学生または団体が学内外において、集会、対外試合、合宿練習、遊説、集団行進、示威運動、署名運動、世論調査、投票、宣伝等を行おうとするときは、責任者はその期日3日前までに本学所定のそれぞれの許可願に必要事項を記入して責任代表者が3名以上署名押印し、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

2 前項の集会において、本学施設、設備等（建物、体育施設、通路、広場等）を使用するときは、

同時にその借用を所管の部局長に願い出て許可を受けなければならない。
ただし、学生団体が事業のため平常借用している場所で、借用の目的の範囲内で集会しようとするときは、この限りではない。

第9条 同窓会、学会、講演会等で特定の人を対象とする場合、または映画会、音楽会、演劇等で単に映写、演出のみを行う場合を除き、学外者の参加を許さない。

第10条 学生または団体が学外者を対象として金銭の収支を伴う行為をするときは、学務部長を経て学長の許可を受けなければならない。

第11条 集会が本学の本来の目的にそわないと認めた場合、また学内の秩序を乱すおそれがあると認められるときは、禁止または解散を命ずることがある。

第4章 掲 示

第12条 学生または団体が学内外に掲示しようとするときは、責任者は本学所定の掲示許可願に掲示物を添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。許可された掲示物には大学の認印を押す。

2 掲示物には必ず団体名、責任者を明記しなければならない。

3 掲示用紙は、日本規格B3判（新聞1ページ大）以内を原則とする。

4 掲示期間は、最長1週間とする。

5 学内における掲示は本学が指定した学生掲示板において行わなければならない。

第13条 講演会、集会等の通知のため学内に立て看板による掲示をしようとするときは、前条に準じて許可を受けなければならない。ただし、立て看板は、管理局局備え付けのものに限り、かつ掲示期間は3日以内とする。

第14条 掲示の内容が政治的目的を有するもの、虚偽の記述または名誉の毀損にわたるもの、もしくは学内の秩序を乱すものは許可しない。

第15条 団体または団体が前3条に反して掲示を行ったときは、その責任者または団体が共同して責を負うものとする。

第16条 掲示期間を経過したものは、責任者においてただちに撤去しなければならない。

第17条 第12条、第13条、第14条および第16条に違反する掲示物は、管理者においてただちに撤去させ、または撤去する。

第5章 印刷物の発行・配布・回覧等

第18条 学内外を問わず、印刷物（雑誌、小冊子、新聞、ビラ、その他これに類する一切のもの）を発行し、または配布、回覧しようとするときは、事前に本学所定の印刷物発行・配布・回覧願にその印刷物の原稿またはこれに替わるものを添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

2 その他物品等を配布しようとするときは、その物品等を添え前項に準じて許可を受けなければならない。

第19条 学生または団体が寄付を募集しようとするときも、前項に準じて許可を受けなければならない。

第20条 前2条の行為が、本学の本来の目的にそわないと認めた場合は、学長は許可を取り消すことがある。

第6章 放 送

第21条 学内において放送しようとするときは、本学所定の放送願に放送要旨を添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

第22条 放送は特別の場合を除き授業時間中に行うことができない。

2 授業時間外に行う場合であっても、学内における他の業務の支障を来さないように充分注意を払わなければならない。

3 前条および前2項に反する行為があった場合はただちに中止させるものとする。

第7章 政治活動・布教活動の禁止

第23条 学生または学生団体は、学内において政治活動および布教活動を行ってはならない。

第8章 暴力行為等の禁止

第24条 学生または学生団体は、次の各号の行為をしてはならない。

- (1) 学内に火薬、爆薬、劇薬、その他類似の危険物を持ち込み、所持、携行する行為
- (2) 学内において、棍棒、石塊等暴力行使を意図する一切の物件を所持し携行する行為
- (3) 暴行し、またはこれによって人に傷害を与えるような行為
- (4) 暴力を用いて他の学生の就学を妨害する行為
- (5) 団体もしくは多数が共同して暴行、脅迫にわたる行為
- (6) 暴力を用いての学内の施設、設備、備品などを破壊する行為
- (7) 暴力行使の協議、または各種危険物、その他暴力行使に用いる物件の集積等一切の準備行為
- (8) その他暴力による一切の不法行為

第9章 その他

第25条 学生または学生団体は学内において次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 学生は氏名を偽り、または覆面等の行為をしてその身分をかくさないこと
- (2) みだりに放歌、高吟その他喧騒にわたる行為を慎むこと
- (3) 学生または学生団体相互間には礼儀正しく、いやしくも暴力・傷害・物品毀棄等の行為をしないこと
- (4) 許可なく大学の備品等を持ち出さないこと
- (5) 許可なく学内に宿泊しないこと
- (6) 指定された場所以外で火気を使用しないこと
- (7) 許可なく学外者を学内に入れないこと

第26条 本規程によりがたい特別の諸活動をしようとするときは、学務部長を経て学長に願い出て指導および許可を受けなければならない。

第27条 本規程に反する行為をした者（同未遂行為を含む）または規程に反した行為に対する教職員の制止に応じない者は学則第57条を適用する。

附則の一部は省略している。

附 則 この規程は、平成21年4月1日より施行する。

7.12 学友会館使用規程

制定 平成12年2月5日（学生委員会）

学友会館（以下「会館」という。）は、学生の課外活動を盛んにし、その運営を円滑にするための施設である。会館は、学友会室、体育会室、文化会室、部室および会議室からなっており、その使用にあたっては、それぞれの会に所属する団体（以下「団体」という。）が課外活動の場として常に秩序と規律を保つとともに共同の責任において特に整備、保全および火災予防に努めなければならない。

会館の使用については、この規程に従わなければならない。

なお、会館以外を部室として使用する団体にあっても、部室の使用にあたっては、この規程を適用する。

第1条 会館の使用時間は、平日の午前8時30分から午後8時までとする。

2 時間外使用および休業日に会館を使用する場合は、使用する日の3日前までに時間外・休業日課外活動願を学生課に提出し許可を受けなければならない。この場合における終了時刻は午後9時30分とする。

3 前項の規定にかかわらず、学園祭等の行事があるときは、特別に取り扱うことがある。

第2条 部室は、部活動を行う目的で大学から許可された団体に対し、指導育成上必要とみとめられた場合に限り、その使用を許可するものとする。

第3条 部室の使用は、部本来の活動のためにのみ限るものとする。

第4条 部室の使用を希望する団体は、所定の部室借用願を学生課に提出しなければならない。

第5条 部室の使用許可期間はその年度限りとし、継続使用を希望する場合は、前条に準じて部室借

- 用願を毎年3月31日までに学生課に提出しなければならない。
- 第6条 期日までに部室借用願を提出しない団体は、部室不用とみなす。
- 第7条 部の解散その他により部室の使用目的が消滅したときは、速やかに学生課に届け出て部室を現状に復し空け渡さなければならない。
- 2 解散によるときは、大学等からの補助により購入した備品を返却しなければならない。
- 第8条 会議室の使用は、会議室Aにあつては学友会、会議室Bにあつては学生課の許可を受けなければならない。
- 第9条 その他会館の使用にあつては大学の指示に従うこと。
- 第10条 会館の使用を許可された団体は、次の各号を遵守しなければならない。
- (1) 会館内の清掃は各団体が協力して行い、常に清潔を保つとともに整理・整頓に努めること
 - (2) 火災の防止に万全を期すること
 - (3) 会館内での暖房器具および火気は許可を受けた団体以外は使用しないこと
 - (4) 会館内において飲酒しないこと
 - (5) 会館内に学外団体の支部または事務所を設けないこと
 - (6) 会館内への泊り込みは認めない
 - (7) 部室の使用にあつては、部員以外の部室使用は認めない
 - (8) 各部は部責任者を定めて学生課に届け出ること
 - (9) 各部室入口に部および部責任者を表示すること
 - (10) 他の団体の迷惑にならぬよう騒音等には十分気をつけること
 - (11) 室内の施設、設備等を無断で移動、改廃、新設しないこと
 - (12) 室内への掲示その他これに類するものは、部に直接関係のあるもののみとし、みだりに行わないこと
 - (13) 一室を部室として共用する場合は、お互いに協力して使用すること
 - (14) シャワーの使用にあつては、注意事項を確認し節水にも努めること
- 第11条 会館を使用するときは、そのつど受付から鍵を借用し、使用後はただちに受付に返却すること。
- 第12条 大学の管理上の必要から行う係員の室内立入りまたは指示を拒否してはならない。
- 第13条 会館内の施設、設備等を汚損したり滅失または破損したときは、学生課に文書をもって届け出て、その損害を弁償しなければならない。
- 第14条 事故、盗難等の防止には各自が心掛け、事故等があったときは速やかに学生課に届け出ること。
- 第15条 この規程に違反した場合は、その部室の使用許可を取り消すことがある。

附 則

1. この規程は、平成12年4月1日より施行する。
2. この規程施行の日から、従前の「部室使用規程」は廃止する。

7.13 施設・設備・備品等管理規程

制定 昭和47年4月1日

施設・設備・備品等の使用に関する規程を次のとおり定める。

- 第1条 学生は本学の施設・設備・備品等を使用するときは、常に良好な状態を維持するように留意し、かつ本来の用法に従って使用しなければならない。
- 第2条 学生が故意または過失によって施設・設備・備品等を破損、汚損または滅失し、本学に損害を与えたときは、その損害を弁償しなければならない。
- 2 数人（学生団体を含む）が共同して施設・設備・備品等を破損、汚損または滅失し、本学に損害を与えたときは、連帯してその損害を弁償しなければならない。
- なお共同行為を行った者の一部より判明しない場合は、その判明者が全損害の弁償義務を負うものとする。

- 第3条 授業外において本学の施設・設備・備品等を使用しようとするときは、本学所定の施設・設備・備品等使用願を学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。
- 第4条 施設・設備・備品等の使用後は原形に復し、または元の設置場所に返還しなければならない。
- 第5条 本規程に反する行為をした者は学則第57条を適用する。
- 第6条 この規程に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成3年4月4日より施行する。

附 則 この規程は、平成21年4月1日より施行する。

7.14 残留・出校者心得

学生残留・出校届の提出は、防火・防犯その他の事故防止、緊急時の連絡等を目的とする。

学生は、正規の授業終了時刻以降学内に残留するとき、又は休業日（土曜日、日曜日、祝祭日、夏季休業期間等）に出校するときは、次の事項を遵守し、別に定める場合を除いて学生残留・出校届を、事務部学事課に提出しなければならない。

- 1 授業のある日で19時以降学内に残留するときは、当日の16時50分までに学生残留・出校届を提出すること。
休業日に出校するときは、前日の16時50分までに学生残留・出校届を提出すること。提出はいずれの場合も、土曜日を除く平日とすること。
- 2 残留・出校は22時までとするが、これ以降は担当教職員の同時残留を原則とする。
- 3 残留・出校者の人数に変更なく、残留および出校日数が10日以内で継続する場合の学生残留・出校届は、日付順に一枚にまとめて提出すること。なお、10日目以降については、改めて提出すること。
- 4 2名以上の残留・出校の場合は、代表者および全員の氏名等を明記すること。
- 5 学生の残留・出校は、担当教員の承認を必要とする。
- 6 学外者の立入りは、特に許可を得た場合を除いてこれを認めない。
- 7 飲酒は禁止する。
- 8 本学設置電話による私用の通話は禁止する。
- 9 暖房用電気・ガスストーブの使用は禁止する。
- 10 車両通学に関する規程による駐車場以外の駐車は禁止する。
- 11 各出入口については、施錠後の解錠を禁止する。施錠後は本館受付前の出入口を利用すること。なお、22時以降翌朝6時15分までの外出は禁止する。
- 12 下校時は警備員（受付）にその旨を連絡して帰ること。ただし、22時以降翌朝6時15分の間に帰る場合（教職員と同時残留の場合）は、受付前に備付けの「帰宅時間記入簿」に必要事項を記入して帰ること。
- 13 石油ストーブ、タバコ等の火気に注意し、事故のないように物品の管理、整頓と光熱水の節約を心掛けること。下校時は、火気のあと始末、鍵の確認をすること。
- 14 その他の事項については、学生要覧に記載の諸規程を準用する。

7.15 八戸工業大学車両通学に関する規程

- | | |
|----|--|
| 制定 | 平成14年2月14日（学生委員会）
平成14年2月13日（学務委員会） |
| 改正 | 平成18年12月4日（学生委員会）
平成18年12月7日（学務委員会） |

（目的）

第1条 この規程は、本学の学部生、大学院生および研究生（以下「学生」という。）の車両通学に

関し、必要な事項を定めることにより、交通事故の防止と学内交通道德の涵養を目的とする。

(定義)

第2条 前条の車両通学とは、四輪車、自動二輪車、原動機付自転車および自転車をを用いて通学することをいう。

(車両通学許可)

第3条 車両による通学を希望する学生は、「車両通学許可願」を本学に提出し許可を受けなければならない。

(許可手続)

第4条 車両通学許可を願い出る場合は、次の各号に定める書類を提示又は提出しなければならない。

- 一 車両通学許可願
 - 二 車検証(写し)
 - 三 その他本学が必要とする書類
- 2 車両通学許可手続に際しては、手続に係る費用を手数料として徴収する。
- 3 車両通学許可に関する事務は、学生課が行う。

(許可)

第5条 本学は、願書と諸書類により審査し、適当と認められた場合に車両通学を許可する。

- 2 許可車両に対しては、ステッカーを交付する。
- 3 許可車両を変更した場合は、改めて車両通学許可の手続きを行わなければならない。
- 4 ステッカーは、他の者に譲渡又は貸与してはならない。

(許可制限)

第6条 第4条第1項による書類が不備な場合、又は駐車場に空きがない場合は、車両による通学を許可しないことがある。

(講習会)

第7条 車両通学を許可された学生および許可を受けようとする学生は、本学が指定する交通安全に関する講習会を受講しなければならない。

(許可期間)

第8条 車両通学許可は、許可した年度に限り有効とする。したがって、翌年度以降も車両通学を希望する場合は、毎年度初めに改めて車両通学許可の手続きを行わなければならない。

(駐車場の使用)

第9条 車両通学を許可された学生が学内に駐車する場合は、本学が所有する駐車場を使用しなければならない。

- 2 学内の駐車場に駐車する場合は、四輪車にあつては、リアウインドー助手席側の表から、(四輪車以外の車両にあつては、)ステッカーを(後輪カバーの)確認し易い位置に貼付しなければならない。
- 3 駐車場は、本学の都合により臨時にその使用を制限する場合がある。

(遵守事項)

第10条 車両通学生は、常に法令による安全上の諸規則および学内交通道德を守り安全運転に心がけ、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- 一 学内・学外を問わず走行中は道路標識に従って走行し、特に、大学構内においては常に徐行に徹すること
- 二 積雪時においては、冬用タイヤ又はチェーンを装着すること
- 三 大学構内において学生車両の立ち入りが禁止されている場所には、絶対に車両を乗り入れないこと
- 四 車両は指定された駐車・駐輪場に止め、通路には絶対に止めないこと
- 五 走行時、駐車時地域住民に迷惑を掛けないこと
- 六 路上走行中および駐車・駐輪場において、みだりに警笛を鳴らしたり、空ふかしや急ブレーキおよびタイヤ摩擦音等の騒音を発する運転はしないこと

七 自動二輪車、原動機付自転車による通学生は、ヘルメットを着用し、昼夜を問わず前照灯を点灯するとともに、身体の露出が少なくなるような服装をし、下駄やサンダルによる運転をしてはならない

(責任)

第11条 交通事故に関しては、学内・学外を問わず本学は一切の責任を負わない。又車両の破損、盗難等についても同様とする。

(駐車料金)

第12条 駐車場を使用する場合、本学は駐車場の維持管理費の一部として、駐車料金を徴収することがある。

(罰則)

第13条 本規程および交通法令に違反した場合は、学部学生にあつては八戸工業大学学則、大学院学生にあつては八戸工業大学大学院学則に基づき懲戒処分するとともに、車両通学許可を取り消すことがある。

附 則

1. この規程は、平成14年4月1日より施行する。
2. この規程施行の日から、従前の「駐車場使用規程」、「車両通学生心得」、「八戸工業大学大学院 駐車場使用規程」および「八戸工業大学大学院車両通学生心得」は廃止する。

附 則 この規程は、平成18年4月1日より施行する。

7.16 八戸工業大学学部各種証明書等交付に関する規程

第1条 本学学生で交付を受けることができる諸証明書等および手数料は、別表のとおりとする。

第2条 学生の願い出により別表に掲げる以外の証明書等を交付することができる。この場合の手数料はそのつど定める。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成13年4月1日より施行する。

別 表

証 明 書	手 数 料
在学証明書	200円
在学証明書 (英文)	1,000円
卒業証明書	200円
卒業証明書 (英文)	1,000円
卒業見込証明書	200円
卒業見込証明書 (英文)	1,000円
成績証明書	200円
成績証明書 (英文)	1,000円
単位取得証明書	200円
教員免許状取得見込証明書	200円
大学院調査書	200円
科目等履修生・研究生在学証明書	200円
健康診断証明書	200円
学生証 (再交付)	1,500円
学生旅客運賃割引証	無 料
通学証明書	無 料
就職模試受験票	1,000円
公務員模試受験票	3,000円

7.17 学友会会則

制定 昭和47年4月1日

第1章 総 則

第1条 本会は、八戸工業大学学友会（以下「本会」という。）と称する。

第2条 本会の本部は、八戸市大字妙字大開88番地1 八戸工業大学内におく。

第3条 本会は、会員の自主的精神に基づき、課外活動を通じて会員相互の親睦と人間性の陶冶を図るとともに、健全な学風の培養と高揚に努め以て学園の発展を図ることを目的とする。

第4条 本会は、八戸工業大学の学生（以下「正会員」という。）並びに教職員（以下「特別会員」という。）をもって組織する。

第5条 本会は、第3条の目的を達成するための次の事業を行う。

- (1) 会員の文化活動に関すること
- (2) 会員の体育活動に関すること
- (3) 会員の親睦をはかること
- (4) その他必要と認めること

第2章 役員および正会員

第6条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副 会 長 1 名
- (3) 顧 問 若干名
- (4) 委 員 長 1 名
- (5) 副委員長 2 名
- (6) 委 員 (書記係、会計係、各2名を含む)
正 会 員 工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名、各部1名
特別会員 工学部並びに感性デザイン学部の各学科1名、事務局2名
- (7) 会計監査委員 正会員4名、特別会員1名
- (8) 選挙管理委員 工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名

第7条 会長は、本学の学長がこれにあたる。

2 会長は、本学を代表し、且つ本会を総理する。

第8条 会長の職務権限は次のとおりである。

- (1) 総会を招集する
- (2) 第10条、第11条、第12条の告示を承認する
- (3) 委員長、副委員長、委員、会計監査委員および選挙管理委員を承認する
- (4) 委員会および選挙管理委員会の招集を承認する
- (5) 部の降格および廃止、或いは愛好会等の昇格に関して委員会を諮問することができる
- (6) 部および愛好会等の顧問を委嘱する
- (7) 本会副会長および本会の顧問を委嘱する
- (8) その他、会長が必要と認める事項を措置し、又は措置を命ずる
- (9) 会則の改正を承認する
- (10) 総会における決議事項を承認する

第9条 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその任務を代行する。

2 顧問は会長に意見を具申する等、会長の相談役を勤める。

第10条 委員は正会員にあっては、工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名（以下「学生委員」という）を投票により選出すると共に各部から責任者1名（以下「部委員」という）を出す。又特別委員にあっては、工学部並びに感性デザイン学部の各学科1名、事務局2名をそれぞれ選出する。

2 委員は、委員長、副委員長と共に委員会を構成し、本会事業運営に参画する。

第11条 委員長および副委員長は正会員の投票によって選出される。

- 2 委員長は委員会の議事の進行および審議事項の決議を掌る他、報告連絡、答申等の責任を負う。
- 3 副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはこれを代行する。
- 第12条 会計監査委員は、正会員の投票により正会員の中から4名選出し、特別会員にあっては、1名互選する。
 - 2 会計監査委員は、会計監査委員を構成し、会計監査を行う。
- 第13条 第10条、第11条、第12条の選挙については別に定める。
- 第14条 書記係並びに会計係は委員相互の互選により各2名を選出する。
 - 2 書記係は総会および委員会において書記の任にあたる。
 - 3 会計係は本会の会計事務を行う。
- 第15条 選挙管理委員は、工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名を選出し、選挙管理委員会を構成して、選挙に関する事務を行う。
- 第16条 委員長、副委員長、委員（書記係、会計係を含む）会計監査委員および選挙管理委員の任期は4月1日から翌年3月31日までの1ヵ年とする。ただし、再選は妨げない。
 - 2 委員長、副委員長、委員、会計監査委員および選挙管理委員に欠員が生じた場合は直ちに選出する。ただし、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
 - 3 新年度1年生の学生委員、選挙管理委員は、会長が指名する。

第3章 機 関

- 第17条 本会に次の機関をおく。
 - (1) 総 会
 - (2) 委 員 会
 - (3) 会計監査委員会
 - (4) 選挙管理委員会
- 第18条 総会は正会員をもって構成し、毎年1回開催する。
- 第19条 総会は本会の最高決議機関であり、次の事項を決議する。
 - (1) 本会の運営方針
 - (2) 本会の予算および決算
 - (3) 会則の改正
 - (4) その他の重要事項
- 第20条 総会は委員会の決定に基づき、あるいは会員の3分の1以上の要請があったとき、会長がこれを招集する。
 - 2 総会の招集および議題は、少なくとも7日前まで公示することを原則とする。
 - 3 総会は正会員の30分の1以上の出席を以て成立し、議事は出席者の過半数を以て決定する。但し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
 - 4 総会には、委任状の提出は認めない。
- 第21条 総会における議長および副議長は出席者の中から選出する。
- 第22条 委員会は委員長、副委員長および委員によって構成する。
- 第23条 委員会は、本会運営に必要な次の事項を処理する。
 - (1) 本会の運営方針案の審議作成と総会への提案
 - (2) 予算の編成と予算案の総会への提案
 - (3) 決算報告書の会計監査委員会への提出と総会への決算報告
 - (4) 部の昇格および廃止、或いは愛好会等の昇格に関して会長への答申
 - (5) 委員会および総会の決議事項並びに会長の決定事項の執行あるいはこれに基づく会務の処理
 - (6) 本学大学祭（体育祭、文化祭）の執行と管理
 - (7) その他、本会運営に必要な事項の処理
- 第24条 委員会は委員長が会長の承認を得て招集する。
 - 2 委員会は全委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決定する。
- 第25条 委員会の議長には委員長があたる。
- 第26条 会計監査委員会は、会計監査委員で構成し、本会の会計監査委員機関である。

- 第27条 会計監査委員会は、第17条の各機関および各部の会計監査を行い、これを定期総会に報告する。
- 第28条 選挙を公明且つ円滑に行うため本会に選挙管理委員会をおく。
- 2 選挙管理委員会は選挙管理委員より構成され、委員長、副委員長、学生委員、学生の会計監査委員の選挙に関する事務を行う。
- 第29条 選挙管理委員会に、委員の互選による正副委員長を各1名をおく。

第4章 会計

- 第30条 本会の会計は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。
- 第31条 本会の収支保管の事務は、会長の委嘱を受けた本学の事務職員がこれにあたる。
- 第32条 本会の会員は一定の会費を定められた期日までに納入しなければならない。既納の会費は返却しない。
- 2 会員の会費は別に定める。
- 第33条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第5章 体育会・文化会

- 第34条 学友会委員会の下部機構として体育会、文化会を置く。
- 第35条 体育会、文化会にはそれぞれ委員会をもうける。
- 第36条 体育会、文化会の委員会は、それぞれの役員および各部の代表をもってあてる。
- 第37条 体育会、文化会の役員選出はそれぞれの委員会で行う。
- 第38条 体育会、文化会の委員会は、それぞれ内規を定めることができる。

第6章 部

- 第39条 第5条の事業を行い第3条の目的を達成するために部を設置することができる。
- 第40条 各部にはそれぞれ部顧問をおくものとする。各部顧問は特別会員の中から部員の依頼により会長がこれを委嘱する。
- 第41条 部はその部顧問の指導助言の下に一致協力して本会の目的達成に努めるものとする。
- 第42条 部の設立は、愛好会等の結成後6ヵ月を経ることを要し、その部員数および活動状況等を記し、設立責任者3名の連署をもって委員会に願い出、会長の承認を受けるものとする。
- 2 部には正副責任者各1名、会計責任者1名をおき、会計監査委員会の監査を受けなければならない。
- 3 部は毎年3月31日までにその年度の決算を委員会に提出し、会長の承認を受けなければならない。
- 第43条 愛好会等は予算請求ができない。
- 第44条 部への入退部は正会員の自由とする。
- 第45条 部の活動が第3条の目的に反すると認められたときは、会長がその活動を一時停止させ、その処理を決定することができる。又部員のいないときの廃止もこれに準ずる。この際、会長は委員会に諮問することができる。
- 第46条 部には必要と認められた場合に限り部室の使用を許可する。
- 2 部室使用に際しての規程は別に定める。
- 附 則 この会則は、昭和47年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は、昭和60年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は、平成8年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は、平成21年4月1日より施行する。

7.18 学友会の選挙に関する規程

会則第13条により、選挙に関する規程を次のとおり定める。

- 第1条 選挙管理委員会は、委員長、副委員長、学生委員および学生の会計監査委員の選挙を行わなければならない。
- 2 選挙の告示は選挙管理委員長が会長の承認を得て行うものとする。

- 3 選挙は告示後15日以内に行うものとする。
- 第2条 委員長1名、副委員長2名および学生の会計監査委員4名は、正会員の自由立候補あるいは推薦立候補者について正会員の投票により選出する。
- 2 各部で互選された部委員を除く学生委員は、工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名を前項に準じて選出する。
- 第3条 立候補者は告示後定められた期日までに氏名および責任者の氏名を選挙管理委員会に届け出なければならない。
- 第4条 次の各号に掲げる者は立候補することはできない。
- 1 学則第57条により懲戒を受けた者
- 2 休学中の者
- 第5条 選挙管理委員会は立候補者の意見を会員に周知させるため、投票の前日まで立会演説会を開催することができる。
- 第6条 投票は無記名とし、委員長については単記、副委員長、会計監査委員および学生委員については2名連記とする。
- 第7条 開票は投票終了後、各立候補者の責任者立会のもとに選挙管理委員会が行うものとする。
- 2 選挙は正会員の30分の1以上の投票によって成立する。
- 3 選挙管理委員長は開票結果を発表し、投票数の上位から定員数までの者に当選の通知をしなければならない。
- 4 対立立候補者がいないときは信任投票を行うものとし、正会員の30分の1以上の投票によって過半数の信任票を得た者を信任とする。
- 第8条 選挙管理委員会が不正を発見した場合は、当核選挙について立候補を取消し、または当選を無効とすることができる。
- 第9条 当選した者が、選挙の期日後において、第4条の事由が発生したときは、当選を失う。
- 2 前項の場合および欠員が生じた場合、選挙管理委員会は直ちに補欠選挙を行わなければならない。
- 第10条 選挙管理委員会は有権者の3分の1以上のリコールの署名があれば信任投票を行わなければならない。
- 第11条 選挙管理委員は立候補すること、責任者および推薦者となることはできない。
- 第12条 その他、選挙に必要な細則は、その都度選挙管理委員会で定めることができる。
附則の一部を省略している。
- 附 則 この規程は、平成8年5月1日より施行する。
この規程は、平成21年4月1日より施行する。

7.19 学友会会費規程

学友会会則第32条2項により学友会費につき次のとおり定める。

- 第1条 学友会の会員は毎年次の会費を本学会計に納入しなければならない。
- (1) 正会員 8,000円
- (2) 特別会員 教員および課長以上 8,000円
その他の職員 4,000円
- 第2条 正会員の会費は毎年1期学費納入期日までに学費とともに納入しなければならない。
- 附 則 この規程は、昭和47年4月1日より施行する。
この規程は、昭和56年4月1日より施行する。

索引

- あ アルバイト…………… 142
- お オリエンテーション…………… 16
- か 課外活動…………… 143
ガイダンス…………… 12
学修支援室…………… 141
学生保険…………… 140
学生心得…………… 204
学生残留・出校届…………… 171、235
学生証…………… 14
学生相談室…………… 141
学務部…………… 13
学生要覧…………… 12
学生旅客運賃割引証（学割）…………… 142
学籍番号…………… 15
学則…………… 174
学費…………… 16、203
学友会…………… 143
学友会館使用規程…………… 233
- き 忌引届…………… 171
キャンパス案内図…………… 18
休学…………… 16、170
教育目標・教育課程…………… 42、128
教科書…………… 17
教材…………… 17
- け 掲示…………… 13
欠席・欠席届…………… 38、171
健康管理…………… 140
下宿…………… 142
- こ 校舎…………… 17
交通事故…………… 15
- さ 再試験…………… 38、207
再履修…………… 37
- し G P A…………… 41、226
資格…………… 148
試験…………… 38、207
施設・設備・備品等管理規程…………… 234
車両通学…………… 15、141、235
就職…………… 148
- 出席…………… 38
奨学制度…………… 142
証明書…………… 172、237
進学…………… 148
進級…………… 39、208
時間外・休業日課外活動願…………… 171
授業時間…………… 37
- す スポーツ施設…………… 168
- せ 成績発表…………… 38
- そ 組織…………… 12
卒業…………… 40
- た 退学…………… 16、170
他学科履修講義科目…………… 37、207
単位互換科目…………… 37、207
単位・単位数…………… 36
大学施設…………… 15、165
多目的ホール…………… 166
担任…………… 14
- ち 駐車場…………… 236
- つ 追試験…………… 38、207
通学…………… 15、141、235
- て 手続き…………… 14、37、169
転学…………… 170
転学科…………… 170
転入学…………… 225
電話…………… 14
- と 特別欠席願…………… 171
図書館…………… 166、228
同窓会…………… 164
- に 入試部…………… 13
- ひ 標準修得単位数…………… 39
- ふ 復学…………… 170
- へ 変更届…………… 171
編入学…………… 225
- め メディアセンター…………… 167
- ゆ 郵便…………… 14
- り 履修…………… 37、206

平成29年度 **学 生 要 覧**

発 行 日 平成29年 4 月 1 日

編 集 ・ 発 行 **八戸工業大学** 学務部

〒031-8501

青森県八戸市大字妙字大開88番地 1

T E L 0178 (25) 3111

インターネットホームページ

<http://www.hi-tech.ac.jp>



Hachinohe Institute of Technology

学 番	籍 号	氏 名	
--------	--------	--------	--